“ハッスルポーズ論争”に小川直也が咆吼三昧!!

紙のプロレス RADICAL

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

880 yen

WANIMAGAZINE MOOK

81 2004

『PRIDE男祭り』vs『Dynamite!!』
いよいよ迫る、大晦日格闘技大戦争! 超濃密大特集!!

“SADAME”の桜庭戦は果たして? 渦中の“頑固者”を直撃!!
田村潔司

世界最強の男は大晦日に決まる!
エメリヤーエンコ・ヒョードル × アントニオ・R・ノゲイラ

吉田秀彦と“金メダル対決”!! 「カレリンを倒した男」を直撃!
ルーロン・ガードナー

絶対王者の猛威、炸裂三昧!!
ヴァンダレイ・シウバ

第2第3の隠し球を予告!
DSE榊原信行代表

仰天! 5代目タイガー見参!! 狂気の天才対談が実現!
船木誠勝×佐山サトル

鈴木みのるに殴られた愛弟子がパンクラスismの真実を語る!

ハッスル師弟対談!
川田利明 with 石狩太一

狂虎の狂った休日を独占特写!
タイガー・ジェット・シン

ZERO-ONE崩壊危機報道 そして破壊王について大激白!!
大谷晋二郎

サクの生き様 見に来いやーーッ!

ショック!
ヴォルク・ハン入国拒否!? リトアニアBUSHIDO独占特報

芸能界のピープルズチャンプ スーパー仁くんが『紙プロ』登場!
草野 仁

紙のプロレス RADICAL No.81 超濃密大特集!!
発売元:(株)ワニマガジン社 〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地 電話/03-3357-2911
発行元:(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6 パレ・ジュノ2F 電話/03-5310-1795
ワニマガジン社 定価:本体838円+税

究極の〝もう一丁〟

12.31 PRIDE男祭り2004

SADAME

ヴァンダレイ・シウバ vs 桜庭和志

4度目の激突へ──

田村潔司、桜庭戦を辞退！宿命の日本人対決はまたしても持ち越しに!!

ヒョードルvsノゲイラの〝最強決定戦〟、吉田秀彦vsガードナーの〝金メダル対決〟が発表され、いや、正確にいうとカード発表がされる前から、大晦日格闘技大戦の一方の雄として熱視線を浴びている『PRIDE男祭り2004』。

チケットの売れ行きも、あの異常な熱を生んだ今夏のヘビー級GP決勝を上回り、『PRIDE』史上過去最高の伸びだという。

その熱にさらに拍車をかけるかのように、今後もメイン級のカードが次々と発表されることが予想されるが、ファンがいまもっとも気になっているのは、桜庭和志の〝SADAME〟の相手が誰になるかだろう。

しかも11月1日の記者会見で、浅草キッドの〝誘導尋問〟にサービス精神で切り返した部分があるとはいえ、サク自身が「対戦したい相手を色で例えたら？」という質問に、「赤」という表現で、間接的に田村潔司の名をあげ、昨年の大晦日で流れた宿命の対決が現実味を帯びていたのだからなおさらだ。

その後もサクは「みんなが望むのなら（田村と闘うことに）ボクは全然問題ない」と発言。〝究極の日本人対決〟実現の可否は〝赤いパンツの頑固者〟の決断次第となっていった。

そんな中、渦中の〝頑固者〟に話を聞くべく本誌も田村にコンタクトを取ると、快く取材OKの返事。今号の表紙にも「田村潔司」の名前が打ってあるとおり、もともと巻頭ロングインタビューは田村潔司になるはずだった。

しかし——！　なんと取材日の2日前から田村はすべての関係者との連絡を絶ち、自身のジム「U-FILE」の指導日にも姿を現さず、完全に雲隠れしてしまったのだ。もちろん予定していた取材はドタキャン。ただでさえ締め切り間際だった印刷スケジュールの関係上、表紙には「田村潔司」の名前が印刷されたままとなってしまった。

この数日の間に〝頑固者〟になにがあったのかは伺い知れないが、その後、本誌の掴んだ情報によると、11月15日前後に田村はDSEに対し、マネージャーを通じて桜庭和志戦辞退を申し出たという。「対戦をオファーしてくれたDSE、そして対戦を表明してくれた桜庭選手には感謝しているが、今回はできない」というのがマネージャーを通じて伝えられた田村の回答だ。「できない」理由は明らかにされていないが、怪我とか具体的な問題が生じたわけではなく、これはおそらく本人にも説明がつかない精神的・感覚的な領域の問題らしい。以前から「宿命の桜庭和志戦」というものに対して、重く深い想いを抱いていた〝頑固者のこだわり〟が今回の対戦を回避させたのだろう。

研ぎ澄まされたプロとしての嗅覚、そして直感には定評のある〝頑固者〟だが、大晦日の『男祭り』というスペシャルな舞台設定でしか実現しえない宿命の日本人対決は、今回を逃したら永久に実現が不可能となりかねないだけに、この〝頑固者〟の決断が、なんらかの〝フェイント〟であることを祈るのみだ。

今後、桜庭vs田村戦の可能性が0％になったというわけではなく、DSE、田村サイドとも、来年以降の最高のタイミングを見計らうことになるだろう。ただ、今回の『男祭り』で実現する可能性は、これで限りなく低くなったと言える。

そうなると、桜庭和志の対戦相手はいったい誰になるのか？

まずDSE側が提案したのはサクと因縁深いグレイシー一族との闘い。

確かに桜庭の歴史を振り返るのに「グレイシー」は欠かすことができない存在であり、今回の〝SADAME〟というテーマにも合致するように思える。実際にDSEは『武士道』で桜井〝マッハ〟速人に一本勝ちしたクラウスレイと、かつて桜庭が一本を奪うに至らなかったハイアンとの完全決着戦をピックアップしたようだ。しかし、クラウスレイは階級が一つ下であり、ハイアンもいま闘う意味が特に見いだしにくい相手ではある。

逆にサクが対戦を希望したのは、〝PR

そして〝究極のもう一丁〟桜庭vsシウバ浮上!!
何とでも言ってくれサクは踏み出す
打倒シウバへの思いの深さを見よ!!

IDE絶対王者〝ヴァンダレイ・シウバだ!!〝プロ魂〟、〝ファイターとしての想い〟がシウバとの〝4度目〟を浮上させたのだ。

サクと最も因縁が深く、〝SADAME〟の相手としては申し分ない。事実、シウバは会見で「〝SADAME〟を感じる相手は誰ですか?」と質問され、「サクラバ!」と即答している。そして桜庭も田村戦については「みんなが望むなら」という調子だったが、「闘いたい相手」となると、その答えは常に「シウバ」だったのだ。

お互いが宿命の相手と認め合う、〝究極のSADAME〟――桜庭和志vsヴァンダレイ・シウバ戦。両者共に対戦を拒む理由はないだろう。ただ、過去シウバに3連敗を喫している桜庭が、いま再び4度目の闘いを挑むとなれば、大晦日のお祭りとしては、実に重すぎて太すぎて、しかも深すぎる。

ファンからも「見たいけども、見たくない」「もうサクが負けるのを見るのはうんざりだ」「3回も負けている桜庭が王者シウバと闘えるのはおかしい」といった微妙な空気感もチラホラとは出てくるだろう。

しかし逆に言えば、桜庭vsシウバ戦というのは、もはや通常のPRIDEナンバーシリーズでは組まれることがないスペシャルな一戦にまで昇華してしまっているカードなのだ。来年のミドル級GPで激突する可能性はあるが、それもトーナメントという性格上、確実ではない。『男祭り』は『PRIDE』といっても通常とは異なる特別なイベント。実現するなら逆にここしかないのである。

関係者の話によると、サクは、この4度目の闘いに向けてすでにやる気十分だという。〝笑われようが罵られようがかまわない。何とでも言ってくれ――俺は踏み出す!!〟というのは、2度目のヒクソン戦に挑む前の師匠・髙田延彦の言葉だが、今回のサクも、とにかくただひたすら純粋に、ぶっ倒したい相手に挑むという髙田イズム全開の選択となった。

『PRIDE』のためでも、DSEのためでもなく、自分が倒したい相手がシウバだからシウバとやりたい!! ひいてはそれが『PRIDE』のためにもファンのためにもなる――おそらくサクはそんなモードに自然に入っていったのだろう。しかもサクらしく、明るく前向きにシウバ戦を希望したと言う。悪かった膝の調子も本人が「90%」と言うほどの回復具合で、ファイターとしての自信回復が〝究極のもう一丁〟を呼び寄せたといえる。

もし今度も負けたら自分のキャリアに決定的な汚点を残してしまうかもしれない。貯金も底をついてしまうかもしれない。しかし、そんなリスクを軽く超えるほど、サクがシウバと再び闘いたいという想いは強く、そして深いのだ。

桜庭和志にとって、本当に心の底から闘いたい唯一無二の存在、ヴァンダレイ・シウバ。そのシウバ戦が実現したら、大晦日にまた〝圧倒的な現実〟が見る側である我々をキリキリ、ギリギリさせるに違いない。しかし、我々にとってはサクがそこまで気持ちをこめて、全身全霊をかけて闘う姿が見られるというのは実に幸せなことでもあるのだ。

これを書いている11月22日現在。桜庭和志の相手はまだ正式に決定していない。雲隠れした〝頑固者〟がフッと再浮上してくる可能性もなくはないだろう。

しかし、もうここまで来たら我々は、より高い壁に登ろうとするサクのファイターとしての生き様を目に焼きつけに行くしかないのだ。後はもう、誰が相手になろうと正式発表を待ち、『男祭り』当日、その闘う姿を見届けるだけだ。

〝生き様〟という言葉の響きと、サクの飄々としたイメージは重なり合いはしないが、実はファイターとしての〝生き様〟を『PRIDE』という唯一無二の舞台でストレートに見せてきたのは、誰あろう桜庭和志だった。だからこそサクにはいままで何度も神が舞い降りてきたのだ。

12月31日、さいたまスーパーアリーナ――。

サクの生き様、見に来いやーーッ!!

『Dynamite!!』

ーvs横綱の総合格闘技戦!

神するまで
せま〜す」(谷川)

K-1プロデューサー

格闘技専門誌が手を焼く一戦を

2人の論客がブッタ斬る!!

I編集長
井上義啓

言うちゃ悪いけど、曙vsホイスは曙のWWE移籍への布石ですよ!

ま、 曙が勝つのは無理だろうな（アッサリ）。言うちゃ悪いけど勝てるわけがない！　ホイスとK—1ルールでやるというなら、そりゃ曙が勝つかもわからんけどね。ゴングが鳴ったと同時に曙が頭から突っ込んで、それがホイスにものの見事に当たって失神するという可能性もゼロじゃないけれども、まず勝てない。K—1MMAでやるとなったら、ホイスが曙の背後に回るなんて簡単なんだから。それでチョークスリーパーで曙は失神。ホイスのやりたい放題ですよ、これ！

俺からすると、谷川の旦那がどういった考えでホイスと曙をやらせようとしたかわからんのだよ。曙に負けさして「もうお前さんは誰とやっても、どんなルールでやっても勝てない。だから当初の予定通り、ハワイでプロレスを数試合やって、そのあとはWWEに金銭トレードしま〜す！」という口実にするためにやらせるならわかるけどやね。K—1でスターにさせようと思ってるなら、絶対にホイスとやらせないんだよ！体重差がいくらあってもダメ。曙がたとえ60キロしか体重がない山本KIDとやったところで危ういですよ、アンタ！　山本の動きは早いからね！

だからもう少し勝てそうな相手を用意してくださいと。名前はなくてもいいのよ。勝てそうな相手をどっかから連れてきて、「やっぱり正面からド〜ンとやったら曙は強いな！」という試合にすべきなんですよ。

もしくは……ここは井上プロデュースですよ、アンタ！　曙vsモンターニャ・シウバを、プロレスルールを大胆に加味したMMAルールでやらせたら凄いぜ〜！　ただし、マウントでのパウンドはダメ。これだけは禁止にしないと、アッという間に曙は負けるからね。それ以外はロープブレイク有り、場外カウントも20まで。そういったルールだったら、俺はハッキリ言ってPPVで5千円払ってでも見るわ！　あの大男2人が場外でやり合うわ、イスで殴ってもいいわ、しかもそれが真剣勝負だからね！　それでもし曙が負けても、血反吐を吐いて鼻血を出しながらとことんまでやれば、ファンも「面白い真剣勝負をやってくれてありがとう！　曙、バンザ〜イ！」となるわけだよ！　それが純MMAルールでやったりしたら……曙あたりはマットに手を付いただけで肩が外れたりしますよ！　そういう不測の事態をなくすためにも、プロレスルールを加味しろと言うとるんだよな！

12.31 K-1『Dy

体重差132kg! グレイシー

「んあ〜、失神
やらせ

2人の論客がブッタ斬る!!

本紙専属K-1評論家
松永光弘
いまさら寝技の練習しても無駄。バッグボーンの相撲を活かすべき!

曙選手にも勝ち目はあると思うんですよね〜。いや、これは勝てる試合なんですよ! ヒョードルやグッドリッジのように一発でKOを狙ってくるタイプだったら秒殺負けは確実です。絶対に勝てません。でも、ホイスのように寝技に持ち込んでくるタイプであれば、まだ対応次第で何とかなるんじゃないかなと。曙選手はやっぱりその圧倒的な体格差がありますからね。それをうまく利用できるトレーニングをしてるかどうか? ヘタに総合格闘技用の練習をしていると……もうオシマイですね。だって、いまさら寝技の練習したって無駄じゃないですか。谷川さんは「曙選手は肩固め一本で世界を制する」とか言ってますけど、付け焼き刃の曙選手の寝技が通用するわけないんですよ。

曙選手は原点である相撲に還るべきですね。硬いシューズを履いて、怒濤の突っ張りで腰砕けになったところを倒して、ホイスの手でも足でも踏み潰して戦闘不能に追い込む。ただ、意外と身体で押し潰す行為って難しいんですよね〜。ヤーブローは300キロ以上あったから可能だったんです。それでも『PRIDE.3』で高瀬選手はヤーブローの圧殺から脱出してるわけですし。ボクも200キロ近いヘッドハンターズAのダイビング・ボディプレスを受けましたけど、200キロならまだ耐えられるなって思いました。ホイスだって、バカじゃないんだからまともに喰らわないだろうけど、まぁいくら〝百獣の王〟のライオンでも、象に踏みつぶされたらやられるんですよ。何が起こるかわからない怖さはありますよ。

曙選手の負けパターンは皆さん想像の通り。スタミナ切れ、そして一度、寝たら起きあがれないこと。ホイスもそうそう手は出して来ないでしょうから、ジ〜〜ッと黙ったまま動かなければスタミナは持つでしょう。近寄ってきたら牽制気味にパンチを打ったりして、時間切れ引き分けを狙うのも手ではありますよね。

体重差3倍の実践体験者が語る!
『PRIDE.3』で301キロのヤーブローを下した男
高瀬大樹
ホイス・グレイシーが距離をとりながら回って、曙選手が疲れてきたところでバックを取りチョークスリーパー、またはパンチで勝つと思います。曙選手は総合デビュー戦ですけど、体重差を活かしてホイスに突っ込んで、常に上の状態を保ち続けて殴る戦法がいいのでは。また体重差が二倍以上の相手とのオファーがあったら? 闘うことは問題ないですけど、筋肉質な人はいやですね(笑)。距離をとりながら相手のスタミナ切れを狙う、ヤーブロー戦と同じ闘い方をします。

格闘興行戦争

直前情報!!

大阪ドーム
K-1 Dynamite!!

“正統派”の魔裟斗vsKID！ 視聴率の秘密兵器はボビー！

いかにして視聴率を獲得するか？　今年で4年連続の開催となるTBS大晦日格闘技番組は、冒頭のテーマが原動力となり、世間一般の視線を釘付けにするカードを次々に生み出してきた。

昨年の大晦日『K―1 Dynamite!!』は、曙vsボブ・サップの瞬間最高視聴率が43％を記録し（同時刻『猪木祭り』はなんと0・2％）、見事「紅白越え」をはたした。平均でも19・5％を記録したオバケ・イベントは、今年もバラエティに富んだ選手の顔ぶれで高視聴率獲得を狙っている。まずは締切22日時点の決定カード、参戦予定選手の情報を整理してみよう。

第一弾のカードとして発表されたのが、K―1MAXルールで行われる魔裟斗vs山本KIDの一戦だ。K―1MAXのリングで飛び抜けた求心力&遠心力を兼ね備えた両雄の激突は、正統派K―1の最大の切り札ともいえる。

発表されているカードはもうひとつ。昨年は視聴率で〝紅白越え〟という歴史的大勝利の立て役者となったものの、肝心のリング上でいまだ白星がない曙が、総合ルールでなんとホイス・グレイシーと対戦。ん～ッ、ダイナマッ!!

また、夏頃よりK―1参戦が噂されていた、柔道81キロ級の猛者・秋山成勲が大晦日に総合格闘家デビューを果たす。相手には〝マルセイユの悪童〟シリル・アビディが候補に挙がっていたが……現在は絶賛調整中だ。

そして、今年の〝視聴率獲得の秘密兵器〟は、TBS『さんまのスーパーからくりTV』でおなじみの、ボビー・オロゴンだ。TV的には〝最大の目玉〟であるボビー。同番組内であらゆる格闘技にチャレンジし、特別試合でホイスを苦戦させたこともあり、潜在能力は計り知れない。

また、サップのカムバック戦、正式発表はされていないが藤田和之も出場を宣言。10月下旬の時点では、藤田、サップ、ホイス、曙の四名がシャッフルされてカードが組まれるという情報が業界に流れていたが、ここにきてジェロム・レ・バンナが藤田戦に名乗り。

総合格闘技史上初となる、現役金メダリストのカラム・イブラヒムの参戦も決定。イブラヒムは、アテネ五輪レスリング・グレコローマン96キロ級を制し、エジプトに56年ぶりの金メダルをもたらした25歳。08年の北京五輪出場を目指しながら、総合のリングでもトップを目指すという。サップ、藤田、イブラヒム、オロゴンのいずれかが対戦する可能性もある。いずれにせよ、今年も紅白歌合戦を脅かす陣容になることは確実だろう。

『K-1 Dynamite!!』
大阪ドーム 12月31日 16:00（予定）

［チケット］
SRS席 ¥30000／RS席 ¥20000
S席 ¥10000／A席 ¥70000

［決定カード］
K-1MAXルール
魔裟斗 vs 山本KID徳郁
総合格闘技ルール
ホイス・グレイシー vs 曙

［出場予定選手］
ボブ・サップ／藤田和之／秋山成勲／ボビー・オロゴン
ジェロム・レ・バンナ／カラム・イブラヒム 他

［お問い合わせ］FEG 03-3796-2977

昨年の大晦日でデビューしたので1周年記念試合となる曙。1年前はまさかホイスとMMAで対戦するとは想像もできなかった。

2003年世界柔道81キロ級日本代表。精悍な面構えはまさにプロ向き。大晦日の大舞台でのデビュー戦をどう飾るのか？

12・4K-1GPリザーバー戦を控えながらもエントリー。藤田戦を熱望。本来なら3年前の『猪木祭り』のメイン候補だった対戦だ。

3年前は怪我で欠場、一昨年はミルコに判定負け。昨年は『猪木祭り』の暴動に巻き込まれた藤田。不遇の大晦日が続いている

12.31大晦日

締切ド直

さいたまスーパーアリーナ
『PRIDE男祭りSADAME』

ミルコvsケビン？ 新たな柔道金メダリストが参戦か!?

昨年の大晦日『PRIDE男祭り』は、大晦日イベント戦争・場外バトルの余波で主力外国人選手を思うように招聘できず、カード編成に苦しんだ興行だったが、今年のスタートダッシュぶりは目を見張るものがある。

まずは、10・31『PRIDE.28』のリング上で「カレリンを破った男」レスリング・シドニー五輪金メダリストのルーロン・ガードナーの獲得を発表。その場で吉田秀彦との〝金メダリスト〟対決を決定！ 翌日の大会概要記者会見では、〝神のいたずら〟でノーコンテストとなった『PRIDE・GP』決勝戦の決着戦、ヒョードルとノゲイラの世界最強決定戦が行われることが発表された。

矢継ぎ早に強力カードが発表される今年の『男祭り』には、『SADAME』というサブタイトルが付けられており、選手それぞれの運命を感じさせる一戦が用意されるという。デカイだけの理由で出場決定選手に紛れ込んでしまったジャイアント・シルバさんにも「SADAME」な試合が組まれるのか!?

やはりどうしても気になるのは、『PRIDE』の顔である桜庭和志やミルコの「SADAME」――だ。桜庭の対戦候補については巻頭原稿を参照していただきたいが、アクシデント絡みの勝利ながらジョシュ戦をクリアし、来年早々にも『PRIDE』のベルトに挑むミルコは、『PRIDE・GP』一回戦でミルコの野望を打ち砕いたランデルマンとの再戦に向けてカード調整が進められているという。

そして、今号の本誌で榊原代表が匂わしたビッグサプライズが締切間際に炸裂！ 00年シドニー五輪柔道81キロ級金メダリストの瀧本誠に総合格闘技進出の話が浮上。すでに『PRIDE』関係者と接触したと報じられている。瀧本は1974年生まれの29歳。11月19日に全日本柔道連盟に強化選手辞退届を提出。エントリーしていた11月20&21日の講道館杯全日本体重別選手権の出場を取りやめたことからも、22日現時点では『PRIDE』関係者はこの件に関してノーコメントを通しているが、『男祭り』登場の可能性は高い。

現在の『PRIDE』が誇る最強のカードから、2人の金メダリストの招聘――概要会見の席で榊原代表は「視聴率で『Dynamite!!』には負けない」と語っていたが、この力の入れようはハンパではない。フジテレビの佐藤ディレクターからは「試合内容・演出・番組の質は、昨年に引き続き、DSEと我々の圧勝だと信じている」とコメントも。今年の興行戦争はどうなる!?

『PRIDE男祭り2004 SADAME』
さいたまスーパーアリーナ12月31日 18:00

[チケット]
VIP席 ¥100000（専用入場ゲート&グッズ付き）
RRS席 ¥30000／スタンドS ¥17000／スタンドA ¥7000

[決定カード]
PRIDEヘビー級王者統一戦
E・ヒョードルvsアントニオ・R・ノゲイラ
吉田秀彦vsルーロン・ガードナー
五味隆典vs 元UFU王者(?)

[出場予定選手]
桜庭和志／ミルコ・クロコップ／マーク・ハント
ジャイアント・シルバ／戦闘竜 他

[お問い合わせ]DSE 03-5464-1531

会見で「SADAME」な相手に桜庭の名前を挙げた絶対王者!! はたして四度目の対戦は実現するのか？

大巨人シルバ同様、「SADAME」な相手の選出に苦労しそうなマーク・ハントの旦那。会見ではミルコ戦を希望していた。

瀧本、秋山など、柔道界のビッグネームがゾクゾクと総合格闘技界に転出。先駆者としてのインパクトを大晦日に残せるか?

最近は万全とはいえない身体でリングに上がり続けていたサク。今回の大晦日は"頑固者"との対戦が熱望されていたが……。

怒りのノーコンテストから3ヶ月
“運命の決着戦”に迷いナシ!

ヒョードルに必ず勝てる方法を見つけたので、勝利を確信しているよ

アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ

『PRIDE・GP』決勝戦でのノーコンテスト裁定で怒りを爆発させていたノゲイラが、ついにヒョードルとの再戦を決意！　予定していた右ヒジの手術を延期して、大晦日決戦へ出場することとなった。「(8月も)あのまま続いていてば自分が勝っていた」と公言するノゲイラ。新たに見つけたという「ヒョードル攻略法」とは何なのか？　そしてノゲイラのこの自信は一体なんなんだ!?

聞き手／堀江ガンツ　撮影／松本崇
designed by hisa (Two Three)

ONIO RODRIGO
Minotauro
OGUEIRA

ANTO

NO

大晦日は人生最大の闘いであり
人生最高の試合にしたいと思う

ノゲイラ　キッカケワァ〜、フジテレビィ！

——ど、どうしたんですか、いきなり！（笑）。

ノゲイラ　いまちょうど（番組宣伝の）コマーシャルを撮ってきたところなんだよ（笑）。

——あ、そういうことですか。ハッスルポーズに続いて、相変わらずなんでもやってくれますね（笑）。では、すでに「フジテレビ大晦日の顔」として、やる気満々みたいですけど、8月のGP決勝後「ノーコンテスト」という結果にかなり怒っていたノゲイラ選手が、今回ヒョードルとの再戦を承諾した理由をまず教えてください。

ノゲイラ　今回の試合を受けたという一番の理由は、やっぱりファンのためだよ。前回は本当に多くのファンがボクとヒョードルの決勝戦を楽しみにしていてくれたのに、あんな中途半端な結果になってしまったからね。今も「ノーコンテスト」という裁定自体は自分の気持ち的には納得できないけれど、いつまでもそこにこだわっていても仕方がないし、ボクも自分の成長を証明しなければならないと思ったので12月31日に闘おうと決心したんだ。

——やはり気持ちを整理するには時間が掛かりましたか？

ノゲイラ　そうだね。8月の試合後は、精神的にも怒りが収まらなかったから、リラックスした雰囲気もなかなか作れなかったし、GP後フロリダに住んでいる家族に会いにいっても「家族団らんを楽しむ」というにはほど遠い状態だったよ。でも、こうして正式に対戦を決意した今、精神状態は100％充実している。2年前の屈辱（ヒョードルに判定負け）を改めて晴らすために、なんの迷いもなくこれから2ヶ月突き進むよ。

——大晦日へ向けた練習はもうスタートしているんですか？

ノゲイラ　練習はやってるよ。でも、改めてリスタートしたというより、ずっと継続して続けているんだ。8月から一度も練習はやめていないからね。

——GPからずっと休みナシですか！

ノゲイラ　100％自分を追い込むのではなく、60％の練習ではあったけど、いつでも闘えるように練習は欠かさなかったよ。

——まさに8月の闘いは終わってなかったわけですね。ヒジの手術を回避したのもヒョードルとの再戦を見越してのものですか？

ノゲイラ　もちろんそうだね。これまでだってこの腕で練習できたのだから、一刻も早く手術を要するというものではないし、いまはトレーニングの状態もいいから、ヒジはヒョードルに勝ってからゆっくり治すことにしたんだ。

——でも、ヒジをケガしたまま闘うのはハンデになるんじゃないですか？

ノゲイラ　いまはトレーニングができているから、トレーニングができている以上、弱点だとは思わないし、大丈夫だと思うよ。それにヒョードルに勝つためだったら腕一本ぐらいどうなってもいいぐらいの気持ちでいるし、自分自身が弱気にさえならなければ、ボクにウィークポイントと呼べるモノは存在しないよ。それに前回あんな結果になったおかげで、ボクのモチベーションはさらに高まっているから、前回以上の闘いを見せられるんじゃないかな。

——怒りのパワーで過去最高のノゲイラ選手が見られると（笑）。

ノゲイラ　いまはとても気合いが入ってい

るから、ゼヒ以前よりも強くなった自分を見せたいと思っているよ。

――大晦日の大会タイトルは『ＳＡＤＡＭＥ』と付けられていますが、やはり今度のヒョードル戦は自分にとって宿命の闘いだと思いますか？

ノゲイラ　もちろんそうだね。自分が世界中のファイターの頂点に立つか、それとも2番手に甘んじるのかの大きな分かれ目だし、最強になるためにどうしても避けられない相手だから、やはりボクにとって運命の一戦だと思う。それと同時に今回ヒョードルと闘うことは、自分にとって生涯最大のチャレンジだと思っているしね。間違いなく今までで一番ハイレベルな闘いになるだろうし、一番難しい試合にもなるだろう。だからこそ生涯最高の試合をしてチャンピオンベルトを巻こうと思っているよ。

――お二人の持っている2本のベルト（ＰＲＩＤＥヘビー級王座とＰＲＩＤＥヘビー級暫定王座）の他にグランプリのベルトも掛けられている真の最強決定戦ですからね。

ノゲイラ　だからこそ自分の持てる技術、パワー、エネルギーをすべて注ぎ出し尽くして闘うよ。ファンのみんなもそうだと思うけど、ボク自身、早く決着を見たい。本当のチャンピオンを決する試合だからね。

――そうなると前回の闘いではノゲイラ選手は非常にいい作戦で闘っていたと思いますが、また新たな作戦を練っているわけですか？

ノゲイラ　この短い期間でもボクのテクニックは上がってきているし、いままでやった闘い方に固執するつもりはないよ。また新しい何かを見せていこうと思っているし、もうすでに「こうすれば必ずヒョードルに勝てる」という勝ちパターン見つけているからね。

――打倒ヒョードルの秘策をすでに発見してますか！

ノゲイラ　うん。ブラジリアン・トップチームの総力を挙げて彼を研究したから、「こうすれば勝てる」という確信がボクにはあるんだ。あまり詳しくは言えないけど、ヒントを少し教えようか？（笑）。

――ゼヒ、お願いします！（笑）。

ノゲイラ　ヒョードルに勝つためのキーワードは「とにかく動く」ということだね。

――動くことですか？　それは立ち技でも寝技でも？

ノゲイラ　そう。でも、言えるのはここまで（笑）。試合が始まってから終わるまでとにかく動く、それが自分にとって勝負のポイントだと思っているよ。だから以前のボクとヒョードルの試合とは全然違った展開になるだろうね。初めてヒョードルと闘ったとき、ボクが考えていたのはどうやって自分のサブミッションを極めるかだけだった。なぜなら、ヒョードルのパウンドがあそこまで凄いとは知らなかったから、不用意にガードポジションを取ってしまったんだけれど、いまはお互いサブミッションの能力やパウンドの能力を知った上で高め合っているので、3度目の一戦はこれまでで最もハイレベルな闘いになるのは間違いないよ。

――先ほど「トップチームの総力を挙げて」と言ってましたけど、やはりいろんな人から打倒ヒョードルのアドバイスを受けているんですか？

ノゲイラ　うん、トップチームのメンバーだけでなく、ボクにアドバイスをしてくれる人はたくさんいるよ。その中でも信用できる人間のアドバイスにはかならず耳を傾けるようにしている。なぜなら、それがき

ANTONIO RODRIGO NOGUEIRA

8月の『PRIDE・GP』決勝戦では、下になっても足を使って距離を作り、ヒョードルのパウンドを防いでいたノゲイラ。大晦日の再戦では、さらにどう「動き続ける」ことでヒョードルに勝とうと言うのか。ノゲイラの戦法に注目！

っといい結果に結びつくと思っているからね。そして経験と知識が豊富なコーチと一緒に作戦を練り、ひとつの確立されたゲームプランで闘うから試合の途中で戦術に迷いがでないんだ。それがブラジル人ファイターの強さの秘訣だと思うね。

――昨日のヴァンダレイ・シウバなんかも、そういった強さを感じましたね。シュートボクセの戦術を貫いてジャクソンをKOしましたから。

ノゲイラ　あれこそチームが一丸になった勝利であり、ボクもヴァンダレイの闘いぶりには凄く刺激を受けたよ。とにかくエキサイティングでタフな試合だったし、『PRIDE』のベルトを賭けた闘いとは、どれほどハードでハイレベルかということを知らしめてくれたと思う。あれこそがPRIDE王者の闘いぶりであり、同じブラジル人として、そして同じPRIDEファイターとして彼を誇りに思うよ。もちろん挑戦者のジャクソンも立派だったけどね。

――シウバvsジャクソン戦以外で印象に残った試合はありましたか？

ノゲイラ　アローナの試合がよかったね。試合自体、タイトルマッチの次にレベルの高い内容だったと思うし、アローナは常に一本を狙うアグレッシブな闘いを見せてくれた。もしヴァンダレイとアローナが闘えば、ジャクソン戦に勝るとも劣らないエキサイティングな試合になると思うよ。

――すぐに試合が終わってしまいましたが、ミルコ・クロコップvsジョシュ・バーネットにはどんな印象を持ちましたか？

ノゲイラ　見る前はボク自身、すごくわくわくした試合だったんだけど、実際はジョシュが肩を外してアッサリ終わってしまったので、「あれ？」って感じだったね。まぁ、試合前の舌戦で十分楽しませてもらったから別にいいけど（笑）。

――舌戦で満足しましたか（笑）。その舌戦の中で、ジョシュはこの間の『PRIDEヘビー級GP』について「自分が出ていないのだから、GPとは言えない」と言ってましたけれど、ここ1～2年の彼の試合を見て、いわゆる〝PRIDE3強〟に入り込めるくらいの実力が彼にあると思いますか？

ノゲイラ　まぁ、正直に言ってしまうとジョシュはまだまだだと思うね。

――まだまだですか！

ノゲイラ　彼は才能と体格に恵まれたいい選手だと思うよ。でも、この2年間、ボクら3人はハイレベルなライバル関係の中で

ANTONIO RODRIGO NOGUEIRA

現時点でのジョシュは“期待のルーキー”でしかないよ
キッカケワァ～、フジテレビィ！

切磋琢磨することによって、お互いどんどんレベルアップしていったけど、彼はそういった闘いを経験してないだろう？

――プロレスの合間にMMAはやってましたけど、対戦相手は自分より階級が下か格下としかやってませんね。

ノゲイラ　彼がそうしている間、僕らは少し怠けただけで脱落しかねない、それこそ自分を極限まで追い込まなければならない闘いの中に常に身を置いていたんだからね。だからハッキリ言って、僕らとジョシュでは、彼がUFCで闘っていたころより、さらに差がついていると思う。もちろん、これから彼が〝『PRIDE』の闘い〟を経験していけばトップに食い込んでくる可能性はあるけど、現時点のジョシュの正確な評価は「将来有望なルーキー」以上でも以下でもないと思うよ。

――なるほど。では、対戦相手のミルコ選手についてどう思いますか？

ノゲイラ　昨日はアッという間に試合が終わってしまったから特に感想はないけど、今日の会見に出てこないというのが実に彼らしいね（笑）。

――試合翌日にミルコらしさがでましたか（笑）。

ノゲイラ　まぁ、彼には彼の考えがあって出ないのだろうけど、自分の意見を言わせてもらえれば、やはり記者会見に出席したほうがファンにとっても嬉しいことだろうし、試合だけでなくリングを降りてからもファンのことを考えるのがボクたちトップファイターの役目だと思う。例えば、ボクもPRIDEルールはすでに熟知しているに関わらず、なぜルールミーティングに必ず参加するかと言うと、出席している姿をファンに見せるためなんだ。やはりプロである以上、そういったことが必要だと思うからね。

――では、「PRIDEの象徴になりたい」のなら、俺を見習えと（笑）。

ノゲイラ　それは言わないでおくよ（笑）。でも、ファンのことが大事なのはボクもミルコもサクラバも同じだと思う。

――ミルコこそ欠席したものの、今日の『男祭り2004』発表会見は、蒼々たる豪華メンバーが揃いましたよね。その頂点がヒョードル選手であり、ノゲイラ選手なわけですけど、そういった誇りはやはりありますか？

ノゲイラ　もちろんあるよ。『PRIDE』は回を重ねるたびに規模も大きくなっているし、オリンピックのメダリストを始めとした優秀なアスリートもどんどん参加してきている。そんなハイレベルなリングのメインイベントに出られるというのは、非常に嬉しく思うし、誇りにも思っているよ。

――今回の『PRIDE男祭り』はK―1（FEG）が主催する『Dynamite!!』と視聴率争いという側面もあります。『PRIDE』のメインイベンターとして、裏番組は意識しますか？

ノゲイラ　やっぱり意識はするよね。絶対に僕たちのほうが凄いと言われる闘いをしたいし、必ずファンを満足させる試合を見せるつもりだから、ゼヒ『PRIDE』を見てほしいよ。

――わかりました。では、大晦日のヒョードル戦、素晴らしい試合を期待してます！

ノゲイラ　ありがとう。必ず素晴らしい試合を見せるよ。

――では、最後にまた例のやつお願いします（笑）。

ノゲイラ　OK（笑）。キッカケワァ～、フジテレビィ！（ポーズ付き）

【04年11月1日／フジテレビにて収録】

“世界最強に一番近い男”のママが語る

ノゲイラブラザーズの真実

聞き手／松澤チョロ　撮影／松本崇　designed by hisa (Two Three)

「2人を見分けるのは私でも難しいわ」“ノゲママ”マリーナ・コヘイア

——今日は“世界最強に最も近い男”のお母さんにお会いできて光栄です。

ノゲママ　こちらこそ光栄だわ。まさか私が日本の雑誌のインタビューを受けるなんて思ってなかったから（笑）。

——先ほど、ホドリゴさんと楽しそうに話をしてるのを見かけましたけど、ホントに仲のいい親子なんですね。

ノゲママ　私たちはとっても仲がいいの。今回、はじめて一緒に日本に来ることができてホントに嬉しいわ。

——たしか、いまはホドリゴさんと一緒には住んでないんですよね。

ノゲママ　ホドリゴとホジェリオはブラジルにいるけど私はフロリダに住んでるの。たまに私の家に訪ねて来るんだけど、そのときは素晴らしい時間を過ごしているわ。

——『紙プロ』でも前に紹介させてもらいましたけど、ホドリゴさんはブラジルでホジェリオさんと一緒にモノ凄い豪邸に住んでいるんですよね。

ノゲママ　そうね。私も何度か行ったけど、初めて行ったときはホント驚いたわ（笑）。

——お母さんも驚くほどの豪邸だったと（笑）。他にお子さんは何人かいらっしゃるんですか？

ノゲママ　2人の上にお兄ちゃんがいるわ。名前はジュリオ・ノゲイラよ。ちなみにジュリオは弁護士なの。

——へぇ～、それも凄いですね。

ノゲママ　あと2人のお姉さんがいるの。全部で5人兄弟よ。

——ホドリゴさんから聞いたんですけど、お父さんは橋本真也という日本の有名プロレスラーにそっくりみたいですね（笑）。

ノゲママ　エッ、どの人？

——（『紙プロNO76』ノゲイラと橋本の対談写真を見せて）こちらになります！　顔もヘアスタイルもそっくりということですけど（笑）。

ノゲママ　たしかにちょっとだけ似てるわ（笑）。でも、ホドリゴたちの父親とはもう離婚してるの。

——あ、そうだったんですか。それは失礼いたしました。

ノゲママ　もうだいぶ前の話だから気にしなくていいわよ（笑）。

——お母さんに初めてお会いして、ノゲイラブラザーズはお母さん似だったということがわかりました（笑）。

ノゲママ　それはよく言われるわ。

——でも、お母さんは背も高いしスタイルも抜群ですけど、もしかしてモデルとかやってたんじゃないですか？

ノゲママ　残念ながらモデルの経験はないわ（笑）。私はこれまで体育の先生をやったり、あとジムを経営していたの。

——体育の先生ですか！　ジムっていうのは、もしかして柔術とか？

ノゲママ　ノーノー！（笑）。私がやってたのはエアロビクスとかのジムよ。

——いまは何かお仕事はしてるんですか？

ノゲママ　針を使ったマッサージをやってるわ。それと漢方とかを勉強してて自分で講師もやってるの。ちゃんと免許だってあるわよ（笑）。

——親子揃ってテクニシャンだと（笑）。

ノゲママ　そうかもね（笑）。

——ちなみにホドリゴとホジェリオはどんなお子さんだったんですか？

ノゲママ　一言で言えば暴れん坊ね（笑）。

——あ、そうでしたか。

ノゲママ　彼らがちっちゃい頃、ウチでは農園を持っていたんだけど、そこでホドリゴとホジェリオは朝から晩まで遊んでばっかりいたので自然に筋肉が付いちゃったの。お医者さんとかに連れていくと、「なんでこの子たちはこんなに筋肉が付いてるの？」ってよく不思議がられたわ。

——小さい頃からマッチョマンだったんですね。

ノゲママ　そうなの。双子っていうのもあるんだろうけど、2人とも同じように体力的にも力強い子供だったわ。

——ホドリゴさんが言うには、互いのガールフレンドに間違えられたりするらしいですけど、さすがにお母さんはそういうことはないですよね（笑）。

ノゲママ　いえ、私も何度も間違えてるから心配しないで（笑）。

——あ、やっぱりそうでしたか（笑）。

ノゲママ　ホジェリオが悪いことをしたときにホドリゴを叩いちゃったりとか、その逆とかしょっちゅうよ（笑）。

——2人を見分けるポイントっていうとどういうところになりますか？

ノゲママ　そうね、ホジェリオの方がどっちかと言えばナーバスなところがあって、逆にホドリゴは凄いリラックスしてる感じなの。その辺が見分けるポイントかしら。

——やっぱり、パッと見で見分けるのは難しいってことですね（笑）。

ノゲママ　それは難しい（笑）。いまよりも体重が違ったときは見た目でわかったけど、最近はちょっと見分けがつかないわ。

——2人は日本でもモテてるみたいですけど、小さい頃とかは、どっちが女の子にモテてるように見えました？

ノゲママ　その質問も難しいわね。なぜかって言うと、昔から2人の周りには凄いたくさん女の子がいたから（笑）。

——さすがはノゲイラ兄弟！　あとホドリゴさんといえば、小さい頃、交通事故で大怪我したっていうのが日本でも有名なんですけど、事故にあった直後はどんな感じだったんですか？

ノゲママ　あのとき、たまたま私は事故現場の近くにいたの。それを聞いたときは、もう顔面蒼白よ。ホントかなり大きな事故だったので、いま元気で生きていられることは奇跡に近いわ。

——そんな事故を乗り越えて、いまや世界最強に一番近いところにいるわけですからね。お母さん的には、いまのようにビッグな存在になることは想像できました？

ノゲママ　もちろん当時はいまみたいになるなんて夢にも思ってなかったわ。でもなぜ彼がそのとき生きられたかっていうと、強い精神力があったからだと思うの。その強い精神力があるからこそ格闘技の世界でもトップに君臨できたんだと思う。

——お母さんは、格闘技を観たりするのは好きなんですか？

ノゲママ　実は昨日の『PRIDE28』が初の格闘技観戦だったの。

——ということはお子さんの試合を生で観たことは一度もないんですね。

ノゲイラ　そうなの。もちろんテレビでは何度か観たことあるけどね。昨日、初めて観て凄く興奮したし、ドンドン好きになっていきそうな気がするわ。

——大みそかにホドリゴさんとヒョードル選手の再戦が決まったわけですけど、息子さんは勝てると思います？

ノゲイラ　もちろんよ！（キッパリ）。私の息子が勝つに決まってるわ。

——あ、すでに決まってましたか（笑）。

ノゲママ　100％勝つと確信してる。私の息子が負けるはずないじゃない？

——お子さんもお母さんも最強ですね。今日はありがとうございました！

【11月1日／フジテレビにて収録】

とっても仲良しのホドリゴと“ノゲママ”マリーナ・コヘイアさん。原宿へ買い物に行った際には恋人のように腕を組んで歩いていたという。最強ッ！

ONER

究極のリアル・アメリカンヒーローが遂に登場！
いきなり吉田秀彦と"金メダリスト対決"実現!!

「自分の人生を完璧なものにしたい。そう考えたときWWEよりもPRIDEだと思ったんだ」

ルーロン・ガードナー

カンバンワ～のカン高い声と共に、あの"人類最強の男"カレリンを破ったアメリカ・レスリング界の英雄が、WWEからの度重なる誘いを蹴って、『PRIDE』のリングに登場！ 12·31『男祭り』でいきなり吉田秀彦と"金メダル対決"を行うこととなった。シドニーでの金メダルだけでなく、先のアテネでも銅メダルをを獲得した現役バリバリのトップアスリートでもあるガードナー。そんな彼が新たなる戦場として『PRIDE』を選んだ理由はなんだったのか？ そしてこの男の底知れぬMMAファイターとしての潜在能力はどれほどなのか？ 『男祭り』会見直後、ガードナーを直撃した。

聞き手／橋本宗洋 撮影／乾晋也 構成／堀江ガンツ
designed by hisa (Two Three)

RULON GARDO

"人類最強"カレリンを破った男

2年連続の大晦日決戦、12・31『男祭り2004』で最初に出場がアナウンスされたのは、とんでもない大物だった！ ルーロン・ガードナー。レスリングのグレコローマン・スタイルで、シドニー五輪は金メダル、アテネ五輪でも銅メダルを獲得した正真正銘のトップアスリートである。シドニーでは、あの〝人類最強の男〟アレキサンダー・カレリンに勝ち、五輪4連覇を阻止したことが大ニュースとなったから、その名前を覚えている人も多いはず。

アテネ五輪では、3位決定戦に勝利した後でマットの上にシューズを置く〝引退式〟を行なったガードナー。レスリング大国アメリカでも屈指の実績を持つ男だけに去就が注目されていた彼の選択は〝PRIDE参戦〟だった。

これまでも大物スポーツ選手のプロ格闘技転向は多かったが、五輪金メダリストとなると数少ない。ましてアテネでもメダルを取っているわけで、他の転向組とは選手としての〝旬〟の度合いがまったく違うといっていいだろう。

WWEからもオファーがある中、なぜガードナーは『PRIDE』参戦を決意したのか？ 単なる〝スポーツエリート〟の枠に収まらない破天荒かつ波乱万丈な生き様も含め、『PRIDE・28』翌日に話を聞いた。

――今回、『PRIDE』参戦が決まったガードナー選手ですが、まずはその理由を教えていただけますか。

ガードナー そもそものきっかけというと、もう何年も前からの話になるんだ。レスリング仲間であるダン・ヘンダーソンやランディ・クートゥアー、マット・リンドランドたちと練習していく中で「MMA（総合格闘技）をやってみないか？」と誘われてたんだよ。「絶対に向いてるし、新しいチャレンジは楽しいぜ」ってね。それプラス、自分が新しいジャンルでどこまでできるか試したいって気持ちもあった。MMAの世界で、自分のレスリングはどこまで通用するんだろう、とね。うまくいくか分からないけど、とにかく新しいことに挑戦したいんだよ。MMAそのものには、96年ぐらいから興味があったしね。

――もう8年も前からですか。

ガードナー そう。マーク・コールマンやマーク・ケアー、ダン・スバーン、ドン・フライという面々と、私が住んでいるアリゾナで練習する機会があってね。同じレスリング出身の彼らがMMAで成功していることに、触発された部分はあったよ。

――確かにレスリング出身者はMMAでも成功することが多いですからね。〝総合で活躍できるのはグレコローマンとボクシングができる人間〟という人もいます。

ガードナー レスリングとMMAには、ボディ・コントロールの重要性という共通点があるしね。もちろん、精神的な面も含めて強み、弱みはあるけど、その中で切磋琢磨していくことで、ファイターとして、あるいは人間としてよりコンプリートになっていきたいという思いがあるんだ。

――今はどこで練習しているんですか？

ガードナー チーム・クエスト（ダン・ヘンダーソン、ランディ・クートゥアーらが所属するチーム）だね。

――レスリング以外の部分、つまり打撃などを練習してみた感想は？

ガードナー やっぱり、自分が今までやってきたこととはまったく違うからね。かなり大変だよ（笑）。ただ可能性は無限大にあると思う。一生懸命にやれば、なんでも可能性はあるというのが私の考え方なんだ。

――打撃では何か得意技はできましたか？

ガードナー 一発一発の攻撃で何が得意というのはないんだ。それよりも、相手が攻撃してきたときのブロックとか、スタンドで体勢を入れ替えたり、距離を支配したりするポジショニング、打撃からグラップリングにつないでいくこと、そういう面を重視してるんだ。もちろん、ジャブやストレートもしっかり練習してるし、特にグラウンドでの打撃には力を入れてるね。

私はガファリと違ってコンタクトはしてないから安心してくれ（笑）

RULON
GARDONER

ガードナーのライバルであるカレリンとガファリは2人ともプロのリングに上がっており、それぞれ前田日明、小川直也という日本が誇るスーパースターと対戦している。しかし、前記2人があくまで1試合だけのスポットであるのに対し、ガードナーは本格的な転向。それだけに総合格闘技への取り組み方からして全く違うだろう。なお、ガードナーはカレリンにシドニー五輪決勝で勝利。ガファリにも五輪選考会で勝利し、シドニーへの切符を手にしている。

ガードナーはアメリカ・ワイオミング州のアフトンという田舎町に生まれた。ワイオミングは人口がアメリカ全土の中で50位、1平方キロあたり2人だという。主要産業は農業と鉱工業。ガードナーの生家も酪農を営んでおり、幼い頃から重労働に励んできたのだという。学業よりも、まずは生活。レスリングで頭角を表したルーロン少年だが、高校を卒業するまでかなりの苦労があったらしい。

そんな貧しい生活の中から、オリンピックの金メダリストにまでなったのだから（しかも倒した相手がカレリンだ）、まさにシンデレラ・ストーリー。一気に名を上げたガードナーは、激変した生活に浮かれ、そして身を持ち崩す。

離婚、浪費。絵に描いたような転落劇である。しかも、2002年にはスノーモービルの事故で湖に転落。雪山に一晩閉じ込められ、凍傷で右足中指を失ってしまう。それでも復帰を決意したのだが、アテネ五輪予選の直前にはノーヘルでハーレー・ダビッドソンを飛ばして乗用車と激突（しかしレスリングで鍛えた受身で無傷だったとか）。さらにはバスケットボールをしている最中に指を脱臼し、分厚いテーピング姿で

予選に臨み、ついにはアテネで銅メダルを得る。

栄光にしても挫折にしても、常人なら一生に一度あるかないかの経験を何度も繰り返してきたのがガードナーなのである。であれば、『PRIDE』参戦というリスキーな選択も普通のことなのかもしれない。

——ガードナー選手は、これまで山あり谷ありというか、困難を乗り越え続ける人生でしたよね。『PRIDE』参戦も含め、チャレンジの連続という感じで。

ガードナー　そう。家族は酪農を営んでいて、私は9人兄弟の末っ子だったんだ。幼い頃から家の仕事を手伝ってきた。早朝から働き始めて、日が暮れても終わらないような重労働さ。そういう環境で育ったから、子供の頃から〝人生とはタフなものだ〟って考えてきたし、アスリートとして生きる上でもチャレンジ精神が旺盛だったんだと思う。失敗もいろいろしたけど、そこでヘコたれることは絶対になかった。失敗から必ず何かを学んで、人間として成長してきたんだ。

——牛の世話をすることで体力が養われたという話も聞いたことがあるんですが。

ガードナー　牛に餌をやり、重たい干草を運び、牛舎に牛を入れるために4頭いっぺんに引きずって歩いたり……。それが私の少年時代だったんだ。家族の役割として当然、やらなければいけないことだった。だから自然に体力はついたんだと思う。ただ、肉体面だけじゃなく精神面でも大いに鍛えられたと思うよ。キツい生活の中で、生きていく上でのスキルというか、方法論を学べたんだ。確かに人生とは一筋縄ではいかないタフなものだ。だがそこでヘコたれていては、一歩も前に進めないんだってね。

——シドニー五輪の後は、急に富も名声も手に入れて、ハメを外したこともあったみたいですね。そのときに離婚も経験されて。

ガードナー　うーん。でも、そんなにリッチになったってわけじゃないんだよ。金メダルを取っても、国から支給される報奨金は3万ドルだけなんだ。大金を稼ぐには、シューズ会社とかコカコーラとかのスポンサーを見つけないといけない。確かに私にもスポンサーはあったけど、他のスポーツ選手ほど大金持ちになったとはいえないね。ま、放蕩したかと聞かれれば、そうじゃないとは言いにくい（笑）。だけど自分が好きなことのために使ったんだからムダ使いじゃないだろ（笑）。後悔はしてないよ。

——そう言われればそうですけど（笑）。それからも、雪山での遭難、バイク事故と困難の連続でしたが、よくそこから復活してアテネに出場できましたよね。出場するだけじゃなく、銅メダルまで獲得して。

ガードナー　ハードワーキングを続けている人間には、いつかチャンスが訪れるってことさ。自分の内側にある「これがやりたいんだ」という希望、それが自分を導いてくれるんだよ。決して楽な生き方ではないけど、だからこそ人間としてより完璧になっていけるんだと思うね。

——シドニー後にはWWEからもオファーがありましたよね。一説には1500万ドルという契約金を提示されたとか。それでもアテネ五輪を目指したのはどうしてだったんですか？

ガードナー　1500万ドル!?　そんな高くないよ（笑）。WWEから提示されたのは、年間150万ドルだった。ゼロが一つ違うね（笑）。それでも大金には違いないんだけど、当時の自分にとってはお金よりもレスリングの方が大事だったんだ。

——WWEと交渉しているときには、カー

13年間にわたり無敗を誇り〝人類最強の男〟名を欲しいままにしたアレキサンダー・カレリンをシドニー五輪決勝で破るという世紀の番狂わせを成し遂げたガードナー。カレリンによる前人未踏の五輪4連覇を阻んだこの一戦により、ガードナーの名は、一気に世界中に轟くこととなった。［写真提供・共同通信社］

ト・アングル選手ともお話しはされたんですか？　レスリング金メダリストの先輩なわけですが。

ガードナー　アングルとは、彼がアリゾナのフェニックスに来たときに会って話をしたよ。彼はプロレスリングというビジネスについていろいろなことを教えてくれた。「プロレスというのは、こんなに素晴らしいものなんだ」ということをね。プロになることによって、何が手に入るかも聞かせてくれた。とても有益な経験だったんだけど、私は「それは自分の求めているものじゃないな」と感じたんだ。私はアスリートとして、自分を高めていきたいわけだからね。

——アテネ五輪の後にも、WWEからオファーはあったんですよね？

ガードナー　あったよ。そのときはレスリングから引退していたんだけど、WWEに行くつもりはなかった。それより自分がこれまで培ってきたスキルを活かしたいと思ってね。だからこうして『PRIDE』参戦を表明したんだ。さっきも言ったように、私は自分の人生をより完璧なものにしていきたい。そう考えたときに、WWEよりも『PRIDE』だと思ったんだ。

——しかし年間150万ドルを蹴るとは……。同じ〝プロ〟ではありますが、ガードナー選手の中ではWWEに行くのと『PRIDE』に出るのとで、どういう意味合いの違いを感じてるんですか？

ガードナー　それは単純だよ。〝スポーツエンターテインメント〟と〝リアル〟の違い、〝ショー〟と〝スポーツ〟の違いさ。私がや

RULON
GARDONER
ルーロン・ガードナー

1971年8月16日生まれ（33歳）
[出身地] アメリカ・ワオミング
[身長／体重] 188cm／120kg
[バックボーン] レスリング
[主なタイトル] シドニー五輪金メダル
アテネ五輪銅メダル
[決めゼリフ] カンバンワ〜

HIDEHIKO
YOSHIDA
吉田秀彦

1969年9月3日生まれ（35歳）
[出身地] 日本・愛知県
[身長／体重] 180 cm／100 kg
[バックボーン] 柔道
[主なタイトル] バルセロナ五輪金メダル
[決めゼリフ] ゲッツ！

当然グラウンドコントロールが武器になるがKO勝ちもありうるだろう

りたいのはあくまで〝リアル〟なものなんだよ。その方が挑戦のしがいもある。いつだって、私はチャレンジャブルなことが大好きなんだよ。

——ちなみに、いまのガードナー選手の趣味はなんですか？

ガードナー　水上スキーにスノーモービル、それにバイクだね。まあ、さすがに試合まては練習に集中しなきゃいけないんで、おあずけだけどね。

——あれだけヒドい目に遭っても、まだやめてないんですか！（笑）。

ガードナー　いや〜、スノーモービルもバイクも、心の底から大好きなんだよ。何があってもやめられないね（笑）。

『男祭り2004』での対戦相手に決定したのは、吉田秀彦。レスリングvs柔道の〝金メダリスト対決〟である。もちろん、総合での経験は吉田の方が上。だがガードナーはインタビューに先立って行なわれた記者会見の席上で「レスリングの強さを証明したい」とキッパリ言い切った。

——大晦日の対戦相手は吉田選手に決まりましたが、対戦が以前に、闘いたいと思っていた選手は誰かいましたか？

ガードナー　特にいなかったね。これはあくまで自分にとっての挑戦なんだ。もともと、私は闘いというか争いごとが好きじゃないんだよ。

——それは意外ですね（笑）。

ガードナー　対戦相手というのは、私と向かい合う〝競技者〟ではあるけれども、決して〝敵〟だってわけじゃない。相手に対して怒りや憎しみを持ったりすることもないし、いかにもな感じの怖い表情を作って「てめえ、ぶっ殺してやる！」みたいな挑発をするのも好きじゃない。闘った相手とも友人になれると思ってるし、ケガをしたり、させたりするために闘うわけでもない。リングに上がるのは、自分が何かを学ぶためなんだ。だいたい、「殺してやる」なんていってリングに上がるヤツは、頭がどうかしてると思わないか？（笑）。

——吉田選手のことは、以前からご存知でしたか？

ガードナー　知ってたよ。私は柔道の選手と練習する機会もあって、世界のトップ選手の一人として名前は聞いていた。そういう選手と顔合わせができるというのは、自分にとって大きなチャンスだと思うよ。

——レスリングの選手だと、総合ではいわゆる〝グラウンド＆パウンド〟、テイクダウンして殴るという戦法が主流ですが、ガードナー選手はどういう闘い方を想定してるんですか？

ガードナー　総合の闘いであってもレスリングがベースなのは変わらないから、当然グラップリングとグラウンド・コントロールが大きな武器になると思う。そして、試合の中で素早く相手の弱点を見つけることができれば、KO勝利ということもあるんじゃないかな。

——勝機を見出すとしたら、やっぱりそこですよね。

ガードナー　ただ、勝ち方にはいろいろなものがあるので、いまは特に限定して考えないようにしているよ。考えを限定してしまうということは、自分の可能性を限定することにもつながるからね。総合のテクニックに関する知識では、ヨシダの方が上回っていると思うけど、私も様々なことを急速に吸収しているんだ。今は新しい世界に飛び込んでいろんな発見もあるし、自分に対する期待感が高まってるね。

――『PRIDE・28』は実際に観戦されたわけですが、かなり激しい試合が多かったですよね。メインイベントのシウバvsジャクソン戦は壮絶なKOでしたし、その他の試合でも出血や脱臼など、ケガが多かった。このスタイルの闘いに、恐怖感を覚えることはありませんでしたか?

ガードナー　正直に言うと、少し怖さを感じたのは事実だよ。ただ、いまはその恐怖感が、自分を奮い立たせる原動力にもなってるんだ。恐怖感が興奮に変わって、そのエネルギーを練習に持ち込むことができると思う。『PRIDE.28』の凄惨ともいえる闘いを見て感じたのは、「こういう激しい闘いだからこそ、しっかり準備をしておかなきゃいけない」ってことだ。決して「やっぱりやめとこうか」とは思わないな。

記者会見では、ある記者から「あなたと同じレスリングのメダリストであるマット・ガファリが日本で悲惨な負け方をしたのを知っているか」という質問も飛んだ。確かに、アマチュアで好成績を残している選手は、プロ生活を"余生"というか"天下り"的に捉えて恥を晒してしまうことも多い。ファンが注目、あるいは不安に感じているのも、ガードナーの実力だけではなく"どれだけ本気なのか"という点だろう。というわけで、インタビューの最後にこんな質問をしてみた。

――ところで、ガードナー選手は視力はいい方ですか?

ガードナー　視力?　いいよ。だから試合でコンタクトがズレることもないから大丈夫だよ(笑)。

――あ、そのことはご存知でしたか(笑)。

ガードナー　マット・ガファリが日本でどんな試合をしたかは知ってる。だからこそ、私は真剣にこの新しいチャレンジに取り組まなければいけないと思ってるんだ。私の試合に注目しているのは格闘技のファンだけじゃない。きっと世界中のレスリング選手も試合を気にかけていると思うんだ。私はレスリングに誇りを持っているし、彼らに恥をかかせるようなマネはしないと約束するよ。

ガードナーには、いかにもアスリート的な真摯さと、ヤンチャ坊主の茶目っ気が同居していた。総合格闘技での実力は未知数。デビュー戦だけに、決して楽な試合にはならないだろう。それでも確実にいえるのは、彼が本気でこのジャンルに飛び込んできたということだ(でなければWWEに行っているはず)。レスリング出身者がプロの世界でどんな成功を収め、どんな失敗をしてきたか。ガードナーをその全てを分かった上で、『PRIDE』参戦を決めた。レスリングというバックボーンに誇りを持ち、同時に総合を甘く見てもいない。そのたたずまいは"クール"や"スマート"という言葉からはほど遠い。だが、この男には意外なほどの"勇気としぶとさ"が備わっているような気がしてならないのだ。

ルーロン・ガードナー■1971年8月16日、アメリカ・ワイオミング州出身。33歳。188センチ、120キロ。2000年シドニー五輪で13年間無敗を誇った"人類最強の男"カレリンを破り金メダル獲得。今年アテネ五輪でも銅メダルを獲得した、現役バリバリの超大物。『PRIDE』の勢力地図を塗り替えるか?

VEIGHT TITLE MATCH

S JACKSON

試合なんだ！
動するくらいだ」

[インタビュー＆ドキュメント]

ヴァンダレイ・シウバ

これぞPRIDEのタイトルマッチ！
シウバ、凄絶なる遺恨対決を制す!!

これぞPRIDEミドル級タイトルマッチ、これぞヴァンダレイ・シウバの闘いだ！　10・31『PRIDE.28』で因縁のランペイジを破り、見事防衛に成功したシウバ。その壮絶かつハイレベルな闘いぶりはまさに“絶対王者”と呼ぶに相応しい。最強の挑戦者を破ったいま、王者は何を目指すのか？インタビュー&ドキュメントでそのモチベーションの根っこを探る！

取材・文／橋本宗洋　撮影／乾晋也　撮影／松本崇　聞き手／堀江ガンツ
designed by hisa（Two Three）

PRIDE MIDDLE WEIG

SILVA vs J

「なんて凄え試合

俺自身、感動す

10.31 PRIDE.28 さいたまスーパーアリーナ PRIDEミドル級タイトルマッチ

◯ヴァンダレイ・シウバ［2R 3分26秒 KO］クイントン・"ランペイジ"・ジャクソン×

『PRIDE』をはじめとする、いわゆる“格闘技”は、いってみればサブカルチャーである。何に対して“サブ”なのかといえば、ボクシングや相撲といった既に認知された格闘競技であり、野球やサッカー、オリンピック競技などの“メジャー”なスポーツ。

そのことについて、ファンも関係者もこれまでずっと複雑な思いを抱いてきた。ある者は「格闘技にも統一コミッションが必要」などメジャースポーツと同じような土壌を作ることを唱え、またある者は「ただのスポーツとは違うんだ」と自らメジャーに背を向ける。確かに格闘技は単なるスポーツとか競技とは違う魅力があると思う。が、とはいっても一向にまとまらない業界の様子を見ると辟易したりもする。

しかし、『PRIDE・28』で行なわれたミドル級タイトルマッチ、ヴァンダレイ・シウバvsクイントン“ランペイジ”ジャクソン戦は、そんな複雑な思いを忘れさせるものだった。この試合を称えるのに、なんのエクスキューズもいらない。確かに興行規模や収益、競技人口など様々な違いがあるにせよ、こと闘いそのものに目を向ければ、シウバvsジャクソン戦はボクシングの世界戦、アメフトのスーパーボウル、ワールドシリーズやオリンピックといった“メジャー”になんら引けをとるものではなかったと思う。他の競技を変に崇拝する必要もなければ、コンプレックスの裏返しのような逆差別も必要ない。ただただ素直に、そのレベルの高さと内容の濃さに酔いしれ、フィニッシュシーンにド肝を抜かれていればよかったのだ。

シウバ自身、試合内容に関しては堂々と胸を張る。

「本当にいい試合ができたと思ってるよ。他のスポーツと比べてどうなのかは自分では分からないが、納得のいく試合ができたのは確かだね」

負ける気なんて全然しなかったし、2RにKOする自信があったよ。

セミファイナルのミルコ・クロコップvsジョシュ・バーネット戦はジョシュの負傷による不完全燃焼な結末。その他の試合も100％満足できるものではなく、メインにかかる責任は相当なものがあった。8月までの『PRIDEヘビー級GP』が異様なほど盛り上がっただけに、ナンバーシリーズに戻って急に失速、なんて不安も抱かせたほど。だがセミの結末を知らなかったシウバは、ひたすら己の試合に集中していた。試合直前まで携帯電話でしゃべり続けるというジャクソンのパフォーマンスも、まったく意に介さない。

「携帯電話のパフォーマンスは、もしかしたら、自分が緊張していることを隠して“オレは余裕なんだぜ”って見せるためにやってたのかもしれないな。ただ、気にはしてなかったよ。それより自分自身が集中することの方が大切だ。バックステージで入念にウォーミングアップはするんだが、タイトルマッチともなるとセレモニーも長いし、集中力を保つのは難しいからな。少しずつテンションが下がってきてしまうもんなんだよ。その中で、いかに闘いに向かう姿勢をキープできるか。それが勝負の第一の分かれ目になる。基本的にそのときに考えるのは相手にいかに勝つかってことだ。だけど今回は、初めて観客のことも意識したんだよ。リングから超満員の会場を見渡して、あらためて“いい試合をしなきゃ、勝たなきゃ”って思った。観客の存在が、モチベーションをより高めてくれたんだ」

試合は、緊張感あふれる打撃戦から始まる。世界屈指の打撃屋同士、攻めを意識しながらも一瞬たりとも隙を見せようとしない。そんな中、まず優位に立ったのはジャクソンだった。首相撲の展開からテイクダウンに成功。だが、シウバはジャクソンに攻撃を許さない。ガードポジションで巧みにコントロールするどころか、下からの“極め”さえ狙ってみせるのだ。実はシウバは柔術黒帯。圧倒的な強さゆえなかなか見る機会はないのだが、いざというときに見せるグラウンド・テクニックはかなりのものだ。

「グラウンドの技も、かなり使えたな。普段から柔術の練習にもかなり力を入れてるから、その成果が出たんだと思う。コーチのクリスチアーノのおかげだよ。グラウンドは上からの方がもちろん得意だが、下からの攻防もまったく問題はない。KOじゃなく、一本で勝つって考えも確かにあった。実際、試合中に何度か三角絞めにもトライしたしな。レベルの高い試合になると、単純な攻めでは勝てないってことだ」

それにしても、シウバの下からの巧さは予想以上だった。普通、シウバのようなストライカー、しかも超攻撃型の選手の場合、いったん防御に回ると急にモロくなる、というイメージもあるのだが……。

「オレたちがシュート・ボクセでやっている練習のテーマは“いかなる状況でも勝ちにいく”ってことなんだ。いったんディフェンスに回ったら急に弱くなったり、気持ちがめげてしまうようでは本物のファイターとはいえないだろ？ 柔術の練習をしているのだってそのためだ。決して寝技主体の選手になろうと思ってるわけじゃないが、それが勝つために必要なら、やるんだよ。試合中に弱気になったこと？ 一度もないな」

シュート・ボクセ勢のブッキングを担当する“ブッカーK”こと川崎浩市氏は、選手の良し悪しを判断する基準として“攻められたときの対処”をあげる。攻めているときに良く見えるのは当たり前で、劣勢の際に何ができるのかが重要なのだと。その意味でも、まさにシウバは川崎氏が発掘した“最高傑作”だったというわけだ。

シウバの忍耐力は、試合以外のところでも発揮される。実は試合前に肋骨を負傷し、一時は出場すら危ぶまれる状態だったというのだ。それでもシウバは黙々練習を続け、試合中はケガをしているようなそぶりをまったくみせなかった。

ランペイジの攻めも厳しかったが、驚かされたのはシウバのガードの巧さ。下になってもランペイジのパンチを食らわず、必殺のパワーボムも足に絡みついて阻止。ここで攻めきれなかったランペイジは2Rスタミナ切れを起こし、逆に!Rを凌ぎきったシウバは逆襲に転じKO勝ち。あの!R後半の攻防が明暗を分けた。

SILVA vs JACKSON

「アバラを傷めたおかげで、試合前一週間ほどは全く通常のトレーニングができなかった。それでもできる練習は続けてたよ。シュート・ボクセでは、少しぐらいのケガで休む人間はいないね」

グラウンドの攻防をしのぎきったシウバだが、1R終盤にはさらなる危機を迎えることになる。ジャクソンの右ストレートを食らってダウン。ハーフガードの状態でパウンドを浴びせられ、パスガード、そしてマウントポジションも許してしまう。絶体絶命。これまでの『PRIDE』での試合の中で、シウバが最も追い込まれた瞬間だった。ラウンド終了のゴングに救われたものの、敗北までほんの数ミリとところまできていたように見えた。ついにシウバ陥落か……。場内は異様な雰囲気に包まれる。シウバとジャクソン、どちらを応援しているにせよ、このときに冷静だった人間はいないはずだ。ただ一人、シウバ自身を除いては。

「インターバルの間も、集中力が切れることはなかったな。ピンチの直後に休息を取ることができたのを、とてもプラスに受け止めたって部分もある。"まずい、どうしよう"じゃなく"さあ、これから盛り返すぞ"とね。負ける気なんて全然しなかったね。1R終盤、下になっても余裕があったし、2RにはKOする自信があったよ」

その言葉通り、2Rに入るとシウバは完全に勢いを取り戻す。テイクダウンされても潜り込んでリバーサル。立ち上がると得意の顔面踏み付けを一発！　1Rのピンチが嘘のようなリカバリーぶりだった。スタンドに戻ってもローキック、ワンツーで主導権を握り、さらにカウンターで右フックを決める。深いダメージを負いスタミナが切れかかったジャクソンに、シウバはトドメのヒザ蹴り連打。

4発目がモロに顔面を捕らえるとジャクソンは失神、上半身がロープから飛び出す格好で前のめりに崩れ落ちた。フィニッシュの瞬間を目の前で見たカメラマンによれば、倒れた瞬間のジャクソンは凄まじい量の鼻血を出していたという。「垂れてるとか流れてるんじゃない。プシューって噴き出してた」。

最強の挑戦者を、前回の対戦時以上に完膚なきまでに叩きのめしたシウバ。恐るべし、としかいいようがない。決まり技が1戦目と同じヒザ蹴りだというのも、シウバの強さをより際立たせる。おそらく。ジャクソンはシウバのヒザ蹴りを徹底的に研究し、対策を立てていたはず。それでもなお、ヒザで倒してしまったのだ。

「ランペイジはオレのヒザを食らわないようにしてたとは思う。それは闘っていて感じたよ。ただ、試合には流れってものがある。しかも、もの凄いスピードのね。今回のような試合になると、いくら対策を立て、作戦を考えていても、次の瞬間に何が起こるかなんて予測はできないもんなんだ。それに最後の技はヒザだったけど、その前に右フックがクリーンヒットしてるだろ。それがまさに、予測でき

ない流れなんだよ。オレにとっても、ランペイジ戦は今年の試合の中で最も厳しく、難しい闘いだった。勝てたのは単に自分の実力ってわけじゃない。神様のおかげさ。苦しい局面で助けてくれたのも神様だし、フィニッシュのときに背中を押してくれたのも神様だ。神を信じていなければ、オレって人間は何者でもないんだよ」

シウバは常に、神への感謝を口にする。今回の対戦では、ジャクソンが〝改心〟して敬虔なクリスチャンになったことが話題になったが、やはり神のご加護はシウバにあったということか。

「いやいや、神様は誰にだって平等だよ。ランペイジは本物の勇気を持っている選手だった。負けはしたけど、彼の評価だって上がってるはずだと思う」

神の力……おそらくシウバ自身、今回の試合をそういうふうにしか表現できないのだろう。パワーや技術といった部分での分析を拒み、もしかすると精神力の差ですらない〝神の領域〟。そういうレベルに、いまのシウバは到達しているのだ。

これまで『PRIDE』での18連勝のうち、シウバは日本人選手との対戦が圧倒的に多かった。テレビ局放送でつけられた異名は〝主食・日本人〟。我々もシウバの試合を〝対日本人〟というフィルターで見ていたような気がする。桜庭和志であれ近藤有己であれ〝シウバに勝ってくれ〟という思いで見ていた。だがそれは強すぎる主観というか、バイアスでもあったのだ。

今回のシウバvsジャクソン戦は、〝対日本人〟というバイアスを外して、客観的に見ることができた試合だった。大会前の盛り上がりではミルコvsジョシュという新鮮なカードが上回る形となったのだが、バイアスがないだけにストレートにシウバの強さが伝わってきたのも事実。いざ冷静にシウバという存在の強大さを知ってしまうと、もう日本人に〝勝ってくれ〟なんて簡単にはいえなくなってしまう。考えてみれば随分とムチャな注文をしてたのかもしれないな、と。

ただしそれは絶望でもなんでもない。〝こんなヤツに勝てる日本人なんていないよ〟というマイナスの気持ちではなく、ひたすらシウバの凄さに感服して、いっそ気持ちがいいのである。

SILVA vs JACKSON

あれだけ罵り会った両者が試合後はガッチリ握手。壮絶な闘いを通じて、改めてお互いを認め会うことができたのだろう。こういったシーンが実現するのも『PRIDE』の魅力の一つだ。

そういう、とんでもない高みにまで登り詰めてしまったシウバ。桜庭には3度勝ち、ジャクソンをも返り討ちにしたいま、彼にはどんなモチベーションが残されているのだろうか。金も名誉も、もう充分すぎるほどある。これ以上、厳しい練習や激しい試合を続けることに、いったいどんな意義を見出そうというのだろう。

「練習も試合することも大好きだから、ちっとも苦しいとは思わないね。モチベーションが衰えるなんてことはありえない。むしろ、これから面白くなっていくんじゃないかと思う。『PRIDE』のおかげでバーリ・トゥードというジャンルのネームバリューが上がってきてるから、これからもどんどんいい選手が出てくるはずだ。ブラジルでも『PRIDE』の人気は上がる一方だからね」

ファイターとして求めるもの、ほしいものがまだ何か？

「ジーンズがあと何本かほしいんだよ（笑）。あとスニーカーも買い換えたいし（笑）。今日もシンジュクのABCマートに行ってきたところなんだ。『PRIDE』で大金を稼ぐことができるようにはなったし、それはありがたいことなんだけど、金銭感覚そのものは昔とあまり変わってないな。確かに家も買ったし、車も持ってるよ。だけどオレは基本的に……●●なんだ（笑）。メシだって、自分で払うときよりおごってもらうときのほうが美味いよな（笑）。ま、それはともかく、オレはいまでもハングリーさを失っちゃいないんだ。それに、金銭が最大のモチベーションでもないしな。好きだから闘ってるんだよ」

もはやシウバが闘うのは何かを得るためではない。闘い続けることそのものが、彼にとってのモチベーションなのだ。

「これまでのキャリアで32戦してきたわけだけど、自分としては70戦したいと思ってる。本当は100戦したいんだけど、それはさすがに厳しいかなと思ってさ」

シウバにこれまでの倍も試合されたら、ミドル級のファイターが絶滅してしまうと思うが……。そんな野望を語るシウバは、インタビュー中もジャクソン戦のビデオを流しっぱなしにしていた。

「自分の試合を見るのが好きなんだよ。特に、今回のジャクソン戦みたいな激しい試合は見てて面白い。これからも、どんどんこういうハードな試合をして、それを自分でも見て楽しみたいね。試合のビデオを見てると、なんか自分じゃないような感じがする。〝なんて凄ぇ試合する奴なんだ〟ってね。言ってみれば、オレ自身がヴァンダレイ・シウバの大ファンなんだよ」

かつてモハメド・アリは「俺はかくも偉大で、俺自身ですら感動する」という名言を吐いたが、いまのシウバはそんな心境なのではないか。では、そんな〝シウバファン〟として、次に誰と闘うシウバを見てみたいのだろうか。

「サクラバ、ヨシダともう一回、闘うのもいいな。それから（ポーズ付きで）ハッスル、ハッスル！　そう、オガワもいい。理由？　面白い試合になりそうだから。マッチメイクで一番大事なのはそこだよ。見る人に〝面白そうだな〟と期待してもらえて、試合後には〝面白かったな〟と満足してもらえる。そういう試合をやっていきたいんだ」

神の力に目標70戦、ファンのための試合。闘いに対するシウバの姿勢は、形而上的なものといっていい。何がほしいとか、誰に勝ちたいとか、そういうレベルはとっくに通り越してしまっている。それでもモチベーションが衰えないのは、つまり闘うことと生きていることが限りなくイコールに近い、ということなのだろう。我々にできることといったら、そんなシウバの試合を見ることができる幸せを、ひたすら噛み締めることだけだ。

次の相手は吉田、桜庭ともう一回やるのもいいし、
ハッスル、ハッスル！　そう小川とやるのもいい

勝負論の『男祭り』も

興行すぎてだーッ!!

ターザン山本!
毎年恒例(?)大晦日決戦前の大炎上!!

聞き手／堀江ガンツ　構成／松澤チョロ　designed by hisa (Two Three)

大晦日

面白す

犯罪

格闘バラエティの『Dynamite!!』も

は犯罪だーッ!!

大晦日のヒョードルvsノゲイラ戦は巨大な環境破壊ですよォオ!!

ターザン　今日のテーマは何？
——え～、毎年恒例の大晦日興行をブッた斬っていただければと思います。
ターザン　結局ね、全部、大晦日に殺されちゃうんですよ。これを〝大晦日枯れ〟っていうんだよね。11月になったら、もうテレビ局もスタッフも、2ヶ月間は他の話なんか一切しませんよォ！
——K－1の人たちが『K－1 WORLD GP』の話をしてないぐらいですからね（笑）。
ターザン　『最強タッグ』だって話題にならないし、新日本も全日本もNOAHも歳末決戦があるんだけど、全部大晦日に食われちゃうわけですよ。ハッキリ言って、大晦日の興行なんて犯罪ですよォオォ！
——大晦日興行は犯罪！　確かに罪深いですねぇ（笑）。
ターザン　これによって失うモノって大きいよねえ。プロレスっていうのは季節ごとに順番で楽しむモノなのに、もう今頃から大晦日にジャンプしていくんですよォォ！
——完全に環境破壊ですよね。個人商店が建ち並ぶ中に、デカいショッピングセンターができたみたいな（笑）。
ターザン　ヒョードルvsノゲイラなんて、巨大な環境破壊ですよォォ！　しかも今年は『PRIDE』がドカンと最初に大きなカードを発表しちゃったから、K－1がそれに追いつけ追い越せでアクセルを踏みまくってるからね。スピード違反丸出しの大暴走してる状態ですよォ！
——もう交通ルールもへったくれもないと（笑）。
ターザン　信号無視の問答無用の暴走ですよォォォ！　『PRIDE』の先手必勝に負けまいと、もうK－1のやる気やモチベーションは凄い勢いだよ。
——『PRIDE』がカード発表した途端、山本！さんは「勝負あった！」って書いてましたもんね。K－1サイドはそれに対する怒りがモチベーションになってるんじゃないですか（笑）。
ターザン　いや本当にあれは勝負あったよ！　もう100％勝負アリですよォ！　K－1は、いまだ石井（前）館長の執権政治だから。谷川は北条氏の時代の鎌倉の形だけの将軍みたいなもんだよ。
——そして館長が北条時政だと（笑）。
ターザン　そうそう。石井館長があらゆるタマを総動員して、足し算して、『PRIDE』を越えようとしてるんだよ。ただ掛け算と言えるほどのタマはないんだよな。だって掛け算っていうのはドーンとはじけるでしょ？
——元々の『Dynamite!』とか、元々の『INOKI BOM-BA-YA』とかは、国立競技場という場所とか、猪木軍vsK－1っていうそういう部分で掛け算だったわけですね？
ターザン　カードのインパクトっていうのは、足し算か掛け算かによって決まるんだよ。最近だったら足し算をやってるのが11・13の新日本で、「長州出しましょう」ということでプラス長州、「小川出しましょう」ということでプラス小川。プラス川田、プラス『ハッスル』ってなって、こりゃマズイって思ったのが猪木さんだよ。無理矢理カード変えて掛け算にしようとしたんだけど、猪木さんが持ってたカードも結局は今回、プラスの足し算にしかならなかったんですよォ！　猪木さんも掛け算ができなくなっちゃったんだよねぇ……（しみじみと）。
——なるほど。なぜかギャラだけが倍々ゲームで掛け算状態なんですよね（笑）。
ターザン　そうそう！（笑）。ギャラだけ大幅にオーバーしてえらいことになってるわけですよォォ！　それがモノ凄い負担になるんですよ。
——一体どれぐらい経費がかかってるんでしょうねえ？
ターザン　そんなことよりも国立競技場っていう場所は、他がやったことないんだから、あれは完全に掛け算だったんだよ。『Dynamite!』っていう名前も掛け算のイメージがあったし、あの大会はいろんなかけ算が重なって、2乗3乗4乗の倍々ゲームで、モノ凄くブレイクしたわけですよ！
——猪木さんが空から降ってくるなんて、足し算なわけないですもんね（笑）。
ターザン　都会の真夏の夜に天から神が舞い降りてきたもんね。あれこそ真夏の夜のビッグドリームだよォォ！
——その足し算という表現の究極的なカードが正式に発表された曙vsホイス・グレイシー戦ですよね。
ターザン　曙ってもう5連敗してるわけでしょ？　座標軸でいうと0ラインの下にいるんだよね。とりあえず0までいかないとプラスにもならないわけですよ。でも曙に頼らなきゃいけないっていうK－1も気の毒だよなぁ。
——ダブルメインイベントのうちの一つらしいですよ。ということは魔裟斗vsKIDを越えるカードはもうないっていうことなんですかね？
ターザン　魔裟斗vsKIDの対決っていうのは、ジュニアヘビー級の下のライトヘビー級みたいなもんだよォ！
——まあ、階級的にはそうですけどね。
ターザン　ヘビー級じゃなきゃ、世間には届きませんよォォ！　魔裟斗vsKIDなんて、メインがしっかりしてて、その下にあるマニア向けのカードとして断然光り輝くのであってね。

『男祭り』は曙vsサップに惑わされなかった事が今年に繋がった！

大晦日興行は

──格闘技雑誌的にはド真ん中のカードみたいですけどね。『格通』風に言うとセカチュー（笑）。

ターザン　専門誌やマニア的にはド真ん中かもしれないけども、世間という大きなマーケットから見たら端っこのカードですよ、ハッキリ言ったら！　助演賞的輝きですよォォ!!

──確かに2人とも魅力的だし、いいカードだと思いますけど、スケール感はないですよね。

ターザン　そうだよ。相撲でいったら関脇と小結がいい試合するみたいな、そういうことだよ。

──大リーグでイチローがMVPになれないのと一緒ですよね。

ターザン　そう！　盗塁王がMVP取れないのと一緒。3割打って、30盗塁して、30本のホームランを打ったとしてもリーグのMVPにはなれないわけよ。確かに最高のカードなんだけどな。いい仕事はするだろうし、魔裟斗もKIDも役者だし、個性もあるよ。チームワークの貢献度も高い。でもそれ以上じゃないわけよ。過剰性がないわけ。

──K－1は凄い過剰性を出そうとしてるんですけどねえ。

ターザン　それより凄くバタバタしてるあの感じがいいよなぁ。

──最近、『PRIDE』へ瀧本誠っていうシドニーの金メダリストの出場が決まりそうだって『東スポ』がスッパ抜いたじゃないですか？　そしたらK－1もそれに対抗するかのようにカラブ・イブラヒムというアマレスの金メダリストの出場を発表したんですよ。

ターザン　知らないよ、そんなもん！

──アテネ五輪の96キロ級の金メダリストです（笑）。現役金メダリストは総合格闘技界初らしいですよ。

ターザン　誰とやるんだよ。

──さっぱりわかりません。まあ、足し算になるでしょうね（笑）。

ターザン　でも、話題的にはカレリンを破った人には勝てないよ。どんな世界でも一番最初にやった者、一番最初に言った者が勝つんだよ。あとは全部二番煎じ三番煎じだから。

──確かに相撲も曙が出たら、あとは出なくてもいいですよね。

ターザン　関係ないもん！　（声をひそめて）でも朝青龍が出たら別だよ。

──別格ですもんね。

ターザン　武双山が出ようが、武蔵丸が出ようが、若乃花が出ようが、千代大海が出ようがダメよ。曙は横綱なんだから。ファーストインパクトというパワーが一番大事なんだよ。それと先手必勝。エンターテインメントでは、常に先手を打つことが最も重要なんだから。でも先手必勝でも負けたりするんだよな、ライブドアみたいに。

──負けちゃいましたよね。

ターザン　あれは社長が若かったし、ちょっと雰囲気が生意気だし、着てるもんが背広じゃないからね。そういうとこで老人受けしなかったんだよ。ハッキリ言ってプロ野球なんて年寄りのもんなんだから。楽天の社長だって同じようなもんだよ、ホントは！

──突然ネクタイし始めて、ヒゲも剃って。上手かったですよねぇ。

ターザン　そうだよォ。全ッ然イメージが違うよ。野球では年寄りに受ける者が勝つんですよォォ！

──話は戻りますが、今回は見事なまでに色分けできたというか、全く毛色が違うイベントになりましたよね。

ターザン　世の中は常に二局対立の世界なんだよ。それともその対立の中で、絶えず勝負を競いあってるんだけど、一局勝利集中型みたいな。アメリカの大統領戦でも共和党と民主党が争った。一応、民主主義として公平を保つために、二局対立の構図を見せるんだけども、ブッシュの共和党が圧倒的勝利を収めたじゃない。だから負けた民主党は噛ませ犬になるんだよ。グローバルスタンダードというものはそういう法則のもとに成り立ってるんだから。常に1位しか勝利者になれないという非情な掟なんですよ！

──大晦日の興行も、どちらかが噛ませ犬になると。

ターザン　去年までは3大会あったよね？　その中から1つ脱落した。これは昔、国際プロレスが脱落したのと一緒なんだよ。そして2局対立になった。この状態が一番平和でいいんだよね。馬場vs猪木、全日本vs新日本、日テレvsテレ朝とかね。でもそれも崩れてきて、いまは『PRIDE』vsK－1。その中でマット界は「均等な力関係の中で対立しなきゃいけない」っていうんでK－1は頑張ってるんだけど、何だか知らないけど今年の勝ち目は『PRIDE』にある感じで、一局勝利型になりそうなんだよね。それをK－1はどれだけ詰めるかがこれからのテーマだと思う。

──そういう雰囲気ですよね。

ターザン　去年にそういう布石はあったんだよね。曙vsサップでK－1は世間的にボロ勝ちしたんだけど、その裏ッ側でしぶとくしぶとく、キチッとクソ真面目にやって、『PRIDE』の『男祭り』はそれなりの成績を残したんだよね。あのときは決して慌てずマイペースに「ウチはウチのペースでやろう。これしかない」って心を決めて、惑わずに真っ直ぐ自分のスタイルを貫いたら、いい数字を残したんだよね。そういったことが今年につながってるんですよ。

──去年の大晦日があったからこそ、今年の『PRIDE』の爆発があったわけですよね。

ターザン　「曙vsサップには勝てない。アレは放っておけ。コッチはコッチで差別化してやろうじゃないか」っていう心の括り方が未来を呼び込む。でも石井館長は負けず嫌いで、そういうスタイルは取

れないから「行けぇ、追いつけぇぇ！」ってなってるでしょ？
——ある意味、館長のお陰でコチラは楽しめますからね（笑）。
ターザン　僕も館長のような人は大好きだし、楽しいんだけどね。まあそういう意味で館長はいつでも貢献度が高いというか、勝負あったとこから「イヤ、まだいける」ってガンガンやってみんなの尻叩いてるわけでしょ？　やっぱりあれは凄いよねえ！
——しかもそのためには金に糸目は付けないところもありますしね。
ターザン　館長っていうのは執念の人だし、イケイケでしょう。やっぱりエンターテインメントの中で生きてる人だなって感心するよね。
——だから下手したら『Dynamite!!』って赤字になるかもしれないと思うんですけど、視聴率や話題では勝つような気がするし、K—1もそこに重きを置いてるみたいな感じがありますよね。
ターザン　曙もいるし、いままでの実績もあるし、テレビの視聴率は終わってみたらTBSが勝つかもしれないけど、『PRIDE』はマイペースで頑張ってるから、視聴率で負けたとしても求心力とか試合内容とかで勝利するという、非常に両者の性格とか方向性の違いがそこで色分けされてるというか、コレがまたいいんだよォオ！　浮き足立ってるところと、地盤を固めてるところの色分けが僕としては嬉しいんだよ。でも、さいたまスーパーアリーナを押さえてるとこは強いよなぁ。これは時代が彼らにプラスしてるというか。大阪ドームみたいな死に体の会場はねぇ……。
——経営が破綻してますからね（笑）。
ターザン　そんなニッチもサッチもいかないところでしょ？　新日本もこの前やったけど、客入り見たら、やっぱり貧乏神がいますよォオ！　確かに大晦日決戦の原点は大阪ドームで、あそこは故郷ともいえるんだけど、マット界ではもう死に体なんだよね。ある種のババを掴んじゃったみたいなもんで。

曙の総合も金メダリストを呼ぶのもテレビ的にはすべて正しい!!

——K—1はババを引いてましたか（笑）。
ターザン　もし1つしか大晦日の興行がなかったらみんなファンは大阪ドームに行ったけど、2つあるんだったら近いとこに行きますよォオ！　それで行けないとこはテレビで十分なんだから!!
——でもホント、『男祭り』のチケットの売れ行きが異常なくらい凄いらしいんですよ。
ターザン　異常じゃないよ。僕は最初の発表の時点で全部売れると思ったもん。大衆というか読者というかプロレス＆格闘技ファンはよく知ってますよ。いまマーケティングのパワーバランスは『PRIDE』がチケット的にはナンバーワンですよ。あとのチケットはその他大勢。『PRIDE』が90％以上のシェアを誇ってますよ。残りの10％は「行こうか行かないかどうでもいいや」って考えてる連中なんだから。
——確かにそうですよね（笑）。
ターザン　プロレスは「武藤が出るから観に行こう」とか、あるいは「小橋のいるNOAHに行こう」というプロレスファンは彼らの優しさの中の限られたスモールシェアの中でやってるんですよ。世の中という器で考えたら、『PRIDE』のチケットのシェア率は瞬間風速でいうと、もう9割を完全に超えてますよ！　だから今度のさいたまスーパーアリーナは史上空前の観客動員を記録することになりますよ！
——8月の『PRIDE・GP決勝戦』でもチケットが手に入らない状態でしたからね。
ターザン　8月にヒョードルとノゲイラの決着が付かなかったことをボクらがボロクソ言ったわけですよ。主催者側も初めてのことだからどうしていいかわからなくてノーコンテストにしたでしょ？　これがまた生きてるんだよねえ。最悪の現実が好転反応するっていうことは、時代や歴史が『PRIDE』に味方をしてるんですよ！
——いわゆる〝ゴッドアングル〟ですよね。
ターザン　K—1は、結局、曙とサップというダブルのキワモノ王者によるブレイクが最大のツケになったんだよ。2人の功罪の〝罪〟が、いま彼らに負荷をかけている。そういうキワモノに走らず、格闘技の勝負論のド真ん中を行った『PRIDE』が勝利を収めて、そのド真ん中から外れたキワモノ路線で視聴率を選んだK—1に、いま逆風が吹いてるわけですよォオオ!!
——今年のK—1が苦しんだのは、明らかにサップvs曙の反動ですもんね。
ターザン　あれは格闘技じゃなくて、もうバラエティですよォ！　だからK—1はストロング格闘技じゃなくバラエティ格闘技として成長を遂げたところに大きな落とし穴があったわけ。でもテレビはバラエティだからいいんですよ。K—1はテレビ＆バラエティ＆格闘技の三位一体なんだから。そう考えると非常にわかりやすいから別に気にしなくていいんですよ。K—1はいまのままでいい！　だからKIDを呼ぶのも、曙に総合をやらせるのも、金メダリストを呼ぶのも、彼らにとっては全てがバラエティのキャラとして集めてくればいいんだよ。
——実際いまのK—1は『さんまのスーパーからくりTV』とも連動してますからね（笑）。
ターザン　そういう番組はドンドンいらっしゃいみたいなね。バラエティの駒としてガンガン集めていけばいいんですよ、テレビ的に。映像媒体として発展してるのがK—1。で、我々が望む考えるプロレス・格闘技、活字プロレスの延長線上という地盤を受け継いでやってるのが『PRIDE』ですよ。『PRIDE』のやってることは古いんだけども、やっぱり根強いんだよな。チケットの売れ行きを見てみなさいよ。あれってファンから支持されてる証拠ですよォオ!!
——大枚払っちゃう価値を感じるんでしょうね。
ターザン　K—1なんか、テレビで観りゃあ十分なんですよ。そうでしょう？　バラエティの公開収録なんてタダなんだから。K—1のお客さんはエキストラと一緒ですよォ！
——お客さんはエキストラ（笑）。
ターザン　もうね、いまのK—1には雑誌とか専門誌は関係ないんだけど、でも『PRIDE』は勝負論の意味性とか衝撃性とかミステリーとかスリルとかということを雑誌で訴えていくから、それがファンの中にデータとして蓄積されて、試合が面白くなっていくわけでしょ？　ノゲイラとヒョードルのどっちが勝つのか、ハリトーノフとは何なのかとかワイワイガヤガヤと騒ぐでしょ。要するに論争に発展してくでしょ？　それは活字プロレスの延長線というか、伝統を受け継いだというか、活字媒体と共存してるのが『PRIDE』なんですよ。つまりファンを学習させ成長さす過程を作ることができているわけですよ。
——できてますよね。

よ犯罪だーッ!!

ターザン　K—1は活字媒体と共存してないもん。でも雑誌はみんなK—1を応援してんだよな。これは変だよ。だってK—1は活字向きじゃないから。

——インタビューとかやっても、その選手のパーソナルな考え方とかは知りたいものじゃないですもんね。逆に館長とか谷川さんが、一体何を考えや戦略を持っているかは興味ありますけどね。

ターザン　館長も谷川氏も結局ずっと頭の中にあるのはテレビの視聴率なんですよ。それだけが命綱。そこでハウスショーのチケットを売るっていうことを忘れてしまったわけ。視聴率とハウスショーと合体させて両方とも繁栄させるっていうことがベストなんだけど、ある時からテレビの視聴率だけに頭がいっちゃったわけですよ。視聴率の魔の魅力というか、そのプレッシャーとの闘いの中に入っていっちゃったんだよね。そこで映像媒体人間になっちゃったんですよォォ！

——いまやK—1は完全にテレビ主導ですもんね。そして実際、テレビ番組としては実に優秀だし。

ターザン　『PRIDE』はK—1と比べてお茶の間のレベルを考えると内容が難しいとこがあるから、ちょっと一線引いてるとこがあるでしょ？　だからゴールデンとかプライムタイムで放送するには、ややまだ馴染みが薄いというか。その部分でマニアック性が保たれてるからいいわけですよォ！

——『PRIDE』って一度面白さを知ったら、ヤミつきになりますからね。

ターザン　『PRIDE』の魅力を知ったファンは深くズドーンと、頭のテッペンからつま先まで入っちゃうから、もう逃げられませんよォォ！　ところがバラエティ格闘技を見てる視聴者は横から入ってくる。横から入ってくるとどうなるか。胴体を通って横からスーッと抜けていくんだよ。でも頭から入ったものは虜になって、そのまま病み付きになるというのが『PRIDE』ですよォォ！

——そこからの人間ドラマとか大河ドラマをずっと見ていくというか、その脈々と流れる歴史を見ていけば見ていくほど面白くなっていきますからね。

ターザン　昔のプロレスは一つの出来事、一つの試合、一つの興行が次へ転がっていったんだよね。今後がどうなっていくのかっていう流れみたいなモノを昭和のプロレスは、連続ドラマで見せてたわけよ。それを『PRIDE』が受け継いでいるわけですよ。「誰が最強なのか」「次は誰と闘うのか」とか、一回一回完結するんだけど、また次に転がっていくという。K—1にはそれがないわけだよね。急にバンナが総合やるとか、曙が総合やるとか、K—1という立ち技だけの中で何かを極めるというわけではなくて、総合もプラスしてきたわけですよ。まさにそれこそがバラエティの思想なんですよ！

——手を変え品を変え目新しいものを提供し続けると。

ターザン　立ち技格闘技を完成させようとしてるんじゃなくて、『Dynamite!!』というもう一つのタマがあって、二つを両立させるために、どっちも中途半端になっちゃって、こんな状態になっちゃったわけですよ。でもあれでテレビの視聴率を取ったらさあ、やっぱり人間狂うよ！　高い視聴率取ったらテレビ局から花束が届くわけ。そりゃあ舞い上がっちゃうよ！

『SRS・DX』があったら いまのK-1でも俺が 意味付けしてましたよォォ!

——そうなっちゃうんでしょうね。

ターザン　谷川はもともと雑誌人間だったのが映像の媒体に行ったでしょ？　『紙プロ』でもアナログで面倒臭い、マニファクチュアみたいな仕事を毎日やってるわけでしょ。そういうことをやらないでテレビでパッと一発勝負するようになったわけだよ、谷川のスタイルは。そこには、ある種彼らの内的な部分に空洞化現象を起こすわけですよ。雑誌を捨てた、つまり『SRS・DX』を失ったことでそういう道を歩んでしまったわけ。

——確かに『SRS・DX』休刊でバラエティ化が加速しましたよね。

ターザン　『SRS・DX』があったら、たとえいまのK—1でも意味付けしてたでしょ？

——いちいちやってたでしょうね（笑）。

ターザン　いちいち僕が座談会で定義付けして、総括して意味を付けて、「次はこうなるよ」と予想して、つまり起承転結を全部説明してたわけですよ。そうすればファンは「なるほど」と納得して、彼らは一つの現象のドラマとテーマの両方を理解して、噛み砕いてわかることができたわけですよ。

——年末の曙vsホイス戦が発表されたじゃないですか。そして「これからルール問題が……」と毎度のことをやってるんですけど、そういうアングルって『SRS・DX』がないと伝わりませんよね。

ターザン　そりゃそうですよ。だってグレイシーのいいところは試合が行われる日までゴタゴタと揉め事を起こすから、これが非常にプロレス的というか、猪木さん的なわけですよ！　「アレはイヤだ」「これはダメ」って難癖付けると毎日のスポーツ新聞の話題になるわけで、それで結局グレイシーが勝つと、これがすなわち活字格闘技になるし、活字K—1になっていくんだよね。グレイシーの嫌らしさとか、面白さを随時知らせていけるわけなんだよね。

——田村選手なんかもそうですよね。ウチ、今回の表紙にも打っちゃったんですけど、直前になって行方不明になっちゃいましたからね（笑）。

ターザン　彼はね、稀に見る業師だよ。

——いろんな意味で（笑）。

ターザン　近年の若者の中であれだけの業師がいたかと思うと、拍手喝采するよ！　若い人はもっとストレートだよね。頭が二重・三重の多重構造になってないよ。「アッ、そうですか。わかりました」っていう素直さがあるけど、田村選手は一つの出来事を自分で考えすぎちゃって、最後は彼自身も自分で自分がわからなくなるもんね。迷路に入ってってどこに行ったかわかんなくなるよ、彼は。

——探すのが一苦労だよなあ！

——もう放っておいてあげたくもなるんですけどね（笑）。

ターザン　でも彼はわざと迷路の出口を塞いで、我々を迷わせて持て遊んで、そして自分の商品価値を高めるんだよね。彼は女だよ。自分を高く見せるようとする女性っていっぱいいるけど、それを彼は男なのにやってるわけだから。

——下世話な言い方すると、なかなかヤらせてくれないという感じで（笑）。

ターザン　（パチパチと拍手）そう！　その間合いの取り方は天下一品だよね。

——そのために男はドンドン金使っちゃうみたいな（笑）。

ターザン　だから「田村選手、お前は女だ！」みたいなね。田村選手に関しては『女祭り』ですよォォ！

——ガハハハハ！

ターザン　女である彼がOKして、やっと桜庭vs田村戦が実現するとするでしょ？　そしたら僕らは見事に彼の網に引

大晦日興行は

大晦日興行は

っ掛かるというか、そのことでこっちもホッとするんだよなあ。

――振り回されてますよねぇ（笑）。

ターザン 振り回された喜びと、実現したことの征服感と、やっと到達した安心感があるよ。まさに「お前は女だ！」だよ。ハッキリ言ってねえ、『悪女祭り』ですよォオオ!!

――『PRIDE悪女祭り』（笑）。

ターザン ……いままで言ったこと、全部誉めてるんだからね。

――でも、今年も田村vs桜庭戦はやらないような気がするんですよね。

ターザン そこのギリギリの選択があるんだけど、どっちを採っても田村的で、どっちに転んでも僕らは田村選手のことをいいように解釈するんだよね。得してますよ、彼は！ 桜庭とやったら田村の評価は上がるし、やらなかったらそれが次への布石になると。彼の中でどちらに決めるか、これは自分自身との対決でもあるんだよね。

自分でもどっちにいくかわかってないんでしょうね。

ターザン 今回は結論出せないだろうから、そりゃ逃走もするよ。誰にも干渉させない、すべては自分のモノだから。そりゃあ最高の快楽を与えてくれるオナニーですよ！ 誰も見てないとこで快感に耽るか、それとも不安になるか、それは間違いなく自慰行為なんですよォオォ!!

――それは人のいないとこに雲隠れもしたくなりますよねぇ（笑）。でも、また田村潔司で大晦日まで楽しませてもらえそうですよね。

ターザン ギリギリまで引き延ばした方がいいよ。もう馬場さんの後継者みたいになってきたなあ。

――赤いパンツつながりですし（笑）。

ターザン 馬場さんも、『夢の架け橋』のとき一番最後に参戦したんだよ。その一番最後に名乗りを上げるってことが、全日本にとっても馬場さんにとっても一番いいことだって計算してるんだよね。ホントもめたんだから。いわゆる反『週プロ』側は「馬場さんが出るはずがない！」って信じてたわけですよ。馬場さんはそっちの人間もまた翻弄してるんだよね。でも出たでしょ。そのタイミングを狙ってるんだよねえ。ジャイアント馬場の後継者は田村潔司ですよォオォ!!

――それは初耳ですね（笑）。やっぱり、動かないことが価値を高めて、動いたときに意味が出てくるんですね。

ターザン そうそうそう。いまの資本主義社会では札束でひっぱたけば全て簡単にカタが付く世界じゃない。これもグローバルスタンダードの一つの手なんだよね。要するに札束が最強であると。それをみんな知ってるから勝負は早いわけですよ。それを田村選手はごねてるわけでしょ？ そこがプロレスなんですよ。どっかで勝負は決まるのに、ごねながら結論を引き延ばしてるんだから。

――田村潔司は面白いですねぇ（笑）。

ターザン ホンットにズルイ！ UWFにあるまじき男だよ。UWFには全ての勝負論をギブアップかKOで決めるっていう理念があるんだよ。彼はそれを判定に持ち込もうとするもんな。ギブアップとかKOっていうモノはグローバルスタンダードの理論だからね。答えがハッキリしているイエスかノーにしか答えがない。その裏側にあるのが札束ですよ。最強の物量作戦。そこで楽しませるっていう部分では、僕が知ってる限り馬場さんと田村選手はズバ抜けてるね。

ジャイアント馬場の後継者は田村潔司で決まりですよオオ!!

――大晦日の話から馬場さんが登場するとは思いませんでしたね（笑）。

ターザン まあ、K―1にも頑張って欲しいよね。K―1だって、ちょっと前はアンディ・フグというタマがあったんだけど、それをうまく利用できなかったというか。あと一番最初にGPで勝ったシカティックなんてのもいたのに、そういう時間軸を上手く利用できないというか、蓄積できないというか。K―1は結局プロレスとつながりがないわけよ。でも『PRIDE』の方は髙田さんとか桜庭選手がいることによって、Uインターとかその先の新日本につながってるんですよ。この差は大きいよなぁ。K―1は1990年代にできて、そこからのスタートでしょ？ アメリカの社会と一緒で、アメリカはまだ200～300年の歴史しかないんだから。

――K―1は新日本とつながりはありますけど、あくまで契約上ですもんね。

ターザン そう。その向こう側の力道山とか猪木さんとかUWFとはつながってるわけじゃないからね。アメリカが独立したときと一緒。だからアメリカ国家には神話や童話はないでしょ？ 『PRIDE』には力道山とか猪木さん、UWF、昭和新日本という神話の延長線上にあるもん。K―1という新しいモノと、過去のプロレスと繋がっている『PRIDE』の二極対立があるわけですよォ！ ハッキリ言って僕もそうだけど、プロレスファンはみんな『PRIDE』観に行きますよ。ある種、それって自分の故郷に帰るようなとこがあるもんな。

――大晦日の『男祭り』は一足早い里帰りなんですね（笑）。

ターザン そうそう（笑）。でもヒョードルvsノゲイラみたいに、余りにも勝負論に走ると困るので、そこにちょっとマイルドな桜庭とかがいてくれた方がいいんだよぉ！ 金ちゃんまでいくと、またアレだけどね（笑）。

――金ちゃんだといきすぎだと（笑）今日はありがとうございました。今回も完璧です！（笑）。

ターザン 完璧？ そりゃ僕がしゃべったら完璧に決まってますよォオ！

【11月22日／水道橋『New Yorkers Cafe』にて収録】

だーッ!!

超ド級カード続々決定!
どうなる『男祭り』
濃密先取り情報!!

男祭り2004

ガードナー級のサプライズをさらに用意しています!

(株)ドリームステージ・エンタテインメント代表取締役

榊原信行

ヒョードルvsノゲイラ! 吉田vsガードナー! ミルコ、シウバ、ハント(ついでにシルバも)参戦! さらに桜庭vs田村まで実現!? と、いきなり超豪華カードを発表した『PRIDE男祭り』。正直、もうこれだけで例年以上のスーパーラインナップだが、勝負をかける『PRIDE』はさらなるビッサプライズも用意しているという。いったいどんな驚きが待ち受けているのか!? さっそくDSE榊原代表に話を聞いてきました!

聞き手/堀江ガンツ

――今日は〝ハッスル宣教師〟もいないんで、じっくりと『PRIDE男祭り』についてお話を伺いたいと思います！

榊原　今日はラップはナシということですね（笑）。

――そういうことです（笑）。ではその前にまず、先日行われた『PRIDE・28』についてお聞きしたいんですけど、『PRIDE・GP』決勝に続き、またしても注目の大一番でアクシデントが起きてしまいました。あの日、ジョシュ・バーネットに一体何が起こったんですか？

榊原　映像を見てもらえばわかるんですけど、ミルコのハイキックをジョシュが前に出て倒したとき、ジョシュも体勢を崩して、左手をマットに付いたんですよ。彼は119キロあるんですけど、ついた手を支点にグルッと左に回ったときに肩が抜けたんですね。

――髙田本部長は「かんぬきで肩が抜けたのでは…」と言ってましたが。

榊原　その前にもうジョシュの左肩は壊れていたわけです。自分の体重を支えきれずに。そういう意味ではアクシデントですけど、僕から言わせてもらえば刀が錆びてたんじゃないかなと。

――刀が錆びてた！

榊原　だってテイクダウンしても腕が自分の体重を支えられないんだったら、それこそ格闘家として「お前はもう死んでいる」ってミルコに言われますよ（笑）。

――「お前こそ死んでる」と（笑）。

榊原　やっぱり『PRIDE』のリングは、技だけでなく、自分の体格や体調、すべてを研ぎ澄まして出てくる場所ですから。そう考えると、彼のお腹なんか見ても太りすぎかもしれませんね。

――まあ、体質もあるんでしょうけど、そうですよね。

榊原　体質がそうであっても、きちんと節制していたら身体は変わってくると思いますよ。やっぱりUFCというハードな舞台からは2年ぐらい離れちゃってるわけですよね。あとはスポットで何試合かしてますけど、セーム・シュルトはともかく、近藤君や高橋君とは体格が圧倒的に違うしね。あとはレネ・ローゼでしょ？　それじゃあ2ヶ月に1回ペースでバリバリの選手と鎬を削ってきたミルコと比べると、やっぱり訳が違いますよ。

――ノゲイラも「3強と同等と言われるけど、俺たちは3人でお互い高め合ってるから1～2年前とまるで違う。ジョシュはそれをやってないから、彼に対しての一番いい表現は〝期待のルーキー〟でしかない」って言ってましたね。

試合前はメインのシウバvsジャクソン以上の期待感がふくらみまくっていたミルコvsジョシュだったが、ジョシュの脱臼により、わずか46秒で終了。しかも、ジョシュは思いのほか重傷らしく、復帰は早くて来春と言われる。流れの速い格闘技界、ジョシュはビッグカムバックできるか？

ジョシュの脱臼はアクシデントですけど、僕から言わせてもらえば、刀が錆びてたのかなと

榊原　試合前あれだけのことを言っておきながら、試合すらまともにできなかったんだから、そう言われても仕方がないですよ。それでジョシュが「なにくそ」と思うなら、リングでそれを見せてほしいですね。

――では、ファンも期待しているであろう、仕切直しの再戦というのは早い段階で実現しそうですか？

榊原　ミルコは「ジョシュが間に合うんであれば、大晦日でも構わない」と言っていて、ジョシュにもリング上でそういう話をしたらしいんですよ。ミルコ自身、あの試合でジョシュに勝ったとは思ってないし、アクシデントだと判断してますから。ただ、ジョシュは脱臼だけじゃなくて、肩が抜けたときに骨も欠けたりしてるらしいんで、ちょっと治療に時間がかかりそうなんですよ。

――そんな重傷だったんですか。

榊原　だから再戦は早くて年明けになると思いますけど、あれだけのファンが期待していながら決着がつかなかったわけですから、必ず実現させたいですね。

――で、そんなミルコvsジョシュ戦でスッキリしない雰囲気になった会場を救ったというか、有り余るぐらいリカバリーしてくれたのが、メインのシウバvsジャクソン戦でしたよね。

榊原　ホントそうですよ。会場に来てくれたファン、PPVや地上波の視聴者はもちろんのこと、海外のファンやメディアの評価も、MMA史上に残るベストバウトだっていう声もありますからね。

――僕も見てて〝PRIDEスタイル〟の一つの頂点を迎えたような気がしましたよ。

10.31 PRIDE.28 PUTI REVIEW

○チェ・ム・ベ　［2R4分52秒 スリーパー］　ソア・パラレイ×

ムベ様の魅力またも爆発!こんなのアリの大逆転勝利!

『武士道』2連勝が評価されついにナンバーシリーズ初登場をはたしたムベ様。この日も持ち前の打たれ強さを十二分に発揮し、スタンドでボコボコに殴られながらも、チョークで信じられない大逆転勝ち。最後はもちろんフィーバーで決めた。

○ヒース・ヒーリング　［1R1分55秒 KO］　横井広孝×

“怪物君”横井無念!一発のパンチが明暗わける!

4月のGP1回戦でノゲイラ相手にMMA初黒星を喫した怪物君。今度は“3強”に次ぐ存在であるヒースと対戦。これを足がかりにトップ戦線に食い込みたいところだったが、序盤の右フックで記憶が飛び4ポイントのヒザで無念のKO負け。

榊原　シウバがもっと挑戦者をいなす闘い方をするのかと思ったんですけど、どっちが挑戦者かわからないぐらいアグレッシブで、真っ向勝負を挑んでましたからね。ああいった闘いを常に心がけてくれるヴァンダレイ・シウバが『PRIDE』のチャンピオンであることに対して、DSEは敬意を表するし、ホントに誇りに思いますよ。我々が、そしてファンが求めるファイトを体現してくれてますから。

―ただ強いだけじゃないですもんね。

榊原　だからこそ、打倒シウバを目指す桜庭や吉田や、他のファイターたちも、シウバに対して尊敬の念を抱いてるんですよね。今回の『PRIDE・28』っていうのは全試合KO決着だったんですけど、これはヴァンダレイを始めとして、第一試合からメインまで「攻めて一本取ろう」っていう意識をみんなが持ってくれた結果だと思います。『PRIDE』というリングではどんなことが求められるのかということは、それこそ初登場のジェームス・トンプソンに至るまで、ちゃんと理解してくれたんだなと（笑）。

―トンプソンは凄まじいばかりのアグレッシブさでしたからね（笑）。

榊原　彼はイギリスでの闘いぶりも、全部アレと同じなんだよね。いままではバーンッてぶつかって相手がよろけたところをパウンドで仕留めるという感じだったんですよ。今回はレベルが違っちゃって秒殺負けになりましたけど、ああいった気持ちを見せてくれるならまた見たいよね。だから早ければ大晦日にでも。

ヴァンダレイがPRIDE王者であることに対して、ホントに誇りに思いますね。

PRIDE 男祭り 2004 SADAME

―秒殺負けながら、大晦日に一歩前進ですか（笑）。

榊原　彼はまだ若いですし、あれだけの大観衆の前で試合すること自体が初めてだったから、これから経験を積めば、化けるかもしれませんよ。

―大会の2日後に放送された地上波の反応はどうだったんですか？

榊原　平均視聴率が11・4％で、これは我々も含めて、テレビ局も満足してる数字ですね。平日火曜日、夜の7時からの放送で、しかも大会2日後みんな結果がわかってての数字ですから。それでも7～8時の1時間は辛かったけど、8時を過ぎてから平均15％取ってるんですよ。

―じゃあ、成人男性が見やすい9時スタートとかだったら、2日後放送ながらかなりの数字がはじき出されてたかもしれないですね。

榊原　まぁ、だから内容的なことを考慮すると9時とか10時スタートがいいのかなと思いますけど、フジテレビさんの編成上の都合もあるでしょうからね。

―7時スタートというのも、本来は格闘技を見ない人たちの目に触れる時間帯で放送して、ファンを新規開拓するという意味では、凄くいいですしね。

榊原　そうですね。だから、ひとつの素材があるとするならば、フレッシュな、一番美味しい〝お刺身〟のところを出すのがPPV。で、その素材をソテーしたり加工したり、いいところを厳選して出すのが地上波なわけですけど、当面の我々のメディア戦略はPPVの環境を守った上で、地上波は加工食品としてうまく使

○E・アレキサンダー　［1R0分12秒 KO］　ジェームス・トンプソン×

筋肉の暴走機関車トンプソン、見事正面衝突負け！

やたらビルドアップされた上半身と異常なテンションの高さが印象的な英国のトンプソンは、ゴングと同時に全速力でアレキに突進したが、左クロスを合わされいきなり転倒。すぐさま立ち上がったがさらにパンチを浴び、見事12秒で完敗を喫した。

○ヒカルド・アローナ　［1R8分37秒 スリーパー］　セルゲイ・イグナチェフ×

謎の男イグナチェフ試合が終わってもやっぱり謎のまま

RTTの秘密兵器とのふれこみで初登場のイグナチェフ。ロシア勢にしては珍しくMMAのセオリーを知っているような闘いを見せたが、アローナでは相手が悪く一本負け。謎の男は試合が終わってもやっぱり謎のままだった。

わせてもらうと。だからK‐1さんがゴールデンで放送してる反面、『PRIDE』は放送されてなかったので、どうしても知らない人には『PRIDE』がマイナーで、K‐1がメジャーだって思われがちなんですけど、我々は戦略上そうしてるだけであって、敢えてやってなかっただけなんですよ。

——フジテレビもホントだったら、2日後じゃなくて、生か当日ディレイで放送したいでしょうからね。

榊原　放送局としたら即日放送したいのは当たり前なんですけど、それは待っていただいて、PPVでご覧になる人たちの優先権をそこで確保してるんです。スポーツにおいて、結果がわかってるのに視聴率を取るっていうこと事態、考えられないことですからね。そういう意味で、来年度はもっと『PRIDE』というブランドを世間に浸透させるための手段として地上波を強化しようと思ってますけど、生のハラハラドキドキ感、サプライズの部分はPPVを買ってくれた人の特権として、とっておこうと思ってますよ。

——ただし大晦日だけは、そのぶん特別に5時間ぶっ通し生放送するわけですよね？

榊原　いえ、午後6時から11時45分の5時間45分です（笑）。

——ほぼ6時間ですか（笑）。フジテレビも思い切りますよねぇ。

榊原　我々としたら大晦日という、テレビの前に視聴者が一番いるタイミングに放送させていただけるっていうのは、本当にありがたいことだし、まさかこんなハードコアな格闘技が『紅白』の裏でお茶の間に届けられるというのは、考えられないことですから。

——大晦日のまったりとした空気の中で、人が次々と失神していく姿が流されるわけですからね（笑）。

榊原　ホントに闘いを見るのが好きな国民なんですよね、日本人というのは。それも1vs1の闘い。そういう意味では我々にとって1年に一度のお祭りなんだけれども、やっぱり『PRIDE』の世界観というか、我々が『PRIDE』で伝えたいことを曲げちゃって5～6時間ぬるいモノやってもしょうがないと思うんですよ。みんながコタツでまったりしてるところを、「オマエら何やってんだ？　年越しまでそんなシビアに生きることないじゃないか」っていうぐらいの勝負論を前面に出

ヒョードルvsノゲイラ、吉田vsガードナーなど"格闘技"で勝負する『男祭り』に対し、『Dynamite!!』は五輪メダリストから、『さんまのからくりテレビ』でお馴染みボビー・オロゴンまで登場する幅広いバラエティ路線で勝負。おなじ格闘技ながらお互いまったく違う面白さなのが凄い。

PRIDE 男祭り2004 SADAME

した大会にしたい。だから笹原が「〝SADAME〟って演歌みたいですね」って言ったんですけど（笑）、浪花節でいいんじゃないかと思います。

——では裏番組にはTBSの『Dynamite!!』がありますけど、全く毛色の違うモノになりそうですね？

榊原　格闘技という大きなジャンルでは括れますけど、全然違うモノですね。だってお笑いのボビーがリングに上がって試合するわけですから。そういう人と、シウバとかミルコとかリングに命をかける男たちを、同じ空間・リングには立たせるというのは、『PRIDE』ではありえないことですから、まったく別ですよね。でもそれは『PRIDE』の世界観の中の話で、別のモノが存在していても全然いいんですよ。歌に演歌もポップスもあるように。お年寄りもいるお茶の間の中では、「ああ、いつもお笑いで出てる人が今日は格闘技やってるよ」っていうのもアリでしょうね。でも『PRIDE』っていう名前が付いたら絶対できないし、それはやるべきではない。僕らもフジテレビさんも、格闘技の持ってるシリアスな世界観・勝負論の中で、視聴率を取りたいと思ってますから。

——目標視聴率とかは決まってるんですか？

榊原　具体的な数値を掲げることはないですけど、去年我々が必死に頑張って取った数値を、今年は少しでもオーバーすることを目標にはしてます。

——けっこう控えめですね（笑）。

榊原　今年100点満点の答案用紙を書いちゃうと次が辛くなるんで、何とか及第点をいただけるような大会でいいのかなっ

10.31 PRIDE.28 PUTI REVIEW

○マーク・ハント　[1R6分23秒 KO]　ダン・ボビッシュ×

K-1王者ハント 高田モ軍の刺客に 大逆転勝利！

元K－1王者vs元KOTC王者の対決は序盤フロントスープレックスでテイクダウンを奪ったダンボビが上になり、終始攻め続けるが決め手がなくスタミナ切れ。ハントはスタンドに戻ったワンチャンスをモノにして逆転KO勝ち！

○アリスター・オーフレイム　[2R3分52秒 ドクターストップ]　金原弘光×

アリスター兄の雪辱 金ちゃんは苦しい PRIDE3連敗

かつてリングス・オランダ大会で兄ヴァレンタインが金原にKOさらたとき、試合後「いつかお前を倒してやる」と宣言したというアリスター。それから約5年の歳月を経て『PRIDE』でチャンスを掴み、TKOで見事兄の雪辱をはたした。

て（笑）。

——でも、対戦カードや出場選手を見ると、現時点でもうかなり高得点ですよ。フジテレビ側からはカードや出場選手について何か要求はあったりしないんですか？

榊原　フジテレビさんも『ＰＲＩＤＥ』の世界観とか『男祭り』の位置づけというものを理解されてるので、例えばミルコの対戦相手としてvsシウバ、vsランデルマンが見たいっていう逆提案をしてくれたりはしますけど、全然違うジャンルから持ってくるということはないですね。ガードナーのような『ＰＲＩＤＥ』が目指す新しい方向性として存在している選手は大歓迎ですけど、例えば格闘技と関係のない砲丸投げの室伏選手を上げたいという考えは我々にはありませんから。もしかしたら『Ｄｙｎａｍｉｔ!!』とかではアリなのかもしれないですけど（笑）。

——いや、谷川さんは大歓迎でしょう（笑）。そういう意味では、ガードナーというのはピッタリの大物というか、ホントよく上がってきましたよね。

榊原　前々からガードナー自身が格闘技に興味を持ってるっていう話は聞いてたんですよ。ＷＷＥからも声がかかってる中で、「ＷＷＥに行くには早すぎる。アスリートとしてもう一度世界一を目指す。レスリングをバックボーンとして格闘技のトップを決める場所に出たい」ということで『ＰＲＩＤＥ』を選んだんですよね。だからＷＷＥは非常に残念がったらしいですよ。ガードナーの波瀾万丈な人生がテレビ番組になるぐらい国民的ヒーローですから。

——しかも、今年アテネでも銅メダルを取ったばかりという、現役バリバリで参戦してくるわけですからね。

榊原　だからガードナーはよくマット・ガファリと比較されますけど、ハッキリ言って全くモノが違いますよ。ガファリみたいにお金で割り切って、何も知らずに何の準備もせずにリングに上がったのとはワケが違う。すでにダン・ヘンダーソンたちチーム・クエストの中で練習を積んで、「レスリングをバックボーンに、総合でどう闘っていくのかというシュミレーションはできてる」って言ってますから、期待してもらっていいと思いますよ。

ガードナー参戦によって、世界中のトップアスリートがＰＲＩＤＥを目指しますよ

——吉田選手が『ＰＲＩＤＥ』に来たのと同様に、本気で総合格闘技に取り組むと。

榊原　ムチャクチャ本気。今回一回やって、お金稼いでサヨウナラじゃない。もしお金が重要で出るんだったら、彼ぐらいのアマチュアでの実績があれば、講演会とかレスリング教室とかで食っていけるんですよ。でもいちアスリートとして燃え尽きてない、上を目指したいっていう気持ちが、彼を『ＰＲＩＤＥ』に呼び寄せたんですから。吉田君も相当練習してきま

○ミルコ・クロコップ　［1R0分46秒 ギブアップ］　ジョシュ・バーネット×

今月の脱臼その2 注目の大一番は 46秒の不完全燃焼

試合前は異常な盛り上がりと期待感に包まれたこの一戦。しかし、勝負はあっけなかった。ミルコがハイキックを放った際、ジョシュは倒れ込むように寝技に入ったがその際肩を脱臼し突然タップ。わずか46秒の不完全燃焼だった。

○ダン・ヘンダーソン　［1R1分15秒 KO］　中村和裕×

今月の脱臼その1 “元気印” 中村カズ 不運な完敗!

8月にブラジルの重鎮、元ＵＦＣ王者ブスタマンチを判定で破り、いよいよミドル級のトップ戦線に躍り出ていたカズは実力者ダンヘンと対戦。これに勝てばシウバへの挑戦も見えてくるが、不運の脱臼で涙をのんだ。

桜庭vs田村戦はホントに見たい至極のカード
一度と言わず何回かやってもいいと思う

すし、吉田戦はゴールドメダリスト同士の世界最高峰の闘いが見られると思いますよ。ムッチャクチャ楽しみですね。

―でも、ガードナーはお金が重要じゃないといっても、あれだけの大物ですから、金銭的にも相当かかったと思うんですよ。それでも獲得したというのは、やはり『PRIDE』の全米進出を見越してのことなんですか？

榊原 もちろんそれは考えてますね。全米進出をするなら、『PRIDE』としてもナショナルヒーローを必要としてますから。

―単なる日本のMMAビッグイベントとして上陸するより、"あのガードナーが出場するMMAイベント"というほうが注目度が断然違うでしょうからね。

榊原 それに単純に知名度があがるだけじゃなく、ガードナーが参戦することによって、世界中のアスリートがこの世界を目指すようになりますよ。日本でも最初に高田延彦の名前で知名度が上がって、お年寄りから子供まで知ってる吉田秀彦がリングに上がるようになって、優秀なアマチュア選手がこの世界を目指すようになった。それと同じように、ガードナーの参戦によって、オリンピックで燃え尽きていなくても指導者になるしかなかった人たちが、「こういう道もあるんだ」と思うだろうし。彼らメダリストが、今度さらに上を目指す場所として『PRIDE』が存在できればいいと思ってますよ。

―そうなるとガードナー獲得は、単なる『男祭り』の隠し球で終わらない、今後さらに総合格闘技市場が拡大するための投資だったわけですね。

榊原 そうですね。我々は大晦日がすべてじゃないですから。

―アメリカ進出の時期はもう決まってるんですか？

榊原 日程的にはこれからになりますけど、カリフォルニア州のシュワルツェネガー知事が、MMA開催の許可を出したんですよ。だからロスで開催したいですね。

―ラスベガスではなくてロスで開催ですか。

榊原 なぜロスかと言うと、アメリカでMMAの競技者とファンが圧倒的に多いのが西海岸のカリフォルニア州なんですよ。ラスベガスもロスから車で5～6時間だから行けなくはないんですけど、やっぱりあそこは観光地で特別な場所ですから。ロスなら西海岸にいるファンたちがみんな来れるので、やるんだったらロスでやりたい。ロスにはスティーブンセンターっていうWWEとかNBAが使っている、たまアリみたいな会場があるんで、ゼヒそこでやりたいですね。

―もう会場の目星までついてるんですか。

榊原 まだイメージとしてだけですけどね。今日もウチのアメリカのスタッフが呼ばれて、『PRIDE』のルールがそのまま向こうで認められるか話をしてるんですけど、できたら『PRIDE』をそのまま持って行けたらいいと思ってます。

―では、全米進出は来年楽しみにするとして、大晦日に話を戻します。桜庭選手の対戦相手として田村選手の名前が取りざたされていますけど、もう交渉は始まっているんでしょうか？

榊原 始まってるというか、『PRIDE』としては田村選手に対して、常にラブコールを送り続けてますよ。日本のプロの格闘家の中で、どこまでいってもファンに「見てみたい」と思わせる色気というか魅力を持った男なんで。頑なな、偏屈な、頑固一徹な生き方に共感も持てますし、もし桜庭君と闘うことになれば、薄っぺらい日本人対決ではなくて、競技という枠を越えた、お互いの歴史をぶつけ合うような大きな対決になると。プロモーターとして実現できるとしたら、ホントに見てみたい至極のカードですよ。何とかなりませんか？（笑）。

―いや、僕にはなんにもできませんけど、今年もまた榊原代表がケーキを持って、田村さんの誕生日を祝ったりして口説く予定ですか？（笑）。

榊原 もう何でもしますよ（笑）。ファンの思いも含めて個人的にも見たいですから。闘う当人同士は嫌なんだろうけど、二人ともプロ中のプロなんだし、同じ時代を生きてきた好敵手としてね。Uインターの頃に三回闘ってるけども、そこから随分時が経ったし、自分たちもプロ格闘家としての最終章に近づいてるんだから、あと一回と言わずに、お互い何度か果たし合いをする機会があってもいいと思うんだよね。逆にそういうライバルがいるっていうことは、ある種喜ばしいことだから。言葉は尽きないけど、ゼヒみんなの力をもって実現させたいですね。

―もしこれが実現したら、ヒョードル

vsノゲイラ戦、吉田vsガードナー戦を含めた3カードだけで、もの凄いことになりますよ！

榊原　「SADAME三部作」はコレで出来上がりますから（笑）。ヒョードルvsノゲイラの再戦、吉田vsガードナーの金メダリスト対決、そしてSADAME対決完結編として田村vs桜庭と。

――完璧ですね（笑）。

榊原　そこに「復讐」をテーマに、ミルコvsランデルマン戦とかの三試合ぐらいあってもいいですしね。それと『PRIDE』の方向性と違わない、もう一つ大きなサプライズを大晦日に見せたいなって考えてます。

――まだサプライズがありますか！　それは楽しみです。先日パンクラスのNK大会で近藤選手と菊田選手が大晦日出場をアピールしてましたが、この二人の出場の可能性はあるでしょうか？

榊原　ありますよ。少なくとも近藤君はゼヒ試合を組ませていただきたい。近藤有己っていう普通の生き方に共感を覚えてる人もいるじゃないですか。桜庭君よりもっと普通のサーフィンが好きな兄ちゃんが『PRIDE』でシウバとどつき合いをしてしまうギャップというか。彼のいう不動心、奇をてらわなく飾ることない姿に心を打たれる人もいますしね。試合数も多いんで尾崎社長ともお話させていただきますけど、あとは全体のバランスを見て菊田選手とか高橋義生選手とか、パンクラスにはいい選手がいっぱいいますから出場する機会が作れたらいいですね。

――日本人選手にとっては大晦日への出場枠の争奪戦ですよね。

榊原　そうなってくれるとありがたいですよね。日本人じゃなく外国人にとっても、『PRIDE』の中でも特に大晦日に上がりたいっていうことがモチベーションになればいいし。フジテレビの清原プロデューサーが記者会見でも言ってましたけど、1年で一番テレビを見る人が多い日じゃないですか。そこでNHKや他局と勝負するフジテレビの大晦日の自信作・顔として居続けられるかどうかっていうのは、『PRIDE』にとっても、もの凄く熾烈な競争であって、他のスポーツやバラエティなどのコンテンツとのしのぎ合いでもあるから。単純に『Dynamite!!』に勝ったとか負けたとかではなくて、フジテレビの中の他ジャンルとの競争をキチッとクリアして、「来年も大晦日に『PRIDE』をやろう」っていうことがフジテレビの中での共通の意識になるような結果が最低限のステップですから。

――去年、その最低限のステップを踏めずに消滅した格闘技番組もありましたからね（笑）。

榊原　日テレは、猪木さんから細木数子にいっちゃったもんね（笑）。

――実に日テレらしい選択というか（笑）。

榊原　でも、年末まで「アナタは絶対人身事故起こすわよ」とか言われたくないですよね（笑）。

――細木数子に来年の運勢決められたらたまったもんじゃないですからね（笑）。では、そんな裏番組に負けず、素晴らしいイベント期待してます！

榊原　ありがとうございます。『紙プロ』さんの締め切りに間に合うかわからないけど、まだまだサプライズを用意しようと思ってますから。

――期待してます！

【04年11月10日／DSEにて収録】

PRIDE 男祭り2004 SADAME

年末年始の興行戦争？ もう試合数でウチが勝っとるよ!

※IKUSA会見（11月2日）での佐伯代表。刀を構えてスター気取り!?

DEEP代表 佐伯 繁

年末年始にかけ大攻勢に打って出る佐伯DEEP代表。その中でも『男祭り』、『Dynamite!!』と匹敵する（？）総決算的大会『DEEP 17th IMPACT』の見所について、1ページに渡りたっぷり語ってもらった。

――年末年始の興行戦争に関して各団体のトップにお話を聞いてるんですが、榊原代表にはたっぷり7ページ分のお話を聞いたんですけど、谷川さんは多忙につき時間が取れなかったので、ここは佐伯さんの出番かなと（笑）。

佐伯 谷川さんの代わり？ ……（憮然として）で、何ページなの？

――え～と、1ページで、たっぷり語っていただければと思います！（笑）。

佐伯 い、1ページだけ!? なんぼ何でも扱い悪すぎない？

――細かいことは気にせずいきましょう（笑）。早速ですが年末年始にかけて、佐伯さん関連の興行が目白押しですね！

佐伯 11月28日のclub DEEPの大阪大会を皮切りに、12月7日のU-STYLE、18日のDEEPディファ有明、年が明けて1月9日に『佐伯祭り』だから。

――大会数だけはブッチ切りですねえ。

佐伯 大阪大会でも14試合やるし、ディファでは70キロと76キロと82キロの『フューチャーキングトーナメント』があって、それだけで26試合やるんだよ。

――そのあと本戦だから、エライことになっとるよ！

――佐伯さん、大会の途中で寝ちゃうんじゃないですか？（笑）。

佐伯 『フューチャーキング』は最初の方は観ないな（キッパリ）。まあ、それは冗談として、本戦は午後6時からなんだけど、早めに開場するから、未来のスターが見たい人には絶対お薦め。1年に1回のお祭り的なDEEPの総決算だと思ってよ。

――PRIDEの『男祭り』、K-1の『Dynamite!!』に匹敵する、DEEPの総決算的大会になると。

佐伯 試合の数でウチの勝ち。どうだ！

――「どうだ！」と言われても（笑）。他の大会は間違っても一大会で30試合はやらないですよ。

佐伯 本戦だって9試合あるのに、今日（11月19日）会見でニセ大仁田が暴れたから、また1試合増えちゃった。アイツはバーリトゥード（以下VT）をナメてるみたいだから、見せしめに鬼木（貴典）選手が30秒でブッ殺してくれるよ。ただニセ大仁田のセコンドには鶴見五郎さんが付くかもしれないっていうから、もしそうなったら凄いよ！

――鶴見選手はアマレスの猛者ですから、セコンドに付く可能性は十分ありますよね。

佐伯 目の前でニセ大仁田が負けたら「次はオレがやってやる！」って出てくるのかな？

――そうなったら面白いですよ！（笑）。

佐伯 でも噂だと、ウチの10月の試合をニセ大仁田が見てて、ビビっちゃったらしいんだよね（笑）。

――あの大会は正直言ってあまり期待してなかったんですけど、確かにメチャクチャ面白かったですもんね。

佐伯 「期待してない」って余計なこと言わんといてよ！ 唯一不評だったのは入江（秀忠）だけで、あとは全部いい試合だったからね。でもその入江vs神王の再戦をディファで組むとは思わなかったから、こっちもビックリしてるんだよ。それでまた入江のアホが「神王戦をヘビー級タイトル戦にして、ベルト作れ。それをしなければ出ない」とか要求してきやがってさあ！

――だいぶ調子に乗ってきてますね（笑）。

佐伯 ふざけやがって、あの野郎。入江になんかベルト獲られたら、世界一権威のないタイトルになっちゃうよ。でも今回はDEEPルールでブレイクが早いから、この前みたいにはいかないけどな。ウシシシシ。

――悪のオーナー化してますねえ。

佐伯 パンクラスの無差別級王者はジョシュ・バーネットで、スーパーヘビー級王者は高阪（剛）選手でしょ。ウチの王者が入江じゃヤバいよねえ？

――「ねえ？」って言われても困るんですけど（笑）。ところで入江選手、ニセ大仁田続いて、無我からVT出陣という変化球には驚きましたよ！

佐伯 無我ってプロレスの中でも独特な世界を持ってるし、藤波さんの遺伝子を持ってる倉島（信行）選手がどこまでできるのか注目だよね。対する石井（淳）選手も復帰戦だし、あの階級だとパンチ1発で終わっちゃうから目が離せない試合になると思うよ。

――更に注目といえば、セミ前に登場する篠原健一郎選手ですよね。

佐伯 篠原選手はホンット凄い！ グレコでアトランタとシドニーオリンピックの代表候補になってるし、全日本選手権で2位だし、国体でも優勝してるから。細かいタイトルは多すぎて覚えてないらしいんだよ。マルコ・ファス道場とrAwチームで6ヶ月特訓してきたんだけど、ここだけの話、一緒に練習したMAX（宮沢）とか小野瀬（哲也）選手が「全く歯が立たない。レベルが違う」って言ってたから。

――それと顔がメチャクチャ怖いですよね。

佐伯 どう見てもヤ●ザだよな。街でケンカ売るヤツなんか絶対いないから。それと顔見たらわかるけど、絶対に凄いパウンドだと思うよ。間違いない！（フガフガと鼻息荒く）

――顔でパウンドの強さを判断しないで下さい（笑）。

佐伯 （無視して）大場選手も最近は連戦連勝でノリに乗ってるけど、篠原選手がタックルいってパウンド仕掛けたら、大場選手でもヤバい。しかも「VTはケンカだと思ってる」とか言ってたから相当凄い試合になるよ。今回、クリスチアーノ（上西）はケガで出れなかったけど、勝った方とやらせたら面白そうだよね。

――『PRIDE』に持っていかれる前にDEEPでやっておこうと（笑）。

佐伯 も、持っていかれてるんじゃないよ！ こっちで計算して『武士道』に送り出してるんだから。

――失礼しました。では、その『武士道』帰りの今成さんはどうですか？

佐伯 来年にでもアメリカン・トップチームと対抗戦やろうと思ってんだけど、今成選手がスカッと勝って対抗戦のキッカケでも作ってくれればいいよね。ウチはブレイクが早いから、この間の『武士道』の（ルイス・）ブズカペ戦みたいな展開にはならないから。今成選手がコレに勝てば、2月の後楽園でこの階級の大物日本人選手を用意するよ。

――来年につながる闘いになると。そして年明けは『佐伯祭り』ですよね。

佐伯 いまはまだ内緒なんだけど、来年は『佐伯祭り』も含めてデッカイことやるから！

――楽しみですねえ。ところで最近はアメリカン・トップチームやインディー系のレスラーにご執心みたいなんですが、みんなが待ち望んでるルチャ軍団も呼んで下さいよ！

佐伯 考えてるますよぉ。ソラールもそろそろ呼ぼうと思ってるから期待しといて！ 1ページだから強引にまとめちゃうけど、今度のウチの興行は自分と一緒でボリューム勝負ですわ!!

【04年11月19日／電話取材にて収録】

『club DEEP大阪』

■日時 11月28日（日）
試合開始17:00（開場16:30）
■会場 大阪・デルフィンアリーナ
■チケット料金 全席自由 ￥3500
■対戦カード
池本誠知（ライルーツ・コナン）vs久保輝彦（禅道会伊那道場）
アンソニー・辰治・ネツラー（TEAM Boon!）vs永田尚道（総合格闘技道場コブラ会）
他12試合

★12・7『U-STYLE 12』後楽園ホール大会情報はP32で!!

『DEEP 17th IMPACT』

■日時 12月18日（土）
本戦開始18:00
（フューチャーキングトーナメント開始15:00/ 開場14:30）
■会場 東京・ディファ有明
■チケット料金
VIP（最前列）￥15000/SRS ￥10000
指定A ￥8000/指定B ￥6000/指定C ￥5000
■対戦カード
9.【DEEPミドル級選手権】
[王者]上山龍紀（U-FILE CAMP.com）vs桜井隆多（R-GYM）[挑戦者]
8.今成正和（Team-ROKEN）vsレナート・タバレス（アメリカン・トップチーム）
7.大場貴弘（AO/DC）vs篠原健一郎（荒武者総合格闘術）
6.入江秀忠(キングダム・エルガイツ）vs神王(CMA-KOREA金道場）
5.石井淳（超人クラブ）vs倉島信行(無我）
4.藤沼弘秀（荒武者総合格闘術)vs羅王(猪武者）
3.長岡弘樹（総合格闘技DOBUITA）vs宮本優太朗（ビバリーヒルズ柔術クラブ）
2.小野瀬哲也（フリー）vs高橋渉(高田道場）
1.濱田順平（CMA誠ジム）vsホスバヤル(フリー）
※上記の他、"ニセ大仁田"森谷俊之vs鬼木貴典（Team-ROKEN）が決定!!
※本線前にフューチャーキングトーナメント（全26戦）開催!!
■問 DEEP事務局 052-339-0303
■HP http://www.deep2001.com/

11月19日、『佐伯劇場～ニセ大仁田編～』。DEEP会見に突如現れ参戦を直訴したニセ大仁田は、口論の末、佐伯代表の顔面に水を噴霧!! その狼藉に怒った鬼木と大乱闘となり、佐伯代表は急遽、ニセ大仁田vs鬼木戦を決定した。

CONTENTS

紙のプロレス RADICAL

2004 NO.81

PRIDE

大晦日、桜庭和志の相手は……!?

サクの生き様、見に来いやーッ!!

いるのかわからない。
てありえない！
とんやり続けます!!

晋 二 郎

崩壊騒動を
吹き飛ばせ!!

3、2、1
ZERO-ONE!!

橋本真也が、
いま何を考えてい
でも、崩壊なん
俺たちは、とこ

ZERO-ONE崩壊危機騒動から
破壊王問題まで大激白!!

大谷

破壊王がZERO-ONE関係者に報告もなく11・3新日本両国大会に来場したのをきっかけに、中村祥之代表代行&大谷ら選手会との間に溝が生じたことがマスコミ各誌で一斉に報じられた。それより以前から、肩のケガによる長期欠場を続ける破壊王以外にもZERO-ONEでは負傷者が続出、一時期に比べると明らかに観客動員も落ち込んでいたのは事実。さらに一部マスコミでは破壊王のプライベートな問題も表面化し団体内の状況は悪化するばかり。そんな中、行われた11・11後楽園大会で大谷は「俺たちは橋本に捨てられたんじゃねえ！　旅立ったんだよ!!」と涙ながらにアピール。ZERO-ONEはどうなってしまうのか!?　地元山口大会翌日、大谷を電話で直撃！

聞き手／松澤チョロ　試合撮影／平工幸雄
designed by bun-chan（Two Three）

大谷晋二郎

大谷　いやぁ〜、チョロさん。申し訳ないけど、5分後ぐらいに電話かけ直してもらっていいですか？（沈んだ声で）

――……あ、はい。掛け直します。

【5分後、再び電話をかける】

大谷　すいません、お待たせしましたッ！（一転して元気よく）

――あら、さっきはかなりテンション低かったんで、ちょっと心配だったんですけど大丈夫みたいですね。

大谷　いや、昨日飲み過ぎちゃってね（笑）。それで、さっき起きたばっかりだったんで、顔洗ってきました。

――あ〜、そういうことでしたか。でも、ここ最近、大谷さんには珍しく禁酒してるって聞いてたんですけど、いまは普通に飲んでるわけですね。

大谷　ホッシー（星川）の一件があってからずっと酒は控えてて、十日ちょっとは一滴も飲んでなかったんですよ。でも、僕、思ったんですよ。なんかこれは違うんじゃないかと。

――と言いますと？

大谷　自分が飲んでないってことが果たしてホッシーのために役立つのかと。自分はいつも通り元気にしてないとダメなんじゃないかっていうね。でもね、全然禁酒しようと思えばできるんですよ。

――飲まなくても平気は平気だと。

大谷　強がりでも何でもなくね。でも、あるマスコミの人に言われたんですよ、「大谷さんが酒飲んでない間、いろいろ嫌なことが起きますね」って。そう言われて、それもそうだなと。やっぱり元気にやってかないとホッシーも逆に嫌なんじゃないかって思ってね。それから、また飲み始めたら、いい意味で開き直って、いろんな面で前向きに考えられるようになったんですね。

――いろいろと大変なことはあるにせよ、大谷晋二郎から元気がなくなったら周りまで暗くなっちゃいますよね。

大谷　そうそう。周りの人からも「飲んでない大谷晋二郎は周りを暗くするよ」って言われて、そうだよなと思ったんで、昨日なんかも8時半ぐらいまで飲んじゃいましたね（笑）。

――8時半って、昨日というか思いっきり今日じゃないですか！（笑）。

大谷　あ、そうか（笑）。

――でも正直、今回の一連のZERO-ONE崩壊危機報道は、かなりしんどかったんじゃないですか？　それこそ飲まなきゃやってられないというか。

大谷　いや、そんな僕にとってしんどくはなかったですけどね。これも全然強がりとかでも何でもなく。だって、もう何回もマスゴミさんに言ってますけど、僕が悩む必要って何もないじゃないですか。やること決まってるわけし。自分はプロレスやるしかないんだから。

――たしかにそうですよね。

大谷　でしょ。何か別のことをしようかとか、どっちの道に進もうかとか他に選択肢があって悩むならわかるけど、僕はZERO-ONEのリングでやり続けるって決めてるんだから。だから、何を迷う必要があるんだって思いますね。

――大谷さんの中では迷いはないのかもしれませんけど、一部マスコミでは「橋本退団」と報じられましたし、ファンも「ZERO-ONEはどうなるんだ!?」と思ってる人が多いと思うんですよ。

大谷　だから、僕たちはリングで闘うことによって「何も変わらないよ」って見せて安心させるしかないんですよ。

――この間の後楽園（11・11）で大谷さんは、「俺たちは捨てられたんじゃなく旅立ったんだ」というマイクアピールをしてましたけど、あらためて聞きますが、今後ZERO-ONEは橋本さんとは別にやっていくことになるんですか？

大谷　それは現時点では何とも言えないんですよ。橋本さんが新日本さんの会場に顔を出した次の日に会って以来、会ってもいないし話もしてないから。

――現時点では橋本さんがZERO-ONEの代表っていうのは変わらないわけですよね。

大谷　そうそう。オスカー何とかかっていう代表代行もいるみたいだけど（笑）。ただ、僕とか他の選手にしてみれば、橋本さんが、いま何を考えているのかわからない。でも、もう僕らはとことんやり続けるって気持ちになってますから。

――大谷さんの認識では橋本さん以外の選手、フロントは一丸だと？

大谷　当然一丸だけど、今回の一連の騒動があって、僕だけじゃなくて、いい意味で全選手が開き直ってましたね。投げやりになって開き直ってるんじゃなくて。「捨てられたんじゃなくて旅立ったんだ」っていうのは、もしかしたらオーバーな言い方だったかもしれないけど、「僕の気持ちは決まってます」っていうのを皆さんに伝えたかっただけでね。やっぱり、いろんな報道を見て、「ZERO-ONEはなくなっちゃうの？」って思った人も多かれ少なかれいると思うんですよ。

――ボクも何人かから「今日でZERO-ONEって終わりなんでしょ？」って聞かれましたからね。

大谷　終わってないっつーの！（笑）。まあ、たしかにいろいろと問題があるのは事実だけど、後楽園で僕は「なくなるってことはないよ」ってことをファンに伝えたかった。ただ、ぶっちゃけた話、橋本さんが辞めるのかどうするのかは、いまの僕にはわからないですね。

――いまの状態が続くのもよくないだろうし、時期を見て橋本さんとしっかり話はしないといけないでしょうね。

大谷　そうですね。ただ、こればっかりはお互い顔も見ずに誌面だけでやりとりをしちゃうと誤解も出てくるだろうし。だから誤解のないように、ちゃんと話をして、お互い前向きに考えないといけない問題だと思うんでね。

――話し合いの内容によっては、今後、ZERO-ONEという団体名が変わってしまう可能性も出てくるでしょうね。

11・11後楽園大会メイン終了後、マイクを持った大谷は「このリングは橋本真也だけの城じゃねえ！　俺の城であり、田中の城であり、みんなの城だよ。絶対に落城させたりはしません！　ZERO-ONE崩壊!?　あり得ません」とアピール。その後、マイクを渡された高岩は「皆さん、星川に力を貸してください！」と涙ながらに訴えた。最後は、ほぼ全選手がリングに上がり「3、2、1、ZERO-ONE!!」と右手を突き上げた！　新生ZERO－ONEがこの日から動き始めた!!

謎の中国人問題

11・11後楽園で中国武術を操る王拳聖と異種格闘技戦で激突した浪口だったが酔拳からのカカト落としで失神KO！

11月11日後楽園大会で行われた異種格闘技戦で観客のハートをガッチリ掴んでいた謎の中国武術団。実は6・29『ハッスルハウス』の翌30日に「いつか奉納プロレスを行いたい」と、靖国神社参拝を行った橋本真也の行動に抗議する形でスタートした抗争だったのだ。

中国武術団は、終戦記念日に行われた『ゼロ中祭り』後楽園大会後、橋本のコメント中に乱入。「今日は終戦記念日。靖国の奉納試合をヤルなんて橋本サン言ってたケド、そのことについて抗議しに来たヨ」と、がなりたてる中国人に「オメェ、プロレスなんて怖くないって言ったか!?」と橋本も逆上。火のついた中国武術団は9月12日後楽園大会のリングに乱入、ハイキックを富豪2夢路に叩き

不満はありますけど、僕は橋本真也の悪口は言いたくないんですよ

大谷　その可能性はあるのかもしれないけど、これからも僕らが続けてやっていくっていうのは決定事項ですからね。ただね、申し訳ないんだけど、今回の件で思ったのはマスコミさんってホント、話をオーバーに書くなって。誌面とか見るとドンドンドンドン、オーバーになってきてるからね（苦笑）。

――ネットとかでもあることないこと書かれちゃってますからね。ただ、事実無根ってわけじゃなくて、結構真実も混ざってるんで困っちゃいますけどね（笑）。

大谷　なんで知ってんだろ!?ってことまで出ちゃってるでしょ（苦笑）。マスコミの人たちからしてみれば、僕がバーッと橋本さんの文句言って、橋本さんの方も言い返したりしたら誌面的には盛り上がるっていうのはわかるんですけど（笑）、正直、今回のはデリケートな問題なんで、もう少し気を遣ってもらえないかなって思うんですよ。

――その気持ちもよくわかります。

大谷　いい人ぶってるわけじゃなくてね、こういう状況になって、たとえば僕の知り合いとか周りの人が「橋本真也ってヒドイね」とか言ってくるんだけど、僕はね、他でも何度も言ってて申し訳ないんだけど、心底恨めないんですよ、あの人を。

――「心底、橋本真也を恨めない」っていろんなところで言ってますよね。

大谷　やっぱり、僕はね新日本プロレスに10年近くいてね、なぜZERO-ONEに来たかってことを考えてもらえれば、おのずと答えは出ると思うんだけど。やっぱり僕は何だかんだ言っても、あの人の人柄大好きだし、あの人はZERO-ONEのみんなに対して、どういうことを考えているのかわからないけど……でもやっぱり心底嫌いになれないのは事実ですね（苦笑）。

――別れても好きな人って感じなんですかね（笑）。

大谷　う～ん……まあそうかもしれないなぁ（笑）。そりゃ、正直言えば言いたいことや不満はありますけど、僕は、ワーッと橋本真也の悪口言えないっていうか、言いたくないんですよね。そういうところは、たぶん僕はこれから先もずっと変わらないと思うな。

――橋本さんと最後に会ったあと、選手を集めて「今後どうしていきたいか考えて何かあるヤツは2～3日中に連絡をくれ」って言ったんですよね。

大谷　僕が言ったのは、代表がどうなるかとか、辞める辞めないとかそういう問題じゃなくて、「どういう状況になっても自分は意地でも続けるよ」って。こういうゴタゴタって若いヤツは不安だと思うし、続けるって自分は決断したけど、これからギャラの面にしても雑用の面にしても、いままで以上に厳しくなるよと。それでね、もうこれ以上は無理だとか、他にやりたいことがあるとか、そういう人間がいるんであればね、いますぐは言いにくいと思うからね。

――冷静に考えてから答えを出せと。

大谷　そう。「2～3日時間をやるから、自分で答えを出して言いたいことがあるんだったら連絡をくれ」って言ったんだけど誰も連絡してこなかった。でね、たまたま道場で浪口（修）に会ったんで「お前は大丈夫？」って聞いたんですよ。

――何て言ってました？

大谷　アイツはね、「僕も当然ですけど、寮生も全員含めて、みんな気持ちは決まってます」って言ったんですよね。「それに僕たちもやり続けるしかないし」って笑いながら言うんですよ。

――浪口さんは、身体は小さいですけど、ある意味大物ですからね（笑）。

大谷　初めてですよ、あんなヤツに感動させられたのは（ニッコリ）。

――あんなヤツに（笑）。あと、中村さんは、リング上ではいまAWA問題とかがあったりして謹慎中ですけど、気持ち的には二人三脚でやっていくということでいいんですよね。

大谷　そうですね。やっぱり僕は、このリングの最大の武器は中村祥之だと思ってるしね。ただね、これも表向きの仕事上のコメントで言うと、いまの中村祥之はオスカーなんとかっていう人とAWAの手によって洗脳っていう言い方はおかしいけど、操られてるのかなっていう雰囲気は感じますけどね。

崩壊騒動を吹き飛ばせ!!

3、2、1 ZERO-ONE!!

新日本大阪ドーム同日、府立第2で大会を開催したZERO-ONE。ダブルヘッダーで出場した長州を追いかける形で蝶野軍団が突如乱入。試合後、長州は「これは俺の問題。余計な問題をZERO－ONEに持ち込んで悪かったな。ゴメン」と大谷に頭を下げた。

込むという暴挙に。11月5日の道場マッチを経て、ついに11日後楽園大会で激突。〆切の関係上、25日の結果＆今後の展開は分からないが、面白すぎるので今後もぜひ抗争を希望したい。ゼロワンよ、プロレスを守れ!!

改名問題

かなり前からZERO-ONEで問題となっていたのが黒毛和牛太の改名問題である。古くは炎武連夢入りを望んで様々なアピールを行っていた和牛太だったが正式加入はできずじまい。続いて、エロティックスへの加入も夢見た和牛太は「名無し」を経由し遂に不動力也という新リングネームを考案。しかし、エロティックスから、その日に解雇通告！

犬問題

ZERO-ONEのリングは猿やら亀やら牛なども活躍しているが、11・11後楽園大会には犬が乱入。白覆面に柔道衣、首輪までしてきたこの犬の正体は小原道由。「俺がここのトップになってやっから。ここは俺のZERO-ワンだ！」と一吠え。早速、11・25後楽園大会で〝犬猿〟対決、小原vs葛西戦が発表されるも数日後、突然消滅……。ワンワン。

「いまはノーコメントや（11／22現在）」

―その可能性は高いでしょうね（笑）。でも、この間の後楽園大会は、破壊王からの旅立ち宣言とかは抜きにしても、久々にＺＥＲＯ－ＯＮＥらしいハチャメチャな興行で面白かったですよ。

大谷　やっぱり、ＺＥＲＯ－ＯＮＥ特有の怪しさというか（笑）、そういう雰囲気も僕は取り戻していきたいしね。この間なんかは怪しいＺＥＲＯ－ＯＮＥが徐々に帰ってきてるって感じだよね。

―浪口さんと闘った謎の中国人も良かったですからね。酔拳を使う選手ってインディーでも何人か観たことありますけど、この間の選手は完璧でしたよ（笑）。あの胡散臭さも、ある意味ＺＥＲＯ－ＯＮＥらしさですからね。

大谷　そうそう。怪しさというより胡散臭さだな。胡散臭さっていう中にプロレスの魅力って凄い詰まってるような気がするしね。これからはそういった部分も復活させていきたいなっていう気持ちも当然あるし、そういうのも含めて、このリングをデカくしなきゃって思ってますね。だから、どこの団体とどうたらこうたらっていうのはないですよ。ないっていうか、まったくわからない。

―とは言ってもＡＷＡとは絡んでいきそうな雰囲気ですよね（笑）。

大谷　そうなんだよね（苦笑）。ＮＷＡから除名されたと思ったら、今度はＡＷＡって団体が絡んできたと。ある意味、ＺＥＲＯ－ＯＮＥらしいでしょ。

―たしかに（笑）。ＡＷＡって言ったら、一昔前は、ＮＷＡ、ＷＷＦと世界三大タイトルの一つですからね。

大谷　そうなんですよ。ＡＷＡって僕らの世代にはたまんないでしょ！

―ですよね。いまはどれぐらい権威があるかわからないですけど（笑）。

大谷　年末から来年にかけてＡＷＡのトーナメントをやるみたいな話も出てますからね。だって、ＡＷＡっていったらアレですよ。胸の下ら辺まであるような、あのでっかいベルト。

―必要以上にデカいんですよね（笑）。

大谷　きっと、いまもそのベルトだと思うんでね、僕は個人的にゼヒとも欲しいベルトですよね。

―大谷さんって不思議とヘビー級のベルトには縁がないんですよね。

大谷　そうなんですよ。これね、間違いだったら申し訳ないんだけど、僕はヘビー級になってね、シングルのベルトって獲ったことないんですよ。

―海外で獲りませんでしたっけ？

大谷　海外でわけわかんないベルトは獲ったことはあるけど（笑）、国内ではないんだよね。火祭り刀をベルトと考えるとアレなんですけど、そう考えると初めてのシングルのベルトがＡＷＡだったらレスラー冥利に尽きますよね。

―そうですよね。ＡＷＡとは絡んでいきそうですが、新日本とはどうなるんですか？　大阪ドームと同日興行となったＺＥＲＯ－ＯＮＥ大阪大会に蝶野さんたちが乱入したわけですけど。

大谷　長州さんと蝶野さんがどう揉めたかは知らないんだけど、その流れで来ただけなんだと思うよ。でもね、やっぱりマスコミはオーバーに書くでしょ（笑）。

―翌日は「新日本vsＺＥＲＯ－ＯＮＥ開戦か!?」って書かれてましたね。

大谷　僕はまったくわからない。いきなり来て、なんかゴチャゴチャして帰りやがったから。正直、悔しいけど、でも僕らはその前にやることがあるし、いま一番先決なのは、ウチのリングを、もっとデカいものにするってのが僕の選択肢の中では一番上っていうか、ぶっちゃけ、それしか見えてないんで。

―大谷さん的には現時点では新日本と絡んでいくという考えはないと？

大谷　わけがわからないというのが本音なんだけど、いますぐっていうのは考えてないですね。ただ、ＺＥＲＯ－ＯＮＥ流に言わせてもらえれば、もしかしたら裏でオスカーなんとかが糸を引いてるんじゃないかなっていうね（笑）。

―それは十分考えられますね（笑）。

大谷　なんか、そういう雰囲気も感じましたね。もしかしたらオスカーなんとかが裏で中村祥之を使って、向こうと話をしてね、ウチのリングを混乱させてるんじゃないかなというね。もうね、これから何かあったら、すべてオスカーなんとかに疑いを持ちますね（笑）。

―橋本さんの一連の騒動も、もしかしたらオスカーなんとかが関係してるのかもしれませんね（笑）。

大谷　いや、それは違うでしょ（笑）。

―あとファンの不安要素としては、12月22日の後楽園大会以降のＺＥＲＯ－ＯＮＥのスケジュールが発表されていないことだと思うんですけど。

大谷　それについても何も心配することはないって言いたいですね。正直、どういう形になるかはわからないけど、年明けも興行をやっていくつもりだし、俺たちはやり続けるしかないから。それだけは心配してくれるファンに伝えて欲しいですね。中村祥之も言ってた。ＺＥＲＯ－ＯＮＥ崩壊って記事を見て「ありえません」って。それは僕の口からもハッキリ言っておきたいですね。

―大谷さんは『ハッスル』に対しては一線を引いてるようなイメージを受けますけど、今後はどういうスタンスで向き合っていこうと思ってます？

大谷　これも僕、いろんな人に言われるんだけど、「『ハッスル』嫌いなんですか？」とか「『ハッスル』は拒否してるんですか？」って（笑）。

―そう思ってる人も多いでしょうね。

大谷　だって僕、最初の頃は出てましたからね。だから、勘違いして欲しくないのは、嫌いとか拒否してるんじゃなくて、それ以来オファーがないだけですって僕は言いたいですね（笑）。

―ただ単にオファーがなかっただけなんですか（笑）。

謎だらけの男オスカーなんとか問題

大谷曰く「すべての騒動の発端はオスカーなんとかのせいなんじゃない？」と警戒している男がアメリカ在住のＺＥＲＯ－ＯＮＥ役員オスカー・デイビット（38歳）である。大谷も一度も会ったことがないという、このオスカーなんとか。唯一面識があるのが中村祥之代表代行代理。つい先日は秘書まで登場したオスカーなんとか。彼のこれまでの主なメッセージを公開します！

●10月24日発表のメッセージ
大谷晋二郎「重大な箇所の怪我にもかかわらず現場責任者としてよく闘っていたと思う。しかし01を背負っていくなら更に大きな試練を与えることになる。11月のシリーズは今後行われるアメリカ団体との闘いの始まりだと考え私が提案したカードを義務付ける。私に意見があるのであれば次のツアー終了後アメリカであれば機会を作る」

●横井宏考（『ＰＲＩＤＥ28』を前に「私はヒース（・ヒーリング（選手を応援する気持ちもあるが01で闘うレスラーの一人としてベストを尽くして闘ってもらいたい」

崩壊騒動を吹き飛ばせ!!

3、2、1 ZERO-ONE!!

今回の件もオスカーなんとかが裏で糸引いてるんじゃない？

大谷　それが真実ですからね（笑）。でも『ハッスル』ができたときに、いろいろ否定する人もいたじゃないですか？その中で僕は常に言ってましたよ。プロレスにはいろんなスタイルがある。『ハッスル』っていうのも僕は立派なプロレスの一つだと思うし、徐々に徐々に小川さんの力で浸透していってるし。僕はそれはそれでプロレスに貢献してると思うし、その辺は、同じ業界の人間は認めなきゃダメだと思うんですよ。

——ですよね。でも、この間の新日本の大阪ドーム大会では立場的なものもあるんでしょうけど、新日勢の『ハッスル』への拒絶反応が凄かったんですよ。そういう気持ちは理解できます？

大谷　そういう意味では、まだ僕も新日本の色が強いって思われてるのかな（笑）。でも僕は『ハッスル』に対して一度も否定したことないですよ。

——ストロングスタイルもファイティングオペラも謎の中国人もリングでやることはすべてプロレスですからね（笑）。

大谷　そうそう（笑）。いろんなものを含めてプロレスだと思うし、僕は、そんなプロレスが大好きだから。ホント、僕はプロレスしてないと死んじゃう人間なんで。ウサギみたいなもんでね。

——プロレスができなかったら寂しくて死んじゃうと（笑）。先日は眼窩骨折してしまいましたけど、いまの状態はどんな感じなんですか？

大谷　もう全然完治してますよ。五日間で治りましたから！（胸を張って）。

——「さすがプロレスラー！」としか言いようがないですけど（笑）。

大谷　骨折したとき「大丈夫なの？」って周りは心配してくれたし、会社からも休んでくれって言われたり、みんな美談にしてくれてたけど、僕の中では決定事項なんですよ、試合することが。だから、何の迷いもなかったしね。これはね、僕は胸を張りたいことなんですけど、僕の記憶が確かだったら、この世界でデビューしてから13年経つんですけど、僕はね、組まれた試合は一度も休んだことないんですよ。

——エッ、これまでケガで欠場とかしたことないんですか？

大谷　僕が新日本でデビューしたのは19歳のときで、それからいままでケガで休んだことは一日もないからね。これって僕、胸張りたいんですよ。

——それは思いっきり胸張っていいと思いますよ。格闘家が眼窩骨折なんて言ったら、半年は試合できないのが当たり前ですけど、大谷さんにとっては当たり前じゃないんですよね（笑）。

大谷　そうだね。一応、病院にすぐ行ったんだけど、「1ヶ月は絶対安静。全治2～3ヶ月」って言われたんですけど、でもその後、違う病院に行ってね、その病院に僕の担当医がいるんですよ。

——ちゃんと専門医がいるわけですね。

大谷　名前はプロレスの神様って言うんですけどね。

——プロレスの神様ってお医者様でもあるんですか？

大谷　そうそうそう。お医者様でもあるんですよ。で、その担当医が言うには「どれどれ、これは全治5日」って。ちなみに、その病院は「プロ神病院」って言うんですけどね。

——「プロ神病院」ってどの辺にあるんですか？　差し支えがなければ教えていただきたいんですけど。

大谷　あっ、それはね、ここだけの話ですけど、荻窪の方にあるんですよ。

——アハハハハハ！　ボク、荻窪に住んでたこともあるんですけど、残念ながら見たことはないですね。

大谷　申し訳ないけど、普通の人には見えないかもしれないですね。まあ、荻窪のどっかにぽっかりと土地が空いてる空間があると思いますよ。そこに「プロ神病院」はあるんですよ。

——「プロ神病院」のおかげで、これまで欠場することなくやれていると。

大谷　そうだと思いますね。

——知らない人も多いと思うんで、あらためて聞いておきますけど、プロレスの神様って女性なんですよね。

大谷　そうなんですよ。神様っていうと、ヒゲの生えた男の人ってイメージがあるかもしれないけど、プロ神は女性なんですよね。だから、プロレスの女神って言ってもいいかもしれないけど、僕の中ではプロレスの神様なんですね。

——女神と言えば、話しづらいとは思いますが、橋本さんの女性問題についても聞いておきたいんですけど。

大谷　いやいや、その辺は聞かないで

11・11後楽園大会でのUS無差別級タイトルマッチ・耕平vsコリノ戦でレフェリーが失神すると突如、背中にAWAと必要以上にデカく入ったシャツを着た中村代表代行代理がリングイン。コリノが耕平をフォールする超高速カウントでコリノの手を上げた。これもオスカーなんとかの仕業に違いない。大会前に中村代表代行代理は一連の騒動について「選手会と橋本さんが、そこまで亀裂があるというような気はしない。ただ向いている方向が若干ずれているっていうことだけは隠しようのない事実。ZERO-ONEが悪くなったのは全員が悪いんです」とコメントを残した

●全体的な指示「日本滞在中スティーブ・コリノとミーティングを持ったが、現状は外国人選手に全くと言っていいほどチャンスが与えられていないという報告を受けた。11月シリーズでは彼に十分なチャンスを与えることを約束したので各タイトルへの挑戦の機会を私の裁定で決定する。3年間加盟していたNWAからは今月31日で脱退することになったが、考えてみれば現在NWA—TNAの独占状態ですし、ベルトの問題はあるが邪魔をされてまで加盟している必要性は感じません。私自身は脱退する良い機会だったと思う。すでに中村には指示は出してあるが、レスリングビジネスの原点はアメリカにあり、そのアメリカにももう一度輝きを取り戻そうと立ち上がった団体があるということを付け加えておく。もちろん彼ら関係者は日本でもアメリカでもレスリング関係者であれば皆知っている人物に違いありませんし私はすでにその団体と契約を締結したことも伝えておきます」

●11月19日発表のメッセージ

「私は01に関わる全ての選手に平等なチャンスを与える。今は規模が小さくなっているが現在提携中のAWAは過去には素晴らしい歴史を持っていた。歴代のチャンピオンを見ればいかに素晴らしい組織であったかが理解できると思う。チャンピオンベルトを輝くものにするにはチャンピオンになる選手次第。そのAWA世界ヘビー級チャンピオンを決めるトーナメントを来年日本で開催することは選手にも伝わっているはずだ。ただし01代表は3名とAWAとの間で決まっていたが私の交渉により4名になった。12月の興行では01代表を決めてもらう闘いになる。当然ながら変更は一切認めない。対戦カードは全て決定済みである。私の秘書はクリスマス直前まで日本に滞在しているので気を抜いた試合をしたと報告を受けたら、その選手には3ヶ月間、アラスカへの遠征を申し渡す」

女性問題？　その辺は聞かないでよ！（笑）

よ！　カットカット（笑）。
――ですよね（笑）。一応、聞くだけ聞かないと読者も納得しないと思うんで、突っ込んでみました。でもその辺も『ファイト』では、いろいろ書いてますよね。
大谷　ねえ？　なんで、『ファイト』ってああやって書くのかなぁ。
――最近のZERO-ONE関係の記事は、ここぞとばかりに飛ばしてますからね。猪木さん風に言うと、スキャンダルを経営に結びつけてるってことなんでしょうけど（笑）。
大谷　ちょっとやりすぎッスよねぇ。いや～、でも『紙プロ』さんはお願いしますよ。プロレス流に面白おかしくいきましょう！
――わかりました（笑）。
大谷　もうね、これからは都合の悪いこととか聞かれたら全部オスカーなんとかのせいにしよう！（笑）。

ZERO-ONE最新ポスターには長州力やモンスター軍は入っているものの破壊王はなし。しかも「元祖ハッスルファイティング」とのキャッチコピーが！

崩壊騒動を吹き飛ばせ!!
3、2、1 ZERO-ONE!!

――それが一番ですね（笑）。
大谷　あとは、こういう苦しい状況でどれだけ楽しんでやれるかなんでね。僕がね、プロレスの教科書の1ページで披露した言葉があるじゃないですか。
――あれ、1ページって何でしたっけ？
大谷　富士山に登ったときに言った「生涯志し高く　いまが奇跡なり」っていうね。これは、もし僕がプロレスを引退して、次の人生にいったとしても背負っていきたい言葉ですね。「いまが奇跡なり」っていうのは、僕はいろんなとこで話してるけど、ちっちゃい頃はスポーツもできない子供だったんでね。
――かなり身体が弱かったんですよね。
大谷　うん。ホント生死をさまよったことも何回もあったんでね。それでお医者さんからも「スポーツは一生ダメですよ」って言われてて。そう言われてた子供がね、プロレスの世界で13年やれてると。その上、13年間やってきて、その間、一日も休んでないと。こんな奇跡ないじゃないですか！　僕はいまの時点で奇跡を起こしてると思ってるんで。
――確率から言ったら、宝くじの一等に匹敵するんじゃないですか。
大谷　そうだよね。だから、僕は一個人として大谷晋二郎ってどこまでいけんだっていう興味もあるし。次の試合で大ケガして引退を余儀なくされたとしても、会社とか抜きに大谷晋二郎個人の人生で考えたら、僕はね、「プロレス人生万歳！　大成功!!」って言える自信があるんですよ。プロレスラーになれたこと自体が奇跡なんだから。
――もう何があっても怖くないと？
大谷　そう。僕みたいに、いつダメになっても後悔ないって思ってる人は間違いなく強いと思うんですよ。変に守りに入らないから。僕はね、いい意味で開き直ってますね。最近は特に。
――その開き直りが最近はいい方向に働いてるんでしょうね。試合後のマイクアピールにはリングにファンが押し寄せて来たり、その後の大谷劇場でのファンとのやり取りを見ても、大仁田厚じゃないですけど、〝涙のカリスマ〟って言葉が、いま一番似合ってますよ。
大谷　それはどうなんだろうなぁ。でも涙といえば、この間、広島で6人タッグのトーナメントやってナミ（浪口）が初めて勲章を手に入れたんだけど、そのとき試合後、ナミに言ったのは「嬉しかったら泣け。悔しかったら泣け」と。
――感情に素直になれってことですか？
大谷　そう。例えば、辛いことがあって涙をこらえるっていうのもカッコイイと思うんですよ。でも、恥も外聞も捨てて、すべてをさらけ出すのもカッコイイぞって言ってやったんですよ。お前が喜怒哀楽をお客さんにプレゼントしてやれってね。ナミのキャラ的に、お前は涙をこらえなくていいよって。「嬉しくなかったら泣かなくていいし、嘘の涙は流すな。その代わり、ホントの涙だったらドンドン流せよ」って。そしたらアイツ、大泣きしてましたけどね（笑）。
――本気の涙は伝わりますからね。
大谷　僕はすべてをさらけ出したいし、いま自分はこう思ってるんだよ、こうしたいんだよってことを、どの会場でも伝えたいしね。それが、ここ最近は伝わってくれてるのかなって気はしますけどね。とにかく、いまは、いいことも悪いことも全部含めて楽しんじゃってるから。それも、ただ楽しんでるんじゃなくて、一生懸命楽しんでますからね。
――プロレスを一生懸命楽しんでると。
大谷　そうそう。これって結構深いことだと思うんだけどね。楽しんでるんじゃなくて、一生懸命楽しんでる。何をするにも一生懸命って大切だと思う。
――大切だと思います。
大谷　とりあえず、僕が言いたいのは崩壊っていうのは絶対にありえない。逆に、こっからどうなるかが面白いと思いますよ。自分もファンの目で見たら、いまのZERO-ONEから目が離せない。何か起こるんじゃないかって（笑）。
――たしかに（笑）。そういう意味では、応援し甲斐のある団体だと思いますし、新生ZERO-ONEに期待してます！
大谷　思いっきり期待してください！

【11月17日／電話取材にて収録】

いま見ないでどうする!!
ZERO-ONEスケジュール

■2004年12月4日（土）AWA王者決定トーナメント出場者決定トーナメント
会場：横芝町B&G海洋センター（千葉）試合開始：18:00
AWA王者決定トーナメント出場者決定トーナメント1回戦Aブロック（1）
崔リョウジvsアメリカ選抜選手
AWA王者決定トーナメント出場者決定トーナメント1回戦Aブロック（2）
横井宏考vs浪口修
AWA王者決定トーナメント出場者決定トーナメント1回戦Bブロック（3）
佐々木義人vsアメリカ選抜選手
AWA王者決定トーナメント出場者決定トーナメント1回戦Bブロック（4）
佐藤耕平VS不動力也
大谷晋二郎&大森隆男&藤田ミノル&日高郁人vs田中将斗&坂田亘&高岩竜一&葛西純

■2004年12月5日（日）AWA王者決定トーナメント出場者決定トーナメント
会場：後楽園ホール（東京）試合開始：12:00
AWA王者決定トーナメント出場者決定トーナメント1回戦Aブロック（5）
大谷晋二郎vs高岩竜一
AWA王者決定トーナメント出場者決定トーナメント1回戦Aブロック（6）
坂田亘vs藤田ミノル
AWA王者決定トーナメント出場者決定トーナメント1回戦Bブロック（7）
大森隆男vs葛西純
AWA王者決定トーナメント出場者決定トーナメント1回戦Bブロック（8）
田中将斗vs日高郁人
AWAノースアメリカンタッグ王座　決定トーナメント出場者決定戦
佐藤耕平&横井宏考vsアメリカ選手選抜チーム
佐々木義人&浪口修vs崔リョウジ&不動力也

■2004年12月9日（木）AWAトーナメント　2回戦
会場：群馬アリーナ・サブ（群馬）試合開始：18:30
AWAトーナメント2回戦
（1）の勝者vs（6）の勝者、（3）の勝者vs（7）の勝者
※その他全選手出場

■2004年12月11日（土）シリーズ名未定
会場：深谷市民体育館（埼玉）試合開始：18:30
AWAトーナメント　2回戦
（2）の勝者vs（5）の勝者、（4）の勝者vs（8）の勝者

■2004年12月18日（土）　シリーズ名未定
会場：千葉公園体育館（千葉）　試合開始：18:00

■2004年12月19日（日）　シリーズ名未定
会場：南熱海マリンホール（静岡）　試合開始：16:00

■2004年12月22日（水）　『年内打ち上げ興行』
会場:後楽園ホール(東京)　試合開始:19:00

★お問い合わせ/ZERO-ONE　TEL.03-5730-3401

本腰を入れる理由
俺がハッスルに

RINGS発➡ZERO-ONE経由➡ハッスル行

なんと!
自らバリカンで丸坊主に!!
"ハッスル王子"

坂田亘

ここ最近は"ハッスル王子"として『ハッスル』のリングを中心に活躍する坂田亘。地元名古屋で行われた『ハッスル6』で坂田は「身代わり髪切りマッチ」として中村カントクをセコンドに付け、アン・ジョー司令長官with島田参謀長と対戦。この試合で坂田はアン・ジョー&ヤドカリの姑息な戦法の前に敗退。落ち込む中村カントクからバリカンを奪い取り自ら頭を刈り、凄みが増した"ハッスル王子"を直撃した!

聞き手/松澤チョロ　撮影/福島勝儀　designed by Tani-Yan (Two three)

—坂田さん、なんか坊主になって怖さに磨きがかかりましたね。

坂田 あ、そう？

—伸びたての髪にヒゲも加わって、ますます迫力が増してますよ。

坂田 だいぶ伸びた感じする？

—『ハッスル6』のメイン後、リングに上がったときは剃り上げて登場してましたからね。

坂田 でもな、試合後2～3日ぐらいは……。

—さすがに落ち込んでました？

坂田 いや、飲みに出歩いてたよ。もちろん、頭は隠してだけどな。

—やっぱり恥ずかしいと？

坂田 それもあるけど帽子でも被らないと断られるよ。この頭でこの服装じゃ間違われるだろ（笑）。

—その筋の人にですね（笑）。

坂田 そうそう（笑）。

—本人を目の前にしてアレなんですけど、中村カントクが髪を切るはずだったのに「テメエのケツはテメエで拭く」って自らバリカンで刈り始めたのを観たときはグッとくるものがありましたね。

坂田 ……らしいね（笑）。俺は当事者だからわかんないし、いっぱいいっぱいだったからな。

—彼女はなんて言ってました？

坂田 ちょうど『ハッスル6』の日に仕事で海外に行くことになってて、凄んだ顔を写メールで送っておいたんだよ。そしたら空港に着いた途端電話がかかってきて、「冗談でも笑えない」って（笑）。

—冗談ではないんですけどね（笑）。実際会ってみての反応はどうでしたか？

坂田 「それはそれで似合うけど、やっぱり怖い」って。そんなに怖いか？

—そりゃ怖いですよ（笑）。でも、いくら『ハッスル』とはいえ、キャラ的に坂田さんが髪を切られるって思ってた人って少ないと思うんですよ。だからこそインパクトもあったんでしょうけど。

坂田 狙ってやったわけじゃないけど、やったモン勝ちだから。まあ地元っていうのもあるし、『ハッスル』初の地方大会だったしな。勝つにしろ負けるにしろ何かしらアクション起こさないとな。

—普通に闘って「勝った」「負けた」じゃあインパクトは残せませんからね。

坂田 それをやるのは長州さんとか川田さんとかでいいんじゃないの。よく小川さんが俺ら若い衆に「ハッスルが足りねえ！」って言ってるけど、全部引っくるめるとそういうことだと思うよ。

—「勝っても負けてもハッスルできなきゃ皆同じ」と。

坂田 例えばだけど、綺麗な道を一本用意されて、そこにどういう足跡を付けていくか決めるのは自分次第だろ。『ハッスル』っていうのは小川さんの『PRIDE』での頑張りだったり、それに応える形でDSEが一生懸命、道を用意してくれてるわけじゃん。

—そうですよね。

坂田 その中で長州さんや川田さんっていうビッグネームにもそれ相当の舞台を用意してるわけでしょ。その道を好き勝手に歩いていくんだったら「お前らそれでいいのかよ!?」ってことなんじゃないかな。小川さんが言ってるのは。

—『ハッスル』で新しいモノを作っていこうとしているときに、アルバイト感覚でやられちゃ困るってことですよね。

坂田 そうそう。まあ現実的な部分は誰にでもあると思うし、プロなんてやっぱりお金があってのものだし、金のためにっていうのも悪いことだとは思わないよ。

—悪いことではないですよね。

坂田 でも、俺が思うのは、目先のことだけじゃなくて将来的な展望で観て『ハッスル』って可能性があると思ってやってるわけだから。いまが完璧な形だとも思ってないけど、選手も関係者も『ハッスル』に関わってる人は同じ方向向いてないとダメだと思うよ。そういう意味では、ちょっと足並みが揃ってないとこがあるからな。

—『ハッスル』軍だけ見ても、足並みは揃ってないですよね。

坂田 小川さんも言ってるけど新しいモノを創るときって産みの苦しみってあるからさ。小川さんが命懸けでGPに出て、橋本さん、長州さん、川田さん達の協力もあったから、こんな短期間で『ハッスル』が浸透したわけでしょ？ そんなときにアッチ向いたりコッチ向いたりってのはよくないんじゃないかなって思うんだよ。長州さんや川田さんも、そろそろ覚悟決めないとダメでしょ？

—そういう坂田さんは、これからも『ハッスル』でやっていくという覚悟を決めてるんですか？

坂田 そうだよ（アッサリと）。

—坂田さんはリングス出身で、まだ純プロレスのキャリアは少ないわけですけど、『ハッスル』に可能性を感じるのは具体的にはどういった部分なんですか？

坂田 可能性っていうか、ぶっちゃけて言うと、当初、ゼブラーマンって俺だったわけじゃん。

—エッ、そうだったんですか!?

坂田 お前、ワザとらしいよ！

—一応、驚いてみました（笑）。

坂田 ゼブラーマンとして『ハッスル』という新しい舞台で新しい自分を見せたいっていうのがあったんだけど、それが『男祭り』で肩脱臼して出れなくなったから。

彼女に凄んだ顔を写メールで送ったら「冗談でも笑えない」って（笑）

10・23『ハッスル6』は地元名古屋での開催とあってか、大会前には“ハッスル王子”が観客の女の子をお姫様だっこでリングインし、「ハッスル、ハッスル!!」。試合は気合い十分の坂田が中村カントクの声援を受け大攻勢！ あと一歩まで追い込んだ坂田だったが、ヤドカリのパウダー攻撃＆アン・ジョーのメリケンサックパンチを喰らい無念の3カウント。中村カントクがイスに座りヤドカリから刈られる直前、坂田はバリカンを奪い取り、自らの頭を丸めた。お前は男だ！

で、俺が実際に出たのは『ハッスル3』からなんだけど、自分の中では『男祭り』で脱臼した時点で大迷惑をかけたっていう意識もあるし……なんて言うんだろうな。俺にとって『ハッスル』って、いい女と出会ったときのような感じかな。それに近いと思う。

―赤い糸というか、ビビッとくるものがあったわけですね。

坂田　そう。あとは、いい意味でも悪い意味でもタイミングだったんだよ。どこのリングと比べてっていうわけじゃないんだけど、『ハッスル』のときはモチベーションも上がるし、いろいろ考えられるし、自分から考えようと頭に働きかけなくても無意識で何から考えてるし。そういう意味で自分の生きていく場所というか、選手としての力を100％注げる場所なんだよ。……簡単な言葉でしか言えないけどさ。

―坂田さんは橋本さんから声を掛けてもらったっていう恩もあって、以前から、よっぽどのことがない限りZERO-ONE以外のリングには上がるつもりはないって言ってましたよね。

坂田　いまはZERO-ONEもグラグラしてるからわからんけどな（笑）。ただ、俺は筋目とかはキチッとしたいんだよ。曖昧っていうのは嫌いなんで。

―でも、坂田さんに声を掛けた破壊王も最近になって、新日本に顔を出したり、ZERO-ONE勢との確執が浮き彫りになったり、おまけに女性問題まで浮上してきて揺れに揺れてますよね。

坂田　揺れすぎだろ（笑）。そういうのもあって、最近は橋本さんともそんな深く話す機会はなくなったけど、感情に迷いがあるっていうのは伝わってくるよね。どういう迷いがあるかはわかんないし、わかってても話せないこともあるんだけどさ（笑）。

―そうでしょうね（笑）。

坂田　同じ選手の立場から言わせてもらうと、蝶野さんのお祝いとはいえ新日本の会場に行ったっていうのは、中村さんなり大谷君なりに一言もなかったみたいだから、それはちょっと違うと思うよ。その辺に対してはプチがっかり。

衝撃!! 初代ゼブラーマンは坂田だった！

知ってる人は知っている、知らない人には衝撃事実！　当初、ゼブラーマンをやるはずだったのは坂田だった【上は証拠写真】。しかし『男祭り』で負傷したため坂田ゼブラは消滅！

―プチがっかり（笑）。いま坂田さんは『ハッスル』のリングでは〝ハッスル王子〟っていうキャッチフレーズが付けられていますけど、本人的にはいかがですか？

坂田　別に俺が「王子にしろ」って言ったわけじゃないからな（笑）。現時点では「これだ」っていうのが打ち出せてないから、そういうのが付けられたんだろうし、まあ、王子らしく頑張るよ。

―「王子らしく」ってどんな感じなんですかね（笑）。

坂田　俺だってわからんよ（笑）。

―そういえば、以前、小川さんが「アホの坂田にする」っていう案を出してましたけど、さすがにそれは飲めませんよね？

坂田　いや別に飲むとか飲まないじゃなくて、そこからどういう広がりがあるのかって全くもって考えられねえもんな（笑）。

―広がりはなさそうですよね（笑）。あるとしたら、ご本人登場ぐらいですかね。

坂田　やってみりゃ何かあるのかもしれないよ。でも、そこまで針を振りすぎると、なんか、どインディーになっちゃうんじゃないかって思うんだよ。そりゃ、毎回毎回、坂田師匠が一緒にいてくれりゃあいいよ。でもそのときだけじゃん、面白いのは。俺はそういうとこにクライマックスをもっていきたくないんだよ。いくら『ハッスル』だからって言っても、やっぱり試合もあっての作品だから。

―現時点での『ハッスル』は試合以外の部分が際立ってるわけで

アホの坂田キャラ？ 毎回、毎回、坂田師匠が一緒にいてくれりゃあいいよ

すけど、やる側として試合のクオリティーを高めていきたいと思うのは当然でしょうしね。

坂田　そうじゃないと何のためにスキルを鍛えてんのかわかんなくなるしな。それに『ハッスル』にだって試合内容だけを観てる客だっていると思うし。そういうヤツらが観て「何なんだ？」って思うような内容じゃマズいだろ？　某ジュードー・オーみたいな（笑）。

―某ジュードー・オー（笑）。

坂田　じっくり話したことないんだけど、小川さんの考えって凄いことがいっぱいあるんだよ。でも、先を行ってるし、凄いなって思うこと試合については俺は言われる筋合いはないと思ってるから。

―某ジュードー・オーに関しては、小川さんもダメ出ししてましたからね（笑）。

坂田　小川さんはメダリストになるぐらいのアスリートなんだから、自分なりにいろいろ考えてやってると思うんだよ。でも、これだけ地位も名誉もあってキャラクターだってしっかりしてるのに、なんか試合になるとトーンダウンしちゃうんだよな（笑）。

―それだけプロレスは難しいってことでもあるんでしょうね。

坂田　かと言って俺が上手いっていうわけじゃないよ。最初は苦労したというか、「何だ、この世界は」って思うぐらい難しかったし、いまでも実際難しいしね。逆に、長州さんや川田さんはキャリアもあるしプロレスの部分では抜群なんだけど、小川さんに追い付かないっていう部分はプロレスとは違う面であると思うしね。

―そういう意味では、全てが完壁に揃ったレスラーってなかなかいないですよね。

坂田　いないね。まあでも、これから『ハッスル』で、小川さん、長州さん、川田さんの3人がどうなっていくのかわからないけど、いずれは日本人対決もやんなきゃいけないだろうし、そのときは真っ先にやらせて欲しいね。

―坂田さんはヤングハッスルのリーダー的存在ですからね。

坂田　まあ大会のプランによって

テイストも変わったりするだろうし、流れとして自分じゃないなと思ったときは納得するけど、いまの流れのままでいくんだったら、『ハッスルハウス』のメインも俺は譲る気ないからね。最初は川田さんの力を借りる形でメインに出たけど。

―そういえば『ハッスルハウス』では毎回メインなんですよね。

坂田　そうだよ。でも俺も強気に言ってるけど『ハウス』はチケットが売れてるから言えるんだよな。いまは誰vs誰だから売れるっていう感じじゃないし、そういう中でメインをまかされて逆にプレッシャーもかなりあるんだよ。

―『ハッスルハウス』のカードは当日発表が多いですし、それはそれで、やる側にとってはプレッシャーになるでしょうね。

坂田　マジでプレッシャーだよ。名古屋は深夜に『ハッスル』を放送してるから多少浸透してて、定食屋とかパチンコ屋でも「坂田選手、ハッスルハッスル！」って声掛けられることも増えたけど、最初はポーズぐらいしかわかってないわけじゃん。

―ポーズは知ってても『ハッスル』が何なのか知らない人もいまだにいるでしょうからね。

坂田　それにプロレスとか格闘技の違いもよくわからない人から見たら、どうしても『PRIDE』とかと比べたら緩く見えるわけだよ。

―そう思う人も多いでしょうね。

坂田　でもやる方は違うじゃない。俺なんか総合もやってきた人間から言わせると、確かに『男祭り』のときもいろんな意味で緊張はあったけど、『ハッスル』は毎回メチャクチャ緊張するもんな。

―「ハッスルの前日は寝れない」とかよく言ってますもんね。

坂田　いまはプロレスより総合の方が世間に届いてるから、俺も「大変だと思うけど、たまには『PRIDE』にも出て」ってよく言われるんだよ。どっちが上とか言うつもりはないけど、ぶっちゃけ『ハッスル』で試合するっていうのは毎回毎回ホントに身を削られる思いだからな。

青木裕子と対談したら「やっぱり巨乳好きなんだ」って思われるだろうな

ハッスルシリーズの解説は“木原のオヤジ”ことタイガー木原と“ハッスル・マドンナ”青木裕子ちゃんが務めている。解説中にも露骨にマドンナを狙うタイガー木原。王子＆マドンナ対談が実現したら、きっと嫉妬するはずだ

―そういう部分って、観てる側にはなかなか伝わりにくいでしょうからね。しかも、対戦相手は島田参謀長だったりジェット・シンだったりしますからね（笑）。

坂田　ホント大変だよ（笑）。何も考えないでいいんだったら、ホント好き勝手にやらせてもらうけど、みんなで創り上げるのが『ハッスル』なんだからそういうわけにもいかないしな。上から下まで各選手の言いたいことを聞いて「じゃあ、みんな好きにやってみろ」ってことで悪くなっていったのが、いまの新日本じゃないの？

―……。そう言われると、それぞれが好き勝手に自己プロデュースをしてる感はありますよね。

坂田　どっかで一人が気を抜くだけでそうなっていくんだよ。そういう意味では新日本を手本というか反面教師にしないと、『ハッスル』もどうなるかわかんないよ。

―WWEのビンス・マクマホンみたいに絶対的権力を持って仕切れる人がいないとダメだってよく言われますよね。

坂田　たしかに、ビンスみたいな人がいればベストだと思うよ。ただ、いまの『ハッスル』にはそういう人はいないからな。

―笹原GMも中立ではありますけど、そこまで実権は握ってないですからね（笑）。

坂田　中村カントクと島田参謀長には強いけどな（笑）。でも俺が『ハッスル』に対して本気なのは、ビンスはいないかもしれないけど、スタッフ一人一人が命懸けてるのが伝わってくるから、こっちもやろうって気になれるんだよ。

―なるほど。『ハッスルハウス』のメインは譲る気がないって言ってましたけど、『ハッスル』のホントのメインは高田総統だっていう意見もあるじゃないですか。それについてはどう思います？

坂田　あんまり簡単に認めたくないんだけど、高田総統は俺よりステージが上だな。

―ステージが違いますか（笑）。

坂田　それは感じるよ。付いていけないんじゃなくて、いまの時点ではちょっとやそっとじゃ追い付かんって思うよな。小川さんの本気さも伝わるんだけど、高田総統に限っては本気とかそういう次元を通り越してるんだよね（笑）。

―小川さんも「敵ながら凄い」って言ってますからね。

坂田　そういえば、この間、名古屋の『PRIDE武士道』が終わった後、高田さんや関係者とかと飲みに行ったんだけど、そのときに高田総統と高田さんは別人だっていうことがわかったんだよ。

―ひょっとして、総統も飲みに来られたんですか？

坂田　いや、高田さんがモナコにいる高田総統と電話で話してたんだよ（笑）。

―モナコまで国際電話って、何か急用でもあったんですかね。

坂田　わからんけど、10分ぐらいずっと2人で電話で話してたよ。

―代わってもらって話したりはしなかったんですか？

坂田　それは恐れ多いだろ（笑）。

―いきなり「ビターン！」されても困りますしね（笑）。

坂田　そうそう（笑）。そんなことより、『紙プロ』で俺と誰かの対談でも組んでよ。

―誰か対談したい人います？

坂田　う～～ん……。そう言われると難しいよなぁ。

―アッ、いい案を思い付きました！　ハッスル王子とハッスルマドンナの対談なんてどうですか？

坂田　ハッスルマドンナって、青木裕子だっけ？

―そうです。青木さんは〝ハッスルマドンナ〟として『ハッスル』の解説者だし、スケジュールさえ合えば大丈夫でしょう。ただ、坂田さん的に問題はないんですか？

坂田　全然ないよ。何で？

―ウチ的にはプリンスとマドンナのハッスル対談ということで全然ありだと思うんですけど……。

坂田　「やっぱり坂田は巨乳好きなんだ」って思われるだろうけどな（笑）。

―確実に言われますね（笑）。

坂田　あえて青木裕子と対談することによって「関係危ないんじゃないの？」っていう想像をかきたてるのも面白いんじゃない？

―では、やりますか！　あれ!?　青木さんも小池さんと同じイエローキャブ所属なんでしたっけ？

坂田　知らんけど、違うだろ。お前、乳がデカけりゃイエローキャブだと思ってんじゃねえか？

―いや、そんなことはないですけどね。では王子！　次回はマドンナを用意できるよう頑張りますので、最後に一発いきますかーッ!?　3、2、1……。

坂田　（遮って）いや、もう帰る。

【11月4日／ダブルクロスにて収録】

現在、坊主頭の坂田に似合うヘアスタイルを徹底検証！　P124へ急げ!!

言うちゃ悪いけど“I編集長”怒りの直言

11・13は猪木が悪い！

中邑に「遠慮するな！」と言うのなら、最初から真剣勝負でやらせろ!!

11・13 新日本・大阪ドームをブッタ斬り!!

プロレス・マスコミの哲人・“I編集長”の

喫茶店トーク V（バード）

PROFILE

井上義啓。元『週刊ファイト』編集長。「活字プロレス」の創始者であり、その影響を受けた人間は計り知れない。バード（VTの意）、〝殺し〟、など、破天荒なI用語を次々と生み出している。

新日勢総出によるハッスルポーズ阻止、猪木が中邑に鉄拳制裁と試合以外のところで話題を呼んだ11・13新日本・大阪ドーム。この「闘魂祭り」と名付けられたイベントを「闘魂の語り部」である“I編集長”はどう見たのか？ 今月もガッチガチの超ストロングスタイルトーク、スタートです。

聞き手／堀江ガンツ　design by さおとめの事務所

——さて、井上さん。今日はいろいろ物議を醸した11・13新日本・大阪ドーム大会について伺いたいと思いますが、この日はなぜか「ハッスルポーズをするかしないか」ということがテーマになったわけですけど、あの〝ハッスルポーズ押し問答〟について井上さんはどう感じましたか？

井上　やっぱりね、新日本プロレスは、ノアとか全日本、ましてや大阪プロレスとは違うわけですよ。新日本プロレスというのは「超ストロングスタイルのプロレスを見せますよ」ということを謳い文句にしてきたわけですからね。そして、これからもプロ格マッチに近いことをしていこうという方向なんだから。ああいったエンタメは絶対に許さないと。だから猪木が「ハッスルポーズをやられたら困ります」と、選手たちから言われたわけだよな。それが新日本プロレスの基本姿勢なんだから。だからあれはその基本姿勢にのっとって「我々はストロングスタイルのプロレスをやります」というジェスチャーをしたと。ただそれだけのことなんですよ。

——そうなると、これからはどんどんそっち方面に進まなきゃいけなくなりますよね？

井上　いや、あれをやったからプロ格路線に進むんじゃなくて、もう猪木の時代からそうなんですよ。だから異種格闘技戦なんかをやったわけだし、これは馬場プロレスとはまるっきり違うジャンルなんですよ。猪木の異種格闘技戦というのは、ハッキリ言って八百長でもなんでもないんだからね。勝ち負けっていうのは一応決められていたかもわからんけども、やっぱりモンスターマンの試合なんかでも練習した技が全然出てないからね！

——忙しい猪木が一番に会場入りして、タックルで倒して関節を極める練習を藤原、佐山相手に来る日も来る日もやっていたというお馴染みのお話ですね（笑）。

井上　そう。君もいい加減聞き飽きたかもしれんけど、もう一度言わせてもらうわ！　ハッキリ言って八百長だったらそんなことしないよ！　脚本筋書きがあるんだったら、忙しくてどうにもならん猪木が毎日毎日、リングが組み上がるのを待って、佐山にキックを出させてそれをかわしながら倒す練習をするかと言うんだよ！

——ましてやフィニッシュになったパワーボムの練習なんか一度もしていない、そう話は続くわけですよね（笑）。

井上　よくわかっとるじゃないか（笑）。だからそういうことを考えると、勝ち負けを決めとったかどうか知らんけど、「こう来たらこうやって、15分経過のコールの後、リング下に落ちて白目を剥いてのびてください」なんていう脚本はなかったわけだ！　こういったことからでも違うことがわかる。少なくとも猪木のプロレスと他のプロレスとはね。昔から違うんだから、いまでも違って当たり前。ましてやこういった時代になってきて、プロ格路線に進もうということになったんだから。それで上井さん（元新日本プロレス取締役）あたりが現場責任者に抜擢されたわけでしょ？

——プロ格路線のために抜擢されたのか、抜擢された上井さんがその路線をやり始めたのかはわからないですけどね。

井上　いや、抜擢した上井さんがたまたまプロ格路線推進派だったということじゃないと思うんだよな。あれは猪木が決めた路線を上井さんが実行したんですよ。それで恐らく上井さんは選手たちに「これからはもう、見え透いたラリアートの空振りはするな」と言っとるはずですよ。あの人の性格を考えれば、そばで見とらんでもわかるわ！

「赤信号、みんなで渡れば怖くない」とばかりに、大勢でリングに上がり「3、2、1、ハッスル、ハッスル！」を妨害するすることに成功した新日本プロレス本隊。リングサイドでは閑散とする客席で、上井文彦元取締役が、「絶対にハッスルさせるな！」と大声で叫び続けた揚げ句、号泣したという。なんという美談！

あの人が「頭の30センチ上でラリアートを空振りして、相手がコーナーに登ってドロップキックをするまで、わざわざ立ち上がって待ってなさい」なんて言うわけないんだよ。絶対に！

——そんな陣頭指揮をしてたら、それこそ驚きですけどね（笑）。

井上　新日本プロレスの試合というのは、ホントを言うと真剣勝負でやりたいんですよ。でも、まだその段階じゃないからできないだけであってね。そりゃできませんよ。真剣勝負にしたらもうシリーズなんて成り立ちませんからね。成り立つわけがない！『PRIDE』が巡業やっとるかというんだよ！

——『PRIDE』の巡業！　一度見てみたいですけどね。『PRIDE』ニチイ駐車場特設リング大会とか（笑）。

井上　だいたい2ヶ月に1回の『PRIDE』だってけが人続出なんだから、月に1回でも難しいぜ。それから客入りの問題もあるしね。新日本も2～3ヶ月に1回で客が溢れるほど入るならいいけど、入らなかったら目も当てられない。

——2ヶ月分の収益を1大会で稼がなきゃいけないわけですからね。

井上　だから一気に真剣勝負には行けないけれど、少なくともプロレスルールの中でホントの勝負を見せろと。それが猪木の言い分なんだよな。とは言っても猪木も現役時代は暗黙ルールがあるプロレスをやってたけどね。それでも俺が猪木を良しとしたのは、全ての試合がそうじゃなかったということですよ。なんべんも言うけどね。異種格闘技戦がそうだったし、ホーガンとのＩＷＧＰの優勝決定戦がそうだったしね。

——舌を出して失神した振りができるのかどうか、井上さんがご自分でやってみて確かめた伝説の一戦ですね（笑）。

井上　そういった真剣勝負に近い闘いが猪木の試合にはあったわけですよ。だから前田が

中邑に「遠慮するな」と言う前に、暗黙の序列をなくせと言うんだよ！

喫茶店トーク V

UWFを起こしたし、高田もヒクソンと闘った。前田や高田がが全日本出身だったらそんなもん絶対やってませんよ！　だから現在の新日本が「プロ格マッチで行こう」と急に言いだしたわけじゃなくて、昔からそうだった。ただ、それがやれなかっただけであってね、テレビ局の意向もあるしね。そりゃテレビ局が「うん」と言うわけがありませんよ。

——テレビ局はプロ格路線を認めませんか？

井上　そりゃそうですよ。壮絶な試合になって視聴率が上がればいいけど、ミルコvsバーネット戦みたいなことが起こりかねないんだから。あれだってプロレスならうまいこと持っていって、ミルコが「やられた～」ってなことになるけど、真剣勝負ならそこで終わってしまうからね。それを避けるために場外カウントも認めよう、ロープエスケープも認めようとなったんですよ。だからプロレスのルールだけれどもプロレスじゃなくて、格の序列をブチ壊して、ホントにカウント3取ったら勝ちと。そういうホントの試合をやったらプロレスでも十分成り立つハズですよ。それをなんとかやろうとしているのが猪木の姿勢なわけ。だから今の新日本プロレスというのは、真剣勝負に行きたいんだけど行けない中で、プロ格マッチまがいのことをやろうとして、ハッキリ言うたら上手くいかずに失敗してると。

——プロレスから格闘技へ、それをうまくバランスを取りながら序々にやっていこうとしているのだとしたら、それはなかなか難しそうですね。

井上　難しいよ～。口では簡単に言えるけどやね、なかなか上手くいかない。だからメインの藤田&カシンvs中邑&中西戦なんかも、ひょっとしたら格闘技で行くんじゃないかと期待しとったんだけど、なんてことはないプロレスの試合だった。

——紛れもないプロレスの試合でしたね（笑）。

井上　でも、俺だったらタッグじゃなくて藤田vs中邑戦のシングルにするけどね。だいたい猪木は「遠慮せずにやれ」と言うて中邑を殴ったけどやね、これが格闘技のバードマッチだったら猪木の言う遠慮せずにガンガン行くこともできるわけよ。でもプロレスじゃできませんよ！

——プロレスじゃ遠慮せずに行けませんか！

井上　そりゃできませんよ！　第一にどっちが勝つのかという問題がある。もし藤田組が勝つということなら、中邑には手の打ちようがないだろう。もし本気になって藤田を絞め落としたらどうなるのよ？

——まぁ……中邑の勝ちになっちゃいますね（笑）。

井上　だからハッキリ言って、「藤田が最後に中邑に勝つ」という筋書きが、例えばあの試合にあるとしたらね。

——はい、「例えば」あるとしたら（笑）。

井上　これは中邑としたら手の打ちようがないわ！　いくら猪木に言われても、K—1じゃないんだから！　プロレスなんだから！　どうしても〝演技〟をする必要があるわけよ。わざと歯をむき出したり、「やられた～！」という恰好をあえてやったりね。でも、そういうことはまだ中邑にはできないわけよ。

——まだまだプロレスのキャリアは2～3年ですからね。そして、プロレスとなるとどうしても攻撃も手加減した中途半端なものになってしまうと。

井上　そう！　だから「遠慮せずに行け！」と猪木が言って、中邑を殴りつけたというのはね、俺に言わせれば、なにやってんだと！

——なにやってんだ（笑）

井上　猪木の言うこと考えることは俺もよ～くわかるけどね。そういうことならもうハッキリ言って真剣勝負で行け、と！

——真剣勝負にしてホントに遠慮なく行かせろというわけですか！

井上　何も顔面を拳で殴るバードマッチをやれというのじゃありませんよ。プロレスルールの中で真剣勝負をやればいいんですよ。それはどういうことかと言うと、格と暗黙の序列をなくした試合をするということですよ。それができた上で「遠慮するな！」というならわかるけど、できてないんだから！　長州と西村のタッグ対決（長州&蝶野vs永田&西村のイリミネーションマッチ）にしても、プロレスだからああなるのであって、ホントのケンカだったら長州が一番に消えてますよ！

——まぁ、年齢的にはそうかもしれませんね。

井上　長州のラリアートが蝶野に誤って当たって、「お前とは縁切りだぁ」とかね、こういうことが格闘技のリングで起こるかと言うんだよ。

——そんなシーンは、残念ながらまだお目に掛かったことはないですね（笑）。

井上　だからプロレスをやる以上はプロレスのルールに従わなきゃいけないのであってね、それを無視して「本気でやれ」と言ったところで、できるわけがない。だから俺は中途半端だと言ってるんですよ。

——では、井上さん的には、やるならもう真剣勝負でやれと。

井上　そうですよ。もう従来通りのどっちが勝つという暗黙の了解でやるプロレスを廃止して、好きなようにやれと。勝ち負けは強い方が勝って弱い方が負ける。レフェリーも格上の選手がやられても容赦なく3カウントを入れる。そういったことをピシッとやるプロレスをやれば、新日本も儲かりますよ。

——それが新日本プロレス再生の近道ですか。

藤田の顔面蹴りの前に敗れた後、突然、猪木の鉄拳制裁を受け、マジギレしたと言われる中邑真輔。控え室では「満足ですか？って感じですね」とシュート発言。

プロレスを真剣勝負でやったら格闘技より断然面白くなるぜ!

井上 そりゃそうですよ。K—1、『PRIDE』がなぜ儲かるかと言ったら、真剣勝負だからですよ。だから新日本プロレスもホントの意味で真剣勝負でやってごらんよ。むしろK—1、『PRIDE』より面白いよ。プロレスのルールというのは面白くなるようにできてるんだから!

——まぁ、こんなに自由なルールはないですからね(笑)。

井上 場外に出て息も整えられるし、反則だって5カウントまでは負けにならないし、ロープに登ろうが何しようがいいんだから、よっぽどプロレスのほうがいいんですよ。だからこの間の11・13のテーマも言うまでもなくそこにあったわけですよ。「これからは、勝った方が勝ち、負けた方が負けのプロレスをやっていく」と、新日本はそう宣言すべきなんですよ。

——でも、そうすると反対する選手もかなり出てくるんじゃないですか?

井上 これは心苦しいことだけどね、出ていく者は出て行けと、残る者だけ残れと。そう言い渡すしかないと思うわ。そして猪木が現場におってね。道場から何から全部仕切って、中邑だなんだを直接鍛えないとね。それを外におってたまに帰ってきて、「お前なんだ!」ってブン殴ってたら世話ないんですよ。

——ますます関係が悪化するだけですよね(笑)。

井上 だからハッキリ言ってプロレスにはいろんな形があるからね。エンタメもあればハッスルもドラゴンゲートもWWEもある。どれがよくてどれが悪いわけじゃない。ただ、新日本プロレスはエンタメができないんだから、徹底して真剣勝負にしていくしかない!

——もうやるしかないと。

井上 だから11・13にしたって小川が参戦するのも、ハッスルポーズを阻止するのもいい。ただし、小川に「ホントの勝負をしてください」と言うべきですよ。それで小川が「わかった。その代わり相手がどうなっても知りませんよ」という形で参戦させないとダメなんだよ。

——そうなったらなったで、なかなか対戦を受ける人がいなくなりそうですけどね(笑)。

井上 もう中途半端な玉虫色のことをやってたらダメですよ。だから上井さんなんかをこれからというときに辞めさせたらダメなんだよな。それで突然「純プロレス回帰」だ「外敵排除だ」なんて言うてたら、今までやってきたことが全~然意味がなくなる。

——方向性がコロコロ変わってたら信用失うだけですよね。

井上 だから11・13というのはプロ格への過渡期の陣痛の中行われて、やっぱりうまくいかなかったと。方向性は示したけど、志と事とは同じにはならなかったわけですよ。そしてその元凶は誰かと言ったら、1にも2にも3にも猪木ですよ!

——猪木が元凶!

井上 猪木がハッキリした方向をピシッと示して号令かけないからああいうことになるんだよ。暗黙の了解の中で本気でやれと言ってもできないんだから。できるわけがない!

——いや~、それにしても井上さんの口から、こんなにハッキリした猪木さんへのダメ出しが出るとは思いませんでした。

井上 俺は猪木や新日本プロレスのことを本気で考えてるからこそ言うわけですよ。そして、そうやってハッキリ言わないと、"売れる活字"にもならないしね。そのためには嫌がられることも書かなきゃならないし、それで「取材拒否だ!」って言われるなら、取材拒否を食らったらいいわけですよ。それなのにいまだにマスコミと団体の関係は力道山時代と一緒だ。マスコミは団体の顔色をうかがってばかりだし、団体も「こういうことを書いたら取材拒否だ」、そうならなくても20分も30分も電話でガタガタ言われる。それでインタビュー申し込んだら、「なんであんたのところに協力しなきゃならないの」そんなのばっかりだろう?

——まさに『紙のプロレス』が言われてることですね(笑)。

井上 それが怖いから、一切そういったことを言わない書かない。それだったら売れる活字になるわけがない! だからプロ格者は俺のトークや記事が載っている雑誌だけ買うと言うてるもんな。

——井上さんは40年前から取材拒否覚悟でズバリと書いてきたわけですよね?

井上 そうそう。俺は40年まえからほとんど同じことを言い続けてるわけですよ。それが今でも通用するということは、プロレス界が全然変わってないということなんだよな! だからいまのプロレス団体もマスコミも自分で自分の首を絞めてるわけですよ。そんなことをしてないで、新日本プロレスはプロレスの真剣勝負をやる。マスコミは真剣に本当のことを書く、そうしないからダメだと言いたいんだよな!

——わかりました。今日は大~変勉強になりました。来月もよろしくお願いします!

【04年11月16日/電話取材にて収録】

言うちゃ悪いけど、毎週「I編集長の喫茶店トーク」なんだよな!!

携帯サイト『紙プロHand』で井上さんのコラムを読もう!

アクセス方法

DoCoMo iMenu→メニューリスト→スポーツ→格闘技/大相撲→『紙プロHand』

au/TU-KA トップメニュー→遊ぶ・楽しむ or インターネット→スポーツ→格闘技→『紙プロHand』

vodafone ボーダンフォンメニュー→ボーダンフォン・ライブ→スポーツ・レジャー→その他スポーツ→『紙プロHand』

Ladies and Gentlemen!

「レディース・アンド・ジェントルマン!!」を日本で一番カッコよく言える男!

長州力から武双山まで!
"夜のクラブ活動"も
ハッスル、ハッスル!

『PRIDE』オフィシャル・ナビゲーター

ケイ・グラント

「レディース・アンド・ジェントルマン!」――『PRIDE』をご覧になっている方ならば、そのダンディなコールに聞き覚えがあるだろう。オフィシャル・ナビゲーターとして、『PRIDE』のリングを盛り上げているケイ・グラントさんにお話を伺った。『PRIDE』だけではなく、マット界に意外な接点を多く持つケイさんのエピソードを、張りがあって雰囲気のある声質を思い出しつつお読みになってください!

構成/ジャン斉藤　designed by Shiraki（TwoThree）

プロレス界の初仕事はGAEA。頭脳警察のPANTAさんの誘いがきっかけ

Kei Grant

——今日は『PRIDE』オフィシャル・ナビゲーターとしてご活躍のケイ・グラントさんに、舞台裏のお話などをいろいろとお聞きしたいと思ってます！

ケイ よろしく。

——まずはファイターに劣らないそのゴツイ身体についてなんですが、ケイさんは何か格闘技の心得はあるんですか？

ケイ 格闘技ってわけじゃないけど、そのむかしボクは二足のワラジで……ラジオDJをやりながらボディビルダーのインストラクターをやっていたんですよ。

——だからレスラー並に分厚い身体なんですね。いろいろと武勇伝がありそうですけど……。

ケイ いやいや、何もないですよ（ニヤリ）。強面だからよく勘違いされるけどさ。高校のときはスキンヘッドだったんだけどね。

——スキンヘッド！ それはムチャクチャ怖いですね（笑）。

ケイ こう見えても高校のときは水泳部だったんだよ。素行が悪いと坊主にされる学校だったから、最初からスキンヘッドにしてたんだよね。

——ワルさをするのを前提で（笑）。

ケイ フフフ。ま、ボクはファイターじゃなくラヴァーだから。人を殺めることができなくて、人を愛することしかできないんだよ。

——なるほど（笑）。DJのほかにもいろいろとお仕事をされているそうですね。

ケイ ナレーションの声や「ニュース・ジャパン」のタイトルコールとか「踊る大捜査線THE MOVIE」のアナウンスとか。

——あ、CMの声の！

ケイ ちょっと前には映画「海猿」のタイトルコールもやらせてもらいましたね。

——意外なことに、ケイさんのマット界初仕事はGAEAのリングだったとか。

ケイ これがまた妙な縁なんだよ。練馬のレストラン・カフェ「茶居珈」で当時夜な夜な溜まっていたんですけど、そこの常連客にスキャンダラスなカリスマ・ロックアーティストのPANTAさんがいましてね。

——頭脳警察のPANTAさんですね。

ケイ そのPANTAさんから「オイ、ケイよ。今度、長与千種が団体（GAEA）立ち上げんだよ。ちょっと手伝ってくんねぇか？」ってことで引き受けて。で、入場ソングなんかを何日も徹夜してPANTAさんが作って。その低音部分をボクが担当してね。銭金抜きの非常に楽しい仕事をしてたわけですよ。それでGAEAのお披露目会見のMCとか、旗揚げ試合のリングアナもボクだったわけです。

——聞くところによると、GAEA道場のトレーニング器具はケイさんがすべて寄付したそうですね。

ケイ そう。いまは増やしているだろうけど、当時チーコちゃん（長与千種）のジムがとにかく何もなくてね、中にリングが忽然とあって、あとはマットが敷いてあるだけなんですよ。それじゃどうやっても鍛えられないでしょ？ カール・ゴッチじゃないんだからさ（笑）。

——ダハハハ。それを見かねて寄付したってかんじですか？

ケイ 50万円ぐらい自腹切って、ダンベルセットやバーベルセット、ベンチプレスベンチやスクワット・ベンチ、スクワット・ラックなんかを寄付させていただきまして。

——自腹で50万円！ それはまた思い切りましたね！

ケイ やっぱりさ、プロレス団体に「ダンベル2つあげました」じゃお話にならないじゃない。いまでもチーコちゃんに会うと「ケイさん、もらった器具でトレーニングやってるよ！」って言ってくれるんですよ。涙でるくらい嬉しいねぇ。

——もともとケイさんは、プロレスや格闘技を見るのはお好きだったんですか？

ケイ 好きでしたね。『PRIDE』もビデオで高田vsヒクソン戦は見てました。でも生では観たことがなかった。Uインターのリングアナの小野坂くんと仲がよかったので、彼の招待でUインターの試合を観戦したことはあったけど。

——ケイさんの『PRIDE』初登場は2000年に行われた『PRIDE・GP』からなんですよね。

ケイ そうですね。レニー（・ハート）も同じなんですよ。

——"巻き舌女"として有名なレニーさんですね。『PRIDE』でお仕事することになったのは、どういう経緯があったんですか？

ケイ 『PRIDE』の演出をやられている山縣さんからある日、「『PRIDE』という格闘技を知ってますか？」と打診がありまして。「ボク的にはリングMCといえば、日本でケイ・グラントさん以外には考えられない」って言われたんですよ。理由を聞いたら「ファイターに見劣りしない体躯、その声には数万人のオーディエンスのアドレナリンを引き出すだけのマン・パワーがある。"レディース・アンド・ジェントルマン"という言葉を日本で一番カッコよく言えるのはケイ・グラントさんだ」と言っていただいたんですよ。

『PRIDE』史上に残るド突き合いをやってのけた高山vsドン・フライ！　決して背中を見せないファイターとして気質や、ローテンションだったイベントそのものをキッチリ締めたという観点からすると、これは“プロ”の仕業であった。

唯一慟哭したのはフライvs高山善廣。試合後のパーティーも感動的だった！

――それは納得です！　ケイさんの声って、ホント雰囲気ありますもんね。

ケイ　ただね、こう見えてボクは極度のアガリ症なんですよ。

――そうなんですか？

ケイ　うん。しかもデビューが東京ドームという大舞台でしょ。こりゃあまいったなと。それにボクもそのとき初めて知ったんですけど、ドームって自分が発した音が自分に返ってくるのに、だいたい3〜4秒ぐらいかかるんですよ。だから、よくみんなMCとかマイク・パフォーマンスができるな〜って不安になってね。でも、あの大会は桜庭vsホイス戦があったり印象に残る試合ばかりで、「リングで命懸けで闘ってるヤツらがいるだんから、もっと誉れに思って、腹の底から、ファイターたちの闘おうとするハート、立ち向かう姿勢をリスペクトしてコールすべきじゃないか？」って思ったんですよ。いまだに緊張はしてますけどね（笑）。小心者だから、野次なんか飛ばされたらシュンってなっちゃうよ。「引っ込めデブ！」なんて言われたら、ホントに引っ込んじゃうかもしれない（笑）。

――島田さんのようなブーイング浴びたら立ち直れないわけですね。

ケイ　シマは偉いと思うよ。ブーイングをエネルギーにして生きているみたい。

――まるで髙田総統ですね（笑）。それで、その東京ドーム大会で、ケイさんは藤田和之選手におもいきりメンチを切られたそうですね。

ケイ　そうなんだよ。ファイターじゃない限り、コンサートでいうならアリーナ、野球でいうならダッグアウトにつながる急な階段を降りてくるはずがないから、俺を選手だと勘違いしたんだろうね。コッチは短パンにタンクトップで衣装を持ってたんだけど、藤田は「コノヤロウ！　どこのジムのヤツだぁ？」っていうメンチの切り方でさ。

――たまったもんじゃないですね（笑）。

ケイ　藤田は日大のレスリング部で、ボクは水泳部出身なんですよ。いわば藤田は俺の後輩で、あとから話をしてちゃんとした先輩・後輩の関係になったんだけど、「藤田、あんとき何でメンチ切ったの？」って聞いたら、アイツすっかり忘れてんだよね。それに「藤田、オマエ学部どこだったの？」って聞いたら、「いや、覚えてないです」って言うんだよ。

――ダハハハ！　それは藤田さんらしいですね。

ケイ　ボクも「お前、覚えてないわけねえだろ！」って怒っちゃって（笑）。そんな性格はともかく、藤田ってやっぱりスゲェファイターだからね。いまは『PRIDE』から離れてるけど、藤田みたいな日本人選手が『PRIDE』にほしいよね。

――離れてるといえば、猪木さんもかつては『PRIDE』のプロデューサーでしたよね。

ケイ　猪木さんが離れたことは、『PRIDE』からすると正念場だったと思うんだよ。休憩明けの猪木さんの登場は一番ボルテージが上がっていたからさ。

――一時期の『PRIDE』は、面白いのが猪木さんのマイクだけだったりしたこともありましたから、その影響は強かったというか。

ケイ　それで引退された髙田さんがその役割を担うようになってから、リングで必要事項を猪木さんが言ってくれなかったりしてね（笑）。

――「え〜、榊原社長に次の大会のことを言うように頼まれたんですけど、ズバ

り忘れてしまったというか！　ということで、世界が元気でありますように！」みたいなかんじでしたね（笑）。
ケイ　だから『PRIDE』からすると、猪木さんが離れたことはギャンブルだったと思うね。個人的なことをいえば、猪木さんとは微妙な接点があるんですよ。むかしウチの裏はあまり家が建ってなくて、畑を挟んで一軒目が倍賞邸だったりね。だから小学生の頃のボクはよく猪木さんを見かけてた。「大きい人だなあ。大きいのにシート倒して、ムリムリZに乗ってくるなあ！」って思ってましたよ。
――そんな姿も見てましたか（笑）。
ケイ　ウチの親がよく行ってたモンマルトというピザ屋で、ミッコ（倍賞美津子）さんと猪木さんが初デートしたらしいんですけど。そこのマスターが『夜のヒットスタジオ』なんかに呼ばれちゃったりしてさ。正月の生番組がないときなんかは、「あけましておめでとうございま〜す」ってミッコさんが松竹のカレンダー持ってきてくれたりして。その頃のウチはちょっとしたレジャー施設で夏は屋外プールをやってたんですよ。そこで『平凡パンチ』がミッコさんのグラビアを撮ったりしてさ。
――そんな縁もあったんですね。猪木事務所の倍賞鉄夫さんなんかもお知り合いなんですか？
ケイ　お話はしたことないんだけど。新日本の社長になっちゃうんじゃないかな〜って思う時期があった。
――ケイさんは他にもお知り合いが多いそうで、電撃ネットワークのギュウゾウさんともお友だちだとか。
ケイ　ギュウゾウ君はカワイイ仲間ですよ。夜の街角で知り合う中にギュウゾウ君もいて、そこで意気投合してね。彼は右やってたから武闘派だし、話も面白いじゃない。
――『紙プロ』でもギュウゾウさんをロング・インタビューしたことあるんですけど、かなり面白かったですね。
ケイ　アイツは確固たる思想を持っているし、世の中に流されるタイプじゃないから大好きなんだよ。トウキョウ・ショックボーイズもアジアのスーパースターになっちゃったし。そんなことから電撃のラジオのゲストに呼んでもらったりね。
――ギュウゾウさんもかなり格闘技に精通してますけど、そういうお話はされるんですか？
ケイ　旬な試合については話し合いますね。ボクの場合はリングサイドで観ているわけだから、いろいろと聞かれたり教えたり。
――ちなみにケイさんの『PRIDE』におけるベストバウトはどの試合になりますか？
ケイ　自分が唯一慟哭したのは、ドン・フライvs高山善廣かな。
――あの壮絶な殴り合いがベストバウト！
ケイ　アレはいま思い出してもゾゾっと鳥肌が立つよ。あの試合後のパーティーのときなんて、ドンの肩でひとしきり泣いたよ。「バカヤロウ！　何であんな試合するんだ……」って。アイツはファイターとして当然の試合をしたつもりだから、ボクが泣いてるのが不思議でしょうがないんだよね。ボクも泣いたけど、シマも泣いてたな。「やっぱシマも純粋なんだな」って思ったね。
――従兄弟の島田参謀長とはキャラが違う、と。
ケイ　ああいう素晴らしいバウトを見て泣けるのは根が純粋だからだと思うよ。で、そのパーティーに高山も来たわけよ、顔半分腫らしてさ。一週間前に結婚した高山の奥さんが挨拶をしたんだけど、それがまたシビれる内容！　「今日のダーリンはボコボコでヒドい顔しちゃってて、負けちゃったけど、いままで一番ステキに見えます！」って。それ聞いてまたブワーッと涙が出ちゃってね……ホントあの日は泣いてばかりいたよ！
――あの試合はあらゆる部分で〝プロ〟を感じさせる試合でしたよね。他に印象に残った試合はありますか？
ケイ　五味（隆典）クンとハウフ・グレイシーかなぁ。あのときは五味クンの名前、呼び間違えたからね。ホントごめんなさい！
――「ごみ・たかひろ！」って言ってしまったんですよね（笑）。
ケイ　デカい字でメモに「ごみ・たかのり」って書いてあるのを見ながらそう言ったんだぜ（笑）。すぐ訂正したけども、開始6秒でハウフ・グレイシーを倒してくれて、そのとき一番うれしかったのがたぶん俺。
――変なアヤをつけなくてよかった、と。
ケイ　これで五味クンが負けていたら、俺は土下座して謝ったってダメだよね。それからというもの、五味クンのコールは慎重にね（笑）。あとは先日のグランプリでケビン（・ランデルマン）がミルコ（・クロコップ）をKOした試合も印象的だな。ボクはリング下から「ケビン、やったな！」って言ったわけ。そしたらケビンがリングを降りたときに、ベチョベチョの汗まみれの身体でハグしてきて。タキシード姿が台なし（笑）。でもケビン

Kei Grant

『ハッスル』は楽しいよ。気になる存在はジョー・サン！（笑）

02年2月22日『THE BEST』大会前のリングで行われた『PRIDE.19』公開記者会見。カードごとに対戦者が対峙して、試合への意気込みを述べるスタイルが取られたが、UFC時代からの因縁を引きずるケンシャムとフライが掴み合いの大乱闘！

ケンシャムとドンが揉めたとき、スタッフは俺ひとりしかいなかったんだ

はスゴクいいヤツ！

――ケビンは人間味溢れる選手ですからね。

ケイ　夜の街角でケビンと会ったりするじゃない。「ワルさするんじゃねえゾ！」とか冗談言ってんだけどね。あとケビンは指輪が好きだからさ、「ヘイ、ケイ！指輪は元気か？」とか言ってきておしゃべりするわけ。自分には『PRIDE』のオフィシャル・ナビゲーターとしての自負があるから、そういう意味では、ひとりでも多くのファイターと交流を持っていきたいんだよね。

――気難しい選手も多そうですけど。

ケイ　たとえばグレイシー一族なんかは試合前、かなりナーバスになってるじゃない。でも大会が終わって、ホテルのモーニングで会ったりすると、ハイアンだってヘンゾだってニコニコとハグして握手して。じつにキューティでピースフルなグレイシー一族。そこをカメラは追うべきだと思うよ。

――世間が思ってるグレイシー像とは違う、と。

ケイ　ヘンゾなんかはもの凄い紳士。かならず両手で握手してくるからね。彼らをヒールとしてとらえるのは間違っているよ。

――でも、リング上のハイアンって怖くないですか？　目が完全にイっちゃってて。

ケイ　赤塚不二夫の漫画でいうところのグリグリグリっていう目になっちゃってんだよね（笑）。コールしてる最中に殴りかかりそうで怖いんだよ。実際に始まってしまったのが、後楽園ホールでのドン・フライとケン・シャムロック。あんときはまいったよ！

――『BEST』の大会前のリング上で『PRIDE・19』の記者会見をやったときの騒動ですね。もともと深い確執があった両者が会見で乱闘を始めちゃったという。

ケイ　リング上にファイターがズラッと並んでいるんだけど、スタッフは俺ひとりしかいないんだよ。そうしたらドンとケンシャムが鼻面合わせてやり始めてさ（笑）。

――それを客席にいたガイ・メッツァーが呑気に煽ってるんですよね。ケンシャムの弟子なのに止めないんですよ（笑）。

ケイ　俺は「ユーガイズアージェントルマン！　オーライ!?」って、できる限り収めようとしてたんだけど始まった！　ヒース（・ヒーリング）たちがすぐ飛んで駆けつけてくれて。ドンを「クールダウン、クールダウン」って押さえながら、「心配ないよ」って俺にウィンクしてくれたんだよ。ヒースはホントに頼もしく見えたなぁ。

――で、『PRIDE』で活躍される一方でケイさんは『ハッスル』にも登場しているわけですが、ケイさんが本部席で『ハッスル・ハウス』をゲラゲラ笑いながら見てる姿を目撃してるんですよ。

ケイ　見られていたかぁ。だってさ、『ハッスル』は楽しいじゃん。

――じゃあ、しょうがないです（笑）。『ハ

K-1、アントン総帥、DSEのトライアングル蜜月時代も経験しているケイさん。インタビュー中でも触れているが、国立競技場『Dynamite!』の大舞台でもコールをしている。

"夜のクラブ活動"で長州さんと何回も同席させていただいています

ッスル』って従来のプロレスとはだいぶ違いますけど、何か印象的な部分はありますか？

ケイ　『ハッスル』は「ファイティング・オペラ」って紹介されてるけども、観に来たお客さんが楽しさ、凄さ、美しさでお腹いっぱいになって帰ってくれればいいと思うんですよ。そのテーマに回を重ねる事にドンドン近づいているとは思うよね。そのひとつの要因には野次があるかな。野次ってムードメイクになるよ。ホントにいいタイミングでいい野次を飛ばしてくれるファンには頭が下がるね。プロの"ヤジラー"っているなって。

――川田さんとモンスターCの絡みから生まれた「K！」「C！」合唱も、すっかり定着してますよね。

ケイ　ああいうのって、もともとあったものなの？

――天山選手がモンゴリアン・チョップをやるときにファンが「シューッ」って言ったり。むかしだと、川田さんが蹴りを打つときに「シャー！」って観客が合いの手を入れるというのが脈々とあったんですけどね。まさかモンスターCとのやりとりがブレイクするとは思いもしなかったです。

ケイ　あれって、ファンたちの心の中に瞬間赤外線装置があるのかと思ったよ。申し合わせたように「C！」ってなったじゃない。アレは美しかったねぇ。

――『ハッスル』を舞台裏から御覧になって、他に気になることはありますか？

ケイ　（即座に）それはジョー・サンでしょ！

――『ハッスル』でまだ一試合もしてないのに（笑）。

ケイ　俺さ、ジョー・サンの大ファン！　アイツは「闘い」と「笑い」というものを両方わかってるよ。

――なんたってジョー・サンは、K―1ルールで角田さんからダウンを奪ったこともありますからね！

ケイ　『BEST』のときはファールカップしないで出たりしてたけどさ（笑）。彼は話してみると凄く紳士でシャイなんだよね。

――『紙プロ』でインタビューしたときは、歌を歌ったりして大変だったんですよ。

ケイ　それがアイツが押し出したいジョー・サン像なんだろうな。

――シュートファイトよりプロレスのギャラのほうが高い男としては。

ケイ　最初にジョー・サンを『W―1』でコールするときに、「俺はキミをなんて紹介すればいいんだ？　キミはなんて呼ばれたい？」と訊ねたら、「ジョー・サン・ザ・サムライ……」っておもいきりクールに言うからね（笑）。

――自己申告サムライ！　まるでトム・クルーズですよ（笑）。そういえば、ジョー・サンは呼ばれてないのに『ハッスル5』にやって来たという話を聞いたんですけど。

ケイ　たしかなことはわかんないんだけど、「勝手に来日したんだろうなあ」って思わせることはあったよ。だって彼だけ楽屋がないでしょ。

――それは決定的な証拠です（笑）。

ケイ　横アリで『PRIDE』をやるときにインタビュースペースとして使う場所があるじゃない。『ハッスル』は試合後のインタビューがないからそこは使わないんだけど、そこのシャッターの隅っこにジョー・サンがへたり込んでるわけよ。

――それは素晴らしい光景ですねぇ。

ケイ　いいよね、出稼ぎなかんじがして。ジョー・サンにはずっと出続けてほしいな。あと（タイガー・ジェット・）シン様も！

――ジェット・シンの暴れぶりは、先日の『ハウス』＆『ハッスル6』のMVPでしたよね。

ケイ　彼はきっとスイッチが入ると止まらないんだよね。"止まらない"っていうのは、身体の中に脈々と流れるエネルギーを持ってるから言える言葉じゃん。還暦なのに"止まらない"なんて言える？

――常人には無理な話ですね。

ケイ　ホント凄いことだよ。だって四方で暴れ回ってイスを全部グチャグチャにして、そのあとで試合するんだよ。大会前のライトチェックでレフェリーの野口大輔がプレデター役で客席を暴れ回って一周してきたんだけど。もの凄く息切らしながら「プ、プレデター、凄いです」って言ってたからね。

――プレデターはまだソフトな客席蹂躙だから、それを考えたらジェット・シンのエネルギーはとてつもないですね。

ei Grant

高田総統は喋りが上手いねぇ。間が絶妙ですよ！

ケイ　そんな体力はね、日本だと（長州）力さんじゃないと無理だね。

――日本では長州力だけですか！

ケイ　もう50歳すぎてるけど、力さんもそう感じる何かがあるじゃない。俺は『PRIDE』で仕事をする前から、"夜のクラブ活動"で長州さんと何回も同席させていただいているんだけど、心の底から尊敬に値する人。

――ケイさんのHP日記では、「いつも飲みの席ばかりで、初めて目の前で見た本物のリキ・ラリアートはモンノスゲーPOWERだった!!」ってことですけど。"夜のクラブ活動"だけが接点で、リングの姿を見たことはなかったんですか？

ケイ　それはなぜかというと、新日本プロレスの1・4東京ドームにはよく仲間たちと寄り添って行ってたんだけど、廊下が新年会のゾーンになるわけだよ。モニターがあるから、客席になんか行かないでそこで飲んでるんだよな。

――だから生で見たことはなかった、と。

ケイ　そういうこと（笑）。

――長州さんとお知り合いになったのはどういうきっかけなんですか？

ケイ　長州さんが倍賞さんのお店にお見えになられたときにお話させていただいて。そこに大関の武双山がいたり、専修大学体育会OBみたいな感じだったんだよね。大関もいい人でスグに「兄弟なろうぜ！」ってかんじ。それからもうブラザーよ。

――武双山とはそんな仲なんですか。

ケイ　うん。とってもイカシタ兄弟！でも長州さんに関しては「仲のいい友人です」とかは、おこがましくて言えないですよ。「憧れの人です」としか言えない。長州さんと飲むときは、背筋を伸ばしてビシッってかんじ（笑）。

――長州さんはどんな話をするんですか？

ケイ　プロレスとか格闘技の話は一切しない。それをしちゃうとONになっちゃってOFFにならないんだろうね。あくまでも普通の人間的な会話だよ。長州さんは量は飲むけど暴れないし、人に無理矢理強いることもないし、マイペースで飲んで「みんなも自分のペースで飲んだらいいじゃないか」って凄くジェントルだよ。それにお金は絶対に払わしてくんない。

――カッコいいなあ。

ケイ　ホントの男だよね。そういう人ってたしかに多いんだけど、それはただ財力に恵まれてるだけであって、長州さんの場合は自分が破綻してても払わせないと思うんだよね。だから憧れちゃうんだよ。

――男の鑑なわけですね。話は『ハッスル』に戻りますが、先日の『ハッスル6』名古屋大会はかなりの盛り上がりで、いままで一番面白かったという声も挙がってます。

ケイ　そうそう。ホント楽しかったからさ、もうその日は延泊して帰りたかったよ。名古屋に初上陸ということもあったけど、当日券を求めて1000人以上

も外に並んでたじゃん。あれにはビックリしたよね。

—大会開始が遅れたのもその行列が解消されなかったからなんですよね。

ケイ　だって窓口ひとつなんだもん（笑）。

—「どうせそんなに並ばないだろう」ってナメてたんでしょうね（笑）。『ハッスル』はあれぐらいの会場規模がちょうどいいんじゃないかって思いました。

ケイ　うん！　ちょうどいい会場だったね。

—いままでケイさんが経験した会場というと、『Dynamite!』の国立競技場が一番大きいと思うんですが。

ケイ　あのときは自分の人生がいままで続いていたことに感謝したねえ。観客動員は9万1107人。つまり、9万1107分の1の仕事をしたわけだから。俺がリングに上がって場内が暗転して、リングだけにピンスポ当たったときの感じって、国立競技場のサイズのエアクラフトに乗って小宇宙を旅してるかの如くだもんね。9万1107人の溜息ってさ、大きなうねりとなって、丸まった絨毯が広がっていくが如く会場を這ってリングにやってくるんだよ。半分恐怖と半分感動。それを身体全体でビシビシ感じて、そこで俺が「レディース&ジェントルマン！」——2000年の『PRIDE』デビューみたいな緊張感でリングに上がったんだけど、結果的に大いなる感動が返ってきたね。

—あのときは猪木さんが空から降ってくるビッグサプライズが印象的でした。

ケイ　最高！　還暦の親父がさ、突起物の多い東京の夜空から降りてくるんだから。あんとき猪木さん、保険に入ったんだよね。10億円だっけ？

—保険の額は知らないですけど、猪木さんが『LEGEND』に協力した罰ゲーム的意味合いもあって、ギャラはもらってない噂は流れてました（笑）。

ケイ　何から何でも破天荒だね、猪木さんは（笑）。あのときも思ったけど、「あんなとっつぁんもいるんだから、俺がココでビビッてる場合じゃないだろう」と。

—そういうチャレンジ精神的なことでいえば、よくケイさんは「いつ試合に出るの？」って聞かれるそうですね。

ケイ　そろそろ『ハッスル』に出るって言われてるらしいじゃん（笑）。そういう願望はまるでないけど、受け身ぐらいはできるようにしておかないと危ないのはたしかだよね。シン様にいつ襲われるかわからないし（笑）。いまから髙田さんの所やシマ・エンタープライズに行って鍛えようかな？

—髙田さんとも親交があるんですか？

ケイ　髙田さんは酒飲むと楽しい人なんだよ。俺は向井（亜紀）さんの方が付き合いが古いんだけどね。髙田さんと結婚したときの結婚VTRのナレーションも俺だし。

—へえ〜。いろいろと繋がってるんですね。

ケイ　『金曜プレステージ』で、亜紀さんは出役で俺はナレーターだったんだけどね。一回飲む機会があったんだけど、凄え酒が強くてね。死ぬまで飲むからさぁ（笑）。

—夫婦揃って大酒豪（笑）。髙田道場も酒豪の集まりらしいですね。

ケイ　「（豊永）稔が死にました！」「置いて行け！　次の店、行こう！」ってかんじ（笑）。

—髙田さんと言えば髙田総統と親交が深いですけども、ケイさんから見て総統のMCはいかがですか？

【けい・ぐらんと】178センチ、100キロの巨体を誇る『PRIDE』オフィシャル・ナビゲーター。DJ、声優、モデルと活動も幅広く、先日の『日米野球2004』でもスター選手をコール。デビューのきっかけはJ-WAVEから。あの鈴木雅之に「ただのDJじゃなくて、不良のハートを持っている」と言わしめた、男の中の男だ！

Kei Grant

願わくばいつかは日本のマイク・バッファみたいになりたいですね

ケイ　あぁ、髙田さんとよく似てる人ね。間が絶妙ですよ！　総統は喋りが上手いねぇ。

—総統のマイクが『ハッスル』の事実上のメインイベントになってますよね。

ケイ　「チキン君、君はYAWARAちゃんより弱いんじゃないのか？」って言ったりさ、ホント最高だよ！　でも、髙田さんは総統ほどは喋りはうまくはないじゃない？

—髙田さんも独特な言い回しが面白いですけど、総統レベルではないですよね。

ケイ　顔は似てるんだけど、違うんだよな（笑）。ボクも総統に負けないように頑張りますよ。

—では、最後にケイさんのこれからの抱負を聞かせてもらえますか？

ケイ　ボクシングでは畑山（隆則）のタイトルマッチとかを何戦かコールさせてもらったり、『PRIDE』でもオフィシャル・ナビゲーターをやらせてもらってますけども、願わくばいつかは日本のマイク・バッファみたいになって、「この試合はアイツじゃないとダメだ！」って指名されるぐらいな人になりたいね。普段はラジオ、テレビでおちゃらけてても、ここ一番で呼ばれるような人間を目指しつつ、これからも精進して参りたいと、この様に念じ続けております。

—わかりました。今後のご活躍を期待しております！

ケイ　あ、それともうひとつ！　選手の名前をコールし間違えないように気を付けます！（笑）。

【04年10月29日／四谷『ルノアール』にて収録】

「いい加減にしとけよ、オマエ……」

「川田さん、ボクは試合で目立ちたいんスよ〜」

『ハッスル』名物!

"石狩劇場"本誌に初上陸!

ハッスル師弟インタビュー

ハッスルK 川田利明 with 石狩太一 ISHIKARI

聞き手/坂井ノブ
構成/ジャン斉藤
撮影/丸山剛史
designed by matsu (TwoThree)

川田利明が"ハッスルK"としては本誌初見参! そして"ハッスルK"といえば、忘れてならないのが石狩太一! 試合前の控室で無礼な態度を取る石狩に"ハッスルK"が容赦ない突っ込みを受けるスキットは定番になっている。今回の師弟インタビューでも石狩は、非常識な行動を……!?

――今日は、川田さんとその弟分である石狩太一選手の〝ハッスル師弟〟インタビューをお送りしたいと思います！……が、石狩さんの姿が見えないですね。

川田 （周囲を見渡して）……さっきまでここにいたんだけどね。

――行方不明ですか（笑）。

川田 うん。この前に、別の取材で俺のインタビューがあったんですよ。石狩はそれが終わるのを待ってたんですけど、いつの間にかどっかに行っちゃってね……。ホントにすみません。

――いえいえ。しかし、とんでもない付き人ですね（笑）。

【ここで石狩太一が遅れて登場】

石狩 ……あっ！　もう始まってるんですか⁉

川田 （石狩を睨みつけて）バカヤロ！　何をやってたんだよ‼

石狩 いや、ちょっとラーメンを食べに……。

川田 ラ、ラーメン喰いに行ってた⁉　なんでだよ？（唖然としながら）。

石狩 いや、腹減ってたんで（キッパリ）。

――ダハハハ！　大物ですねぇ。

石狩 前の取材が「しばらくかかる」と川田さんが言われたんで……デヘヘへ。

川田 だからって、ここでもメシは喰えるんだから外にいくことはないだろ。それで俺や記者さんをを待たせるなんてヒドイ話だよ。

石狩 す、すいません。

俺が石狩に気を使ってるんですよ（ハッスルK）

川田さんには普段からよくしていただいてます（石狩）

Hustle K with Ishikari

――いやあ、いきなり抜群のコンビネーションですね（笑）。

川田 『ハッスル』のスキットぽっくて？

――はい。プライベートでも石狩さんはこんな調子なんですか？

川田 普段から非常識な奴なんですよ、ホントに。

石狩 （薄ら笑いをしながら頷く）。

川田 『ハッスル5』のスキットでコイツが弁当喰ってるシーンあったでしょ？

――控室で川田さんがトレーニングする横で、「今日は試合がない」という石狩さんが呑気に弁当を食べるスキットでしたね。

川田 『ハッスル』の控室にはいろいろ弁当が用意されてるんですけど、俺は試合前は食べないんですよ。でも、コイツは「ボク、試合ないですからぁ」ってホントに食べてますから。

――あのスキットは現実を忠実に再現していたわけですか（笑）。

石狩 でも、一番安そうな弁当を選んでいますから……。

川田 そういう問題じゃないだろ！（と、勢いよくアタマをブン殴る。）

石狩 イタッ！　ホントに痛いです、川田さん……（頭を抱えながら）。

――ダハハハ！　情け容赦ないですねぇ。

川田 今日は『ハッスル』のシャツも忘れてくるし。一旦シャツを取りに戻ってるんですよ。

石狩 ……（気を取り直して）か、

ハッスル名物 〝石狩劇場〟とは何か？

1980年北海道石狩市出身、デビューして2年足らずの新人選手・石狩太一が大先輩の川田を前にして、制裁必至の無礼を尽くすハッスル名物のことである。当初はやられ役としてスタートした石狩だが、川田をナメてるとしか思えない薄笑い＆非常識さが好評を博して、いまやすっかり主役になってしまった。

『ハッスル3』で行われた川田vsミック・フォーリーの三冠戦。石狩はその調印式の席でミックに有刺鉄線バットでボコボコにされた。同大会の控室で〝ハッスルK〟変身前の川田の前で「ハッスル、ハッスル！」と、うっかり腰を振りデンジャラス・キックをケツに喰らう！

『ハッスル4』で「小川さんに頼まれたんスよ～！」と薄笑いとともにトラックスーツを手渡す石狩。困惑する川田を気にすることなく、『ハッスル』ポスターの川田イラストを指差し「これを着てハッスルしろってことじゃないですか～」と再び薄笑い。「バカこけ～っ！」と顔面キックをもらう。

場所やスタイルに違いはあれどお客さんが帰るときに満足することが一番（ハッスルK）

川田さんの車でここまで来たんですけど、電車で戻って持ってきました。

川田　付き人失格だよ、まったく。

――石狩さんは川田さんの付き人になられて、どれくらい経つんですか？

石狩　1年以上ですね。川田さんから直々に指名されたので嬉しかったです。レスラーとしてもそうですけど、すべての面で尊敬してますし、普段もよくしていただいてます。

――川田さんは石狩さんを付き人に指名したのはどういう理由からなんですか？

川田　いや、若いのがコイツしかいなかったから。しょうがなくね。

――しょうがなく（笑）。

川田　俺が逆に気を使ってるんですよ。今日のラーメン事件のように。

――川田さんが付き人状態ですか（笑）。『ハッスル』携帯サイト「石狩写真日記」を拝見したんですけど、いろいろ楽しいエピソードがありそうですね。

川田　ん？　なんか写真出したのか？（石狩に向かって）。

石狩　はい。大会後に荒谷（望誉）さんと3人でメシ喰いにいったときの写真を……。

川田　チヂミのときのか？

石狩　はい。酔っぱらった荒谷さんが「ニラ、キムチが入ってないチヂミはチヂミじゃない！」って川田さんに絡んだときの話です。

――最後は、絡んだ罰として一気飲みさせられて完全に仕上がった荒谷さんが「川田さん、暴言吐いていい？　アンタ最低の人間だ！　ハハハー！」と吠えたりして、かなり大暴れされたそうですね（笑）。

川田　荒谷も非常識な男なんですよ。でも、そういう奴も大事だからね。いまはサラリーマン化してるでしょ、レスラーが。

――酒飲んで大暴れするするぐらいはOK！と。

川田　そう。犯罪を犯さなければいいよ。石狩もただ非常識なだけだから。

――リング上の展開とはあまり関係のない部分が、『ハッスル』のスキットを通じてクローズアップされてることについては、どう思われるんですか？

川田　俺はお客さんが楽しんでくれればそれでいいと思ってるから。それも『ハッスル』の楽しみの一部であるならば、こっちも一生懸命やる……まぁ一生懸命というのもおかしな話だけどさ。

――スキットに限らず、川田さんが〝ハッスルK〟として、一生懸命に取り組んでいるのはひしひしと伝わってきています。

川田　そうしないといけないだろうし、それは全日本や他のリングに出たって一生懸命やることに変わりはないから。

――石狩さんは、スキットを通して脚光を浴びてることにはどう思ってるんですか？

石狩　どうなんですかね。試合で目立ってるわけじゃないんで……。

川田　（遮って）バカ。どんな理由にせよ、スポットを浴びるということは、おいしいんだよ。

石狩　はあ……。そういうもんですか？

川田　だって、長州さんが『ハッスル』で大歓声を浴びているのは、名前の影響が強いこともあるだろ。「長州力」という名前を誰でも知ってるから、お客さんは歓声を送るんだよ。まずは「石狩太一」という名前を覚えてもらうことが大事なんだって。お客さんにどう思われようが、『ハッスル』での〝石狩劇場〟は定着してきたんだから。それはそれでいいことなんだよ。

――石狩さんがビジョンに映った瞬間、お客さんの期待感は膨れあがってますよね。

川田　『ハッスル』で名前が定着してきたというのはおかしいけど、スキットに出ることによって全日本にいるより注目を浴びてるから。あれがなきゃ寂しいしな。

――欠かせなくなってきましたよね。わずか3回ですけ……。

モンスターCと因縁が生まれた川田。控室で宿敵との対戦に備えていると、「今日は試合がない」石狩が香気に弁当を食い始め、爪楊枝で「シー、C－！」やり始める。トレーニングでもご覧の通り。ブチ切れた川田は背中にデンジャラスキックを炸裂。「K」の字に倒れ込む石狩であった。

それに バイト代も出るんですよぉ～

川田の新日本〝アルバイト〟参戦問題が浮上する中、「レポーターのバイトで～す（ニヤニヤ）」「カタブツの川田さんに話を聞けるのはボクだけ」など暴言連発。やっぱり制裁！「バイトなんかするんじゃなかった……」と撃沈。

「ちゃんとしたのをつくってもらえよ！」川田にダメ出しされた石狩のコスチュームがこれ。ただし『ハッスル』で試合機会が少なく、控室が主戦場となっている石狩なので、新調されることなく継続される公算が高い。ちなみに高田総統からは「中途半端な金髪！」「君らは誰なんだ？」とまるで眼中に入ってない発言を頂戴している。

俺の心にハッスルがあるのは、小川本人が一番わかってるんじゃない

（ハッスルK）

石狩　（遮って）いや、4回です。川田さんに最初に「ケツ」を蹴られて、次に「背中」を蹴られて、そして「顔」「胸」とやられてますから。

――そういう覚え方ですか（笑）。石狩さんはヤング・ハッスルの中では一番目立ってますし、他の面々は羨ましがってないですか？

石狩　「おいしいですねぇ」って言われますね。『ハッスル』は首都圏しかやっていなかったのに、名古屋の『ハッスル6』でもボクがビジョンに出てきたら沸いていたんで、それだけお客さんにも知られてきたかなと思います。

――『ハッスル6』は大会自体への反応も総じて良かったですよね。

川田　それは東海テレビで『ハッスル』を深夜ながらも地上波で放映してる影響が大きいだろうね。お客さんも『ハッスル』の世界を理解して楽しんでるファンが多かったと思うし。これで全国ネットで放送が始まったとしたら、もっともっと『ハッスル』を楽しめるお客さんは増えてくるよ。

――その世界観を知れば知るほど、選手との距離が縮まっていくわけですからね。

川田　ただ、ひとつだけ『ハッスル』で気になるのは、リングの上のミラーボールやシャンデリアかな。あれ、なんで付いてるの？

――派手に装飾することで、従来のプロレスとは違うことをアピールしてるんじゃないですか？

川田　それがシャンデリアというのはどうなのかなぁ……（腕組みして考えながら）。

――まあ『ハッスル』に関しては、深く考えるとキリがないことがたくさんありますからね（笑）。

川田　でも、ビジョンは絶対に必要なことはわかったよ。あれがあるとないとじゃ、だいぶ違ってくるよ。『ハッスル』に限ったことじゃなくて、どのプロレス会場でもビジョンはあったほうがいいよね。

――物語の流れを紹介できるから、お客さんにわかりやすいし、やさしいですよね。

川田　石狩の非常識さも、もっとよく伝わるしな。

石狩　い、いや、そんな……。

川田　あとヤセマッチョな身体もな。コイツは女の子にモテたいから、この身体をキープしてるんですよ。石狩は〝ハッスル・キング〟（橋本）と会うたびに「オマエ、わざと痩せてるんじゃなかろうな？」って言われてるんだけど。

「お客さんが満足するのが一番」とプロレス観を語る〝ハッスルK〟。しかし、大先輩のありがた～いお話に石狩は飽きてしまってご覧の表情。非常識さ炸裂だ！

武藤&三沢が超夢合体!!

武藤敬司デビュー20周年記念大会 ～10·31両国国技館～

さらなる"夢の続き"は？

7・10NOAH東京ドームでタッグながら"初対決"をはたした武藤と三沢が「夢の続き（武藤）」。タッグを結成し健介＆馳組と対戦した。90年代・新日本で武藤でしのぎを削っていた馳と健介は、武藤の20周年には欠かせない存在。三沢は健介と"初対決"であり、馳とは"全日分裂"以来の激突。記念マッチに相応しい要素が詰まった一戦は、武藤がエメラルド・フロウジョンからのムーンサルト・プレスで馳から勝利。

川田が三冠を"取り戻す"！

西村との防衛戦の入場時に、太陽ケアの襲撃を受けて三冠ベルトを強奪され、ケアの凶打に「目から星が出た」というプロレス史に残る名言を吐いた川田が、王者ながらベルトを取り戻すためにケア戦へ。「アタマを打ってなにも覚えてない。アタマ痛い、クビも痛い、肩も痛い」と、試合後に"痛い"コメントを連発するほどの激闘の末、川田が防衛に成功。

MUTA vs ムタ実現!!

予告されていたラブ・マシンズの「巨人？？？」は巨人でも「小さな巨人」、正体はグ●●浜●。試合後、マシンズはGREAT MUTAを呼び込み、MUTA vs ムタの決着戦を呼び掛けた。

"無我"vs"呪術師"

タッグながら"無我"vs"呪術師"が実現！　ブッチャーのフォーク攻撃や地獄突きで悶絶する西村は試合後、英語で「ドリー・ファンク・ジュニアを連れてくる！」と挑発。

"鶴田二世"諏訪間！

期待の超新人・諏訪間が、同期の雷陣明を寄せ付けず。豪快なジャーマンスープレックスで格の違いを見せつけた。

AKIRAも参戦

カズの世界ジュニアヘビー級王座にAKIRAが挑戦！　王座奪取には失敗したが、AKIRAは「面白かった！　エンジョイした！」と御満悦！

「リストラの意地を見せろ！」

小島は大型マスクマン、ラブマシンXに圧勝。正体に気づいた観客からは「リストラの意地を見せろ」とヤジ！

——石狩さんはモテるんですか？

石狩　サッパリですねぇ。

川田　でも、首都圏の興行で毎回石狩目当てに来る子がいるよな。ロリコン・アイドルっていうの？　雑誌モデルで有名な女の子が石狩のおっかけなんですよ。

——へえ～！　モテるじゃないですか！

川田　こないだ「太一クンと結婚したい！」って言われたもんな。

石狩　「ぜひお願いします！」って言いました（笑）。

——その女の子はおいくつですか？

石狩　16歳ですね。

——16歳！　一歩間違えると犯罪です（笑）。

石狩　ボクが練習生のころからおっかけしてるんですよ。最初は小島（聡）さんのことが好きで来てたんですけど。

——女性人気が高い小島さんから強奪した、と。

川田　そこも非常識。石狩は恰好にセンスがないんだけどねぇ。ヤング・ハッスルの黄色いタイツに黒いシューズを履いて、Tシャツをタイツの中に入れているから。

——水色のニーパットを川田さんに突っ込まれていたときもありましたね（笑）。

川田　だって似合わないもん。もっとハッスルすれば、DSEに新しいコスチュームを作ってもらえるんじゃないの。笹原GMのギンギラジャケットみたいなタイツをつくってもらえよ。

石狩　GMみたいなコスチューム……が、頑張ります（力なく）。

——川田さんも『ハッスル4』からコスチュームをブルース・リー風に一新されて、"俺だけのハッスル"という言葉も飛び出したことで、"全日本プロレスの川田利明"とは違う一面を打ち出しました。

川田　うん。ウチの武藤（敬司）社長が「武藤敬司」と「グレート・ムタ」を使い分けてるけど、俺は使い分けてるんじゃなくて、その場所、その雰囲気、そこにいるお客さん、そして『ハッスル』のスタッフがそうさせてるんだと思う。あの恰好をすることに抵抗はあったし、こんな恰好していいのかと思った。思ったけども、『ハッスル』のリングに上がって、『ハッスル』のお客さんの雰囲気を感じて、そしてスタッフや選手たちの情熱を感じると、ここではやらなきゃいけないのかなってね。だから、もし他の会場で"ハッスルK"をやれといっても、それは無理な話ですよ（このインタビューは11・13新日本大阪ドーム大会前に収録）。

——『ハッスル』の熱に突き動かされた部分があったわけですね。

川田　うん。そういう気持ちになった。それがなかったら、俺があの恰好をする理由やメリットはまるでないよ。

——自己満足的な動機だったら、それこそコスプレ・パーティーになりますよね。

川田　あの『ハッスル4』のメイン

イベントは、小川のパートナーが「X」だったでしょ？　俺としてはね、普通の恰好でまずは試合をして、俺はその「X」としてあの恰好で登場したかったんだよね。

――ああ、それは盛り上がったでしょうね！

川田　結局、その「X」は長州さんに取られたけどね。

――いや、それは長州さんの登場よりインパクトがありましたよ！

川田　俺も『ハッスル』のことはいろいろと考えてるんだよ。

――ダチョウ倶楽部のリーダーを突然リングに上げて「ハッスル、ハッスル！」したこともありましたし。

川田　あれはたまたまだけどね。あれ以来『ハッスル』のスタッフから「イベントの途中で締められると困るから、ハッスルポーズはやらないでくれ」って止められてるんだけど（笑）。

――そうなんですか？（笑）。そういうハプニングまで含めて十分に楽しめるんですけどね。

川田　お客さんが帰るときに満足すれば、それは『ハッスル』に限らず、どの団体で試合をしても、それはそれでいいと思うし。場所、スタイルの違いがあるとしても、それが一番だと思う。みんなお金を払って見に来てるんですから。

――石狩さんは、川田さんが初めてトラックスーツを着られたときはどう思われたんですか？

石狩　いやぁ、ビックリしましたねぇ。

川田　「ビックリした」って、オマエが小川に頼まれてアレを持ってきたんだろ。

石狩　でも、〝カタブツ〟の川田さんが着るわけないだろうなあと。

川田　（ギロリと睨んで）誰が〝カタブツ〟なんだよ。

石狩　し、失礼しました！

――ダハハハ。しかし、1年前の川田さんには思いもしない光景ではありますよね。そこには、川田さんの22年間のプロレスラー人生で開けたことのない引き出しをリング上で開けてるんじゃないと言うドキドキ感があるんですよね。

川田　そう？　俺にはよくわかんないけどね。

――そしてしっかりハマったからこそ、色使いが正反対のトラックスーツを着たモンスターCが登場したと思うんです。後楽園のお客さんから「C！」「K！」合唱が自然発生して、名古屋でもその大合唱で沸きに沸いてました。

川田　アレはどうなのかな。自分ではあんまりそういうのはいらないとは思ってるんだけど。結局はお客さんが楽しんでくれるなら、あってもいいのかなと思うね。

――すっかり『ハッスル』名物になってますからね。名物といえば、やはり高田総統という非常にキャラクター化された怪人物も『ハッスル』で欠かせなくなってるわけですが。

川田　俺が言うのもおかしな話だけど……高田総統は凄いと思うよ。

――凄いですか！

川田　真剣に『ハッスル』に取り組んでるのを感じる。俺にはできないよ。それ以前に俺は汗かきだから、あんな恰好はできないけどね。

――その高田総統が川田さんの他団体出場を取り上げて、〝アルバイト〟という言い方をしてますが、それについて何か反論はありますか？

川田　俺はアルバイトなんてつもりでリングに上がってるわけじゃないし、そこのリングに上がったら精一杯そこのリングのことを考えているよ。『ハッスル』のリングでどれだけの強い気持ちが持っているかということは、わかる人はわかってくれてると思う。

――ハッスル軍のキャプテンである小川さんも他団体出場を指して、「『ハッスル』の心がないなら切る！」と、〝リストラ〟を匂わす発言をしています。

川田　……俺の心にハッスルがあるのは、小川本人が一番わかってるはずだよ。

――そもそも、ハッスル軍分裂危機の発端となった新日本参戦は、どういう経緯があったんですか？

川田　会社からそういう話がきたんですよ。俺からすると、3年ぶりで久々の新日本参戦になるし、顔ぶれがだいぶ若返ってるでしょ。そこに興味を持ったんですよ。ただ、リング上に目を向けると、いまの新日本は何に焦点を合わせてるのかはわからないところはある。選手にとって何が目標であるのかなって。

――頂点であるべきIWGPのベルトが目標だとは思えない状況ですよね。

川田　それだけじゃなくて、全体的に選手の目指す方向が見えづらい。その新日本をまとめるのは大変だと思うよ。いまの新日本を切り盛りしていくのは難しいんじゃないかな。

――ホームリングの全日本では三冠王者として確固たる地位を築いていますが、防衛を8回も飾ったことで挑戦者も限られてきませんか？

川田　いや、俺は変わり種としかやってないから。すべて変わり種の挑戦者だから。全日本の選手でいうと、（太陽）ケアぐらいかな。

――『ハッスル』でミック・フォーリーと異色のタイトルマッチを行ったこともありましたね。

川田　天龍さんだってフリーだしね。いままでの三冠でこれだけの変わり種とやってきたのはいないよ。いままでのチャンピオンは内部の選手とやってきたわけだから。

――変わり種と手を合わせるほう

他のヤングハッスルからは
うらやましがられています
（石狩）

が難しいですよね。

川田　うん。俺はいろんなタイプの選手と試合をできるのが強みだと思ってるよ。

——そこが『ハッスル』においても、川田さんが多大な信頼を寄せられる要素のひとつだと思います。『ハッスル』の中で"できるな"って思う選手っていますか？

川田　モンスターCはそれなりにこなすよね。器用貧乏というか、際立ったものがないけど、あれはあれで個性を確立してるから。あとダン・ボビッシュはよくなってるんじゃないかな。

——『ハッスル』には総合格闘技出身の選手が多くて、ポテンシャルはあるんですけど、まだまだキャリアが足りてない選手が多い状況ではあります。スキルやキャリアがあって、なおかつビッグネームの川田さんの存在は大きなポイントになってくる思うんですよ。

川田　それは『ハッスル』が今後も続いてくれれば、誰もがわかってくることだろうね。だからっていますべての力を出し切ってないわけじゃないよ。

——でも、もっともっと力を出す余地はあるとも思ってるんですよね。

川田　まぁね。「途中でハッスルボーズをやるな」とか、スタッフに制限されなければ。

——なるほど（笑）。

川田　制限しないと、おいしいところを持っていかれるから怖いんじゃないの。プロレスラーとして一番大事なのは、その場の雰囲気を読めるかってことなんですよ。『ハッスル』の中では、俺はまだ読める方かなと思ってるしね。

——場の雰囲気が読めない選手は何をやっても滑ってしまいますよね。川田さんのキャリアのなかで、お客さん雰囲気をの読めるのはどれくらいから実感されました？

川田　具体的にはわかんない。いまだにすべてを理解してるわけじゃないし。ひとつだけ言えることは、キャリアが短くてもわかる奴はわかる。キャリアを積んでも何もわからない人もいるだろうしね。長州さんにしたって、おいしいところ持っていくのうまいでしょ？

——『ハッスル』のリングでハッスルしているという意外性もあると思うんですが、川田さんや長州さんへの期待感は小川さんを超えている部分もありますよね。そこはキャリアの差だとは思うんですけど。

川田　小川はね、変な言い方になるけど、長い目で見るのがいいんじゃない？　『ハッスル』に賭ける意気込みはすごいから。そこは俺も理解しているよ。

——石狩さんはお客さんや『ハッスル』のスタッフ、参加している選手の雰囲気を読んだり、感じたりすることはありますか？

石狩　まだそれは……。

川田　（遮って）オマエは非常識な人間性を打ち出していけばいいんだよ。そのうちリングサイドで出前のラーメンを食ってるかもしれないからね、このコイツは（笑）。

——それはいいですね（笑）。

石狩　そんなことしないですよ！　だって、ゆっくり喰えないじゃないですかぁ。

川田　……オマエ、バカか。もしそんなことしたら、蹴っ飛ばしてドンブリを頭に被せてやるぞ。

石狩　わ、わかりました（汗）。

——でも、いまの石狩さんの話にしてもそうですけど、『ハッスル』というのは方向性はスタッフや選手では明確にはありますよね。

川田　そうだね。『ハッスル』はお客さんが求めていることをわかりやすく提供して、そして満足してもらうのが一番。ゴジャゴジャわかりづらいことがいらないよ。いままでのプロレスとは違う色を打ち出して、それで新しいお客さんを開拓できれば幸いですよ。俺はオファーを頂ける限り、『ハッスル』に上がり続けるよ。石狩も、これこそアルバイトだけど"石狩劇場"のオファーがある限り、頑張るよな？

石狩　でも、『ハッスル6』のバイト代、まだ貰ってないんですよ……。川田さん、とりあえず仮払いしてもらえますかぁ？

川田　……オマエ、また殴られたいの？

石狩　い、いや。バイト代はやっぱりいりません！（汗）。

——ダハハハ！　今後の活躍を期待しています！

【04年10月3日／都内某所にて収録】

Hustle K
with Ishikari

オマエは非常識な人間性を打ち出していればいいの
（ハッスルK）

11・13 大阪ドーム
ハッスル軍、新日本プロレスに電撃上陸するも……

なぜだ!? 総統が"ギター侍"化!!

最後のハッスル・ポーズは

阻・止・さ・れ・ま・し・た・か・ら!

残念ッ!!

阻止されましたから!!

残念っ!!

構成/ジャン斉藤

designed by matsu (TwoThree)

［キャプテン

小川直也

［新人歌手］

阻・止・さ・れ・ま・し・た・か・ら! 残念!!

大阪ハッスル事変

新日本プロレス『闘魂祭り』のリングに、『ハッスル』でおなじみ"孫悟空"スタイルで登場した"キャプテン・ハッスル"。リングインするやマイクを握り、「出てこい!　"ハッスルK"!!」と、川田利明を呼び込んだ。

闘魂祭り

ハッスル軍、スクランブル発進!　キャプテン小川の師匠・アントン総帥の呼びかけにより、急遽実現したハッスル軍の新日本上陸!!　すでに発表されていた天山vs川田、棚橋vs中邑は小川出場の余波により再編成。戦前から大きな騒動を巻き起こしていた。当日のリング上も大混乱。新日本勢が多勢でハッスル軍に詰めより、「ハッスル、ハッスル!!」と腰を振ることはならず——。上陸作戦は失敗なのか?　一夜明けた14日、現地・大阪でキャプテンを独占キャッチした!

聞き手／堀江ガンツ　構成／ジャン斉藤

designed by matsu（TwoThree）

11・13新日本大阪ドームにまさかの上陸！
ハッスル不発もキャプテン、大勝利宣言！

「あそこまで新日本が『ハッスル』を恐れてるから嬉しくなっちゃったよ！」

Captain Hustle

小川

［キャプテン 小

——キャプテン、昨日（新日本11・13大阪ドーム大会）はお疲れさまでした！

小川　お～、ガンツ編集長!!（＝小川直也が勝手に公認）。わざわざ大阪まで来てくれたんだ。

——はい。キャプテンのためなら全国どこにでも（笑）。でも、なぜか『紙プロ』はプレスルームに入れないので、昨日は客席で観させていただきました。

小川　ん？〝大統領〟（山口日昇・本誌鬼畜編集長）はなぜかバックステージでウロウロしてたけどなぁ。師匠（猪木）が中邑（真輔）を殴ったのを見て「猪木さんが一番強ぇ！」って大興奮してたし。

——いったい何をやってるんだ、あの人は（笑）。

小川　ガンツ編集長はチケットを買って観戦してたの？

——いや……その……（口ごもりながら）。

小川　何？　どうした？　ハッキリ言えよ！

——え～、プロレス会場を子どもでいっぱいにしたいという夢を持つキャプテンには言いにくいことですが……大阪の、とある●●案内所でチケットを無料配布している話を聞きつけまして、そこで手に入れたというか。

小川　（唖然としながら）は？　●●●案内所にタダで置いてあったのかよ!?

——はい。●●は割引でプロレスはタダという、非常にプロレスの明るい未来が見えない事態でした。

小川　……プロレスはいったいどうなるんだろうなぁ……!?　よりによってそんなところに配るなんて、〝ライオンさん〟は何を考えてるんだよ、まったく。

——お世辞にも満員とは言い難い入りでしたからね。ウチのジャン斉藤なんてひとりで3席も占領して寝っ転がって観戦していたぐらいですから（笑）。ドームで不入り、そして観客の熱のなさは某『LEGEND』を越えたという説が出てますよ！

小川　ダハハハ。あの〝伝説〟は越えちゃマズイよ！　たしかに鳥はいっぱい鳴いてたけどさ。

——は？　鳥ですか？

小川　プロレス会場で鳴く鳥っていったら、一種類しかいねぇじゃねえか！

——あ、〝カンコちゃん〟のことですね!!（笑）。そんな新日本のリングに久しぶりに上がった感触はいかがでしたか？

小川　大成功!!　ハッスル軍としてはまったく問題なし！

——問題なしの大成功！

小川　うん。まず今回、俺が〝ライオンさん〟に出た理由は、師匠に声を掛けられたことがきっかけだけど、来年計画している『ハッスル』大阪初上陸の身体を張ったプロモーションの意味もあったんだよね。俺自身〝キャプテン・ハッスル〟としては大阪初見参だし、〝ハッスルK〟や笹原GM、中村カントクを生で見せられただけで十分ですよ。

——新日本勢に阻まれて、最後にハッスル・ポーズできなかったことが大騒動となっています。

小川　俺から言わせると、あの騒動は『ハッスル』にとってプラスになったと思うんだよ。だって、ハッスル・ポーズをあそこまで敵視するってことは、『ハッスル』を認めてることの表れだよ。『ハッスル』をいかに恐れてるかってことが露呈した形になって、じつに気持ちがよかったよ～。

——やけに新日本の内部で『ハッスル』という幻想が巨大化してる気がしますよね。

小川　そこまで『ハッスル』を意識してくれてたのか！　アリガトー！……って感じで嬉しくなっちゃったよ（笑）。

——逆説的な意味では、ハッスル・ポーズを一番評価してるのが新日本なんじゃないかって。

小川　大きな敵として過剰に意識してるんだろうね。ある意味で『ハッスル』の格を上げてくれた点ではホント大成功なんだけど、〝ライオンさん〟のあの態度はちょっと寂しく感じるよね～。

——なにしろ揉めた原因がハッスル・ポーズですからね（笑）。実質4人のハッスル軍に本隊総動員で詰め寄ったりして、非常に大人げないというか。

小川　俺は「なんだ、ケツの穴が小っちぇえな！」と言ったことで、そこを気づかせようとしたんだけど、ホントわかってないよね。猪木さんってさ、面白ければなんでも肯定から入る人でしょ。その猪木イズムが選手にまったく受け継がれていないんだよ。蝶野さんだけが俺の言葉に反応して「やるんなら、やれ！」って言ったけど、リングに出てくるのがちょっと遅かったよね。

——出てくるタイミングが悪かった、と。

小川　だいたいね、普通に考えてみろよ!!　向こう（天山&棚橋）は試合に負けてんだよ!!　負けたあとに怒って「オマエらにハッスルはやらせない！」って胸張るなんて意味がわからないし、そもそも俺は師匠から「ハッスルしていい！」ということで呼ばれてるわけだよ。

——ハルク・ホーガンを呼んでおいて、最後に筋肉ポーズをやらせないようなもんですよね。「だったら呼ぶな!!」っていう突っ込みを入れたくなります（笑）。

小川　そうだよ。（スティーブ・）オースチンに「ビールはダメ。ジュースで乾杯しろ！」って言ってるようなもんだよ。

——ガハハハ！　しかし、あのハッスル阻止は、ある意味で労働組合的な動きというか、あそこまでオーナーの意向に逆らって一致団結するとは思いませんでした。

小川　一致団結とはまた違うんだよなぁ。どうやら若手をけしかけたヤツがいるんだよ。

——裏でハッスル阻止の黒幕がいたんですか？

小川　ケチでケツの穴が小っちゃい野郎が裏にいたらしんだよ。正体はわかってるけどね～。そんなふざけたヤツは、またやってやるから！

——〝また〟やってやる？

小川　そうだよ。また、やっちゃるけん！

——ガハハハ！　なんでいきなり博多弁になるんですか!?

小川　バカヤロウ！　久留米弁だよ！

——し、失礼しました！　大方の想像がついたビッグな黒幕はともかく、対戦相手の天山選手や棚橋選手の印象は？

小川　天山や棚橋は『ハッスル』向きの選手だよ！　やってみてわかった。

——天山や棚橋は『ハッスル』向き！　でも、2人とも『ハッスル』を否定するコメントを出していますよ。

小川　表向きはそう言うしかな

『ハッスル』仕様のコスチュームで暴れる小川&川田。小川は〝ハッスル投げ〟も披露。最後はOH砲の必殺技「俺ごと刈れ！」で棚橋を仕留めた。セコンドに付いた中村カントク、軍鶏侍、石狩太一、笹原GMたちも『ハッスル』でおなじみとなっている衣装だった。

阻・止・さ・れ・ま・し・た・か・ら! 残念!!

大阪ハッスル事変

Captain Hustle

天山や棚橋にはぜひ『ハッスル』に来てもらいたい。新日本にいるよりもっともっと活躍できると思うよ！

敵は強大、味方はわずか！　ハッスル軍vs新日本プロレス

～ハッスル・ポーズ阻止の顛末～

【ハッスル軍が天山＆棚橋組を〝俺ごと刈れ！〟で下すと、リングサイドでハッスル軍に罵声を浴びせていたヤドカリがマイクを握る】

島田参謀長（以下ヤドカリ） オイ、オイ！　小川に川田！　なんでこんなとこでバイトしてるんだよ！　オマエらの真の相手は俺たち『髙田モンスター軍』なんだよぉ！

【モンスター軍Tシャツを誇らしげ掲げるアン・ジョー司令長官。勝手な振る舞いに激怒した天山はヤドカリに飛びかかる】

ヤドカリ （怯むことなくモンスター軍Tシャツを手にして）天山、プレゼントだ！　とっとけ！

【拒否した天山は蹴りを見舞う。ヤドカリが放り投げたマイクを小川が拾う】

キャプテン （ヤドカリに向かって）オイ、オマエら！　何しに来たんだ、コノヤロウ！

【退散するモンスター軍】

キャプテン （気を取り直して）猪木さ～～ん！　猪木さん、いませんか～～っ!?

【小川が呼び掛けるが猪木は姿を現さず。逆に天山、永田ら新日本勢が20名近く大集合。ハッスル軍に詰めより、ハッスル・ポーズをさせないようにリング中央に陣取る。対するハッスル軍は、小川、川田、軍鶏侍、石狩、カントク、笹原GMのわずか5人】

キャプテン （新日本勢に向かって）なんだオマエら？　ケツのアナ小っちぇえな！　お!?　俺はハッスルをやりにきたんだよ！

【観客は大歓声】

キャプテン ハッスルをやりにきたんですよ！　皆さ～ん、ハッスルやりたいですか～～っ!?（場内に呼び掛ける）

【観客は大歓声】

キャプテン オマエら、この声がきこえないのかよ！　お客さんは何を望んでいるんだ？　おぉ？　ハッスルするぞ、ハッスル!!

【しかし新日本勢は譲らない。一向に進展しないリング上に場内騒然。歓声と罵声が交差する。新日本ファンから「帰れ！」コールが発生】

ケロ（元祖コスプレリングアナ） 17分18秒、体固め、川田利明選手の勝ち！

【強引にシメに入ったケロ。それを合図に天山が小川に突っかかり揉み合いになる両軍。退散したはずのヤドカリが再びリングサイド付近に現れマイクを握る】

ヤドカリ おいおいおい！　キャプテン！　こんなのにビビってハッスルできねえのかよ！　やってみろ、コラ！

【新日本勢がヤドカリを追っかけるが、ヤドカリは脱皮の如く逃走！　ハッスルポーズを諦めリングを降りた小川は、花道での「小川！」コールに応えて「スリー、ツー、ワン！」とハッスルポーズを敢行しようとすると成瀬がタックルで阻止！　騒然とする場内を収拾すべくケロが再びマイク】

ケロ 17分18秒、体固め、川田利明選手の勝ち！

【花道を引き揚げるハッスル軍。そのあとを新日本勢がゾロゾロ付いていく。舞台で再び両軍対峙。「挨拶するんだから退けコノヤロウ！（小川）」「……勘弁し……（真壁）」「ハッスルはしないから下がってくれ！　挨拶するだけ……（小川）」「その言葉、信じよう……（永田）」という会話が途切れ途切れ流れながら聞こえてくる】

蝶野 おい、ハッスル軍!!

【選手不在のリング中央を蝶野が占拠。舞台に向かってマイクアピールする】

蝶野 新日本もケツのアナの小さいこといってんな、オラ！　やりてえんならこいよ！　やれオラ！（リングを指差す）。

【大歓声！　怒った新日本勢がリングに引き返す。永田と蝶野は揉み合い寸前】

キャプテン （マイクなしの地声で）みんなアリガトー！

【ハッスル軍一同、お客さんに向かって一礼。バックステージに引き上げると場内からは「エ～～～～ッ？」と無念の溜息。リング上では「自由人」Tシャツを着た成瀬がマイクで吠える】

成瀬（以下自由人） お客さん！　今日、ここは『闘魂祭り』、ハッスルしていい場所じゃない！　そうでしょ!?

【パラパラと拍手は起こるが大部分の観客は無反応】

自由人 闘魂という名のもとにハッスルなんていりますか？　お客さん！　ハッスルやるならヨソでやってくれぇ！（怒）

【逆に「オマエは引っ込めバカ！」など罵声を浴びる自由人。メインイベントの試合を残して、ぞろぞろとお客が帰り始める】

今大会のMVP!?　ヤド＆アン・ジョーは殺気立つ新日本勢をアザ笑うかのように大活躍したが、地上波ではカット。ヒドイよ!

観客にハッスル・ポーズを呼び掛ける小川。大歓声が沸き起こったが、新日本勢はそれを許さず。ヒドイよ！

花道でハッスル・ポーズをしようとする小川に、「自由人」成瀬がタックルで阻止！　ヒドイよ！

最後に観客に一礼して、バックステージに消えたハッスル軍。ハッスル・ポーズができなかった観客は落胆の声。

いでしょ。〝ハッスルK〟も最初はそうだったけど、やっぱり本心を隠しちゃうからね。天山なんか『ハッスル』に来た方がもっともっと活躍できるよ。『ハッスル』にはチキン（小川）とポーク（橋本）がいるんだからさ、天山は〝ビーフ〟として来ればいいんだよ！　うん。

——〝ハッスル・ビーフ〟として（笑）。

小川 これで鳥、豚、牛が揃い踏みだよ～。棚橋も『ハッスル』に来た方が活躍できる。棚橋はいいボディしてるし、ぜひ女性層の普及係を命じたい!!

——棚橋選手は、リング外でハッスルし過ぎてスキャンダルを起こしたぐらいだから、非常に適任だと思います（笑）。

小川 2人とも『ハッスル』に来ないかな～。彼らはストロング・スタイルよりも『ハッスル』に向いてると思うよ。いまは新日本という枠の中にいるけど、アイツらが殻を破って『ハッスル』に来たら、本領発揮するんじゃないのかな。

——現実的な話でいえば、小川さんの1・4新日本のドーム大会参戦が新聞紙上ではさっそく浮上してますけど。

小川 試合後にも同じこと聞かれたよ。「次の参戦？　今回は里帰りだからすぐに旅立つに決まってるだろ！　そんなに長居しねえよ」って言ったけどね。里帰りなんて長居したら煙たがれるだけなんだよ。

——しばらく参戦はない、と。ハッスル軍に対する会場の反応なんですが、ボクの周りの席はなぜかプロレスを初めて観る方が多いゾーンで、みんな「ハッスルをやってくれるんだ！」という感じで喜んでいたんですよ。逆に一部の熱狂的な新日本ファンは「『ハッスル』なんて、ふざけんな！」って吠えてましたけど。

小川 シュートな野次は凄かったな。会場がおとなしいから、それがまたよく聞こえるんだよ。

〝ハッスル投げ〟の2回目は余計だったかな～？

——対抗戦モードのピリピリした試合として捉えている雰囲気の中で、あの〝ハッスル投げ〟を炸裂させたのはビビってたじろぎました（笑）。でも、一部の新聞は「小川に大ブーイング」「帰れコール発生」と報道してますが、現場にいた感じでは、ブーイングはほんの一部の狂信的ファンだけで、「ハッスル！」コールをしてる観客もいましたからね。

小川 まぁさ、新聞も〝ライオンさん〟とのつきあいがあるから、それはしょうがないんじゃない。

——ダハハハ。でも断言しますけど、大阪ドームが大ブーイングや「帰れ！」コール一色に包まれた事実はありませんでした。それだけなぜか新日本ファンが少なかったというか（笑）。それに小川さんの試合が終わったあと、かなりのお客さんが帰っちゃいましたから。

小川 そういえば、俺が引き上げたらお客は「エ～～!?」って言ってたしな。師匠の「プロレスとは興行である」という言葉じゃないけど、プロレスはお客さんがあってのモノじゃない。ハッスル・ポーズを期待するお客

［キャプテン

小川

さんがあれだけいたのに、〝ライオンさん〟はよくあそこまで粗末に扱えると思うよ。髙田総統とやらもお客さんをコキ下ろしてるけど、総統のMCにお客さんは大喜びしてるから、例外！

——いいんですか、〝キャプテン〟が敵の大将を認める発言をしたりして（笑）。

小川　悔しいけどな。やられっぱなしだから。いつかギャフンと言わせてやるよ！

——あと小川さんは試合後に「怒りの矛先が違うだろ！」という話をされてましたよね。

小川　〝ライオンさん〟の内部がうまくいってないことをハッスル軍のせいにするなってこと！　ホントいい迷惑。自分たちの失敗を人の責任にするという〝ライオンさん〟の十八番パターンですよ。

——天山選手や中邑選手、棚橋選手が「対戦カードを急に変えやがって！　『ハッスル』は許さない！」という具合に噛みついてましたけど、別に小川さんが変えてるわけじゃないんですよね？

小川　なぜ急に師匠がカードを変えたのかは、選手たち自身がよ～くわかってるはずでしょ？　どうしても納得いかないなら、試合に出なきゃいい話。俺に文句を言うのは筋が違うよ。

——猪木さんに対しては言えないから、小川さんにぶつけてるところはあるんじゃないですか。猪木さんといえば、小川さんが試合後に「猪木さん、出て来てください！」と呼びかけたときに、猪木さんは出てきませんでした。「また騙された！」という気持ちはなかったんですか？

小川　ま～ったくない!!　俺が師匠に呼びかけたのは、ただ筋道を立てただけだよ。礼儀として師匠を呼び込まずにハッスルしたら、それは失礼な話じゃない。師匠は「俺もハッスルしなきゃならねえのかな」って言ってくれていたんだし。

——とりあえず師匠に一声かけた、と。

小川　師匠は『ハッスル』を飲み込むために俺を呼んで、それに俺は「飲み込まれてなるものか」と対抗する。そういう攻防があったわけだよ。俺の呼びかけに反応がないということは「ハッスルしていい」ってことでしょ。

——猪木さんが小川さんに声をかけたのは、「『ハッスル』すらも飲み込める。『ハッスル』なんか俺の中にあるものだ」という考えがあったというか、それぐらい余裕があったと思うんです。

小川　なんでも迎え入れるのが猪木さんの流儀だからね。そしてその猪木さんの流儀が新日本の流儀だったんだよ。そういう方程式があったのに、師匠のことわかってないヤツらがホントに多くなってる。昨日の〝ライオンさん〟の行動だって、自分で自分の首を締めてるもんだよ。極論すれば、プロレスの可能性を否定する行動なんだから。

——単純に考えて、新日本はなぜそこまでハッスル・ポーズを許さないと思いますか？

小川　とくに深い考えはないと思うけど、要は俺のことが嫌いなんでしょ!!

——ダハハハ！　それはストレートですね（笑）。なぜかハッスル・ポーズだけに目くじら立ててるのも不思議な話ではありますよね。本来なら、試合に乱入してリングサイドで大騒ぎしていたアン・ジョー司令長官と島田参謀長の2人こそ、ボコボコにされるべきだと思いますし（笑）。

小川　そういえば、あのバカコンビは試合中もウロチョロしてたな！　俺にも手を出してきやがってさ。〝ライオンさん〟はアイツらこそさっさと追い出してほしかったよ！

——島田参謀長は2回もマイクアピールしてたし、試合後のコメントブースでも小川さんにカランできたそうですね（笑）。

小川　誰が許可したのか知らねえけどさ、ヤドカリの野郎、勝手にしゃしゃり出てきやがって。ハッスル・ポーズがどうのって神経質に騒ぐなら、ああいう連中が会場に入って来ないようにしてくれよ！　せっかくこっちは勝利の余韻に浸ってコメントしてるんだからさ。

——もしかしたら、モンスター軍と新日本が裏で結託している恐れがありますね（笑）。

小川　……。（急に神妙になって）髙田のヤローのことだから、十分ありえる話ですよ。まぁでも、そういう意味では、気分悪いけどヤドカリやアン・ジョーがいつもの調子でくだらねえこと言ってきたりしたことを含めて、『ハッスル』らしさが出ていたと思うよ。新日本の奴らが勘違いしてるのは、ハッスル・ポーズを阻止したことで満足してるところだよ。ハッスル・ポーズをする・しないの問題じゃないんだよな。〝ハッスルK〟

Captain Hustle

新日本内部のゴタゴタを ハッスル軍のせいにするなってこと！

や中村カントク、笹原GMがいつのも格好で出てきて、こっちは『ハッスル』が新日本に飲み込まれるか、飲み込まれないかという危機感を持って、入場から退場するまで『ハッスル』を背負っていたんだよ。新日本の連中は所詮、ハッスル・ポーズという『ハッスル』の一部分しか見てないんだよ。

——そこで気になったのは、〝ハッスルK〟がコスチュームを脱ごうとしたり、何度か引き返そうとしたことなんです。

小川　そう。Kが何回も帰ろうとするんだよ。Kにも三冠戦が流れたりさ、いろいろ葛藤があったと思うけど、もう〝ハッスルK〟として出たんだから振り切ってくれないと。じゃないと「俺だけのハッスル」と言っても中途半端なモノになっちゃうしね。でも、〝ハッスルK〟は試合で頑張ってハッスルしてくれたから。試合も花道でのやり取りも、久々の緊迫感というか殺伐としてよかったんじゃない？　ああいうのはなかなかないでしょ？

——多勢に無勢で、あそこで堂々としてたのは、じつに小川さんらしかったですよ。

小川　俺も否応なしに場数だけは踏んでるからね。

——最後の花道でハッスル軍の前面に立っていたのは永田選手と真壁選手でしたけど、どんなやり取りをされてたんですか？

小川　「ハッスルだけはやらないでくれ！」って言ってきたんだよ。で、俺は「わかった。お客さんに挨拶だけはさせろ！」って言ったんだけど、それすらもさせ

翌日の新聞報道は新日本の興行ながらその見出しはいずれも「小川」「ハッスル」という単語が紙面を飾り、トップニュースとして扱うスポーツ紙も。小川の影響力の強さが伺い知れる。『東スポ』のプロレス特集では、新日本の混迷を叩き斬る観客アンケート結果を掲載。

阻・止・さ・れ・ま・し・た・か・ら！ 残念!!

大阪ハッスル事変

久々に猪木さんが目ェ剥いて怒ってる姿を見た！ 昨日は師匠が一番強く見えたよ!!

ようとしないんだよ。あんなゾロゾロついて来られたままファンに頭下げるのもカッコ悪いから「帰れ！」って言ったんだけどさ。

——ハッスル・ポーズの是非じゃなくて、ファンに挨拶する・させないの押し問答でしたか（笑）。

小川　アイツらは俺が「礼をするだけだ」って言っても、ウソついてハッスル・ポーズをやると疑ってるんだよ。俺はお客さんに対して礼を尽くしたいだけで、手の平ひっくり返して、抜き打ちの「ハッスル、ハッスル！」なんてカッコ悪いことなんかやるかって！　そこまで人間セコくねえからさ。ハッスルもさせない。挨拶もさせない。そこでもくると、「コイツらは成功させない」「なんとかして足を引っ張ろう」とか、考えてることのレベルの低さがよ～くわかったよ。

——あの騒動で思い出したのは、小川さんと橋本さんが絡んだ〝1・4事変〟なんですよね。

小川　あの日は「オマエら、甘ったれてるから目を覚ませ！」という殺伐感があった試合だったよね。新日本プロレスの本来のプロレスはどうあるべきか？　というテーマを俺が投げたんだよ。昨日は、今後のプロレス、未来のプロレスはどうあるべきか？　というテーマを投げてるわけだよ。

——つまり、今回は2度目の「目を覚ましてくださ～い！」ということだった、と。

小川　〝ライオンさん〟のファンからはブーイングがあったけど、「ハッスル・ポーズをやりたい！」という歓声があったり、俺の試合が終わった後に帰る客がいたりした時点で、〝ライオンさん〟に新たなテーマを投げれたんじゃないかなと思う。

——あの〝1・4事変〟を真っ正面から受け切れなかった新日本は、時代に取り残された感があった。あのときの現場監督だった長州さんが「俺の目の黒いうちはバーリ・トゥードはやらせない」と言っていたのが、数年後に新日本はバーリ・トゥードに進出したりした。今回も似たような展開になりそうな気配はありますよ。近い将来、『ハッスル』に似たようなコンセプトのイベントをやり始めたりとか。

小川　いずれにしろ、早く時代に気づいてほしいよ。だって、あの〝ハッスル・パワー〟（長州力）が絶妙なマイク・パフォーマンスをやってる時代なんだよ。

——「天下を取り損ねた男が……」って、髙田総統ばりの喋りを披露してましたよね。

小川　パワーに関しては、『ハッスル』でやらないことをやってるから複雑なんだけどさ～。

——マイクと言えば「ここは『闘魂祭り』のリング！　ハッスルをやるべきところじゃない！」って成瀬選手が叫んでましたけど。

小川　悪いけど、あの人のことホントに知らないんだよ。何をやってる人か知らねぇけど……引っ込んでたほうがいいだろ。どうせあの人が新日本を背負ってるわけじゃねぇんだから。

——新日本のトップに立つ蝶野さんや永田さんが言うんだったら、まだわかるんですけどね。

小川　誰だか知らない選手に言わせちゃってること自体が〝ライオンさん〟の大迷走をよく表してるよ。他にもよく知らない選手がゾロゾロゾロゾロ湧いて出てきてたどさ。

——「小川直也」という存在に対して警戒しすぎですよね。かつて小川さんが新日本に上がってた頃って、「小川が何かやるんじゃないか……？」って脅えてた部分ってあったじゃないですか。

小川　あの当時はさ、俺の極端なストロング・スタイルを拒否して、断固封じてきた。そういう歴史があって今度はストロング・スタイルの逆の方向に行ったのに、それも拒否するなんて、なぁ～にがやりたいんだ！　って話だよ。

——たとえば、ガッチガチのストロング・スタイルだったら、『ハッスル』のほうができる選手が揃ってると思うんですよね。

小川　敵に塩を送る言い方にな

中邑＆中西vs藤田＆カシンがメイン。藤田に敗れた中邑に「遠慮するなって言っただろ!（ヨダレ）」——狂えるアントンが鉄拳制裁!!　藤田が慌てて制止に入り大事には至らず。ちなみにカシンは「マッチョドラゴン」のテーマで入場を企てていたが、ドラゴンストップが入った模様。あまりのグダグダ興行に試合後「この会社、大丈夫か?　すべてにおいて熱がない」とカシン節。

試合の3日前、小川が師匠アントンを電撃訪問!「俺もハッスルしなくちゃいけねえかな。ンムフフフ!」とアントン。

［キャプテン

るけど、モンスター軍にもそんなメンツがゴロゴロいるな（笑）。

――ハッスル軍の坂田選手にしてもそうですね。でも、一度プロレスを本来のプロレスに戻す作業の一環として、エンターテインメントに針を振って、『ハッスル』の世界観に自ら能動的に染まっている。そう考えると、新日本のやってるストロング・スタイルの正体が見えますよね。〝1・4事変〟で小川さんが投げかけたハードなストロング・スタイルは却下。そして『ハッスル』の方向性もNG。その間の中途半端なモノが新日本のストロング・スタイルってことですよ。

小川　それがここ数年で出た答えなんじゃない？　それが正しいのか悪いのかわかんないけど、俺はメリハリや強弱が必要だと思うんだよね。よく師匠が言ってるでしょ。「振り子が大事だ」って。あるときは左に振って、またあるときは右に振る。一番いけないのがどっちにも振ることができずに真ん中でピクリとも動けていない状態なんだよ。

――そういえば、猪木さんの中邑選手への怒りも、完全に振り切ってましたよね。

小川　シュートで怒ってたね～。久々に師匠が目ェ剥いて怒ってる姿を見たよ！

――猪木さんって嗅覚が鋭い人ですから「こんなグダグダの内容のまま『闘魂祭り』が終わったらヤバい！」って思ったんでしょうね。

小川　あの怒りこそが全盛期のアントニオ猪木ですよ。『闘魂祭り』の最後に〝闘魂〟が見れたんだから、途中で帰ったお客さんは後悔モノだよ。60歳過ぎてさ、あれだけ若い者をボコボコにする人間なんていないんだから。昨日は師匠が一番強く見えた!!

――止めに入った藤田選手がとても常識人に見えましたからね。

小川　藤田も気づいたんじゃない。「猪木さん、マジで怒ってる」って。あのままいってたら中邑はヤバかったけど、師匠に殴られることってなかなかないじゃん。闘魂ビンタとはわけが違うから、中邑はいい経験したんだよ。

――殴られた中邑選手は「何で？」という感じの表情でしたけど。

小川　ダメだな～。殴られて「ありがとうございました！」という気持ちがないとダメだよ。中邑にはそれだけ師匠が託してるモノがあるから殴るわけでしょ？　殴るための労力ってそうとう必要だし、どーでもいいヤツのことなんか殴らないもん。師匠がいま一番熱を注いでるのが中邑ということがよくわかるシーンでしたよ。

――ホントに期待してるからの鉄拳制裁だったんでしょうね。喜怒哀楽の表現の場として、『ハッスル』には〝喜〟と〝楽〟が前面に出てますが、これから〝怒〟と〝哀〟も必要となってくるんじゃないですか？

小川　こないだの名古屋（『ハッスル6』）は〝怒〟でハッスルしたけどね。ハッスル軍の結束自体が危ういこともあったし、相手がジェット・シンということもあったからさ。

――ジェット・シンとの試合は評判いいですよね。

小川　あれはシンの素晴らしさですよ。別に敵のシンを讃えるわけじゃないけど、60歳にしてあそこまで鍛えてることを考えると、猪木vsシンの再現もアリだよな（笑）。

――2人とも最高に狂ってますからね（笑）。小川さんもここ一ヶ月の間で、勉強になるモノに触れる機会が多かったんじゃないですか？

小川　もっとプロレスを勉強しないといけない。頑張らないといけないな。うん！　今回はハッスル・ポーズはできなかったけど、来年は『ハッスル』シリーズが大阪に上陸して、ハッスルしないといけないしね。

――『ハッスル』初上陸を待ってるお客さんは、大阪ドームにたくさんいたと思うんですよね。グッズ売場に行ったら、ハッスル・グッズはかなり好評だったんですよ。

小川　それはよかった！

――で、改めて伺いますが、しばらく小川さんの新日本登場はないんですか？

小川　いまのところ出る理由はない。今回は来年の『ハッスル』大阪上陸の布石でもあるから、こっちとしてもメリットがあったわけだよ。昨日は『Dynamite!!』の宣伝の場もあったし、な～んか『笑っていいとも！』状態だったよな（笑）。

――「ちょっとポスター貼っといて」ってかんじで（笑）。

小川　藤田もいつの間にか『Dynamite!!』の宣伝マンになっちゃったね。むかし新日本って、次の大会に対する投げかけがあったけど、次の正月のドームってなんかあるの？

――まったく知りません（笑）。個人的には髙田総統が高貴に登場してもらいたいですよね。

小川　お！　それは敵ながら見たいな～！

――葉巻をくゆらせながら「永田クン、キミの敬礼ポーズにはどういう意味があるんだ？　ぜひ教えてくれたまえ！（ニヤリ）」なんて言ったら最高ですよ！

小川　でも、永田のことは〝パワー〟が散々に言っていたじゃん。それに総統と新日本は裏で結託しているかのようだし、いまの〝ライオンさん〟には総統のターゲットになりえるヤツがいねえよなぁ……って、俺が考えることじゃねえな（笑）。

――ダハハハ。『ハッスル』に関していえば、クリスマス2連戦を控えてますよね。

小川　ハッスルするぞ～！　『闘魂祭り』の騒動について、また髙田のヤローにいろいろ言われるのはわかってんだけどさ……。

――キャ、キャプテン！　落ち込まないでくださいよ（笑）。

小川　落ち込んでねぇよ！　もうあのヤローの作戦はだいだいわかるから。逆にビビってたじろがせてやるよ。

――期待してます！

小川　じゃあ、昨日はできなかったことだし、景気づけに一丁やるか？

――いや、その前に最後にひとつだけ！

小川　おいおいおい～。今日も邪魔されるかのよ～？

この騒動で思い起こされるのは伝説の〝1・4事変〟。小川の暴走ファイトに新日本勢が総出で詰めより、UFOサイドは〝有事〟に強い佐山、ゴルドーらが大暴れ！　今回も「ハッスル軍のセコンドに、気が強い坂田や横井、トンパチな崔らがいたら、もっとスリリングな展開になっていただろう」と『ハッスル』関係者。とりあえずGMに危害がなくてなによりです。

阻・止・さ・れ・ま・し・た・か・ら! 残念!!

大阪ハッスル事変

本誌の小川インタビュー“モーリー劇場”でおなじみ、『ハッスル』公式出入り禁止の森鷹博カメラマンによる「小川直也ドキュメンタリーフォトブック・裸の選択」の発売記念トークショー＆サイン会。ついに公の舞台に姿を現したモーリーは、オーちゃんから向かって左!

Captain Hustle

来年はハッスルシリーズで大阪に上陸して、ハッスルポーズをぜひやりたいね

――いや、そういうつもりはないですが（笑）。御存知だと思うんですが、橋本さんの離脱騒動が表面化したりして、ZERO―ONEが大ピンチです。小川さんからひと言お願いします。

小川　う～ん……ZERO―ONEはお世話になったところだから頑張ってほしい！　〝キング〟（橋本）に言いたいことは、とにかく右肩を早く治せ！　ということ。〝キング〟が欠場している間、大谷選手を筆頭に若い選手が必死にZERO―ONEを支えているのに、〝キング〟はトレーニングやリハビリもせずに遊びほうけてる印象があるからさ。それだと下の選手も付いてこないでしょ。

――『ハッスル6』で小川さんも「肩を治してから出てこい！」って言ってましたね。

小川　昨日の試合でKと一緒にOH砲の合体技「俺ごと刈れ！」を出したのは、〝キング〟へのエールの意味合いもあるんですよ。〝キング〟が元気だったら、ハッスル・トリオとして〝ライオンさん〟に出ていただろうしね。いろいろ問題はあるみたいだけど、まずはハッスルする身体を取り戻すことが先決！

――わかりました！

小川　じゃあ、行くゾーっ！

――オ、オーッ！

一同　スリー、ツー、ワン！　ハッスル、ハッスル!!

小川　ヨシ！　終了～！

【04年10月14日／大阪市内某ホテルにて収録】

OH砲が声優に挑戦！

ド真ん中のエンターテインメント・アクション映画『セイブ・ザ・ワールド』の日本語吹き替えに、なんとOH砲が挑戦!　主人公のイカレCIA捜査官スティーブ（マイケル・ダグラス）を小川直也が、そして相棒のヘタレ医師ジェリー（アルバート・ブルックス）を橋本真也が熱演している。DVDでは英語、日本語、ハッスル・バージョンと3通りの音声が楽しむことが可能。キャプテン＆キングのハッスルぶりに大注目だ!!

『セイブ・ザ・ワールド』

98分/DVD 5880円（税込）/VHS 16800（税込）

■監　督　アンドリュー・フレミング
■主　演　マイケル・ダグラス、アルバート・ブルックス、キャンディス・バーゲン、ロビン・タニー、他
■発売日　12月10日発売（初回注文締切/11月10日）
■H　P　http://www.nikkatsu.com/

【緊急ニュース】「俺ごとカレー!」の夢が叶った!?　明治製菓が「ハッスル チキンカレー・辛口」「ハッスル ポークカレー・中辛」を11月29日から来年3月までの期間限定で発売。パッケージの裏面には髙田総統のピリ辛コメント記載とのこと。天山も早くハッスル軍入りして、「ハッスルビーフカレー・甘口」を発売するしかないって!

11・13 大阪ハッスル事変 証言FILE

「ハッスルポーズをする・しない」で大揉めに揉めた11・13新日本プロレス『闘魂祭り』！　あげくには「挨拶する・しない」で一悶着するという、前代未聞の騒動を繰り広げられた『ハッスル』vs新日本プロレスの抗争を、当事者&関係者のコメントから考えてみよう。ハッスル、ハッスル!!　と～こん～、ハッスルッ!!（トルネード・ハッスルの要領で）

"ハッスルK" 川田利明

小川の出場を決めたのは新日本、カードを変えたのも新日本。天山は俺に文句を言うんじゃなくて、自分の会社に言ってくれって。

こないだの大阪ドームのこと？　アレはストレス溜まったよね……。

俺としては、「"ハッスルK"は『ハッスル』のリングだけ」と言っていたから、新日本のリングで"ハッスルK"として出ることにスゴく葛藤があったんだよ。でも、小川があの格好で出るのに、俺が普通の格好で出たら、もの凄く中途半端になっちゃうじゃない。その部分で心に葛藤がありましたよ。

しかも天山との三冠戦を直前にドタキャンされたしね。カードを変更されたことに、天山が俺に文句を言ってるけど、小川の出場を決めたのは新日本、カードも変えたのも新日本。そういう事態を招いて、カードを変えたのはオマエの会社だろって？　文句を言うなら会社に言ってくれって。3冠を軽んじてる新日本も信じられないけどさ。俺は天山以上に悔しいんだよ。

だから、すごい煮え切らない気持ちで試合に臨んだ自分がいたね。ストレスがあったよ。リングを降りてからも正直、ストレスがあった。試合中は吹っ切れて闘ったけどね。

俺は"ハッスルK"として出ようが精一杯やることに変わりはないんだよ。格好は関係ない。俺はストロング・スタイルが何かはわからないよ。でもリング上で熱くなってる者同士が闘えば、素晴らしい闘いになると思うからね。

小川が世に『ハッスル』を広めようとする気持ちはよくわかるんだけど、新日本に『ハッスル』を押さえつけるのは無理があるよ。小川の気持ちはスゴくわかる。でも、『ハッスル』は『ハッスル』のリングでやるのが一番だと思うんだよ。押し付ける必要はないんじゃないかって。ハッスル・ポーズをやりたい気持ちもわかるけど、新日本の選手がすんなりやらせてくれるわけじゃない。

たしかにお客さんの「やってくれ！」という歓声はあったよ。でも、新日本のホームリングだから。どうしても新日本に分があると思うんだよ。新日本の選手だって、リングでハッスル・ポーズをやられたら、負けだと思っているからこそ、あれだけの大人数で来たんだしね。

（トラックスーツを脱ぎかけたのは）かなりイライラしてたからね。ブチギレてもおかしくはなかったよ。俺は失うモノは何もなかったし。

小川に一番、言いたいことは、新日本のリングで『ハッスル』を押し付けなくても、『ハッスル』にファンは付いてくるってこと。実際、ファンはどんどん増えてきてるでしょ？　それは"プロレスの先輩"の川田利明から、"『ハッスル』の先輩"の小川直也選手に言いたい。『ハッスル』はホント素晴らしいことやってると思うし、もっと自信を持った方がいいよ。小川は『ハッスル』に賭ける情熱はスゴいんだから、そうアドバイスしたいよね。

あの現場で気になったレスラー？　俺が一番、プロレスラーとして凄いと思ったのは、蝶野なんだよ。あの混乱した局面でさ、あのマイクは「やられた！」と思ったよ。空気を読んでないとなかなかできることじゃないから。

棚橋？　あのマッチョボディは凄いよね。いい選手じゃない。個性はないけど。

小川が「"ハッスル・ビーフ"として天山にハッスルしてもらいたい」って言ってるの？　どうだろうね。天山の気持ちはわからないけど、新日本のリングでは100%やりたくないと思ってるんじゃない。『ハッスル』のリングならやってくれると思うけど。そこは俺と同じ気持ちじゃないかな。『ハッスル』は、『ハッスル』を楽しんでくれるお客さん、『ハッスル』に情熱を注いでくれるスタッフが作り上げるリングでしかできないモンだと思ってるからね。

大阪ドームでは当初、川田vs天山の三冠戦が発表されていた。大会の5日前にアントンの小川招聘に伴い新日本側がカードを変更してしまった。

阻止されましたから!!

これが総統侍の勇姿だ！　この動画は『ハッスル』オフィシャル・ウェブサイト（http://www.hustlehustle.com/）でも確認できるので総統信者は早速ビターンしよう！

『髙田モンスター軍』

髙田総統

よくあそこまでして下品なポーズを止めてくれた。さすが老舗団体、ビバ老舗団体！

髙田総統侍、ハッスル軍斬りっ！

11月18日、DSE事務所にて、12・23&24『ハッスルハウス・クリスマスSP』の概要発表会見が行われたが、案の定乱入したヤドカリ&アン・ジョーが髙田総統のビデオ・レターを持参。ヤドカリが臼杵ハッスルPRに対し「おい、メス女‼（ビデオを）かけろ！　今日は化粧のノリがいいんじゃねえか〜！」と、とんでもないセクハラ発言をしながら要求。臼杵PRは「チッ！」と舌打ちし、三原純子ばりの冷たい目つきでヤドカリを睨みつけるが、しぶしぶ要求に応えデッキにビデオを入れる。すると画面には、11・13新日本プロレス大阪ドーム大会のビデオを見入る髙田総統の背中が現れた！

★

髙田総統　このビデオ・レターを見ている諸君、御機嫌いかがかな？　我こそは『髙田モンスター軍』総統、髙田だ！　さて、チキンこと小川君。先日の老舗団体の大阪ドーム大会で行われた『ハッスル』布教とやらを拝見させてもらったよ。熱気渦巻く超満員札止めの……と言っておこうか？（嫌味たっぷりにニヤリと笑って）。

★

〝某・伝説〟興行を超えたと言われる大阪ドーム大会の内容、客入りを嫌味たっぷりにホメ称え、珍しくハッスル軍を評価した髙田総統！　ところが……!?

★

髙田総統　敵地にいつものコスプレで入場したこと、その馬鹿げた勇気については川田君や中村カントク、そしてGMの笹原君ともどもほめてやろう！

しかし、だ！（急にイスから立ち上がって）……最後のハッスル・ポーズは……阻・止・さ・れ・ま・し・た・か・らっ！　残念ッッ‼

★

仰天！　なぜか髙田総統は波田陽区〝ギター侍〟のモノマネを繰り出す！　あまりの事態に意表を突かれた報道陣からは大爆笑が沸き起こる。

★

髙田総統　……よくあそこまでして下品なポーズを止めてくれた。さすが老舗団体、ビバ老舗団体！　素晴らしいの一言だ。まるで洗脳されたかのように老舗団体の選手が花道の奥までゾロゾロと付いてきては、さすがのチキンもさぞかしお手上げだったろうな。おい、チキン！　あれが我がモンスター軍の仕掛けた罠だとしたら、君はビビってたじろぐだろう……（ニヤリ）。

★

リングに〝闘い〟を求める老舗団体の選手たちのことだ。「ここはプロレスの記者会見、〝ギター侍〟をやる場所じゃない！　そうでしょ!?　切腹するならヨソでやってくれ！」と、自由人風に激怒してもおかしくはないビデオレターの内容だが、あの老舗団体の主力選手約20名がハッスル・ポーズを阻止したのは、髙田総統の差し金だったことを匂わすような言い回しがみられる。まさか新日本勢は、総統の「ビターン！」を喰らっていたとでもいうのか？　同大会における島田&アン・ジョーのぬけぬけとした行動を振り返ると考えられなくもない。総統もお気に入り、波田陽区のモンスター軍入りの可能性を含めて、今後に大きな渦を巻き起こす会見となった。ビターンッッッ‼‼

モーレツ軍師

中村カントク

新聞の見出しを飾ったのは「ハッスル」であり「小川」であり、老舗団体のことではありません！

『紙プロ』読者の皆さん、オイ〜ッス〜ゥ！　ハッスル軍カントクの中村であります！

今回は、私もセコンドについた、老舗団体の11・13大阪ドームのことをお話ししたいと思います。

じつは、私はあの老舗団体の会場に足を踏み入れるのは初めてでありました（私の古くからの友人であります、ZERO—ONEの中村祥之氏は以前、あの老舗団体で毎日、馬車馬のように働いておりましたが）。つまり、老舗団体の方々と初対面だったのでありますが、なぜか、み〜んな私のことをギロリと睨むんです。私は「オイ〜ッス〜ゥ！」と元気に御挨拶したんですけどまったく無視ですよ。誠に不思議な光景でした！

でも、お客さんは温かかったであります！　僭越ながら〝キャプテン〟&〝ハッスルK〟のセコンドとして花道を歩いていたら「カントク！」という声援もありまして、みんな笑顔で迎えてくれました。中村、感激であります！

試合後のイザコザですが、私としては、とにかくGMを守られないといけないという使命感がありまして、身を呈していたのですが、老舗団体の●●選手や●●選手に「帰れコノヤロー！」と背中を何回かこづかれました。シロウトに手を上げるという、レスラーとしての誇りの高さを誠に痛感した次第であります！　さすが老舗団体、ビバ老舗団体！

結局、「ハッスル、ハッスル！」はできませんでしたが、〝キャプテン〟としてはぜひハッスルしたかった気持ちが痛いほどあったと思います。しかし、20名以上の老舗団体に対して、ハッスル軍は人数は少ないし、GMやボクの身を案じてキャプテンは引き下がったくれたんです。すいません、キャプテン！

花道の奥で揉めていたのは、キャプテンがせめて最後の挨拶だけはしようとしたら、老舗団体の選手たちが「挨拶＝ハッスル・ポーズ」と勘違いしたんじゃないかなと思うのであります。

それにしても、老舗団体の選手は、あのジュード・オーばりに空気が読めてませんでしたね〜。新聞報道では、我々に対して「帰れ！」コールやブーイングが飛んだと報じてますが、「小川！」コールや「ハッスルやってくれ！」という声もスゴくあったんですよ。

ハッスル軍がバックステージに消えたら「え〜〜〜〜っ!?」という反応もありましたです。聞くところによると、メインを待たずに帰ってしまったお客さんもいらっしゃったとか。中村、大感激であります！

新聞報道で真実が伝えられないところが多々ありましたが、見出しを飾ったのは「ハッスル」であり「小川」であり、老舗団体のことでありません。さすがマスコミの皆さん、商品価値がどちらが高いがわかってらっしゃる。お目が高い！　試合もハッスル軍が勝ったことを踏まえて、ハッスル軍カントクの中村、断言させていただきますが、これはハッスル軍の大・勝・利！　であります！

フェンス越しから戦況を見守る中村カントク。この格好が見慣れてきたから怖い。

［キャプテン

小川

阻・止・さ・れ・ま・し・た・か・ら! 残念!!
大阪ハッスル事変 証言FILE

サンゴ事業にご熱心
アントニオ猪木

【大会終了後のパーティー会場にて】（小川の『ハッスル』について）俺はコメントしたくない。今日は「故郷」というのがテーマ。いちいちコメントを取ったら面倒くさいし。ただテメエたちの「飯のタネ」だよと。それぞれが何を表現して、何を言おうと構わないけど、自分たちの「飯のタネ」だよと。（新日本は怒りが）足りないよ! 本当にやらせたくないならそうしないと。小川も強引にやっちゃえばよかったし

一番ハッスルしていた『髙田モンスター軍』
アン・ジョー司令長官＆島田参謀長

【試合後のコメントルームにて】ベタで楽しいショーでした～。大笑いデ～ス! ア～ッハッハッハッ! （小川や川田は）ただのアルバイトデ～ス。ユーのチキンぶりを髙田総統にレポートにして提出シマ～ス!（アン・ジョー）

ＧＭゥ、見ましたかぁ? コイツらモンスター軍より弱いヤツらにビビってたじろいでましたよ～。本当に恥さらしですよぉ! ケケケ!（ヤドカリ）

またまた（×10）引退撤回!
藤波辰爾

【11月17日『東京スポーツ』】
ああいうスタイルなら、ウチに上がる必要はない! 前の小川のイメージなら上がってほしい

ドラゴン以上に実権がない新日本社長
草間政一

【11月15日『スポーツ報知』】
今回ばかりは坂口さんが（小川を）やる気になっている。本当に坂口さんにやる気があるなら、来年の1・4東京ドームでの対決を実現させたい。私が（興行の）すべてを仕切る。猪木さんに直談判したっていい

元・新日本プロレス執行役員
上井文彦

【『週刊プロレスNO.1233』】
俺、あんなに泣いたことないよ。（ハッスルボーズを阻止してくれて）心底、嬉しかった。最後ハッスルやらせなかっただけで、十分胸がいっぱいになりましたね。万感胸に迫って、こみ上げてくるものがありましたよ

アイアム・チョーノ
蝶野正洋

【11月16日成田空港】
ハッスル・ポーズがしたけりゃやらせればいい。プロだったらパフォーマンスぐらいやるだろ。対戦相手の2人が止めに入るならわかるが、本隊のやつらも硬くなりやがって

プロレスLOVE
武藤敬司

【次号掲載のジミー鈴木との対談にて】
（ハッスル・ポーズを止めたことについて）新日本ってよ、普段はバラバラなくせに誰かが飛び抜けようとすると一致団結して足を引っ張ろうとするんだよな。そういう意味では、新日本らしいんじゃねえの？

飛龍継承者
棚橋弘至

【11月15日デイリースポーツ】
小川とはもう関わりたくない。『ハッスル』は『ハッスル』の国で生きていればいい。どっちが生き残れるかの勝負

本当は良い人
天山広吉

【試合後のコメント】
何がやりたいんや、アイツらは。ただ腰振るだけか？　そんなもんオレらは用ないわ。闘いやるんだったらリングに上がって来い。新日本のリングは闘い。勘違いするなって。アイツらが上がった来たら黙ってないけど、ハッキリ言って触りたくもない！

風になれ
鈴木みのる

【11月18日『東京スポーツ』】
（少数のハッスル軍を）あの大人数でしか追い返せなかったのだから、さすが新日本だな。（中略）なんでハッスルがいけないんだ。永田の敬礼ポーズとハッスルポーズはどう違うんだ。中西だって変なパフォーマンスをやってるじぇねえか。俺から見たら、どっちも一緒だよ。

過激な仕掛け人
新間寿

【『週刊ファイト』NO.1894】
ハッスル・ポーズはただその場で面白おかしく腰を振ってるだけ。終わったらみんな笑っている。だけど、「ダーッ！」はやった後は、すがすがしい気持ちになるじゃない？　あくまで「ダーッ！」は未来に向かって、何万人をひとつにする。

『猪木祭り』被害者の会
永田裕志

【試合後のコメントにて】
新日本のマットというのは“闘い”のリングなんだ。そこにふざけ半分のハッスル・ポーズを披露することは許されない。命を懸けて闘っている男たちに失礼だ！

…スタイル実況だ!!

各方面に大きな波紋を投げかけた11・13ハッスルvs新日本！　その試合の実況中継の模様もまた、大きな話題を呼んでいる。実況を務めたのはテレビ朝日の吉野真治アナウンサー。彼の"新日本LOVE"から生まれる『ハッスル』ヘイトな言葉の数々は、とにかく抜群の響きがあった！　吉野アナの実況のように声をヒステリックにしてこの実況再録を読めば、"ストロング・スタイル"がわかるはずで～す！

コスプレはいらない。下品なポーズはいらない！『ハッスル』は帰れ～～～っ！

【リングアナのケロが小川直也の名前をコール。小川が入場する】

吉野アナウンサー（以下吉野）　小川直也がアントニオ猪木のもとに帰ってきました。かつて新日本で橋本真也と激闘を繰り広げた"ストロング・スタイルの化身"。柔道世界一にも輝いた小川直也は、プロレスファンを熱狂させリスペクトを集めました。そしていま目の前に現れるのは、ストロング・スタイルの小川なのか？　それとも、**闘いを忘れたピエロなのかぁ!?**　ここは新日本のリング。ここはストロング・スタイルのリングゥ！　**"ファイティング・オペラ"なるものの、闘いを忘れたピエロでは闘うことができないリングゥ！**　闘いを忘れてしまった小川直也に、あえて言わせていただきます！　**小川直也、目を覚ましてくださ～い（自分の言葉に酔いしれるかのように）！**　コスプレはいらない。下品なポーズはいらない！　ストロング・スタイルの小川直也でいてほしい。さぁ、いま小川直也、新日本のストロング・スタイルのリングに上がりました！

【小川が"ハッスルK"を呼び込むと、会場に怪鳥音が鳴り響く】

吉野　小川が何者かを呼び込みました。聞こえてくるのはブルース・リーのテーマ曲。しかし、あえてこう言わせていただきます。王道プロレスの頂点に立つ男、川田利明！　全日本プロレス三冠王者にしてデンジャラスK。しかし、今日の川田はデンジャラスKではなく、"ハッスルK"のいでたち！　パートナーの小川直也とともにどんな闘いを見せるのか？　**この新日本のリングで"ファイティング・オペラ"の川田は見たくない！　"ハッスルK"は見たくない。デンジャラスKなら、ウエルカム・トゥ・ザ・新日本！**　今宵、川田の闘いにも注目が集まります！　あえてこう言います。全日本プロレス三冠王者、川田利明！

【棚橋＆天山組が入場する】

吉野　闘魂を背負いし、2人の男が、ストロング・スタイルの誇りを胸に、リングに向かいます。棚橋弘至、そして天山広吉！　この2人にストロング・スタイルが託されました。闘いを忘れてしまった小川直也に、闘いとは何か？　プロレスとは何か？　ストロング・スタイルとは何かを示します。**誰よりも、ストロング・スタイルに誇りを持つ棚橋と天山**にすべては託されました。**プロレスは"ファイティング・オペラ"なんかではなく、闘いなんだぁ!!　プロレスは命のやり取り！　コスプレや下品なポーズはいらない！**　プロレスはキング・オブ・スポーツ！　いまこそ新日本のストロング・スタイルを見せつけろぉぉぉ！

【入場実況の時点でトバしまくりの吉野アナ。解説のGK、山崎一夫らとともに試合実況に移る】

金沢『ゴング』プロデューサー（以下GK）　棚橋はね、小川を非～常に意識してましたね。メインイベントを奪われたその気持ちもあるでしょうが、**「こんなプロレスじゃない。小川のプロレスはプロレスラーとしては非常にレベルが低い」**と、新聞紙上でそこまで言ってるわけですよ。

吉野　【省略】負けられない闘いがここにはあります！　いやぁ、金沢さん、川田も真っ向勝負ですね！

GK　たしかにコスチュームは"ハッスルK"ですが、川田の試合スタイルは何も変わらないわけですよ。それは小川にもいえます。小川もたしかにこのコスチュームですが、試合はおふざけではありませんよ。

吉野　なるほどぉ！

GK　『ハッスル』では、彼らは相手には恵まれていません。本当のプロレスラーと言っていい天山や棚橋を相手にしたときに、彼らがどういうファイトをするかですよね。

吉野　なるほどねぇ。

GK　彼らというより"キャプテン・ハッスル"小川直也ですよね。

【冷静沈着な解説をするGKに対して、吉野アナは暴走を続ける】

吉野　"暴走柔道王"あらため**"ハッスル・キャプテン"に成り下がってしまった小川直也よ！**（編集部注・小川は"キャプテン・ハッスル"であります）。あの血走った目を、この新日本のストロング・スタイルで交わることによって、再び、あの目をこのリングで見せることはできるのか？

【中略】かつて（小川は）はこの新日本のリングで壮絶な闘いを見せました。しかし、いまは"ファイティング・オペラ"なるもののピエロに成り下がってしまった感のある小川直也。さぁ小川直也が……。

【小川が棚橋にハッスル投げ！　そして「ハッスル、ハッスル！」と腰を振る。吉野アナ、ブチギレ！】

吉野　ここは新日本のリングゥ！（怒）。『ハッスル』なんてクソ喰らえぇ！　モノが投げ込まれる！　ここは新日本のリングです。ストロング・スタイルのリングです！

【"ストロング・スタイル"を小馬鹿にしたムーブに新日本ファンからブーイング】

吉野　**『ハッスル』なんてクソ喰らえぇぇぇ（大・炎・上）！　大阪ドーム、ブーイングです！**

山崎　ハッスルのときのお客さんの反応も「ブ～～！」でしたねぇ。

GK　**小川はわざと逆撫でするようにやってるところもありますよね。これもいわゆる小川流ですよ。**

【そして吉野アナの神経を逆撫でする事態がまたもや勃発。島田参謀長とアン・ジョーが呑気に棚橋と天山のセコンドにつく】

吉野　下品なコスプレ軍団が入って参りました！　下品なコスプレ軍団は新日本のリングにいりません！

GK　ちょっときてほしくないメンバーが来てますね。アン・ジョー司令長官とか島田参謀長とか。

【実況アナの仕事をすっかり忘れている吉野アナに代わって、丁寧に人物紹介をするGK】

阻・止・さ・れ・ま・し・た・か・ら！残念!!

大阪ハッスル事変

これがストロング・スタ

『ハッスル』なんてクソ喰らえ！コスプレ・プロレスよ、よーく聞け！

吉野　ここはリングに集中していきましょう！　さぁ小川が棚橋に強烈な打撃！　**腐っても鯛！**
【ヤドカリが小川に野次を飛ばす。吉野アナの実況もそれと重なり合う以心伝心な展開へ！】
ヤドカリ　タナ頑張れ！　頑張れ！
吉野　そうだ！　張って行け！
ヤドカリ　行け！　行け！
吉野　小川の顔面を張って行け！
ヤドカリ　そんなチキン、やっつけろ！　やっつけろ!!
【吉野アナ&ヤドカリの声援も空しく試合はハッスル軍が勝利！　試合後、ヤドカリがマイクで挑発する】
吉野　ここは新日本のリングだ！　オマエらは帰れ！　オマエらこそ帰れ!!　**『ハッスル』なんてクソ喰らえ！**　帰れーーーっ！　ここは新日本のリングだぁぁぁ！　闘いのリングだ！　命のやり取りをする闘いのリングだぁ！
小川　（ヤドカリに向かって）オマエら何しに来たんだよ！　帰れ！

新日本は〝闘いを忘れたピエロ〟では闘うことができないリングウ！

吉野　小川直也にマイクを持たせるな！　小川直也がマイクを持った！　かつての小川直也なのか？　それとも〝ファイティング・オペラ〟なるもののピエロなのかぁ!?
【アントンをリングに呼び掛ける小川に大歓声、新日本ファンからはわずかなブーイングが起こる】
吉野　大阪ドーム、大ブーイング！　新日本のファンは小川を求めていないっ！　ブーイングです！
【ハッスル軍にハッスルポーズをさせじと天山ら新日本勢が詰め寄る】
小川　なんだよ？　ケツのアナがちっちゃいな。俺は『ハッスル』をやりにきたんだよ！
【観客は大歓声】
小川　俺は『ハッスル』をやりにきたんですよ！
吉野　**（即座に）『ハッスル』はいらない!!**
小川　皆さん、『ハッスル』やっていいですかーーーッ!?
吉野　**（すかさず）『ハッスル』はいらないっっっ！**
小川　オマエらよ、この声が聞こえないのかよ！
吉野　**（間髪入れずに）聞こえないっ！**
小川　お客は何を望んでいるんだ？
吉野　**（即座に）お客は『ハッスル』を望んでいない！**

【音に敏感に反応するフラワーダンスばりのレスポンスをみせる吉野アナ。歓声が挙がってることにようやく気付く】
吉野　ブーイング……もある！　歓声と怒号が飛び交う大阪ドーム!!　小川直也と永田裕志、新日本と、そうでないコスプレ・プロレスが対峙します！
【リング上で睨み合う新日本とハッスル軍。新日本ファンから「帰れ！」コールが発生する】
吉野　（鬼の首を取ったごとく）さぁファンは「帰れ！」コールだ！　**この声を待っていた！**　新日本のファンは「帰れ！」コール！
【逃げたはずのヤドカリが再び現れ、マイクで小川を挑発】
吉野　くだらないマイクはいらない！　ここは新日本のリングだ！　関係ない者はリングに入ってくるな！　小川直也はいらない！　〝暴走柔道王〟なら迎えましょう！　しかし、コスプレ・プロレスはいりません。本来なら祝福される花道で、小川直也が立ち止まっております！　大阪ドーム、「帰れ！」コール！
【「帰れ！」コールどころか花道では「小川！」コールが発生していたが、錯乱状態の吉野アナに聞こえるわけもない。ハッスル軍は強引にハッスルポーズをしようとするが、成瀬がタックルで阻止】
吉野　いいぞ成瀬！　成瀬いいぞ！　くだらない下品なポーズはいりません！　ここはストロング・スタイルの新日本のリング！　小川直也、帰っていきます！　**新日本の貞操は守られました！**
【ハッスル軍は入場ゲートまで戻り観客に礼をしようとするが、新日本勢が詰めよりそれを許さない】

吉野　さぁ花道の手前で小川直也が何をやろうとするのか？　真壁がいく、井上がいく。俺たちこそが新日本、**これ（＝4人のハッスル軍に、団体総動員で詰め寄るの）が俺たちのやりかたぁぁ！**　お互いの主張があります。お互いの考えがあります。許すことができない、価値観をぶつけあう、これがプロレスの醍醐味かもしれません。
【価値観の攻めぎあいこそがプロレスの醍醐味と定義した吉野アナ。やっと冷静になりアナウンサーらしい実況ぶりを取り戻しつつあったが、蝶野のマイクが消えかけた炎にガソリンをぶちまける】
蝶野　ハッスル！　新日本もケツのアナ、ちっちゃいこと言ってるんじゃねえぞ、オラ！　やりてえんならこいよ！　やれ、オラ！
吉野　**蝶野正洋、オマエなんてこと言うんだぁぁ!!　この新日本で闘ってきて、これはあまりにもないじゃないかぁぁ！（怒）**

新たなるカリスマ・アナの誕生！　ここまで思い入れを持ってトバされると、もはやバカ負けだ！　翌日のスポーツ各紙には「小川に大ブーイング」という具合の見出しが踊っていたが、実際の客席の反応は、髙田総統風に言えば「中途半端なブーイング、歓声を送るな！」という、熱が皆無の現状だった。声援やブーイングを送る者は、たとえ白い目で見られようと、この吉野アナの狂ったかのような振り切り方を見習うべき！　というわけで、たとえアナウンサーのモラルを問われようが、吉野アナには今後もこの姿勢を貫き続けてもらいたいものである。

新日本よ、下品さを取り戻せ!!

〜11・13大阪ドーム観戦雑談〜

出席者
本誌現場カントク **堀江ガンツ**
永久電器追跡班 **ジャン斉藤**

ジャン　このページは取材後記的なかたちで、11・13『闘魂祭り』大阪ドーム大会の数少ない目撃者である我々が、客席から見た真実や大会の感想をアーダコーダと述べたいと思います。

ガンツ　なぜか客席での観戦になったおかげでプレスルームからでは目撃できない光景や、客席の反応をダイレクトに感じ取れたからね。そこで見た真実は、とにかく客席にまったく熱がない。そしてそもそもお客がいない（笑）。それにつきるんだよね。

ジャン　しかもセミのハッスル軍の試合が終わったあと、ただでさえ少ないお客がゾロゾロ帰りだして、メインの客席はそれこそ『LEGEND』を超えてましたからね（笑）。

ガンツ　ところが翌日のスポーツ紙の報道や、プロレス専門誌では「小川に大ブーイング！」「帰れ！コール」が大阪ドームを渦巻いたと書いてあって、これだとまるで大騒動になってたみたいに思うでしょ？

ジャン　読んでビビってたじろぎましたよ！　実際の会場の反応は、髙田総統いわくの「下々の諸君、中途半端なブーイングを送るな！」という感じだったんですけど。

ガンツ　ごくわずかな人が一生懸命ブーイングしてただけで、大半のお客はグダグダの展開に白けきってたんだから。新日本のドーム大会なのに〝大〟ブーイングにも〝大〟帰れコールにもならなかったことこそ問題だよ。

ジャン　一般層のお客さんのほうが多かったから、「ハッスルやりますかーッ!?」って問いかけたときの拍手や歓声のほうが実際は大きかったぐらいですからね。それは新聞、雑誌では黙殺されましたけど（笑）。

ガンツ　黙殺されたっていうか、プレスルームのモニターで見てて、単純に分からなかったんじゃないかと思うんだよね。PPVは素晴らしい〝新日本応援実況〟だったから、実況アナが言った通りを書いたんじゃないかと（笑）。

ジャン　実況アナは、ちょっとブーイングが聞こえてきただけで「大阪ドーム、大ブーイング!!」って炎上してましたからね（笑）。

ガンツ　逆にオーちゃんが「（ハッスルポーズに対する）この歓声が聞こえね〜のかよ！」って言ったら、なぜか実況アナが「聞こえな〜〜い！」って絶叫して、テレビに歓声が入らないようにしてるんだから世話ないよ（笑）。

ジャン　プロレス週刊誌が大評価してる「一致団結してのハッスル阻止」についても、いまの新日本にはもっと一致団結することが他にあると思うんですけどね。藤田やカシンを参戦させて「マッチメイクという名のもとにブッキング料をゴソッと猪木事務所に持っていかれた」というヤスカクの記事を読むと、ほとほとそう感じますよ。

ガンツ　それなのになぜ『ハッスル』にだけ異常なくらい過敏に反応するかと言うと、それだけ新日本内部や新日本寄りのマスコミの中で、『ハッスル』の幻想がなぜか巨大化してるってことでしょ。だから今回のことは前田日明が長州顔面蹴撃事件で追放されたときと似てると思うんだよ。あれも前田が長州の顔面を蹴ったことが問題じゃなくて、「前田日明」とか「UWF」という実体なき幻想が新日内部で巨大化して、その幻想による脅威が手に負えなくなって追放されたんだから。

ジャン　しかも今回は脅威に　感じてる対象が「UWF」じゃなくて「ハッスル・ポーズ」ですからね（笑）。

ガンツ　今回〝黒幕〟さんがハッスルポーズ阻止の指示を出したって言われてるけど、その久留米弁の〝黒幕〟さんは前田日明が追放されたあと何をしたかと言うと、残された髙田延彦や山ちゃんにUWFの象徴である「レガースを外せ」って言ったんだ。

ジャン　ちょ、ちょっと待ってください！　レガースを外して蹴った方が思い切り危ないですよ（笑）。

ガンツ　ホントにそう（笑）。UWFの象徴だったレガースを禁止にしても、『ハッスル』の象徴であるハッスルポーズを阻止しても、根本的には何の解決にもならないのに、それをただ排除して一時の安心感を得ようとしているだけなんだよね。

ジャン　は〜あ。新日本にもハッスルを受け入れる土壌はあると思うんですけどねぇ。矢野通が酒飲みギミックで一升瓶持ち込んでるのに、ハッスル・ポーズだけ「おふざけは許さない！」って意味がわからないですよ。

ガンツ　だいたい永田さんは「新日本は第一試合から命懸け。西村なんか口から吐血したんだ！」って言ってるけど、あれこそ『ハッスル』も真っ青の素晴らしきイリュージョンだし（笑）。振り返ればドームプロレス花盛りだった90年代新日本プロレスなんて、コスプレ・プロレスだったんだよ。

ジャン　グレート・ムタにヘル・レイザース、そしてnWoですよね。

ガンツ　天山なんかメカ天山として入場していたし、馳先生なんかハッスル・ポーズも真っ青の腰クネダンスを毎回ご披露くださってたし。

ジャン　業界の噂だと、来年の春頃にK—1が『W—1』を復活させるらしいじゃないですか。いまの新日本とK—1の関係からいえば、協力しての開催することは目に見えてるし、『ハッスル』と『W—1』ではエンタメの方向性や目的意識が180度違うとはいえ、新日本はどういうスタンスを取るつもりなんですかね。

ガンツ　いまのうちに言っておくけど「リングの中には闘いがある」とか、非常に抽象的なことを言い始めると思うよ（笑）。ハッキリ言って新日本は本音の部分では『ハッスル』みたいな演出でドーム大会やりたいんだけど、予算の関係上、ここ数年は極めてシンプルな演出になってるだけだと思うからね（笑）。

ジャン　ケロちゃんのベルバラばりのコスプレが最近見られないのも経費削減なんですかねぇ。

ガンツ　それはわからない（笑）。ただ、成瀬選手が「闘魂祭りはハッスルする場所じゃない！」と主張してたけど、そもそも『闘魂』の張本人である猪木さんがコスプレ・プロレス、エンタメの帝王なんだから。

ジャン　いろいろと抱擁できる土壌や懐の中に〝闘い〟があるのが理想だと思うんですよね。

ガンツ　「下品なポーズはいらない」とか言ってるけど、新日本はそもそも下品なくらいに何でも取り込むあの破廉恥さがあったから巨大帝国と化したと思うし、俺もそういう下品な新日本が好きだったから。元をたどれば三銃士だってヤング・ライオン時代にドン荒川さんのカンチョーを喰らって大きくなったわけだからね。もう新人のころから下品の洗礼は受けてるんだよ（笑）。

ジャン　ダハハハ。脱肛すると同時に懐も広くなってるわけですか（笑）。

ガンツ　いまは副会長という大変立派な肩書きを持つ、我らがドラゴンなんて、マードックと試合するたびにゴールデンタイムで半ケツを大公開してたんだから（笑）。

ジャン　ぜひ原点に立ち返ってもらいたですねぇ。ドラゴンにも帰ってきてほしい！

ガンツ　すべてのプロレスを内包して、甦れ、下品な新日本プロレス！ということだね。

モンスター軍全国制覇へ!
来年、
諸国洗脳漫遊記
スタートか!?

10・21『ハウス』&10・23『ハッスル6』
ラストを飾ったのは"やっぱり"髙田総統!

『ハッスル』は"勧悪懲善"のリング!?

"悪の水戸黄門"まかりとおる!!

構成／ジャン斉藤
designed by matsu（TwoThree）

いつ 何時 どこでも
ファイティングオペラ!!

高田総統リサイタル
10.21『ハッスル・ハウスvol.3』
〜モンスターホール〜

3(スリー)、2(ツー)、1(ワン)! ビターン、ビターンッッッ!!

「ハッスル、ハッスル!!」でシメませんでしたから!

下々の諸君を大・洗・脳!!

ヒールを超えてスーパーヒールへ。そして善悪を超越した存在に変貌を遂げた高田総統! ここまでの求心力を秘めているのは、マット界を広く見渡してみても高田総統ぐらいだろう。そんなビビってたじろぐ高田総統劇場を誌上再録だ!

【10・21『ハウス』メインイベントは、モ
マなヒマな何の予定もないプロレスファ
総統 おい、チキン! もし私がキミの
【大「長州!」コールが起こる】

オープニング恒例の笠原GM挨拶…

【10・21『ハウス』メインイベントは、モンスター軍のジェット・シン&アン・ジョー之助組が坂田&軍鶏侍組を血祭りにあげて勝利！ シンは試合後も軍鶏侍を痛ぶっていると、そこに〝キャプテン・ハッスル〟が登場！ ジェット・シン&アン・ジョー之助は逃走する】

小川（以下キャプテン） **おい、コノヤロー！** あさって（『ハッスル6』）はタダじゃすまさねえゾ！ 覚えてとけ、**コノヤロー！**

【どこからともなく総統の高貴なボイスが流れ出す……】

高田総統（以下総統） ……チキン君。名古屋でイタイ目に遭うのは、キミのほうじゃないのかな……。

【観客は大歓声！ 総統の〝指定席〟南側バルコニーにはスモークがたかれる】

キャプテン おい！ ちょっと待て。いまからそこ（バルコニー）に行くから待っとけ、**コノヤロー！**

【総統がバルコニーに姿を現すと読んだ小川は、駆け足で向かうが総統は不在！ なんと総統は小川と入れ替わる形でリングを占拠していた。観客爆笑！】

総統 チキン君！ キミはそんなところで何をやってるんだぁ？（アホな子を見るように）。

キャプテン あぁ～！（やっと気付いた小川）。テメエ！ 騙しやがったな！

【観客大爆笑！】

総統 おい、チキン君。**キミは〝予定外〟のことが起きるとパニックを起こすクセがあるな。** まぁ単細胞なチキンだ。所詮そんなものだろう！ さて、挨拶をしておこう。台風一過の秋の夜長にあいも変わらず、ヒマなヒマな何の予定もないプロレスファンの諸君！ 下々の諸君と言おう！

【観客ブーイング】

総統 **なかなか行儀が良くなってきたじゃないか（ニヤリ）。** 御存知だと思うが、我こそが『髙田モンスター軍』総統、髙田だ！

キャプテン ヒマなのはオメエだろ、**コノヤロー！** おい、あさっての『ハッスル6』でな、もし俺が（シンに）勝ったらな、オマエ、リングに上がれ。

あのしょっぱい歌（『ハッスル音頭』）を公共の電波に流す勇気は、私にはない！（総統）

総統 キミはまだ、ジェット・シンの本当の怖さを分かってないようだな。

キャプテン わかるわけねえだろ、**コノヤロー！**

総統 よく聞きたまえ！ たしかにある意味キミは怖いモノ知らず。この私ですらビビってたじろぐことがある。**あのしょっぱい歌（『ハッスル音頭』）を公共の電波に流す勇気は、私にはないよ！**

【観客爆笑！】

今回のハッスル劇場はいつもと構図が逆となったが、総統の舌鋒が鋭く冴え、小川がギョロ目をヒン剥いて激怒する劇場内容は変わらず。新日本勢を前にして、揺るぎない強心臓、抜群の存在感を発揮した"キャプテン・ハッスル"は、総統の前では"キャプテン・コノヤロー"に成り下がってしまう。総統、恐るべしである。

総統 おい、チキン！ もし私がキミの立場だったら死んだほうがマシだ。これがポイントだ。**ハッスルしてても、歌がヘタなら皆同じだ。ハッスルしてても、プロレスがヘタなら皆同じだ！（キッパリ）。**

【観客爆笑！】

総統 そして、もうひとつ言っておこう！ キミはまだ、プロレスラーじゃないんだよ。キミは〝エセ〟プロレスラーだ。敵に塩を送る優しさを持つ私が、あさっての名古屋で、プロレスの本当の怖さをキミのたっぷりと教えてあげよう。

【ここでモンスターたちが小川を襲撃し、麻袋をアタマから被せてグルグル巻き！ 拘束された小川はどこかに連れさられてしまう】

総統 敵を察知できない緊張感のない奴に、あの凶暴な男を倒すことができるのか。もうしばらく聞いてもらおう。私の独壇場だ！ **下々の諸君は私を見に来たんだろ？ あと一時間は喋らせてもらう。**

【スペシャルタイム宣言に観客は大歓声】

総統 緊張感のないのはチキン君だけではない。あいも変わらず、肩が痛い、ケツが痛いと泣き言ばかり言っているトンカツ！ いや、また間違えた！ ポンコツ・ポーク！ そして、引きこもり（川田）。黒パンツのロートル（長州力）。彼らはいま、アルバイトに精を出しているらしいぞ。今風に言うと、フリーターってやつか（ニヤリ）。長州君！ もし、いるなら聞いてもらいたい。**キミはいったい、なぁ～にをやりたいんだ！**

【大「長州！」コールが起こる】

総統 彼はいまアルバイト中だ！ さぁ、最後になるが、聞いてもらおう。

観客A **まだ一時間経ってないぞ！**

総統 **モンスター・ホールにも時間の都合があるんだよ（高貴に逆ギレ）！** あんまり喋ると新鮮味がなくなるだろう！

【絶妙な切り返しに観客爆笑！】

総統 本当に彼らは私をリングに引っ張り出したいのか？ あの体たらくを見ると、疑問に感じるな。ところでだ……。

観客B まだあるのか！

総統 **もう少し待ってくれ（偉そうに）！**

【再度の切り返しに観客爆笑！】

総統 今日は、我がモンスター軍が勝った暁には、この私が、下々の諸君を洗脳するという約束したな。「ビターン！」を受けたいか？

【「受けた～い！」と観客大歓声！】

総統 **オマエら風見鶏だ！**

【観客爆笑！ ここでアン・ジョー司令長官が「スリー、ツー、ワン！ ビターン、ビターン！」のやり方を指導。一回目の「ビターン！」は右手で指差し、最後は左手で指差す。準備が整い満員の観客は全員起立する】

総統 **一言いわせてくれ。オマエら、立ちすぎだ。予想外だ！**

【髙田総統人気は、総統自身がビビってたじろくほど！ 異常な熱気の中、最後のシメに入る総統】

総統 それでは、せいぜい私の洗脳を受けてくれたまえ！

観客 オーーーーッ！

全員 **スリー、ツー、ワン！ ビターン、ビターン!!**

総統 バットラック！（と叫び、さっそうとリングを降りる）

HUSTLE HOUSE vol.3

オープニング恒例の笹原GM挨拶……と思いきや、リングに照明が落とされると、そこにはジョー・サンの姿が！ 勝手な振る舞いを笹原GMに叱責され、ハッスル軍入りの直訴もあえなく却下。変態尻をさらけ出して退場した。ジョー・サンの今後の動向はまったく読めないが、気にする必要はまるでねぇんです。

大コケとなったハッスル仮面・伝説のデビュー戦の相手を務めたスペル・ウイルスは、その潜在能力は高い評判を呼んでいたが、オープニング・ハッスルで客席の階段口から見事なラ・ケブラーダを見舞い本領発揮！ 観客の心を鷲掴みに。『ハッスル』定着を決定付けるインパクトを残した。

ハッスル仮面きん&ぎんが大滑りでローテンションとなったイベントを救ったのは、金村&黒田&田中vsコールマン&ボビッシュ&シルバ！ ハードコア&ハードヒットな内容に場内震撼！ 最後はこれでもかとやられていた金ちゃんがコールマンを丸め込んで勝利という、溜飲が下がる結末！

二日後に小川とシングルで対戦するシンが小川の弟分・軍鶏侍喰い！ ブレーキの壊れた狂虎はおかまいなしに観客に襲いかかり、場内はパニックに包まれる。たった3分足らずの試合時間（主に場外戦、技らしい技はコブラクローのみ）でその狂気を十分に見せつけた。これぞジェット・シン！ という狂った内容！

『ハッスル6』名古屋大会
髙田総統、小川を秒殺!?

「ウィナー、髙田総～統～!! 試合時間3秒ネ!!」(アン・ジョー)

シンの猛攻にキャプテン大流血!

総統にいいようにしてやられた血まみれのキャプテン。ハッスル軍に流れる不協和音にも苛立ちを隠せず、「長州、川田、ハシモトーッ! お前ら3人のためにハッスルやってんじゃねえぞ!!」と絶叫。怒りの「ハッスル、ハッスル!!」でシメ!

ジェット・シンの狂乱入場に館内は騒然! キャプテンが入場する間もずっと暴れていた! 試合では、シンの残虐ファイトに初めての大流血に追い込まれたキャプテンが、その攻撃を耐えに耐え、最後は怒りを爆発させてSTOボンバー!!

今年の『東スポ』認定プロレス大賞候補筆頭の小川直也をわずか3秒で破ることで、その栄冠にまた一歩近づいた!

2004年のマット界に彗星の如く現れた怪人、髙田総統。いまだに一試合もしておらず、プロレス大賞・審査員の面々からライブドア並に厳しい受賞基準が問われかねない状態だったが、これにて問題ナシ(のはず)!

総統vs小川が行われたのは全試合終了後だ。「俺がシンに勝ったらリングに上がれ!」──小川の要求通り、髙田総統はリングに足を踏み入れた。そしてシンはなんとか破ったが、試合後にモンスター軍からリンチを受け、リングにヘタリ込んだままの小川の身体を足で踏みつける! そこをヤドカリがスリーカウントを叩いてわずか3秒の秒殺勝利! なんとヒョードルよりも早いタイムでキャプテンを倒してしまった!

たまらないのはキャプテンだ。救出に現れなかった長州と川田に向かって「ハッスル軍にいたくねえなら、いらねえよ」とリストラ宣言!! 怒りに身を任せたまま観客に「俺はキャプテンだ!! お前ら、全員立て～!!」と、『おれはキャプテン』の霧隠主将ばりにエゴをぶちまけ「3、2、1、ハッスル、ハッスル!!」と怒りのハッスル・ポーズ! 通常はハッスル軍と円陣を組み花道を引き上げるが、今日はひとりで花道を歩いて引き上げてしまったキャプテン──!!

その後、新日本大阪ドームに〝ハッスルK〟とタッグで出陣したが、その試合で川田は「ストレスが溜まった」とボヤく始末。ハッスル軍の不穏な雲行きは晴れていない。クリスマスSPを控えて、どうなる、どうするハッスル軍!? そして、髙田総統はプロレス大賞を受賞できるのか? 年末の行方が楽しみになってきた!

HUSTLE6 DIGEST

ハードコアにハズレなし!!

ハッスル軍提供試合の6人タッグマッチ「ハードコアだヨ! 全員集合」は、中村カントクより凶器使用を認められた6人が会場を所狭しと暴れ回る! 葛西純はなんと、2階席からダイビング・ボディプレスを敢行! 最後は田中がおなじみ「白いギター」で葛西を仕留めた!!

メガネフェチにはたまらない!!

最近彼氏ができたという“DSEのアヤパン”こと臼杵PRが「正しいハッスルの観戦の仕方」をビジョンからレクチャー。会見の際に、「このメス女!!」「化粧をちゃんとしてこい!」などなど、セクハラ発言を吐いてくるヤドカリには思い切りブーイングを飛ばすように指導。浮かれ気味のGMにもチクリ。

名古屋でも「K!」「C!」大合唱!!

長州&川田がタッグ初結成! モンスター軍を一蹴したが、驚くべきは“ハッスルK”とモンスターCの「K!」「C!」合唱が名古屋の地でも大ブレイク! 表に「K」、裏に「C」と書き込んだプラカードを持って、攻撃のたびに交互に回転させる“平成のハッスラー”もいた!

ホーガンの弟子が『ハッスル』初登場!

“ハッスル・ゴッド”ホーガンの愛弟子、Mr.USAが『ハッスル』に参戦!! 10・23『ハウス』の日本デビュー戦は緊張の余り、硬いで動きで満足のいくファイトができなかったが、二戦目の名古屋はやっとエンジンがかかってきた模様。軍鶏侍との“日米弟子タッグ”で「ハッスル、ハッスル!!」

ハッスル仮面きん&ぎんにたじろいだ!!

10・23『ハウス』で失笑デビューを飾ったハッスル仮面きん&ぎん(名古屋出身のきんさん・ぎんさんにあやかっている)は、この日も観客の失笑を誘う低空飛行。途中で足を負傷し、身動きがとれないエル・ハテナを容赦なく攻め立てるその姿は、とてもヒーローとは程遠いのであった……。

ケビンに続いてコールマンも追放された!

モンスター軍提供マッチは先日の『ハウス』で敗れた罰として、シルバvsボビッシュvsコールマンの「敗者髙田モンスター軍追放3WAYマッチ」! しかし、シルバとボビッシュがあらかじめ裏で結託し、コールマンは2人がかりで攻められ敗北! 無惨にもモンスター軍追放となった……。

➡坂田亘vsアン・ジョー之助の「敗者身代わり髪切りマッチ」の詳細はP49へハッスル、ハッスル!!

10・23『ハッスル6』名古屋大会は『ハッスル』シリーズ史上、最高の盛り上がり！

深夜枠ながら東海テレビが『ハッスル』を地上波放送している影響だろう。愛知県体育館に集ったお客さんたちは、『ハッスル』の世界を熟知している盛り上がり方をみせた。

もっとも顕著な例は、〝ハッスルK〟&長州vsモンスターC&バルバロッサ組のときのこと。〝ハッスルK〟とモンスターCが絡むと、〝待ってました！〟とばかりに「K！」「C！」大合唱が自然発生。これまた恒例になっている〝ハッスルK〟試合前の控室映像のときなどは、その〝主人公〟石狩太一が姿を現しただけで歓声が沸き起こる。これは『ハッスル』の〝お約束〟を熟知していないと楽しめない。

会場規模も観客の熱気が薄まらないちょうど良い広さ。観衆7758人の動員で当日券売り場には長蛇の列。満員とは言い難いナンバーシリーズを見慣れたマスコミは、その大行列を見て「会場を間違えたかと思った」と唸る盛況ぶり。開始時刻が遅れたのはその行列が解消できなかったからだ。通常のナンバーシリーズは、横浜アリーナの広さに苦戦している『ハッスル』。この初の地方進出の成功は、いろいろな面でこのうえない自信となったに違いない。

今号のインタビューでキャプテンが明言しているように、『ハッスル』は来年大阪進出を視野に入れている。東北ではみちのくとのコラボイベント『ケッパレ1』を開催しているが、〝杜の都〟仙台でナンバーシリーズの開催案も浮上している。一部で報道されている〝1・3『ハッスルマニア』開催〟は、『ハッスル』関係者によれば「ありえません。2月上旬にナンバーシリーズを行う予定はある」とのことで、「来年は『ハウス』の開催を大幅に増やしながら、ストーリーラインを組み立てナンバーシリーズに大きく繋げていく」一方で、積極的に地方進出を計画していく構えになりそうだ。

戦力的な面でいえば、現在の『ハッスル』は、長州は新日本との抗争勃発でハッスル軍とは微妙なスタンスを保ってまま。〝ハッスル・キング〟橋本真也は肩の負傷に加えて、ZERO－ONEのお家騒動が表面化している。万全とは言い難い布陣。しかし、ハッスル軍の敵ながら、それを補う快刀乱麻の活躍ぶりを見せるのが高田総統!!『ハッスル』ではキャプテンや〝ハッスルK〟と並んで、絶対的な人気を誇っているのは皆さん御存知だろう。

いくらハッスル軍がモンスター軍を追い込んでも、最後は総統が高貴に現れ、かならず主役の座を強引に奪い取っていく。〝勧善懲悪〟ならぬ〝勧悪懲善〟な世界。島田参謀長とアン・ジョー司令長官を助さん・格さんのように従えて、抑圧された町民（プロレスファン）を一歩も二歩も踏み込んだ話術で解放に導く〝悪の水戸黄門〟とは高田総統のことなのだ。

ハッスル軍の結束がこのまま危ういものであるならば、波田陽区のモノマネまでやってしまうように、総統の勢いは止まることは知らない。『ハッスル』の地方進出も、総統の洗脳漫遊記と化してしまう恐れは十分にある。

〝地方進出〟と同時に、〝高田総統越え〟という巨大なテーマが浮上しているハッスル軍――年内最終興行となる12月のクリスマスSP二連戦は、来年に向けての大きな動きは生まれるのだろうか？ ハッスル、ハッスル!!

10·21『ハウス』&10·23『ハッスル6』
MVPは"インドの狂虎"だ!

「シュートを超えたプロレス」を体現する男

タイガー・ジェット・シン!!

「シューティングを超えたものがプロレス」という名言を吐いたのはジャイ

客席を蹂躙する狂虎に、ZERO

フーテンの虎が浅草にやってきた!

ジェット・シンの浅草寺探訪

戦慄の『ハウス』から一夜明けた10月22日、本誌編集部に狂える電話が入った。声の主はなんとジェット・シン! ……ではなくて、シンが宿泊するホテルの従業員! シンから言付かった要望を編集部員に伝えてきたのだ。「ミスター・シンは“ヘイ! いまから10分後に浅草寺の雷門前に来い! 記者会見をやってやる!”と申しておりました」「10分後? 編集部からゆうに1時間はかかるんですが……」「“俺様を待たせることは一分たりとも許さん!”と申しておりました」「そう申されても……ミスター・シンはいまどこにいるんですか?」「たったいま六本木のホテルを出たところです」「ろ、六本木? 10分じゃ浅草には着かないじゃないですか! ズバリ言ってそうでしょ!?」「そうズバリ言われましても……私もミスター・シンに頼まれただけなので」――『ハッスル』を運営するDSEに連絡を入れてみたが「そんな会見をやる予定はない」……なんと勝手に開催! シン恐るべし! とりあえず超特急で浅草寺に。約束の時間から遅れること30分――浅草でウロつくシンを奇跡的にキャッチ。観光気分に浸る狂虎を激写した!

狂虎が浅草寺界隈を練り歩く。シンが歩けばモーゼの十戒のように目の前が切り開かれる。土産物の木刀が殺傷可能な凶器に見えて仕方がない!

「地獄の業火に焼かれるがいい!!」煎餅屋に侵入し勝手に餅を焼き始める! 思い切り焦がしてしまったが「シンだからしょうがないねぇ」と店の人。

鋭い目つきで土産物屋を物色。吉永小百合の大ファンで、カナダを代表をするサユリストとして名高いシンは、江戸美人のチェックも欠かさない。

恍惚の表情で参拝! ジェット・シンの浅草寺会見&観光はこれにて終了。次回の来日のときに観光の機会があったらまたお供させてください!

「俺様はナンバル・ワン(NO.1)だ! この店の煎餅はナンバル・ワンなのか?」険しい表情で試食をするジェット・シン。いつなんどき真剣勝負なんだ!

「シューティングを超えたものがプロレス」という名言を吐いたのはジャイアント馬場さんだったが、『ハッスル』のリングで大復活を遂げた〝インドの猛虎〟タイガー・ジェット・シンは、「シュートを超えたプロレス」を体現する稀代のレスラーだ。

10・21『ハウス』及び10・23『ハッスル6』でのシンの大暴走は、両大会を通じて文句なしのMVPであり、我々が勝手に思い描いていた〝プロレスの範疇〟を軽く飛び越えていた。観客相手に本気でサーベルを振り回すシン!

辺り構わずイスを放り投げるシン! シンが投げ散らかしたジュースやポップコーン入りの紙コップを頭からモロに浴びて、呆然と立ちつくすチビッ子の姿も……。

客席を蹂躙する狂虎に、ZERO―ONEの〝オッキー〟沖田リングアナが精一杯の声を振り絞り観客に注意を呼び掛ける。

「危険ですから近寄らないでくださいっ! 危ないですっ! 危ないっ!」

オッキーの警報付きで客席を暴れ回るのはプレデターがおなじみだ。しかし、何をしでかすわからないシンのほうがはるかにデンジャラス。「この行為すらもエンターテイメントの領域」などとナナメヨミする輩もいると思われるが、ズバリ言えば、誌面でとてもお伝えできない事態にまで発展したというか! とにかくシンは、たった3分程度の試合時間で会場を戦慄と恐怖に陥れたのだ。

そしてこの狂える虎は、たとえスポットライトを浴びていなくとも、観客やマスコミがイメージする〝タイガー・ジェット・シン〟を徹底的に打ち出している。いや、本能で動いてると言うべきか。

『ハッスル』のスタッフは頭を抱えてこう言う。

「まいりました。普段は紳士なんですが、シンは会場に一歩足を踏み入れると、近寄るスタッフを蹴りまくるんです!」

素晴らしきキ●ガイじゃないか!

会場入りの瞬間、戦闘モードに切り替わる選手は数多いが、勢い余ってスタッフに蹴りを見舞う人間は聞いたことはない。それにシンは還暦を過ぎて齢60歳。カナダに2億5千万の豪邸を構える実業家にして大富豪。お金がほしいわけでもなく、闘いへのモチベーションをここまで維持できるのは、プロレスラーの鏡だ!

平成に〝狂虎&まだら狼〟が復活! アン・ジョー司令長官は高田総統の「ピターン!」を受けて、「シンを唯一コントロールできる男・上田馬之助」キャラのアン・ジョー之助に変身! 表情から髪の色、木刀を持つ仕草まで完コピでシンを誘導。なんでもこなすアン・ジョーは毎大会、助演男優賞モノの暴れぶりである。

タイガー

まさに〝リアル・プロレスラー〟とでも呼ぶべきシンは、本誌75号に掲載されているインタビューで「俺様が闘えばすべてシュート・ファイト!」と吠えまくった。これは決して時代から取り残された、時代錯誤的なプロレスラーの言葉ではない。胸中に煮えたぎる狂気な感情を純度100%のまま叩き付け、その狂気をいびつにハミ出しながらも見事に着地点に落下することできる、〝プロの中のプロ〟ならではの言葉である。〝キャラクターとは格好だけではなく、その人間の人格そのものをわかりやすく突出させること〟という目的意識をもとに、プロレスの原点に立ち返ろうとしている『ハッスル』にとっては、そんなシンの存在は格好の教科書になるだろう。

ジェット・シンの暴れぶりは単なるパフォーマンスではない。シュートだ! そしてそれは超一流のパフォーマンスでもあるのだ――!

芸能界最強伝説が今、明らかに!

みてみい
この腕っぷし!!

TVキャスター

草野仁は本当に“スーパーひとし君”だった!!

TBS『世界ふしぎ発見』や日本テレビ『THEワイド』などでおなじみの草野仁。そのソフトな語り口でお茶の間ではおなじみのピープルズ・キャスター(皆のキャスター)が、なぜか本誌に初登場! 知る人ぞ知る熱狂的なWWEフリークであると同時に、自身も凄まじい格闘センスと身体能力の持っている文字通りの“スーパーひとし君”ぶりをとくとご堪能あれ!

聞き手/坂井ノブ、松澤チョロ　撮影/丸山剛史　スーパーバイズ/吉田豪　designed by Shiraki (TwoThree)

サービス業は期待に応えるのが基本ですが、WWEは我々の期待を衝撃的に越えますね

――遂に草野仁さんにご登場頂くことになりました！ ありがとうございます！

草野 よろしくお願いします！

――草野さんといえば、芸能界でも1、2を争うWWEマニアということで、WWE絡みの取材の際には毎回WWEのTシャツを着て登場するというほどの熱狂ぶりでプロレスファンからもメチャクチャ注目を集めてるんですが（笑）、そもそもWWEにハマリだしたきっかけというのは？

草野 たまたま私の長男が自宅でスカイパーフェクTV！を見ていたんです。画面にはプロレスラーも映っているんですが、そのうち女性も出てきてワーワーやってて「何だこれ？」という展開になって。長男は「おもしろいよ」と言うんですが、「まさか？」と思いつつ見てみると「これは結構イケるな」と（笑）。プロレスを軸にしてスーパースターを巡っていろんな人間模様が続きもので展開されていきますよね。うまく演出してあるプロレスだなと衝撃がありまして。

――普通のプロレスを見ている感覚ではなかったですか？

草野 違いましたね。ある意味で、サービス業はお客さんの期待に応えるというのが基本なんですけど、もっと素晴らしいのはお客さんの期待を超えるということだと思うんです。WWEを見ているとお客さんが想像している領域よりも、さらに奥深くに踏み込んで、我々の期待を衝撃的に超えていきますよね。「えっ？ここまでいってしまうのか？」というような。そういう演出家たちの巧みな狙いと同時に、ビンス・マクマホンを中心にあそこにいるスーパースターたちが自分の与えられた役割を見事に演じていく、その根底にあるアメリカならではプロフェッショナルな仕事も素晴らしい。そういう部分から引き込まれてしまったわけです。それが約4年ほど前ですね。

――いいですよねぇ。個人的にはWWEがいちばん面白かった頃だと思います。

草野 まず、TVに出てくる第一線のスーパースターたちが、自分の肉体に責任を持って、精一杯のシェイプアップを図って肉体を磨き上げるわけですよね。まず商品として華があるというか期待感を抱かせる、それが第一だと思います。なかなか日本のプロレスはそこまでいきされてない部分もありますから……。

――そうですね。

草野 WWEスーパースターは、見ただけでも「おお、凄そうだな」というものがありますね。強いレスラーでありながらエンターテイナーとしての才能もあり、リング上のレスリングにも幅があるし、マイクパフォーマンスで自己表現をする。これは、いくら日本でやろうとしても、日本語の壁というものがあるんです。

――日本語の壁ですか？

草野 日本語というのは長い歴史の中で、書き言葉による文章表現がレベルアップしてきたんです。それこそ源氏物語の時代から書いて表現をするという分野は大変レベルの高いところまでいってるんですが、残念ながら話し言葉で自分を表現するということは歴史的にもほとんど行われていないんです。

――たしかにそうですね。

草野 外国みたいに髪の色も肌の色も目の色も違う人たちが混ざって一つの社会を構成していると、社会に何か問題が起きると「自分はこの問題について、このように考えます」ということを論理的に分かりやすく伝えていかないといけないわけです。それが出来ないと「あいつ、何を考えてんだ？」となってしまいますから、外国の人たちは何千年も前から、いかにして分かりやすく自分の考えを伝えるかということをやっていて、それは学問としても雄弁術や修辞学という形で積み上げているんです。自分の考えを話し言葉で表現するということが、学校教育の中でもカリキュラムに入っていて、それが当たり前のこととして〝できてなきゃいけないこと〟なんですね。

――なるほど。

草野 ところが、日本人は髪の毛も目の色も同じで、社会の仕組みも封建的な時代が長く続きましたからね。

――〝お上の言う通り〟という時代が長く続きすぎたんですね。

草野 そうなんですよ。お上の考えていることが社会のシステムを通じて、いつの間にか下まで伝わっていくという構造ですから。だから、街角に立って「この問題はおかしい！」なんて言おうものなら、「危ねえぞ、あいつ」となってしまうんですよ。そういう芽が出てきたのは、明治時代に川上音二郎が街頭に立って「オッペケペー節」とかをやり始めたのが最初じゃないんですかね。我々は話し言葉を使って自己表現をするということをほとんどやっていないから、すごく未成熟なんです。江戸時代に儒教精神が浸透したこともあって「格好いい男は寡黙である」ということで、高倉健さんのような普段は何も言わないけどやることはキッチリやるというのが理想の男像であり続けたんですが、そうじゃなくて本当は言うべきことは言って、みんなに理解を求めるものはみんなに理解を求めなきゃいけないんです。だからいまだに日本では、人前で話をすることの専門職として、放送局などが雇っているアナウンサーという特別な存在を作って教育していかないと、そういう専門職は育ってこないでしょうね。だから、日本でプロレスをやってビンスのようなマイクパフォーマンスをやろうとしても、絶対にうまくいかない！（キッパリ）。さっき言ったような言葉の壁もありますし。結局、「コノヤロー!!バカヤロー!!」の連呼になっちゃいますから。

――確かにおっしゃる通りです（笑）。

草野 WWEは、長い歴史を持った彼ら独特の表現技術をリング上でやってるところに、面白さがあると思うんです。

――なるほど。草野さんも長年に渡ってTVの仕事をやってこられたわけで、TVの視点から見た鋭い指摘はまさにその通りだと思います。

ボディビルも少々やっていたというHBK（ヒトシ・ボッシュート・クサノ・左）と最近は欠場中のHBK（ハート・ブレイク・キッド・右）。

マイクパフォーマンスで自己表現するとき〝日本語の壁〟というものがあるんです

草野　もともと私は高校まで長崎県の田舎で育ったんですけど、大学を出てNHKに入ったときに、まず取材記者をやろうと思ったんです。事件・事故をつぶさに取材して、たまにはマイクを持つこともあるでしょうけど、記事を書きたいと思ってたんです。

——それがアナウンサーに配属された理由は？

草野　それまでNHKは本人がアナウンサーになりたいという人の中からアナウンサーを選んでいたんです。ですが、私が入社した昭和42年頃はテレビが世間一般に浸透していく中で、アナウンサー志望ではない者たちもひっくるめて、NHKを受験に来た全ての人に音声テストを課して、その中から「こいつは結構いいんじゃないの？」っていうヤツをピックアップしてアナウンサーとしてやらせてみようという時期だったんですね。たまたま私は就職試験を一つしか受けていませんで、採用通知をもらったらアナウンサーとしての採用でビックリしたんです。だって、標準語がちゃんと使えるわけじゃないし、人前でしゃべることが好きでも上手でもないわけですから。

——それは驚きますね（笑）。

草野　出来るわけないだろうって思いましたよ。ですが、その年にNHKにアナウンサーとして採用された16名のうち、アナウンサー志望は1人だけだったんです。それこそ「カメラマンをやりたい」「記者をやりたい」「番組ディレクターになりたい」っていう人ばっかりでしたね。

それでもNHKは有無をいわさず2ヶ月半、研修所に缶詰にして徹底的にアナウンサーの訓練するんです。それである程度のことを出来るようにしてから、ローカル局に行かせて経験を積ませるんです。その中から使えそうなヤツを東京に戻すんですけど、一寸ムチャとも思えるシステムでやってた時代なんです。

——厳しい競争社会なんですね。

草野　最初、鹿児島の放送局に配属されたんですけど、他のアナウンサーの仕事をじっくり見て考えたら、能動的に積極的に仕事が出来るのはスポーツ放送なんですね。ラジオ時代からそうなんですけどスポーツ放送だけはアナウンサーが取材をして、なおかつ実況もするんです。取材者であり表現者でもあるんです。

——両方出来るんですね。

草野　そうなんです。たとえば、報道のアナウンサーの仕事というのは、司会者としてのタイムキープが主な仕事なんですね。「本当は自分の方が知っているのに!!」と思えるような事柄でも、報道局から別の記者が来てリポートする。自分は知らないような顔をしながら話を回して時間をキープして、一つの番組に仕上げるという役目なんです。これで能動的に仕事が出来るかというと、必ずしもそうではない一面があって。自分がスポーツを好きだったこともありまして、スポーツ放送を目指してみようと思ったんです。

——なるほど。

草野　ですが、もともと標準語がちゃんとできるわけでもないし、アクセントやイントネーションも間違うことがある。それを矯正するのは苦労するわけですよ（笑）。大変だなぁと思いながらもプロとしてやっていかないといけないですから。そこでアナウンサーという仕事は何なのかと自分なりに考えたとき、ひとつ分かったのは、アナウンサーは視聴者にとって最も分かりやすい表現者でなければいけないということなんです。誰がやっても同じということではつまらないですから、その時に担当していた人間があることを説明したら、「ほう、そういう見方があったのか」と皆さんが聞いて分かってくださるような仕事をしたいと思ったんです。言ってみれば、話すエッセイストや作家のような仕事でなければならないということに気が付いたんです。そうは言ってもなかなか上手くいかないんですけど、そういうことを一生懸命やっていたら「お前の放送は結構分かるぞ」ということでスポーツアナウンサーとして認められまして、鹿児島、福岡、大阪と放送局を移りながら10年後に東京に戻ってきたんです。

——ちなみに、鹿児島ではどんなスポーツの中継をやってらっしゃったんですか？

草野　もちろんプロスポーツはないですから、甲子園の県大会ですとか、春のセンバツ優勝校を招いて鹿児島の高校と対戦する親善試合などを放送していましたね。あとは剣道が盛んな土地なので県内の東西対抗試合とか、あとは沖縄の流れを汲んで空手も盛んですから剛柔流の人たちに教わりながら空手のイベントも放送したりしました（笑）。

——じゃあ、草野さんご自身も企画段階からどんどん放送に加わっていたんですね？

草野　そうです。ローカル放送ではどんどん自分から企画していかないといけないんです。アナウンサーだからといってじっと待っていたんでは仕事になりませんから。

——そのNHK時代にレスリングのチャンピオンと番組の企画で対戦して勝ってしまったというエピソードもお持ちなんですよね？（笑）。

草野　あれは昭和51年のモントリオール・オリンピックの頃ですね。私は大阪放送局におりまして、「中継アナウンサーとしてオリンピックに行ってこい」ということになったんです。私の担当が水泳、柔道、レスリングの3種目だったんですが、レスリングだけはやったことがなかったものですから、「さあ、事前にいろいろ勉強しなきゃいけないな」という感じだったんです。たまたま関西大学に伴先生という国際審判員の方がいらっしゃいまして、「レスリングの担当になりましたので、いろいろ教えてください」とお願いしたんです。そしたら、「じゃあ、とにかく一度いらっしゃい」と。で、大学まで行ったら、「勉強というより、とにかく一度やってみなさい。やってみれば大体のことは分かるから」と言われまして（笑）。相手は60kgぐらいの軽いクラスの選手が出てきたんです。当時、私は74～75kgだったと思うんですけど、やってるうちにだんだん「負けたくない」という気持ちになってきまして（笑）。

——燃えてきたわけですね！（笑）。

草野　相手は「レスリングを知らないヤツだから楽に勝てるだろう」と思っていたんでしょうけど、私がいい形になってフォールしてしまったんですねぇ。ビックリされましたけど。

——そりゃビックリしますよ（笑）。格闘技のご経験はあるんですか？

草野　いわゆる格闘技をやってたことはないんですが、私の父親が長崎県の剣道連盟で島原の支部長をやっていたんです。もともと大学まで剣道をやっていたんですが20年以上もやっていなかったんです。それが50歳を過ぎてから急にまた剣道を始めまして、忙しい仕事の合間を縫って毎日稽古をやりながら七段まで取ったんです。

——凄いですね！

草野　それで八段を取るとか息巻いてたんです。ただ、警察学校の先生ですとか専門的に剣道をやっている人には八段が与えられるらしいんですが、畑違いのところでやっている人にはあまりくれないみたいで文句を言っておりましたね（笑）。

——名誉段みたいなものなんですね。

草野　そんな父親からメッタやたら

と打ちしごかれて、私も二段までは取りました。

――草野さんは足がメチャクチャ速かったと聞いてるんですが。

草野　ええ、短距離だけですけど田舎ではいちばん早かったです。陸上部にいたんですが専門のコーチがいるわけでもないので自己流で適当なトレーニングをしてたんですけど、あんまり勉強せずにいたものですから父親が怒って学校に勝手に退部届けを出しちゃったんです。部活を辞めさせれば勉強するだろうと思ってたみたいなんですが、そう簡単にはいかないですからね（笑）。100メートルで11秒2まで記録を出してたんですが。

――自己流で11秒2！　凄いですよ、それは！

草野　ちゃんとトレーニングすれば10秒台には入れると思っていたんですけどね（しみじみ）。だから、ずっと自分の中には「思いっきりスポーツをやってみたかったよなぁ」という気持ちを今も引きずったままなんです。あと島原は相撲がすごく盛んな土地ですから、小さい頃から私も強かったんですね。どういうわけか昭和41年の夏、私が大学4年生のときに「おい、草野。いるんだったら来いよ！」と呼び出されまして、国体の予選に出ることになったんです。

――子供の頃に強かったイメージだけで国体予選に出場ですか!?（笑）。

草野　それで、前年度優勝選手と8戦全勝同士で決戦になりまして、いい相撲になって投げの打ち合いになったんです。私は勝ったと思ったんですが行事の軍配は相手に上がったんですね。ですが、審判員の方が元幕下の雲仙山という方なんですが、「同体だ」ということで再試合になったんです。

――ほう！

草野　どんな格闘技でも同じだと思うんですが、組んだ瞬間に相手の力量は分かりますよね。その時は「四つ相撲でもじゅうぶんいけるな」と思ったんです。

――前年度優勝者を相手に「じゅうぶんいける」ですか！（笑）。基本的に四つ相撲だと力の差が出ますよね？

草野　相手は120kg以上で、私はその頃77・5kgだったんですけど「すぐに決着をつけてやろう」と思いまして、立ち会いでガン！と当たってすぐに右上手を引いて、左ハズで押したところをパーンと出し投げを打って2秒ぐらいで勝ちました。

相手の選手は悔しがって「番外でいいから、もう一回やろう」と言ってましたね（笑）。ですから、格闘技経験というのは剣道を少しと相撲を少し、といった程度しかやってないんですよ。

――はぁ～、つまりナチュラル・パワーと天性の格闘センスですね！

草野　TVが出たばかりの頃、私の家にはなかったんですがお金持ちの友人の家に毎日のように見に行きまして、栃錦・若乃花の時代からよく見てたんです。自分たちで相撲を取る時にも「ああなればこうなる」っていうのは、かなりつかんでましたね。

――相撲には相当な思い入れがあったのに、なぜNHK時代は相撲の中継には携わらなかったんですか？

草野　NHKのスポーツ放送は相撲班と野球班に分かれるんです。相撲班になると15日×6場所で年間90日間は相撲に専従せざるを得ないので、その間に他のスポーツイベントの放送は出来ないんです。野球班に入ると相撲以外のいろんなものに対応できるので他のスポーツイベントにも携わることが出来るんですけどね。結局、相撲班に行くと道を閉ざすことになると思ったので、最終的には野球班を選びました。ただ、ずっと関心を持って見ていましたし、のちに『ニュースセンター9：00』でスポーツコーナーを担当していた時には支度部屋で取材をしたりもしましたね。

――今も相撲には思い入れがあるんですか？

草野　ええ。でも、相撲はスポーツとして改革しなきゃいけないと思います。今日、相撲は魅力ないですよね？

――人気もだいぶ落ちてきてますよね。

草野　そりゃ外国人だけが勝ち続けて、日本人で魅力的な相撲取りが出てこない状況では、そうなるのが当たり前ですから。もちろん日本人がハングリーではなくなったとか、いろいろな状況があるんです。やっていても凄く面白いスポーツなんですけどねぇ。昔から簡単に土俵の外に出されないためにまず体重を増やすというのがありますよね？朝早くから起きてきて、すきっ腹のところに稽古をやって、疲れたところにメシをガーッと食わせて、昼寝をさせて……まあ、ブタですよね（キッパリ）。

――ブタですね（笑）。

草野　それで午後に起きてきて、夕方にはタニマチかなんかに誘われてメシをいっぱい食って、女遊びをして？……スポーツとしてのトレーニングが十分には出来ていないわけですよね。相撲はバランスの崩し合いで凄く面白いスポーツなんだから、スピードとパワーとスタミナをちゃんと養成して、それぞれの筋肉が強くなるようなトレーニングをすればロック様みたいな体型でもムチャクチャ強い相撲取りは絶対に出来るはずだ、というのが私の昔からの持論なんです。

――ロック様のような横綱がいたらシビレますねぇ。

草野　まずは稽古からやり方を変えていかないといけないですよね。競馬なんかも閉鎖的なサークルでした

周囲からは何度となく減量を勧められ、本人も減量を望み、現在は215kgまで減った曙。泥沼の5連敗で苦しむ曙もぜい肉さえ落ちれば結果も少しは変わるはず！　しかし、『Dynamite!!』では約100kg以上も軽いホイス・グレイシーのスピードについていくことは可能なのか？

けど、最近はだいぶ国際化が進んできてますよね？それこそ30年ほど前にシンザンを育てた武田文吾調教師は「ここ（競馬界）は元禄時代なんだぜ」っておっしゃってましたけど。相撲界も10年計画ぐらいでいろんなものを少しずつ変えていけば、必ず魅力的な相撲取りが出てくると思うんですよ。そうすれば子供たちや女性ファンも増えますよ。

——いまの相撲は世間一般に対するアピールがなさ過ぎますよね。

草野　異常にお腹が出て肉が垂れるしかないああいう体型は……美しさから遠いですよ。

——10年前ぐらいだったら元大関の霧島とか締まった体の力士もいたんですけどね。

草野　そうそう。あとは千代の富士も魅力的な体型だったじゃないですか？そういう意味では元横綱・隆の里の鳴戸親方にはすごく期待しているんです。彼は糖尿病を克服して頑張っていましたし、読書家で勉強家ですから。

——漢方薬にはかなり詳しかったみたいですね。

草野　『世界ふしぎ発見』にも出てもらったことはあるんですが、ぜひ一度、相撲についてじっくり話をしてみたいなぁと思うんですよ。相撲の新しい方向性を示してくれるんじゃないかと思うんです。鳴戸部屋からは稀勢の里（きせのさと）という有望な力士も出てきましたし、そういう人が増えてくればいいと思います。相撲は興行じゃなくて肉体を使ったスポーツだという意識に立って、強い相撲レスラーをどうやって育てるかという原点に返ったほうがいいと思うんですよね。

——じつはプロレスも全く同じような状況なんですよ。肉のダブついた

あれだけ体重があったら、いくら動けといっても限度がありますから

30〜40代の選手がトップに居座っていて、20代の若い選手がなかなか台頭できずに、プロレス自体の人気もどんどん落ちている状況なんです。草野さんがおっしゃっているような改革案はプロレスにも通用すると思います。

草野　そうですね！私はそれこそ力道山世代の人間なんで、近所の映画館で1週間に一度やっているニュース映画で毎週のように見てました。

——えっ？そのニュース映画というのは街頭テレビとは違うんですか？

草野　ええ。映画館に行くと映画と映画の間に上映されるんですけど、そこで力道山がシャープ兄弟をやっつけた姿を見たのが最初ですね。そうこうするうちにTVも見られるようになって、日本チームが外国人タッグの攻撃に苦しみぬいた末に力道山のカラテチョップで勝つという……最高でしたね。よく教室では机を全部後ろに下げてプロレスごっこもやりましたし。

——いつの時代も必ずやりますよね（笑）。

草野　でも、5年生の時に私が学級委員長をやっている時に、誰かが相手を投げてその弾みでヒジの上に乗っちゃいまして脱臼してしまったんです。それを担任の先生に報告に行ったら「学級委員長が悪い」ということで怒られて、ケガをした子の家に謝りに行ったこともあります（笑）。その後も馬場さんや猪木さんの時代のプロレスも欠かさず見てました。

——いつ頃まで見ていたんですか？

草野　ずっと見てましたよ。新日本にタイガーマスクが出てきたときには、すごく視聴率も良かったので、私がスポーツコーナーをやっていた『ニュースセンター9：00』でも見逃すわけにはいかないだろうと思ったんです。

——NHKのスポーツコーナーでタイガーマスクですか！（笑）。

草野　ええ、それで自分で新日本プロレスに電話して新間（寿）さんに会いに行ったんです。

——え〜っ、そうなんですか!?

草野　「取材をしたいんですが」って話を新間さんにしたんですが、結局は「他局のものだから」ということでダメだということになりまして、放送は出来ませんでした。新間さんはご機嫌よく話をしてくださったんですけどね（笑）。あと、ABCの番組『旅サラダ』で向井亜紀さんと親しくさせてもらってまして、高田（延彦）君と結婚するということになって、どうも他人に思えなくてUインターの試合があるたびに見に行って感想を書いた手紙を送ったりしてたんです。

——それは凄いですね！（笑）。

草野　そういう感じで、ずっと日本のプロレスもずっと関心を持って見ていましたね。ただ、WWEを見るにつけ、もう一度原点に立ち返って、身体を鍛え直して、自分の個性をいかにお客さんにアピールするかということを求めていかないといけないと思いますね。

——日本でもハッスルのようなエンターテインメント・プロレスが出てきているんですが、そちらはご覧になっていますか？

草野　見たことはないんですが雑誌では追いかけています。WWEの亜流として日本でもああいう形でアピールするのはアリだと思います。

——それとは対極にあるPRIDEのような総合格闘技もご覧になっているんですか？

草野　ええ。よく見てますよ。いま本当に強い男というと、（エメリヤーエンコ・）ヒョードルと（アントニオ・ホドリゴ・）ノゲイラがズバ抜けてると思います。彼らの強さって何なのかな？と考えてみると、専門家ではないので細かいことは分からないんですが、ミルコ（・クロコップ）もそうですけど、「このポイントをこうすれば、人間の身体はこうなる」ということを熟知してるんじゃないかと思うんです。極言すれば、人間を殺すにはどうすればいいかを知っているということですよね。

——軍隊や警察出身だったりしますからね。

草野　そういう人たちは、人間の弱点を細かく知ってるんで、ああいうところに出てくると強さを発揮しますよね。それこそ、ずっと競技スポ

草野仁

ーツをやっていた人たちとは強さが違うんですよ。あの最初のノゲイラvsヒョードルの試合も、ノゲイラの側から見てみると意外な発見があったりして……。

――どんな部分ですか？

草野　あのヒョードルの利き腕である右手首を最後まで押さえて放しませんでしたよね。だいぶダメージを受けているにもかかわらず、ヒョードルの右手を放さなかったですから「これは並大抵の選手じゃないな」と思いましたね。たぶん、あの手を放した瞬間にボコボコにされてしまうんでしょうけど、あの体勢で手を持ち続けることは相当に難しいと思うんですよ。

――彼らはロシア、ブラジル、クロアチアという、いわゆる先進国じゃないところから出てきているんですが……。

草野　自分の肉体で危険を回避していかなければならないという社会事情もあるんでしょうね。特に軍隊や警察で人に技術を教えているような選手というのは本格派ですよ。だから、日本人があのレベルに到達するのは難しいじゃないかなという気がします。ノゲイラはまるで大蛇のように隙があれば腕を絡めてきたり、足が入ってきたり、異常なまでの弱点探知能力とそこへ向かっていくまでの行動は動物のようでもありますよね。

――先ほどの話で出てきましたが、ミルコはいかがですか？

草野　すごくいい選手だと思いますし、個人的にもかっこいいと思うので大好きなんですけど、やっぱりノゲイラやヒョードルと闘うと勝てないだろうなと思います。K-1から総合格闘技の世界に入ってきて、応用力やの吸収力には凄いものがあって力を持ってる選手だと思うんですが、最終的に多分、彼らとやったら勝てないんじゃないかな、と。

――それほどヒョードルとノゲイラを評価してらっしゃるということですね。ミルコのように自分が挑戦するジャンルを変えるというのは非常に難しいと思うんですが、相撲からK-1に転向した曙さんはどうご覧になってますか？

草野　さっきも言ったように相撲は体重を徹底的に重くするということから入ってしまっているので、格闘家としてリングの中を縦横無尽に動いたりスタミナで相手に対処するということが、基本的には出来ませんよね。あれだけの体重があったら、いくら動けといっても限度がありますから。心臓の機能を維持するためには、何分も同じように動き回ることは出来ませんよね。おのずと曙さんには限界があると思うんです。

――そうすると活躍するのはWWEの舞台ということになるんですかね（笑）。実際、同じサモア系のロージーとかジャマールといったスーパースターはメチャクチャでかいんですけどポンポン飛んでますからね。彼らを見ていると「体重」なんて関係ないのかなと思うんですけど……まあ、彼らは本当にすごい身体能力を持ってますからね（笑）。

草野　たとえばNBAを見ていると2メートルを超える選手がフィールド内を動き回っているじゃないですか？でも、同じ2メートルの選手でも日本人の場合はスピードがなかったり、どこかに弱点があるのと似ているかもしれませんね。

――こうしてお話をうかがってると、いわゆる総合格闘技のような世界もエンターテインメント・プロレスのような世界も、草野さんは分け隔て

いま本当に強い男といえばヒョードルとノゲイラがズバ抜けていると思います

2003年3月16日、PRIDE.25で初激突したノゲイラとヒョードル。ヒョードルの"氷の拳"が何発も顔面に襲い掛かったが、ノゲイラは決定打だけは最後まで打たせなかった。

さすがに『タフ・イナフ』には出ていません

ですが、受けの上手さも特筆すべ

ことがＨＢＫ、つまり「Ｈ（ヒト

さすがに『タフ・イナフ』には出ていません
芸能界大会があったら面白いだろうなぁ

なく同じ目線でご覧になってるんですね。

草野　そうですね、どちらを見ても変わらないですね。人を見ていると いう点では同じですから。真剣勝負はその時に最高の選手同士をぶつけ合えばいいと思うんですけど、WWEはビンスを筆頭にしてお客さんを徹底的に楽しませて「サービス業はここまでやるんだ!?」と驚かせてくれますよね。大きな意味では私もサービス業の世界におりますので、勉強になります。

——本来ならビンスがおケツを出す必要はないわけですからね。

草野　そうなんですよ（笑）。以前、TVでやっていましたけど、普段のビンスは番組のプロデューサーとしてTVルームにこもって真剣そのものですが、いざ人前でリングに上がる時になると大股でいかつい顔になるでしょう。あの演技力は凄いですよね（笑）。

——ビンスの素の部分にああいうキャラクターがあるからこそ可能なんだと思うんですけどね。

草野　「やれ！」と言われても、あの血管も切れんばかりのしゃべり方は出来ないですよ。私はビンスとほぼ同年代なんですけど、凄いおじさんだなと感心しながら見ています。

——いやぁ、でも、草野さんがリング上にいる姿もぜひ見て見たいですよねぇ。実際に、WWEの新人発掘番組『タフ・イナフ』に草野さんが応募しているんじゃないかという噂もあるんですけど、それはいかがでしょうか？

草野　ハッハッハッ！さすがにそれはないです。もう、10年以上前ですけどTBSが番組対抗の特番を春と秋にやっていて、番組ごとのCMを作るという企画があったんですね。『世界ふしぎ発見』もCMを作ったんですが、その中で私が力道山になって歴史上の悪者をバッタバッタとやっつけて「グワ〜ッ」とポーズを決めるというのはやったことがありますけど（笑）。

——うわっ、それはぜひ見たい！（笑）。

草野　相手は早稲田大学のプロレス研究会の人たちがやってくれて、ボディスラムからバックドロップまで大抵のことはやったんですけど非常にうまくいきましてウケが良かったんですね。それを見ていた古舘（伊知郎）君が「あれはスタントでやってもらったの？」って知り合いの構成作家に聞いてきたらしいです（笑）。

——プロレスの実況を長年やってた古舘さんを驚かせましたか（笑）。

草野　ええ（笑）。あと、嬉しかったのはマッハ文朱さんが「普段やってないのになんであんなに上手くできるの？私はちょっと鈍いところがあるから、ジャーマンをやると首を打っちゃうことが多かったのに」って褒められたんです。

——プロも絶賛！（笑）。すごいですねぇ。別に普段からプロレスの練習をやっていたわけではないんですよね？

草野　さすがにそれはやってないです。『タフ・イナフ』にも出てませんん（笑）。ただ、芸能界相撲大会とかあったら面白いだろうなぁとは思いますよね。

——見たいなぁ。いまトレーニングは何かやってらっしゃるんですか？

草野　エアロバイクとかダンベルを持ってのトレーニングは少しだけやってます。なかなかジムに行く時間は取れないんですけど。

——これは非常に難しい質問なんですが、WWEでいちばんのお気に入りのレスラーは誰なんですか？（笑）。

草野　難しいですねぇ（笑）。ロック様は最近忙しいと思うんですけど、本当に美しいレスラーですよね。リングに上がったときの輝きは素晴らしいものがあります。

——そうですね。

草野　あとカート・アングルはゴールドメダリストという実績も凄いんですが、受けの上手さも特筆すべきではないかと思うんですね。本当に凄いなと思います。WWEは攻め手と受け手の調和がなければ絶対に成り立たないもので、みんな受けが上手いんですけど、中でもカート・アングルの受けの上手さはいいですね。あとはジョン・シナはふてくされたようなキャラクターも上腕が大きい独特の体つきも大好きですし、ランディ・オートンみたいな若くしてオールラウンドでいろんなことが出来る選手も素晴らしいと思います。もちろん、トリプルHもストーンコールドも好きですし……語り出すと止まらなくなってしまうんですけど（笑）。

——いくら語っても語り尽くせないですよね（笑）。今日、Tシャツを着てらっしゃるHBKはいかがですか？

草野　本当にレスリングのうまい、それでいて華のある素晴らしい選手ですよね。ただ、もうひとつ意味というか、インターネットなどで私のことがHBK、つまり「H（ヒトシ）」「B（ボッシュート）」「K（クサノ）」というイニシャルで呼ばれているという話を聞きまして。

——そんなことまでご存知なんですか？（笑）。

草野　ええ、人づてに聞いたんですが。

——それで今日はわざわざそのTシャツを着て頂いたんですか？ありがとうございます（笑）。

草野　なかなかうまいなぁと思いまして（笑）。

——WWEの話に戻りますけど、今年に入って選手の入れ替わりが激しくなってますよね。

草野　一時期、ビッグ・ショーが体重オーバーだということで2軍に落とされてしまったこともありましたけど、WWEは選手にプロとして非常に厳しいものを要求していますよね。だからこそ、お客さんも満足して付いていけると思うんです。

——しゃべりのプロである草野さん

力強いファイティングポーズのHBK

日本のプロレス実況の形を作った古舘君、それを後追いしている人が圧倒的に多い

草野仁

から見て、JR（ジム・ロス）の実況とキング（ジェリー・〝ザ・キング〟・ローラー）の解説はいかがですか？

草野　あのコンビはうまくいってると思います。時としてJRでは副社長ではあるんでしょうけど（笑）。ある選手には肩入れしたり、ある選手には冷たかったりして、それは実況者としてはいかがなものかと思うんですけれども、そこはキングとのコンビネーションが上手く取れてますよね。あの2人の実況・解説はWWEの人気の大きな根源の一つでしょうね。

——JRの実況は過去のデータがポンポン出てくるんですよね。最近、日本のプロレス実況を見ていても、なかなかそういうアナウンサーの方はいないんですけど。

草野　そうですよね。やはりここぞという時に出さないと、視聴者の頭にはすっと入っていきませんよね。それには過去の蓄積がないと出来ないんですが。

——草野さんはプロレス中継をやってみたいというような願望はありませんか？

草野　NHKにおりましたのでプロレス中継に携わったことはないんですが、第三者であるということを忘れて熱中してしまいそうですね（笑）。日本のプロレス中継は古舘君が形を作って、それを後追いしている人が圧倒的に多いですけど、もっと新しいものが自分なりに出来るはずですよ。

——僕らはそれをぜひ草野さんにやって頂きたいんですけど（笑）。

草野　ハッハッハッ！　JRとまではいかなくても、あんまり古舘調ではなくても、観ている人に「そうだ、そうだ」と思ってもらえるような実況も出来るはずだと思うんですよ。

——話はガラッと変わるんですが、草野さんは競馬もお好きだということで、共同馬主で何頭かを所有しているんですよね？

草野　ええ、友人たちと一緒に共同馬主という形でやっておりますので、私の名前は表に出ていないんです。その中に、エフファイブという馬がいるんですが……。

——ブロック・レズナーの得意技ですね（笑）。

草野　そうなんです（笑）。エフファイブは中央競馬で何回か走ったんですけどスタミナが全然なくて、盛岡にある水沢競馬という地方競馬に行っています。そこで1勝出来れば中央に戻って来れるんですね。先日、ようやく1勝したので、そのうちまた中央に戻ってくると思います。

——ピープルズチャンプという馬もいましたよね？

草野　ええ、川崎競馬でデビューして1勝したんですけど、その後は具合が悪くなって登録抹消されてしまいました。あと、オーナーズドーターという馬もおりまして……。ステファニーのことですね（笑）。6戦1勝という成績です。

——ギャンブルもお好きなんですね。

草野　ええ、好きですけど競馬しかやりませんね。他の競輪も競艇もオートバイもそれぞれ1回ずつ見に行ってるんですが、たしかに買えば当たるんです。ただ、6～7倍なので当たってもさほど興奮もしないし、見ていても分からないんですよ（笑）。人脈を覚えたりして熟知するのに時間もかかりそうですし。競馬は時間があれば地方にも足を運んだりしていますね。

——他にはやられてないんですか？

草野　麻雀ですね。NHKに入ったばかりで給料が安かったんで他に遊びもないものですから鹿児島に赴任したばかりの頃に教え込まれまして（笑）。先日はフジテレビの『われめDEポン』に初めて出させていただいて、加藤茶さん、清水アキラさん、川合俊一さんという優勝経験のある方々と一緒にやったんです。

——ツワモノ揃いですね（笑）。

草野　私はあまりツイてなかったんですが防戦に努めまして、途中でトップに立ったんです。ですが最後の最後で逆転を狙った清水アキラさんがリーチをかけてきたんです。そこで何を思ったか加藤茶さんが突然「ポン」と言って流れが変わって、清水さんにツモられちゃったんですね。カトちゃんがその時、上がれる体勢なら納得もするんですけど、テンパイしてないんですって。もう終盤ですよ？　それで清水さんにトップを奪われて涙を飲んだんですが……。もう、カトちゃんが余計なことするから！（怒）。

——アハハハ！　すべからく勝負事には勝たないといけないわけですね（笑）。そろそろ時間もなくなってきたんですが、日本のプロレスや格闘技、それにWWEを観ることによって草野さんの刺激になっている部分というのはありますか？

草野　そうですね。さっきも言ったようにWWEは血の出るような努力を上から下までやっているのを見るにつけ、サービス業のあるべき姿を勉強させてもらったり、あとは頑張らなきゃと刺激されたりしている部分はあります。

——では、これからも草野さんにはWWEと日本のプロレス＆格闘技を見続けて頂いて、ぜひいろんな番組で紹介して頂けたらと思います。ちなみに、来年2月のWWE日本大会は？

草野　もちろん行きます！（笑）。

【2004年11月15日／千代田区草野仁事務所にて収録】

くさの・ひとし■TVキャスター。昭和19年2月24日、長崎県生まれ。昭和42年3月東京大学文学部社会学部卒業後、同年4月にNHK鹿児島放送局に赴任。福岡・大阪を経て、昭和52年8月にNHK東京アナウンス室勤務。「ニュースセンター9：00」、「ニュースワイド」や様々なスポーツ実況を務める。昭和60年3月NHKを退社後フリーとなり、NTV「ザ・ワイド（月～金13：57～15：50」、TBS「日立世界ふしぎ発見！（毎週土曜21：00～21：54）」の司会などで活躍中。平成12年ベストファーザーイエローリボン賞受賞。熱烈なWWEファンとしても知られ、オフィスには映画『スコーピオン・キング』で来日したロック様にインタビューを敢行した。

『世界ふしぎ発見』でおなじみのスーパーひとし君人形を5名様に読者プレゼントします！

インタビュー後、草野さんからお土産を頂いた。
あの『世界ふしぎ発見』で使われているスーパーひとし君人形（赤い帽子）の携帯ストラップだ！
この超レアなアイテムを抽選で紙プロ読者の方5名様にプレゼントします！
P157の応募方法を参照の上、ふるってご応募ください。
クイズに正解しなくてもGETできます！
提供■草野仁事務所

※応募方法はP157参照

藤原組からパンクラス、そしてフリーに

國奥麒樹真という生き方

今年の8月30日付けでパンクラスを退団した國奥。
当時、ウェルター級王座を保持していた國奥だったが
退団と同時に王座も返上。
会見では「1から自分の実力を試していきたい」と語っていた國奥。
しかし、会見から数ヶ月経っても國奥の新たな動きは
耳に入ってこない。
なぜ國奥はパンクラスを辞めたのか?
これからどうしていくつもりなのか?
知られざるエピソードも含め話を聞いてみました。

聞き手/中村カタブツ君　構成/松澤チョロ　撮影/福島勝儀

designed by Tani-Yan (Two three)

――パンクラスを辞めてから、もうだいぶ経ちましたけど、何か心境的に変わりました？

國奥　もう少し心のゆとりが欲しいかなって。ホッとはしてるんですけど。

――やっぱり辞めるに当たってはいろいろ大変だったんでしょうね。

國奥　いや、大変ってことはなくて。（聞き手のシャツを見ながら）その柄は鶴ですか？

――え!?　まあ、折り鶴です。

國奥　いいですねぇ（ニッコリ）。

――あ、ありがとうございます（笑）。國奥さんのプロフィールとかを見ると、好きな動物はキリンなんですよね。あの柄が好きなんですか？

國奥　柄と言うか、首長いし、大きいじゃないですか。何かおっとりしてるし。やっぱり見てたら和むっていうか（微笑）。

――そういうおっとりした生き物が好きな人が、慣れ親しんだ団体を出て行くというのは、相当勇気いったんじゃないですか？　旗揚げメンバーの1人でもあるし。

國奥　勇気？　勇気と言うか、慣れ親しんだ所から離れるというのは、勇気もさることながら、それだけ、「やっぱり」っていう風に思ってもらえればいいと思うんですよね。わかりづらいですかね？

――なんとなくわかります（笑）。

國奥　ボク、15歳でこの世界に入って、その時にはもう船木さんとか、鈴木さんとかみんながいたわけですから。

――藤原組からですからね。

國奥　そうです。中学卒業して藤原組に入って、みんながボクには先生なわけですよ。そういうみんながいるパンクラスを辞めるっていうのは、相当のことだと思うんですよね。

――人間関係も濃くなり過ぎたし、お互いに馴れ合いみたいな部分も少なからず出て来るだろうし。

國奥　いや、馴れ合いっていうのは全然ないですよ。いまでもムチャクチャみんな好きですし。ただ10年経って初めて分かることとかも結構あって、それを知った時はすごいショックで。何て言うか、時には真実はやっぱり厳しい時もあるっていう。まあ現実は厳しいってことですよ（苦笑）。

――う～ん、これはヤスカクさんが『週プロ』に書いていたんですけど、「引退後のことを考えて、パンクラスの選手の給与は低く抑えられてきた」って。それについてはどう思います？

國奥　いや、別にパンクラスをかばうわけじゃないですけど、会社が厳しい状態っていうのはわかるんですよ。

――パンクラスに限らず、マット界はどこも厳しいところが多いですからね。

國奥　ですよね。それについて選手の方から意見を言っても、社長としてはやっぱり会社を守るためにやってるわけですからね。結局、普通の会社と同じで、上司の悪口を言わない会社なんてないわけです。何かしら不満はあるわけですから、それは言いっこなしっていうか。だから、やっぱり最後はどこに納得するか、自分の価値観の問題になって来ると思うんですよね。

――逆にそういう金銭問題で辞めたと思われるのは心外なんですね。

國奥　う～ん。でも、それはそれで嘘じゃないから（苦笑）。

――そうですか（笑）。ところで今後はどういう方向性でいくつもりですか？

國奥　これからはもちろん新しい舞台に出ていくと思うんですけど、いまのところは全く何も考えてないと言うか。ホント、呑気なもんですね（笑）。

――呑気ですねぇ（笑）。辞める時って、実は先のことが決まってて辞める人って多いですよね。

國奥　大半がそうだと思うんですけど、ボクの場合はそうじゃなくて、辞めるので精一杯でしたから。

――精一杯な感じはしますね（笑）。

國奥　いや、笑いごとじゃないんですよぉ。ボク、2つのことを同時に出来ないタイプなんで。

――なんだか、非常に分かりますね（笑）。

國奥　でも、今回取材の話があって、ありがたいんですけど、なんで『紙のプロレス』に取材されたのかなって思って。

――は!?　それはどういう意味ですか？

國奥　だってボクは格闘技の人間じゃないですか？　だから、プロレス雑誌の取材を受けてることが凄い不思議で。

――一応、〝プロレス〟と入ってますけど、格闘技の方も取材してますから。

國奥　あ、そうなんですか。

――パンクラスでも「俺はプロレスラーだ」って言う人もいますけど、國奥さんは前から「自分は格闘家」って言ってましたからね。

國奥　そうですね。ボクは格闘家です。でも、どういう意味なんですか、『紙のプロレス』って？

Kiuma Kunioku

ヒップホップ系のファッションで一見、こわもてなイメージもある國奥だが、話してみると、これが実にピュアな好青年。取材時には次の試合の予定は全くの白紙とのことだったが、復帰戦はいつになる？

ありがたいんですけど、なんで
『紙のプロレス』に取材されたのか

――まあ、誌面上でプロレスをしましょうということで、いろいろ仕掛けたりするわけですね。だから、昔はパンクラス

——まあ、誌面上でプロレスをしましょうということで、いろいろ仕掛けたりするわけですね。だから、昔はパンクラスさんともいろいろと……（笑）。

國奥　あったんですか？

——ありましたね。

國奥　いまは？

——いまはもう大丈夫だと思うんですけど。……っていうか、ご存じないですか？

國奥　全然知らないんですよ。

——知らないでおいてください（笑）。で、話を戻しますが、先のことはホントに何も考えてないと。

國奥　そうですね。それだけ正直な付き合いをパンクラスとはしてたんだと思います。そういった根回し云々よりも、気持ちと気持ちで話し合って、それじゃあってお互い違う道を行くっていう。

——結局自分の道ですよね。で、國奥さんがこれまで辿ってきた道がまたかなりコクがあるんですよね。さっきも言ってましたけど、15歳で入門っていまじゃ珍しいですよね。

ありがたいんですけど、なんで『紙のプロレス』に取材されたのかなって

國奥　まあ、そうですね（笑）。

——親は反対しなかったんですか？

國奥　いや、その時、いろいろと家庭であって親はいなかったんですよ、母親はいたんですけど、お父さんとお母さんは、ボクが産まれた年にもう離婚して、母方に引き取ってもらってて。でも、夜は母親が働きに行くんで、ずっとおばあちゃんに良くしてもらってたんです。で、中学の卒業時期になると母親は家から離れちゃって、もう全然。

——ホント大変だったんですね。

國奥　その時は大変だとは思わなかったですね。それが普通だと思ってたし。育った場所とか、大阪って土地柄も、いま思えばすごい場所で育ったなって思うし。難波ってあるじゃないですか。あそこからもう少し離れたとこだったんですけど。

——危険地帯なんですか？

國奥　危険地帯の横くらいで（笑）。でも、近くで発砲とか殺人とかあってよく見に行きましたよ。あそこで殺人があったって言えば、みんなで見に行って「本当だ。血が落ちてるよ」とかって言って。そういうのが普通でしたし。だから、いま思うとそこを離れたかったのかもしれないですね、ひょっとしたら。

——でも、國奥さんは、そういう環境で育った感じがまったくしないおっとりした感じですよね。

國奥　ボクは不良でもなかったし、喧嘩もしたことなかったですからね。一回だけカツアゲされたことはありますけど（笑）。

——カツアゲされた（笑）。

國奥　親戚のおじさんに5千円もらって嬉しくて外に出たら、変な人に「お前、金持ってるか」って言われて、そこでボクも「持ってない」って言えばいいのに。

——「持ってる」って言っちゃったんですか（笑）。

國奥　そうなんですよ（笑）。初めて5千円なんて貰ったのに……。

——ホント人がいいですねぇ（笑）。で、中学卒業後すぐに藤原組に入ったわけですけど、相当厳しかったんじゃないんですか？

國奥　そうですね。でもそういう世界だと思って覚悟して入ってましたし。それこそノーの言えない世界で、先輩の言うことに従って行動するだけですから。

——ただ、船木さんも15歳でこの世界に入った人なんで、結構気遣ってくれたんじゃないですか？

國奥　それはあったかもしれないですね。でも、プライベートな話は一切ないですよね。先輩たちとは普通に話せないですよ、選手と弟子ですから（笑）。

——朝は何時頃に起きてたんですか？

國奥　朝は8時だったと思いますけどね。

——意外に遅いですね。

國奥　そうですね。8時頃起きて道場まで行って掃除をやって10時になったら練習を始めて。で、終わったら選手はとりあえず、夕方くらいに帰られますよね。その後掃除、洗濯やってから、自分らの練習。後は合宿所まで帰るって感じですね。その帰り道にどっかファミリーレストランとかに入って食事をして、帰るっていう感じで。

——何か割と優雅な新弟子時代ですよね。他の団体の話とかと比べると。

國奥　自分達はそういう感じでしたね。全然、健全だと思いますよ。

——理不尽なこともされてない？

國奥　僕の記憶ではないですね。

——じゃあ意外ときちんと教えてくれてた団体だったんですね。

國奥　もちろん（笑）。

——だってシゴキの方がキツイ団体ってあるじゃないですか。

國奥　どうなんですかね。そうい

國奥麒樹真全戦績（通算成績30勝18敗8分）

1996

日付	会場	結果
1・28	横浜文化体育館	△vs渋谷修身（10分／判定1-1）
3・2	神戸ファッションマート	○vs伊藤崇文（0:54／レフェリーストップ
4・7	後楽園ホール	●vsジェイソン・デルーシア（15分／判定）
5・16	日本武道館	△vs近藤有己（10分／判定0-1）
6・25	福岡国際センター	○vs伊藤崇文（10分／判定）
7・22	後楽園ホール	［ネオブラッドトーナメント1回戦］●vsピート・ウイリアムス（10分／判定0-3）
9・7	東京ベイNKホール	●vs山田学（8:29／フロントチョークスリーパー）
10・8	露橋スポーツセンター	○vsガイ・メッツァー（10分／判定2-1）
10・22	後楽園ホール	○vs山宮恵一郎（1:38／腕ひしぎ逆十字固め）
11・9	神戸ファッションマート	○vs長谷川悟史（5:32／TKO）
12・15	日本武道館	○vsフランク・シャムロック（20分／判定3-0）

1997

日付	会場	結果
1・17	後楽園ホール	●vs近藤有己（20分／判定1-2）
3・22	露橋スポーツセンター	○vsヘイガー・チン（7:44／腕ひしぎ逆十字固め）
4・27	東京ベイNKホール	●vsバス・ルッテン（15分／判定）
5・24	神戸ファッションマート	△vs山宮恵一郎（10分／判定1-0）
6・18	後楽園ホール	●vsジェイソン・デルーシア（18:51／TKO）
8・9	梅田ステラホール	○vs長谷川悟史（9:07／アンクルホールド）
9・6	東京ベイNKホール	○vsジョン・ローバー（10分／判定）
10・29	後楽園ホール	●vsガイ・メッツァー（11:12／レフェリーストップ）
12・20	横浜文化体育館	●vs金宗王（0:21／フロントチョーク）

1998

日付	会場	結果
1・16	後楽園ホール	○vs窪田幸生（7:52／腕ひしぎ逆十字固め）
2・6	横浜文化体育館	△vs近藤有己（10分・延長3分／判定0-0）
3・1	神戸ファッションマート	○vs渋谷修身（20分／判定2-0）
4・26	横浜文化体育館	●vsエイドリアン・セラーノ（10分・延長3分／判定0-2）
6・2	後楽園ホール	●vsリオン・ダイク（3:57／KO）
9・14	日本武道館	●vsエヴァン・タナー（20分／判定）
10・26	後楽園ホール	○vs船木誠勝（15分／判定）
11・29	梅田ステラホール	○vs石井大輔（10分／判定3-0）

1999

日付	会場	結果
1・19	後楽園ホール	●vsジェイソン・デルーシア（15分／判定）
2・11	梅田ステラホール	○vs渡辺大介（3:58／レフェリーストップ）
3・9	後楽園ホール	○vs近藤有己（15分／判定3-0）
5・23	名古屋千種スポーツセンター	○vs山宮恵一郎（15分／判定）
9・18	東京ベイNKホール	［キング・オブ・パンクラスタイトルマッチ］●vs近藤有己（0:34／TKO）
12・18	横浜文化体育館	○vsレイン・アンドリュース（14:44／腕ひしぎ逆十字固め）

2000

日付	会場	結果
2・27	梅田ステラホール	○vs須藤元気（10分・延長3分／判定3-0）
4・30	横浜文化体育館	△vsショーニー・カーター（10分・延長3分／判定0-0）
6・26	後楽園ホール	○vsマット・リー（4:15／腕ひしぎ逆十字固め）
9・24	横浜文化体育館	●vsネイサン・マーコート（10分／判定0-3）
12・4	日本武道館	［ミドル級キング・オブ・パンクラス・タイトルマッチ］△vsネイサン・マーコート（20分／判定1-0）

2001

日付	会場	結果
3・31	なみはやドーム	○vs高瀬大樹（判定2-0）
6・26	後楽園ホール	○vsマシュー・ニコー（2R　3:35／アームロック）
7・29	後楽園ホール	△vsショーン・シャーク（判定0-0）
9・30	横浜文化体育館	○vs上山龍紀（判定2-0）
12・1	横浜文化体育館	［ミドル級キング・オブ・パンクラスタイトルマッチ］○vsネイサン・マーコート（判定2-0）

2002

日付	会場	結果
5・28	後楽園ホール	○vs岩崎英明（判定3-0）
7・28	後楽園ホール（昼）	○vs大石幸史（判定3-0）
7・28	後楽園ホール（夜）	［パンクラス初代ウェルター級王者決定トーナメント決勝］○vs伊藤崇文（1R　4:59／腕ひしぎ十字固め）
9・29	横浜文化体育館	［ウェルター級キング・オブ・パンクラスタイトルマッチ］○vs長岡弘樹（3R　4:36／チョークスリーパー）
12・21	ディファ有明	［ミドル級キング・オブ・パンクラスタイトルマッチ］●vsネイサン・マーコート（3R　4:36／KO）

2003

日付	会場	結果
4・12	後楽園ホール	○vs門馬秀貴（判定3-0）
6・22	梅田ステラホール	○vs稲垣克臣（1R　4:10／チョークスリーパー）
7・13	グランキューブ大阪	△vs桜井マッハ速人&須田匡昇（20分時間切れドロー）※門馬秀貴とタッグでグラップリングマッチ
8・31	両国国技館	●vsクラウスレイ・グレイシー（判定0-3）
11・30	両国国技館	［ウェルター級キング・オブ・パンクラスタイトルマッチ］○vs芹澤健市（判定3-0）

2004

日付	会場	結果
2・6	後楽園ホール	●vs三崎和雄（2R1:31／TKO）
4・23	後楽園ホール	●vs竹内出（判定0-2）

ルチャリブレって〝自由な闘い〟って意味なんですよね。今後のテーマはそれです！

Kiuma Kunioku

93年に設立されたパンクラスの旗揚げメンバーの1人でもある國奥。同年9月21日、ＮＫホールでの旗揚げ戦ではルール説明でリングに登場した國奥。92年の3月に藤原組に入門した國奥のデビュー戦は、ヒザの故障などもあり約4年後の96年1月。渋谷相手に引き分けに持ち込んだ國奥は試合後、報道陣に向かって「お陰様でデビューできました」と涙ながらに挨拶。デビューから約9年、旗揚げメンバーは、パンクラスMISSIONとして活躍する鈴木、冨宅以外は高橋1人に

昨年11月30日の両国大会で芹澤健市を下しウェルター級王座を防衛した國奥。リング上でライトヘビー級王者の近藤、ミドル級王者のヒカルド・アルメイダ（当時）と写真に収まった國奥（退団と同時に王座は返上）。現在の階級は違うものの、かつてはベルトを賭け闘ったこともある近藤と國奥（近藤の2勝1敗2分）。2人が再びリングで向かい合う日は来るのだろうか!?

うのがよくわからないんですよ。

——船木さんだって新日本時代は相当シゴキという名のイジメがすごかったらしいですよ（笑）。

國奥　そうなんですか!?　そういうのもわかんないんですよぉ（笑）。

——寝技のスパーで息を止めちゃうラッパとかは？

國奥　よく知ってますね、そんな言葉を（笑）。それはありましたね、最初の頃は。ボク何も知らないでずっと押さえ込まれて息も出来ないし、苦しくて。毎日泣いてましたね。雑巾みたいにされて、完膚なきまでにやられて。

——1番完膚なきまでにやられたのは誰ですか？

國奥　いやもう全員ですね。

——あと新弟子で大変なのは練習以外の雑用って言われますけど。

國奥　洗濯、掃除、買出し。

——チャンコ作りもやってたんですか？

國奥　チャンコ作りはやってなかったんですよ。その頃は全部店屋物でしたから。

——さすがにメガネスーパーの金が入ってるから違いますね（笑）。船木さんは何が好きだったんですか？

國奥　結構、野菜取ってましたよね、レバニラ炒めとか。

——レバニラだったんですか（笑）。鈴木さんは何が好きでした？

國奥　日替わり弁当でしたね。

——面白いなぁ。何か大変だったことってあります？

國奥　う～ん、困ったのは洗濯物の仕分けですね。みんな同じＴシャツを着てるんで、汚れとかシワとかで見分けるわけですよ。これは誰のかなって。

——で、間違えると怒られる？

國奥　怒ると言うか「これ俺のじゃねぇだろ！」って感じですけど、その一言が自分には重いわけですよ。ズシーンって来るんですよ。

——でも、けっして悪い新弟子生活じゃなかった感じですね。

國奥　そうですよ（笑）。

——それでも耐えられなくて逃げてる人も何人か見てるわけですよね。

國奥　そうですね、結果的には。

——理由はやっぱり練習？

國奥　練習とかよりもヘタしたら上下関係に付いて行けなかったのかなって思いますけど。

——誰が1番厳しかったんですか？

國奥　う～ん……。

——あんまり覚えてない？（笑）。

國奥　苦しいことは覚えてないですね。

——昔、あるアンケートで「長所は過去のことを忘れること、短所は過去のことを覚えてないこと」って書いてあってたんですけど、藤原組のこととかも聞くのに不安だなって思ったんですよ（笑）。

國奥　でも、忘れてることは多いですね。ヘタしたら、なんでパンクラスを辞めちゃったのかなってことも。

——ガハハハ！　まだそんなに経ってないのに（笑）。

國奥　いまがあるからいいっていうか。あの時に何を話したとかっていうのは忘れちゃってることもありますよ。人間ってそれだけ繊細な生き物なんですよね。

——いや、でも、もうちょっと覚えておいてくださいよ。それはそれで財産なんですから。

國奥　だから、自伝とか本は書けないですよね（笑）。

——まあ、そうですね（笑）。じゃあ、当時、面白かったことって何かあります？

國奥　それはありますね。遊ぶ時とか人をからかう時とかはみんなでやってたんで。練習終わった後とか、小1時間とか2時間くらいちょっと遊びって言うか、みんなで何かやりだすんですよ、エアガンの撃ち合いとか（笑）。これは道場の中ですごい流行って。ガスですからね。すごい痛いわけですよ。

——そりゃ痛いでしょうね。ということは銃は持たせてもらってないと（笑）。

國奥　ボクはないですね。標的ですから。

——撃たれるがまま（笑）。

國奥　当たったらムチャクチャ痛かったですけどね。みんなあの頃は楽しんでましたよ。いつしかね、藤原さんも鉄砲持つようになって。ある時、暗くしてやってたんですよ。ちょっとサバイバルみたいな。それで藤原さんが入って来て「おっやってるな」って言って自分の鉄砲取って来てみんなでやってて（笑）。

——でも、撃たれるばっかりなんでしょ？　それはイヤだなぁ（笑）。

國奥　でも新弟子ですからそれはしょうがないんですよ。だからあの頃は辛いことは辛い。でも楽しいことは楽しい。その区別がはっきりしてましたよね。それは良かったなって思いますね。

——基本的に、イヤなことをイヤだって感じないんですね。

國奥　いやぁ、楽しかったです、本当に（笑）。

——打ち上げも楽しかったんですか？

國奥　みんな飲んでましたよ。鈴木さんも高橋さんも冨宅さんも飲んでたし。みんな体育会系のノリですよね。そういうのもある意味大切だなぁって思うんですよ。泣いて笑って、人を殴って。

——人を殴って（笑）。

國奥　そんなの普通ですよ。体育会系ですから（笑）。これは楽しさ故の殴りですよね。本当の意味で

なんですよね

のコミュニケーションですよね。酒が入る事によって、解き放たれるっていうのもあると思うし。そこまで本当にみんな熱いんですよ。そこまでお互いに言い合える仲っていうのを感じますよ。いまはやっぱりそこまでないですよ。

——その辺が変わってしまったところなんですね。

國奥　いまは多分ないと思いますよ。バラバラで、打ち上げとかもないですしね。誰と誰がつるんで遊んでるっていうのはあるかもしれないですけど、みんなで一緒に遊んでっていうのは。

——その辺はまたあとで聞きますけれど、藤原組の試合内容とか見ててどう思ってました?

國奥　試合内容?　試合内容はそのままUWFの感じですよね。

——ただUWFの中では1番ガチ率が高かったのが藤原組だったって言われてますよね。船木さんとかも本で書いてましたし。

國奥　そうなんですか?　何も知らなかったです。パンクラス作る時に初めてそういう諸々聞いたんで。それで面白かったのが試合前になると外国人選手が来るじゃないですか?　そうするとボクらはちょっと河原を走りに行かせられるんですよ、普段はしないのに。で、ボクらは、やっぱりたまには走って足腰鍛えなきゃって思ってたんですけど、よくよく聞くと、ボク達がいない間に道場で色々決めごとをしてたっていう、その時間だったみたいですね（笑）。

——それを聞いてもあんまりショックは受けなかったんですね。

國奥　決めてたなんて分からなかったですから、逆に巧妙だなって。これはかなりすごい世界だぞってなっちゃいましたね。

——不思議に動じない人ですね（笑）。で、まあ、パンクラスに移るわけですが、練習とかは藤原組時代と基本的には変わらなかったわけですよね、最初は。

國奥　そうですね。でも、いまの横浜道場じゃなくて、一番最初の横浜道場時代がやっぱり良かったですね。いまの関内の道場とか、広尾の道場が悪いってわけじゃなくて、設備的にはそっちのほうがいいですよ。クーラーもあるし、それこそ虫とかもいないですし（笑）。だけど、あそこで寝泊まりしてああいうところから育ってきた良さも分かるというか。

——新しい横浜道場では、鈴木さんが道場長を辞めてから、國奥さんが道場長になってたわけですけど、何か変えていこうというのはあったんですか?

國奥　どっちかというと道場長としての自分よりも、自分自身を磨くということに集中してましたね。練習態度などについてはみんなと相談して変えていこうとしたところはありましたよね。

——柔術を取り入れるべきだとか、そういうのもあったんですか?

國奥　その問題についてはかなり前からみんなが感じてて、それぞれ取り組んでるわけですから、そこに関しては思わなかったですね。だから、やり方ですよね。技術についてというよりももっとみんなで結束力を固めて。バラバラじゃなくて。

——バラバラだったんですか?

國奥　やっぱり人が揃わないわけですよ。「オレは今日はあっちに練習いくから」ってなって。そういう場があるのに意味がないじゃないですか。そうじゃなくてみんな道場に集まって、やりたいなら道場に集まろうよっていう。

——國奥さん自身、中井祐樹さんのところへ出稽古に行ってたこともあるんですよね。

國奥　はい。パレストラには一時期お世話になってましたね。

——だから、そういう部分では柔軟だと思うんですけど、ただ山宮さんがグラバカに移籍した後で、グラバカと横浜の道場では技術的にかなり差があった、みたいなことを言ってたんですよ。

國奥　そんなこと言ってました?

——大体、そんなようなことを言ってましたね。

國奥　たぶん、それは新しい刺激を求めてっていうことかもしれないですよね。やっぱりグラバカが際だって頭角を現してきたものですから。新しいものに飛びつくってことじゃないですけど、自分がいままで経験してきたこと以外のことを経験したいのかなってことだと思うんですけど。

——だから、パンクラスを出られたってことに関してはそういう技術的部分ではないんですね。

國奥　そういうのはまったくないですね。パンクラスにいても練習は全然自由に行けますよ。実際、みんな行ってるじゃないですか。

——誰かの目があるから行きにくいみたいなこともなく?

國奥　ないですよ。パンクラスは全方位外交でしたよね（笑）。

——そういう意味ではパンクラスにいても『PRIDE』や『DEEP』、UFCにも出れるわけじゃないですか。だから、逆になんでっていう気持ちが出てくるんですけれども。

國奥　それはまあ……。

——いろいろあるんでしょうね（笑）。で、今後どういう方向で、どこのリングでっていうのが気になるところなんですよ。

國奥　だから、いい話があって出れるところは出たいですよね。

——誰かマネージャーさんみたいな人はいたりするんですか?

國奥　いないですよ。辞めてそんなに経ってないですからね、まだまだ（笑）。

——誰に一番相談したんですか?

國奥　みんなよくしてくれてる人たちですね。関係者じゃない人たちですけど。

——関係者にはあえて相談しなかったと?

國奥　関係者とか、業界の人にお願いするってことはまったくなかったですね。

——格闘技だけじゃなくて、プロレスとかUスタイルとか、いろいろありますけど、國奥さんとしては総合格闘技の枠の中で闘っていきたいっていう感じなんですか。

國奥　そうですね。……でもルチャリブレって〝自由な闘い〟って意味なんですよね。

——そうですけど、突然どうしたんですか（笑）。ルチャがやりたいとか?

國奥　いやいや、具体的にルチャっていうか……だからそれです（笑）。

——つまり自由がテーマなんですね（笑）。

國奥　まあ、そうですね。

——もしかして、いままでが不自由だったんですか?

國奥　いや、そんなことはないですよ（苦笑）。

——ともかく、國奥さんは凄くいい人っていうのは分かったんで、本当に応援したいというか、頑張ってほしいですね。

國奥　ありがとうございます。

——例えば『PRIDE』を見に行ってアピールしようとか考えてないんですか?

國奥　考えてないですね。さいたまは見にくいですよ、大きすぎて。

——いやいや、観客としてじゃなくて（笑）。バックステージに入って関係者に会ったりとか、そういうことです!（笑）。

國奥　あ〜、そういうこともしないといけないんですよねぇ……。

——ホント、頑張ってくださいよ（笑）。

國奥　はい。ボチボチ頑張ります!（微笑）。

【10月8日／渋谷『ダイニングキッチン・かまくら』にて収録】

Profile

くにおく・きうま■本名・國奥道明。S51年11月12日、大阪府大阪市出身。中学卒業後、藤原組へ入門。藤原組解散後、パンクラスに参加。H8年1月28日、横浜文体での渋谷修身戦でデビュー。第2代ミドル級キング・オブ・パンクラシスト、初代ウェルター級キング・オブ・パンクラシスト。「今までの実績等すべて置いて1から自分の実力を試していきたい」という強い希望のもと、ウェルター級王座を返上し今年8月30日付けで、パンクラスを退団。現在はフリー。169cm、78kg

チョロの

マニアックな視点で女子格闘技を考察する新連載!

女子バーネット

第2回

11・4スマック後楽園大会を中心に、うしろから前から振り返ってみよう!

正直、残念! 連載2回目の『女子バーネット』、今回は11・4スマック後楽園大会の模様を中心にお届けします。で、何が「残念!」かというと諸事情により肝心の後楽園大会に行けなかったのです。観たかったなぁ、近藤vsアマンダや高橋洋子vs伊藤薫。それプラス、写真を見てビックリしたのがラウンドガールののぞみちゃん。他では大きく紹介されることはないと思うので、うしろから前から載せてみました。次回は大注目の『G-SHOOTO』旗揚げ戦を紹介します!

FRONT

BACK

◀◀スマックラウンドガールののぞみちゃん

見てみぃ、このTバック! こんなラウンドガールいままで見たことない。ちなみに、このラウンドガールは闇愚羅ののぞみちゃん。辻ちゃん曰く、のぞみちゃんはこのTバック姿のままスパーリングをしてるそうです。入門するなら今だ!?

ダンナさんとエンセン井上がセコンドにつく中、近藤がリングイン。相手は近藤と同じ新婚のアマンダ・ブキャナー。1R序盤、近藤が払い腰でいきなりテイクダウンに成功!

しかし、グラップラーながら打撃の強さも見せるアマンダに近藤が苦しい闘いを強いられる。2R開始直後に古傷の残るヒザを極められた近藤は痛みにうめいて無念のタップ……。

近藤有希、引退記念興行で涙の告白!

「どれだけ練習したら強くなれるのか……いまの私には正直わかりません」

試合後の近藤のマイク。「応援に来てくれたみなさん、本当にありがとうございました。自信を持って自分なりに一生懸命練習してきました。ですが、相手はすごく強くて負けてしまって、悔しい気持ちでいっぱいです。……どれだけ練習したら強くなれるのか……いまの私には正直わかりません。未知の世界です。次は勝って、いい気分で試合を終わりたいです。本当に今日は負けてしまってすみませんでした」。左ヒザを痛めた近藤は、イスに座った状態でMAX宮沢、ドレイク森松らからの花束贈呈セレモニーを終えると大会後は病院へ直行した。

8月の後楽園大会から約3ヶ月、スマックガールとしては異例のハイペースで開催された11・4後楽園大会。予想どおりというか、観客動員は8月大会に比べると、かなり寂しかったが、肝心の試合内容は前回に引けを取らない熱戦が続出した。

なんと言っても、この日の目玉は、大会タイトルが示すとおり、近藤の引退カウントダウン第1戦である。引退まで残り3試合と決めた近藤は、東京ラストマッチとなる今大会でアメリカのアマンダ・ブキャナーと対戦。スマックガールでは、いまだ無敗、さらには体力の限界による引退ではないため団体側は、完全燃焼してもらおうと、あえて強豪を用意したという。

いざ、試合が始まると、前評判通り、対戦相手のアマンダの動きの良さが目立ち、近藤の顔面をスピードのあるパンチがかすめると場内からは悲鳴やらタメ息が巻き起こる。しかし、近藤は差し合いから、見事な払い腰でアマンダを宙に浮かせ会場を沸かせる。この勢いのまま攻め込みたい近藤だったが、スタンドに戻されるとパンチを浴び後退してしまう。

そして、2R開始早々、コーナーに追い込んだアマンダは一瞬の隙をつき電光石火のヒザ十字! 激痛が走った近藤は、やむなくタップ。結局、近藤は東京ラストマッチを勝利で飾ることはできずに終わった。

それでも試合後は、当初の予定通り引退セレモニーが行われ、ヒザを負傷した近藤はセコンドのエンセンや和田レフェリーらに抱えられながら、「悔しい気持ちでいっぱいです。どれだけ練習したら強くなれるのか、いまの私には正直、未知でわかりませんが、自分なりに一生懸命やってきました」と涙まじりでコメントを残した。

引退を決意しながらも、最後まで格闘家として勝負にこだわり、ケガの痛みより悔しさで涙を滲ませた近藤。幸いケガの回復状態も良好らしく、本人は12月の地元・静岡大会に出場する気満々だという。

泣いても笑っても残り2試合。格闘家・近藤有希の生き様に注目せよ!

女子格ニュース乱れ打ち!!

スマック沖縄大会は12·19静岡に変更!!

当初予定されていた11・23スマック沖縄大会が諸般の事情により延期に。同大会で開催予定だった『初代無差別級王者決定トーナメント』は12・19ツインメッセ静岡大会での開催が決定!! 詳細は次のとおり

■SMACK GIRL2004〜WORLD ReMix〜
2004年12月19日(日)静岡・ツインメッセ静岡（開始17時）
[SMACK GIRL初代無差別級王座決定トーナメント]

■SMACK GIRL初代無差別級王座決定トーナメント概要
・世界各国より8選手参加の1DAYトーナメント・SGS公式ルール　体重無差別・賞金総額3.000.000円

■トーナメント出場決定選手
□藪下めぐみ（日本代表＝主催者推薦）、マーロス・クーネン（オランダ代表）、エリン・トーヒル（アメリカ代表）、デビ・パーセル（アメリカ代表）、アンナ・キャロリーナ（ブラジル代表）、高橋洋子（日本代表）、石原美和子（日本代表）
※トーナメント出場残り１選手はアジア地区から選考中。

■出場予定選手：近藤有希、たま☆ちゃん、
ファティア・アバハイア（願望）　他

■問い合わせ：スマックガール実行委員会
（TEL：03-3324-8790）

11月12日、Academia Az水道橋にてIF-PROJECT代表の浜島邦明氏、スマックガール実行委員会の長尾メモ８氏、ストライブルの茂木康子が出席し、来年１月８日にIF-PROJECTとSMACK GIRLのコラボイベントの開催を発表。詳細は次号で！

しなしがまた勝った!

年末には写真集を発売!!カメラマンは佐迫代表!!!

10・30『DEEP』のセミに登場した、しなしさとこ。当初、対戦予定だったムエタイ戦士スパットラー・カオマヒンが練習中に負傷し、代わってキック戦績９勝３敗２分というスパンニパ・チュティパンヨと対戦。しなしはテイクダウンに手こずったもののグラウンドに持ち込むと一気に腕十字で秒殺！　その間わずか20秒!!　しなしの連勝記録は「18」に!!

ウェルター級王座決定トーナメント決勝戦が行われた10・30『DEEP』でセミに登場した、しなしさとこ。

ムエタイ戦士が相手ということで、大会前は早千予と共に打撃特訓をするなど準備万端で挑んだしなし。しかし試合はしなしが腕十字で秒殺！　残念ながら特訓の成果を披露することはできなかったものの、この試合でデビュー以来の連勝記録を18に伸ばした。試合後は、いつものように『武士道』参戦をアピール。しなしの『武士道』参戦と、菊田のグレイシー戦、先に実現するのはどっちだ!?　最後にしなしファンに朗報。セクシーショット満載のしなし写真集が年末までにＨＰ及び会場限定で発売されるという。なんと、カメラマンは、あの佐伯代表だ!!　こちらも詳細は次号で!!

11·4 スマック・ダイジェスト

12月の無差別級トーナメントの日本人代表枠を賭け激突した伊藤薫と高橋洋子。総合ではキャリアが上の高橋だが、全女時代は伊藤の方が５年先輩。高橋がビビってたじろぐんじゃないかと心配したが、結果はアームロックで高橋が秒殺。トーナメント出場を決めた。

高橋vs伊藤戦と同じく無差別級トーナメント日本代表選抜戦として行われた石原美和子vs唯我戦。セコンドに素敵な虎Ｔシャツ姿のターザン後藤を付け気合い十分の唯我だったが石原の殺人パンチのラッシュを浴び２ＲＫＯ負け。この結果、石原が日本代表枠をゲット

休憩中に羽柴まゆみが薮下めぐみを相手に前代未聞の公開写真撮影エキシビジョンマッチを敢行。女子格初の写真集の発売が決まった羽柴と薮下の闘いをリング内からカメラマンが撮影しまくるという異様な光景に。最後は「やり辛い！」と一喝した薮下と羽柴がツープラトンでカメラマンを襲撃！

12·12 CROSS SECTION

CROSS　SECTION第3回大会

平成16年12月12日（日）　東京都・東京FMホール
18:00OPEN　18:30START(予定)

■決定対戦カード

内藤晶子（和術慧舟會 RJW）vs忍田なほみ（SOD女子格闘技道場）
8・5スマックで藪下とのタッグでデビューした"武闘派セレブ"忍田がシングル初挑戦。相手は総合でのキャリアは上の内藤。クロセク初勝利をつかむのはどっちだ!?

真武和恵（和術慧舟會 東京本部）vs奥田初代（P'sLAB）
総合デビュー戦で、あのWINDYから劇的な一本勝ちを収めた真武が、クロセク初参戦ながらアマ修斗優勝経験もある実力派のP'sLABの奥田と注目の一騎打ち!!

瀧本美咲（禅道会）vs松本裕美（PUREBRED京都）
禅道会大会で金子真理を下し、clubDEEPでは松本未来から一本勝ちを収めた瀧本と、11・4スマックでネクストシンデレラ王者・舞を破ったばかりの松本の絶好調同士対決!

端貴代（和術慧舟會 東京本部）vs杉本由美子（禅道会）
総合デビューから2連勝中の端が、スマックで3勝2敗の実績を誇る禅道会の実力者・杉本と対戦。打撃のスキルも上昇中の端がデビューからの連勝記録を伸ばせるのか!?

筒井千尋（和術慧舟會 東京本部）vsバッカス羽鳥（BBdoll）
170センチの長身でスマック、ラブインパクトからオヤジバトルまで幅広く活躍中の羽鳥と、トイカツ道場から東京本部へと所属が変わり、きっと気合い十分の筒井が激突!

★出場予定選手／大室奈緒子（東京本部）他
【問い合わせ】GCMコミュニケーション（TEL.03-3538-5801）
http://www.g-c-m.net/

11・26『G-SHOOTO』旗揚げ戦、12・19スマックに挟まれる形で開催されるクロスセクション。瀧本vs松本戦など好勝負間違いなしのカードも実現するが個人的には筒井千尋に期待。理由は写真参照！

ジョシュも興奮！フジメグがエリカに勝利!!

11月6日、アメリカで開催されたフックンシュートで日本でもおなじみのエリカ・モントーヤと対戦した〝フジメグ〟こと藤井恵。５分３Ｒで行われたこの一戦はフジメグが判定３－０で勝利〟辻ちゃんに続いて見事エリカ越えを果たした。これには、お友達のジョシュ・バーネットも大喜びで、フジメグのＨＰに素敵なメッセージを書き込んでいました。

オヤジバトルでモデル事務所社長がデビュー!!

11月13日、東京・バトルスフィアで行われた『ＴＲＩＡＬ　ＯＹＡＺＩ　ＢＡＴＴＬＥ Ｖ』。〝オヤジ〟限定大会で、なぜか組まれた女子総合格闘技の一戦。バッカス羽鳥にモデル事務所の社長という異色の松田梨路が判定勝利。松田は「うちの女の子たちを見習って体重を落としたい。見た目がキレイな選手が闘ってないとダメ」と、ビジュアル面も重要視していくという。

本誌 Back Number

no.08 '94.01

特集 **さらば新日本プロレス**

仁義なきワイド座談会「さらば新日本プロレス」／仰天企画・恐山旅行のついでにマスカラス＆天龍を見る／サスケが『紙プロ』初登場！　20ページにも及ぶ大特集！

700yen⇒350yen 50%OFF

no.15 '95.05

特集 **インディペンデントの逆襲**

あんた誰？　山口日昇試練のインディ・レスラー10番勝負！／Ｋーとは何か？　石井館長・ターザン山本・サダハルンバ谷川らのＫ－１三兄弟（当時）インタビュー

780yen⇒390yen 50%OFF

極真魂溢れる16人を直撃!! 完売間近

極真とは何か？

松井章圭／磯部清次／N・ペタス／大山茂／大沢昇／ウイリー／フィリオ／村上竜司／中村誠／廬山初雄／佐藤勝昭／黒澤浩樹／竹山晴友／谷川貞治／山田英司／夢枕獏

1530yen⇒800yen 50%OFF

no.13 '95.03

特集 **道場破りとは何か?**

安生洋二が道場破りでヒクソンに返り討ち！　山本小鉄＆上田馬之助道場破りとは何か？インタビュー／『平成ファミコン・プロレス』馳浩・スペル・デルフィン・斉藤文彦

780yen⇒390yen 50%OFF

no.16 '96.06

特集 **新日本凸凹大学校**

『紙プロ』的・昭和新日本プロレス大検証！　マサ斉藤・キラーカン・田中リングアナ・破壊王・後藤達俊／ビックリ！　糸井重里vsサダハルンバ谷川の対談が実現！

780yen⇒390yen 50%OFF

みんなで遊べる付録付き!! 完売間近

さくぼん

総238ページ

サクのすべてが世界で一番よくわかる桜庭和志初のインタビュー集！　花くま先生の『サクラバの汁』、特製シールやポスター、サクマシン立太子お面など、付録がこれでもか！　とばかりについてます。

1000yen

no.14 '95.04

特集 **神秘とは何か?**

佐山聡・大槻ケンヂ・プロボディガード清水白鳳・鈴木みのるたち格闘神秘を膨らます！／日本プロレス歴史の証人・遠藤幸吉セメントロングインタビュー

780yen⇒390yen 50%OFF

no.17 '95.07

実況パワフル北朝鮮

あの北朝鮮での「平和の祭典」を語りまくる！　アントニオ猪木＆永島勝司・村松雄視・破壊王・ブル中野／バトの原点はここにある！「藤原組の逆襲」

780yen⇒390yen 50%OFF

インタビューという名の鉄拳史 完売間近

紙の前田日明

『紙プロ』、『リンタマ』、『紙プロRADICAL』誌上で展開された前田日明怒濤のインタビュー史！　前田にとってプロレス、UWF、そしてリングスとは何だったのか？『バカの壁』著者・養老孟司との対談も特別収録！

1575yen

---

no.59 表紙 ヒョードル '03.02/880yen

吹けよ!呼べよ嵐!!
マット界新風景が見えてきた!!

- ●いざノゲイラ戦!!　E・ヒョードル
- ●アメリカン・ドリーム　ダスティ・ローデス
- ●爆発!!　WJマグマ語録
- ●吉田道場の秘密兵器　中村和裕
- ●UWFの再興と再考　田村潔司

no.60 表紙 ヒョードル '03.03/880yen

英雄、変貌好む!!
『PRIDE』RE・BORN!!

- ●ノゲイラ撃破!!　E・ヒョードル
- ●驚愕の格闘芸術対談!!　武藤敬司×須藤元気
- ●あのマーシーがすべてを告白!!　田代まさし
- ●全日本中継の真実!!　倉持隆夫

no.61 表紙 OH砲 '03.04/880yen

5・2仁義ある闘い!!
やっちゃうぞバカヤロー!!

- ●裏番組をブッ飛ばせ!　橋本真也×小川直也
- ●1年間の沈黙を破った!!　ヴォルク・ハン
- ●プロレス・格闘技クロスオーバー対談　エンセン井上×金原弘光
- ●リングス・リトアニア特集

no.62 表紙 ミルコ '03.05/880yen

誰でもいいからミルコのクビをカッ斬ってみろ!!

- ●ヴァーと笑顔で初登場!!　佐々木健介
- ●現役復帰間近!?　船木誠勝
- ●藤田と新日を一刀両断!!　E・ヒョードル
- ●新日本バードを徹底検証!!

no.63 表紙 OH砲（イラスト） '03.06/880yen

吉田秀彦が大英断!
ミドル級GP出陣!

- ●「お前は男だ」劇場炸裂!　高田延彦
- ●『PRIDE』REBORNを大総括!!
- ●憂国の虎　ザ・マスク・オブ・タイガー
- ●芸能界一の川田番　ダチョウ倶楽部

no.65 表紙 ミルコ '03.08/880yen

ヒョードル×ミルコ、
闘争本能世界一決定戦!!

- ●“最後の皇帝”燃え上がる!　ヒョードル
- ●“反逆の妖刀”、遂に皇帝へ!!　ミルコ
- ●吉田秀彦戦の“謎”に迫る!　田村潔司
- ●闘魂ストーカーを捕獲!　イズマイウ

no.66 表紙 ミルコ '03.09/880yen

ミルコ、『武士道』電撃出陣!
もはや誰にも止められない!!

- ●緊急独占インタビュー!　ミルコ
- ●マッハの野望を砕いた“赤い暗殺者”登場!!　長南亮
- ●“天才空手少年”VT秒殺デビュー!!　中嶋勝彦
- ●『東スポ』とは何か?　柴田惣一

no.67 表紙 シウバ&吉田 '03.10/880yen

吉田とシウバ、いざ激突!!
衣（ギ）は赤く染まるか!?

- ●ノゲイラ戦に向けて緊急インタビュー!　ミルコ
- ●“柔術超獣”復活へ!!　ノゲイラ
- ●『PRIDEミドル級GP』決勝戦出場全選手インタビュー
- ●アントン“疑惑の時代”を知る男　加治将一

no.68 表紙 高田&桜庭&曙&猪木 他 '03.11/880yen

人類史上稀にみる“大晦日・格闘技大戦”!!
白黒ハッキリ決めようやーッ!!

- ●大晦日三つ巴決戦に出撃宣言!　高田延彦
- ●横綱がK-1に殴り込み 曙とは何者か!?
- ●一年ぶりの勝利で　ニコニコインタビュー　桜庭和志
- ●“野良犬”『紙プロ』初登場!　小林 聡

no.70 表紙 ミルコ '04.01/880yen

年末格闘技大戦&1・4プロレス戦争大総括!!
OH、ゴーバー登場!『ハッスル』とは何か!?

- ●PRIDE征服宣言!　ミルコ
- ●シウバに宣戦布告!　近藤有己
- ●ド真ん中の真実を語る!　佐々木健介&北斗晶
- ●発表!　紙プロ大賞&マット界語録2003

no.71 表紙 OH砲&高田 '04.02/880yen

プロレスよ、踊れ!
3・7『ハッスル2』は大フィーバー!!

- ●『PRIDE GP』優勝宣言!　ミルコ&ノゲイラ
- ●待望の『紙プロ』初登場!　川田利明
- ●理想のプロレスを追い求める!　AKIRA
- ●スクープ!　幻の猪木vsアミン戦の真実!!

no.72 表紙 ミルコ&ヒョードル&ノゲイラ '04.03/840yen

最強への求道者たち全員集合!!
PRIDE・GPに格闘ロマンを見よ!!

- ●GPの大本命をオランダでキャッチ!!　エメリヤーエンコ・ヒョードル
- ●第二のミルコとなるか!?　ステファン・レコ
- ●K-1に暴力を持ち込んだ男　山本KID徳郁
- ●全て見せます!!「突撃!　佐々木健介邸」

no.73 表紙 小川直也 '04.04/880yen

暴走王が忘れたころにやってきた!
PRIDE・GPでハッスルするぞ!!

- ●GP出場決定、緊急インタビュー!　小川直也
- ●PRIDE・GP出場全選手パーフェクトガイド
- ●キックの名伯楽登場！　伊原信一
- ●魔界のニューリーダー　村上和成

no.74 表紙 小川直也 '04.05/880yen

シュート? ワーク? くだらねえ、次元が違うよ!
いつ何時、どこでもハッスルするぞ!!

- ●PRIDE・GPでハッスル成功!　小川直也
- ●リベンジロード発進!!　桜庭和志
- ●“ハードコアのカリスマ”　ミック・フォーリー本誌初登場!
- ●撃圏会館皇帝　佐山サトル激語り!!

no.75 表紙 小川&桜庭&吉田 '04.06/880yen

英雄、奇蹟の揃い踏み! 小川、桜庭、吉田がPRIDE GP準決勝に集結!!

- ●シウバ戦直前に大ハッスル宣言!　小川直也with藤井軍鶏侍
- ●奇蹟の独占インタビュー!　高田総統
- ●インド狂虎登場!　タイガー・ジェット・シン
- ●年金未納からUFOまで　ザ・グレート・サスケ

no.76 表紙 小川直也 '04.07/880yen

プロレス大爆発へ最後の挑戦!
ハッスルするなら今しかねえ!!

- ●スクープ発言連発!　小川直也
- ●小川の“盟友”と“宿敵”が奇蹟の対談!!　破壊王×ノゲイラ
- ●厳しくも、飄々と戦路を進む! 桜庭和志
- ●新連載『月刊PG談（仮）』　吉田豪×掟ポルシェ

no.77 表紙 小川直也 '04.08/880yen

『PRIDE・GP決勝』直前濃密大特集!
小川、史上最大の査定試合へ!!

- ●「相手がヒョードルだろうと俺はハッスルする!!」　小川直也
- ●狙うは皇帝の首ひとつ!　ミルコ
- ●サンボの神様降臨!!　ビクトル古賀
- ●ロシアで英雄と再会!　ヴォルク・ハン
- ●幻想大国ロシア・現地潜入徹底リポート

no.78 表紙 小川直也 '04.09/840yen

『PRIDE・GP』徹底総括!
ハッスルとは出直しの連続なり!!

- ●衝撃の敗戦直後、独占インタビュー!　小川直也
- ●小川の敗戦をどう見る!?　高田PRIDE統括本部長
- ●K-1のトップが小川を語る　谷川貞治
- ●壮絶インディー人生!　田中将斗

no.79 表紙 高田総統&小川直也 '04.09/840yen

プロレス暗黒時代に魔王降臨!
高田総統の激白を独占スクープ!!

- ●ハッスルキャプテンに休息なし!　小川直也
- ●特別付録・高田総統特製ピンナップ
- ●谷川さん推薦企画『曙は是か非か?』
- ●ビビッたか? ボヤいたか!?　金原モンスター軍

no.80 表紙 ミルコ・クロコップ '04.10/880yen

『PRIDE.28』直前!
守護神ミルコ、外敵狩りへ——

- ●独占ロングインタビュー　ミルコ
- ●ハッスル軍お家騒動を激白!!　小川直也
- ●新連載! 佐山サトルの右流左ン探訪紀
- ●袋とじ企画・女子プロ界の謎に迫る!　グリズリー岩本

通販申し込み方法

▼バックナンバーは書店で扱っておりません。下記の通信販売をご利用ください。

①『紙プロHand』で注文
②電話注文
03-5368-1797
③メール注文
kapra@kamipro.com

※①〜③の通販方法はすべて代引きです。
※代引きの送料は一律500円（何冊でも可。離島山間部は除く）となります。

④郵便振替で注文
00130-3-769154
（株）ダブルクロス

※郵便振替の場合は用紙の通信欄に希望号数を明記して下さい。
※本誌かRADICALかを必ず明記して下さい。

▼郵便振替の送料
1冊＝310円、
2冊＝380円、
3〜4冊＝450円、
5冊＝520円、
6冊以上＝700円

紙のプロレスRadical 常備店

■アイドール新宿店
■新宿ファイター
■大山アメリカン
■プロレスマニア館
■チャンピオン
■リングスパレス
■バディスラム
■タコシェ
■レッスル池袋
■書泉ブックマート
■書泉ブックタワー
■書泉グランデ
■グレートアントニオ
■東京イサミ

田村潔司特集！ファン、待っとるぞ!!

Radical Back Number

大晦日まで1ヶ月！ 頑固者の真意を読み解け!!

no. 55 田村vs高田、夢幻大の真剣勝負！
“選ばれし男”の恍惚と不安を田村が独白!!
- 最強師弟が『PRIDE』制圧宣言！ ノゲイラ&スペーヒー
- ブラジル人に怒り爆発！ アンドレイ・コピィロフ
- マット界に衝撃！ 涙の引退宣言!? 桜庭和志
- 掣圏道、遂に完成！ 佐山サトル

売り切れ寸前!!
'02.09 / 880yen

no. 57 運命の11・24高田戦を終えた田村が
プロレス理想郷・UWF再興に立ち上がった!!
- 高田×田村戦を語り尽くす！ ターザン×鈴木健×山口日昇
- 最強王者、九州に上陸 アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ
- 悪魔の書、再び！ ミスター高橋×大槻ケンヂ
- 北尾戦・セメントマッチの真実 ジョン・テンタ

'02.11 / 840yen

no. 64 “孤高の天才”が『PRIDEミドル級GP』出陣！
吉田秀彦戦を控えた田村が、その心中を激語り!!
- マット界激震の爆弾発言！ ミルコ・クロコップ
- 『PRIDEミドル級GP』出場全選手インタビュー
- ミスター高橋の盟友が放つ“猪木の裏側”
- 悩殺！ スマックガール・ビキニ特写!!

'03.07 / 900yen

no. 69 2003年大晦日格闘大戦直前！
渦中の田村潔司に直撃インタビュー
- 『ハッスル1』開催直前！ 橋本真也&小川直也
- 『泣き虫』著者登場！ 金子達仁
- 日本一のレフェリー、和田京平登場！
- アイ アム リアルプロレスラー 美濃輪育久

'03.12 / 900yen

バックナンバーは電話で注文できます！！
03-5368-1797
【平日15:00〜22:00 （株）ダブルクロス】

no.15 表紙 小川直也 '99.02 / 780yen
リアル・アルティメット・クラッシュ!!
小川vs橋本“1・4事変”勃発!!
- あの“1・4事変”を徹底大検証!!
- “前田日明・最後の相手” アレキサンダー・カレリン
- 引退記念雑談会 「語ろうマサ・サイトー！」
- S多重アリバイ 佐野雄飛

no.16 表紙 エンセン井上 '99.03 / 780yen
格闘ノストラダムス!!
エンセン表紙初奪取号!!
- 環境問題を『紙プロ』で語る!! アントニオ猪木
- 完全無欠の怪物!! 語ろうジャンボ鶴田
- 相撲多重アリバイ 石川孝志
- マーク・コールマン

no.29 表紙 秋山準 '00.07 / 840yen
「格闘環境」は刻一刻と変化する！
ノア勢フルメンバーで登場!!
- 三沢、秋山『紙プロ』初登場!!
- プロレススーパースター列伝 仲野信市
- 本誌独占ジャンボ鶴田夫人 最愛の夫の真実を語る!!
- TKおかん

no.32 表紙 小川直也 '00.10 / 840yen
針はどちらに向くのか!?
新プロレスvs純プロレス開戦！
- 田村潔司に快勝！ A・ホドリゴ・ノゲイラ
- ドラゴンの大爆笑10 藤波語録
- プロレススーパースター列伝 ラッシャー木村
- “和製カレリン”本田多聞

no.34 表紙 小川直也 '01.01 / 840yen
『猪木祭り』開幕ーッ!! プロレスは
「闘い」を忘れたときに老いていく！
- UFCミドル級王者 ティト・オーティズ
- プロレススーパースター列伝 ミスターヒト
- 修斗から『猪木祭り』へ！ 宇野薫
- ボブチャンチン&オバチャンチン

no.35 表紙 サクマシン(イラスト) '01.02 / 840yen
「純プロレス」を考え倒せ！
500人アンケートも実施！ 徹底検証号
- ZERO-ONE本格始動 橋本真也
- プロレススーパースター列伝 ジョー樋口
- “ノアの怪物”杉浦貴
- UFCの巨人 ランディ・クゥートアー

no.36 表紙 橋本真也(イラスト) '01.02 / 840yen
新生「闘いのワンダーランド」に闘魂の火種!!
- ノアから独立！ 高山善廣を確認せよ!!
- ヴォルク・ハン——ノゲイラに狼の伝言
- W☆ING 史上最凶の歴史を紐解く
- 吉田豪に“ドラゴンの呪い”が襲う!!

no.37 表紙 小川直也(イラスト) '01.04 / 840yen
小川と三沢が遂に絡んだ!!
純プロレス戦国絵巻
- 安田忠夫が借金から 自殺未遂まですべてを語る！
- アブダビコンバット2001一大探検記！
- シュート活字×ファンタジー活字
- 他に比類なきプロレスが WWFにはある！

no.38 表紙 高田(イラスト) '01.05 / 840yen
小川と長州、どちらが
孤独だったのか!?
- 忘れ物の正体は——。高田延彦
- ヴォルク・ハンの最強の遺伝子 E・ヒョードル
- プロレススーパースター列伝 阿修羅原
- 死神降臨・ジェラルド・ゴルドー

no.39 表紙 前田日明 '01.06 / 840yen
どうなるんだ、リングス！
前田 is デッド!?
- 前田道場新エース・金原弘光
- 怪物か!? それとも…… 藤田和之座談会
- 壮絶なる格闘人生・藤原敏男
- プロレススーパースター列伝・田上明

no.40 表紙 アントン総帥 '01.07 / 880yen
猪木軍vsK-1に見たいものは
“地上最強のプロレス”
- 蘇れ!Uインター&キングダム伝説！ 高山善廣×金原弘光
- 熱いこの叫びを聞け！ 大谷晋二郎
- プロレススーパースター列伝 グラン浜田
- グラバカの核弾頭 郷野聡寛

no.41 表紙 ビンス・マクマホン '01.08 / 880yen
Can you カミングアウト？
“最後の黒船”WWF襲来！
- リングス10周年！ ヴォルク・ハンが振り返る
- 真樹日佐夫×三池崇史 巨頭対談が実現！
- W☆INGの真実・茨城清志
- 毒舌知能犯 秋山準語録

no.42 表紙 アントン総帥 '01.09 / 880yen
猪木なら何をやっても
許されるのか!?
- ドン荒川×橋本真也のトンパチ伝承対談
- “ヒャッホーの真実”辻よしなり
- 蘇れ!UWFインター伝説!! 高山善廣×宮戸優光×金原弘光
- 誇り高きルチャ戦士 カト・クン・リー

no.43 表紙 桜庭和志 '01.10 / 880yen
サクと『PRIDE』のケツに
火がついた!!
- ブラジリアン・トップチーム 3大柱インタビュー
- 大谷晋二郎の「俺をしんじろう！」人生相談
- 金原弘光×サスケの 新日本プロレス学校同窓会
- 野武士が語るんだよな 中野巽耀

no.44 表紙 桜庭&シウバ '01.11 / 880yen
サクの連敗が『PRIDE』に
語りかけるものは何か？
- その修羅場の数々！ シーザー武志
- 怪物伝承対談！ 高山善廣&杉浦貴
- ハンス・ナイマン&ディック・フライ
- 闘龍門大特集

no.45 表紙 アントン総帥 '01.12 / 880yen
「K-1vs猪木軍」命懸けの
エンターテイメント!!
- 悪魔の書、現る！ ミスター高橋
- ジェラルド・ゴルドー人生相談
- プロレススパースター列伝 グレート小鹿
- 語録で振り返るマット界2001

no.47 表紙 ビンス・マクマホン '02.02 / 880yen
WWE日本侵攻5秒前！
- “天才”武藤敬司が 『紙プロ』驚愕の初登場！
- 噂の馳浩が新日分裂から ミスター高橋本までを語る！
- 第一次リングス閉幕特集
- プロレススーパースター列伝 ストロング金剛よ!!

no.48 表紙 桜庭和志 '02.03 / 880yen
見えてきたゾ、桜庭、満開の日!!
- 奇跡のメガトン対談！ 小川直也 vs ノゲイラ&スペーヒー
- 和田最強伝説が遂に現実に！ 語り部・金原弘光
- 伝説の男が笑撃の登場！ ジョー・サン
- WWEを知る男 ウォーリー山口

no.49 表紙 ミルコ&ヒクソン&小川&桜庭 '02.04 / 880yen
究極の格闘技大戦争勃発!!
マット界灼熱の噂！
- 和田さん快勝記念対談！ 高山&金原&和田
- アレクに怒りの火を付けた 菊田早苗とは何者か!?
- 破壊王も火のヤリ特訓！ 小笠原和彦が火の輪くぐりを敢行！
- ビッシビシいくわよ!! 小畑千代

no.50 表紙 桜庭和志 '02.05 / 880yen
サクが笑えば、世界が笑う!!
- 「地方発世界」開始！ 小川直也&橋本真也
- リングスロシア軍団の軌跡
- パンクラス取材解禁！ 菊田、“尾崎の野郎”が登場！
- ギョ!? I編集長が新日本に三くだり半！

no.51 表紙 橋本真也 '02.06 / 880yen
ZERO-ONEに願いを！
- 両国国技館だよ、全員集合！ 橋本真也
- 『PRIDE』の魅力をマン開！ 小池栄子
- 天才が悩みに答える！ 武藤敬司人生相談
- 新・超獣 ザ・プレデター

no.52 表紙 OH砲 '02.07 / 880yen
見えない鎖を引きちぎれ！
小川直也リング外での暗闘!!
- 全身プロレスラー・高山善廣
- USAの渡世人ドン・フライ
- 『PRIDE』侵攻開始!! ロシアン・トップチーム
- 戦慄の『LEGEND』前夜！

売り切れ寸前!!

no.53 表紙 桜庭和志 '02.08 / 880yen
世紀のビックイベント
『Dynamite！』直前大解剖!!
- ノーフィアー×無謀美・対談!! 高山善廣×美濃輪育久
- 独占肉弾スクープ！ マット・ガファリ
- 爆裂！ 川村社長ガチンコ語録！
- 偽造王の知られざる半生！ 一宮章一

no.54 表紙 ノゲイラ '02.08 / 880yen
不平等の時代を克服した
英雄ノゲイラ!!
- “首の皮一枚”ホイス&エリオグレイシー
- “青い目のケンシロウ”ジョシュ・バーネット
- 純プロ頂上対談！ 武藤敬司×ウルティモ・ドラゴン
- 猪木とは何か？ アントン実兄・猪木快守

売り切れ寸前!!

no.58 表紙 武藤&船木 '03.01 / 880yen
新春特大号!! 「明日、また
生きるぞ！」な対談の大連発!!
- 夢幻のファンタジー対談 武藤敬司×船木誠勝
- Uスタイル対談 田村潔司×高阪剛
- Uインター座談会 宮戸×安生×鈴木健
- カルガリー師弟対談 ミスターヒト×ハシフ・カーン

BACK NUMBER

大日本製圏道帝国皇帝が真の武士道を求めて全国行脚
佐山サトルの

日本右流々ン（ウルルン）探訪記

第2回

殉国の英霊に…佐山サトルが出会った。

文／中村カタブツ（42歳）

佐山皇帝の思想世界を解き明かすべく、〝日本人の聖地〟靖國神社に潜入！

靖國神社（敷石工事中）の敷地内にある歴史資料館・遊就館。撮影可能な玄関ホールに展示された対空砲には、戦争当時の生々しい弾痕が。飛行機嫌いの佐山皇帝だが「零戦だったら乗るよ！」と大はしゃぎ。押忍!!（敬礼）。

「敷島のやまと心を人問わば朝日に匂う山ざくら花」（本居宣長）

大日本製圏道帝国・佐山聡皇帝の世界をたっぷりお届けする、この企画。第2回目は靖國神社訪問である。

さて、大東亜戦争での英霊が213万3778柱、維新前からの総合英霊数246万6427柱の方々が眠る、神聖なるこの地。本来ならすべての日本人にとっての心の故郷であるはずなのに、マスコミ報道は8月15日前の首相公式参拝の是非ばかりを話題にし、その流れで15日当日は右翼の方々がごった返すイメージすらあったりして、妙なアンタッチャブル感が漂ったりしているわけだ。

ところが、いざ靖国を訪れてみると七五三を祝う家族連れや、茶店でランチを食べるOLなどがいてかなりアットホームな雰囲気。本殿横の神池庭園も和めるし、土産物屋には、たぶんここだけででしか手に入らない菊の御紋がついた携帯ストラップにジッポーライター、日章旗のワッペンなどレアな品々も多数並び、意外に楽しめる。日本武道館のすぐ横にあるのに、いままで来なかったことが悔やまれるほど、行楽地としての完成度も高いのである。

というわけで、穏やかな風景を目の当たりにして呑気な心持ちになっていた取材陣。そんな弛緩しきったボクらの前に現れたのがダークスーツ&黒メガネの佐山皇帝であったのだ。この取材、片時も油断できないと痛感したのである。

「え？　これはいつもの格好だから大丈夫ですよぉ、うっふふ。ここはいいところでしょ？　ボクも昔はよく来たからね。一ヶ月に3〜4回くらいかな。8月15日？　あ、いまはほとんど行かないですよ、ボクは。あのね、負けた日になんで行かなきゃならないの？　靖国は正月にお参りすればいいよ。本物の日本人なら元日に参拝するべきだと思うよね」

と、さっそく靖國公式参拝方法を伝授されたボクらは、皇帝にうながされて今回の目的地『遊就館』に向かう。靖國神社境内に建てられた日本最古の軍事資料館であり、明治維新から大東亜戦争に至るまでの、真実の史資料と英霊のご遺書、ご遺品が展示されているこの『遊就館』。玄関ホール

には復元されたゼロ戦が往時の威容を誇り、入館

には復元されたゼロ戦が往時の威容を誇り、入館しただけで熱いモノがこみ上げて来るのである。

一方、皇帝は『海行かば』を上機嫌に口ずさみながらカメラに向かって敬礼したりとリラックス。慣れ親しんだ場だからこその肩の力の抜け方だ。取材陣はそんな皇帝を一通り写真に納め、いよいよ館内へ。するとなぜか遠くから響いてくるのは進軍ラッパの音！「あ、奥で映像を流してるからね。いいところでしょう、うふうふ」

ご機嫌の皇帝はラッパの音色に誘われるように、展示室へと歩を進めいく。まず最初は明治維新で活躍した坂本龍馬、高杉晋作、そして吉田松陰らの偉業を伝えるスペースがあり、日清日露戦争から満州事変の展示場へと進む。敵弾が貫通した歩兵銃弾や、乃木希典大将の遺書など、ご遺品の数々が所狭しと並んでいる。さらには教科書ではなぜか教えてくれない歴史の真実も、丁寧に解説されているのだ。

「日本が侵略したとか言うけど、この頃の中国は欧米列国の半植民地になっていたし、韓国にしても今の国力とはまるで違う。ロシアは南下を狙って、アジアは危機的状況だったんだよ。戦後を見ればいい。大西洋憲章なんてまるでウソっぱちだ」

皇帝の目も先程と違って次第に鋭く光り始め、言葉も強い口調に変わっていく。

「南京虐殺なんてテレビぐるみで捏造する始末。あれは国民党に所属していたイギリスの『マンチェスターガーディアンズ』の記者が書いただけ。その前にどれだけの日本人が居留地で殺され、悲惨な状況に追い込まれていったか。戦争は勝ったほうが歴史を変えていく。すべて日本が正しいとか、中国が正しいとかいう問題ではない。史実をしっかりとつかまえ、我々の先人が我々のためだけではなく、アジアや世界のために、何をしてくれたのか、もう、そういうことをちゃんと知っておかないとね」と、佐山皇帝は展示資料にもない情報を交えて、次々と史実を解説していく。さらに、展示品が大東亜戦争に及ぶと、それは最高潮。もはや聞き取りが出来ぬほど早口になっていったのであった。

「うんうんうん、例えば、このインパール作戦は、昭和19年3月8日にインド国民軍と日本の第33師団がイギリス軍と戦ったんだけど、これなんか完全にインドの独立戦争で日本人の戦死者は4万9千人なんだよ！」。細かな数字をキチンと並べながら、熱く語る皇帝。まさにその姿は虎だ。現代のハリマオである。

大義のために一命を賭した英霊の魂と、佐山皇帝の細やかな解説の中、ボクら取材陣も次第に、「この国を変えなきゃダメだ」と感化されていくのであるが、そんな様子を見た皇帝はたった一言。「怖いよぉ、ここに危ない人たちがいるよぉ（笑）」と逃げていくのであった。ホント、この人だけは真実が見えない。

さて、戦争史のブースを抜けると『靖國の神々』と題されたスペースが広がる。そこには英霊の方々のご遺影とご遺書が並んでおり、十代、二十代の若者たちがこの国を守るためにどんな気持ちで散華していったのかが胸に突き刺さってくる。展示室はボクらも含めてすすり泣く観覧者多数。「ね。特攻するのに麻薬を使ったとか言う馬鹿がいるけど、これを読めば彼らがいかに覚悟を持って戦ったかわかるでしょ」。日本人なら是が非でも一読することをお勧めしたいのである。

というわけで、夢中になってご遺書を読みふけってしまったボクらは佐山皇帝の存在をすっかり忘れてしまい、気づくと皇帝はどこにもいない。焦って探すも館内に姿はなく、仕方なく外に出てみると、出口横の食堂で、お汁粉を食べていたのであった。

「この前、糖尿病の検査を受けたらさぁ、まったく異常がないってわかったんだよね（笑）。だから、一昨日から甘いモノばっかり食べてるの。ボクの胃袋、底が丸見えの底なし沼ぁ。うふうふ。うっふふ」

どこまでが本気で、どこまでがふざけているのか見当もつかない佐山皇帝。言葉は悪いが狂気と稚気が同居している佐山聡の世界こそ、底が丸見えの底なし沼なのだと、今回も痛感したのであった。

【皇帝の総括】

「ボクがこれだけ甘いモノ食べてるのに糖尿じゃないから、猪木さん怒ってるみたいなんだよね。うふふ。ちょっとこの腕見て。太いよね、日頃の練習のたまものだよね、嬉しいなぁ（笑）。で、今日は戦争の本当の歴史がわかったでしょ？　ここに来れば日本の3千年の歴史と、先人たちの遺志が伝わってくると思うんだよね。これ、凄い大切なことだから、みんなも一度来てみてほしいよね。あとね、もうじきボクの道場ができるから。本物の虎の穴になるんで期待してくださいね」

世界一の大きさを誇る鋼鉄製の大鳥居や、大村益二郎像、戦争の歴史が彫刻されたレリーフ付きの石灯籠が建ち並ぶ境内。特攻隊員像の前で皇帝は「彼らは強靭な精神力を持った精鋭部隊。ヒロポンなんか使うわけがない!」と戦後の歴史誤認に憤りをみせた。

佐山皇帝と館内ではぐれてしまったが、予想通り館内レストランで発見。しかも焼きそば＆コロッケ＆お汁粉＆アイスコーヒーを注文済み。取材班も「海軍割烹術参考書」(明治41年発刊)に基づいて忠実に味を再現した“海軍カレー”をご馳走になりました。

靖國神社敷地内にはおみやげ屋も完備。日章旗タイピンや旭日旗ライター、菊の御文携帯ストラップ、神風はちまきなど、愛国心溢れるアイテムがズラリ。購入して己のアイディンティティーを世に示そう!!

次号予告

皇帝が『海行かば』を熱唱?　11・27佐山皇帝誕生会『タイガーバースデイ・リサイタル2004』に潜入取材敢行!!

佐山皇帝×船木誠勝のマッド・タイガー対談が実現！　P129に急げ!!

リング内・リング外の情報を読者にお届けする

RADICAL情報局

もう30回ぐらい寝るとお正月

11月某日、アパッチ率いる金村キンタローが『紙プロ』編集部に来襲! バイト8日目のフランキー粕谷に「オマエ誰や? とりあえず脱がんかい!」とフルチンを強要。言われるがままパンツを下ろすフランキーに「オマエだけに恥ずかしい思いはさせへん」と自らもパンツを下ろし、フランキーの背後から股間を押し当て、卑猥に腰を振るキンちゃん。……がんばれ、フランキー!! 情報ページ担当/斎野

Fight & Ticket 試合・大会情報

12・3みちプロ後楽園大会 “ゴッドファーザーJr.”藤田勇人デビュー!

障害者プロレス・ドッグレッグスのゴッドファーザーを父に持ち、今年3月にみちプロに入団した藤田勇人が遂にデビュー戦を迎える。藤田は“ゴッドファーザーJr.”のリングネームでドッグレッグス内の“健常者プロレス”で活躍し、すでにキャリア10年を誇る18歳。11・6ドッグレッグスで、父・ゴッドファーザー相手に卒業マッチを行い、見事勝利した。みちプロデビューの対戦相手は17歳の中嶋君。プロレスの未来を背負う二人の対決を見逃すな!!

■日時　12月3日(金)　試合開始18:30　■会場　東京・後楽園ホール
■チケット　特別RS席 6000円/RS席 5000円/指定席 4000円/
■決定対戦カード
【藤田勇人デビュー戦】藤田勇人vs中嶋勝彦　湯浅和也vsゴア
【新崎人生、第八十八番札所】新崎人生&野橋真実vsガルーダ&気仙沼二郎
■問　みちのくプロレス　019-626-1333　■HP　http://www.michipro.net/

11・28 IKUSA メインは新田vsDAVID!

『FUTURE FIGHTER IKUSA 6~宙(SORA)~GANGSTAR☆Z@Velfarre』
■日時　11月28日(日)　試合開始18:00　開場17:15
■会場　東京・六本木ベルファーレ　■チケット　全席完売
■対戦カード
❼【打撃Sルール 3分5R】初代U70戦王決定戦
新田明臣(バンゲリングベイ) vs DAVID(真樹ジム沖縄)
❻【打撃Sルール 3分5R(肘あり)】加藤督朗(山木ジム) vsキエラン・ケドル(ケドルズジム)
❺【打撃GIルール 3分3R(最大延長2R)】
HAYATΦ(FUTURE_TRIBE) vs ジャバン・ストバノフスキー(チャイヤイジム)
❹【打撃GIルール 3分3R(最大延長2R)】TURBΦ(FUTURE_TRIBE) vs 駿太(谷山ジム)
❸【打撃GIルール 3分3R(最大延長2R)】増田博正(スクランブル渋谷) vs 三原日出男(シーザージム)
❷【打撃GIルール 3分3R(肘あり)】
山口元気(クロスポイント吉祥寺) vs ティージクン・ヨシダ(チーム・マイペンライ)
❶【打撃GIルール 3分3R】尾崎圭司(チームドラゴン) vs TAISHO(バルボーザジャパン)
●オープニングファイト【打撃GIルール 3分3R】加藤潤一(谷山ジム) vs 裕喜(和術慧舟會創心ジム)
■問　IKUSA事務局　03-5213-7331　■HP　http://www.ikusa.net/

“666”第6弾! 組織旗揚げ1周年記念大会開催!!

■日時　12月26日(日)試合開始16:00(開場15:00)　■会場　東京・ディファ有明
■チケット　社長と心中席(最前列指定席)7000円(冥土の土産付き)/
二次災害シート 5000円(2列目以降指定席)/自由席 4000円(南E列以降は立見)
■出場選手　ザ・クレイジーSKB、怨霊、他
■問　666オフィス　090-3805-1892　■HP　http://666.thrustkick.com/

オガケン出場! SBシリーズ最終戦、大阪で開幕!!

アンディー・サワーが二連覇を果たした今年の『S-CUP』へ、12年の集大成を見せるべく満を持して挑むも、無念のTKO負けを喫してしまった緒形健一。今シリーズ最終戦となる大阪大会で、緒形健一が溜めに溜めたフラストレーションを爆発させるべく復活する!!

『∞-S~Infinity-S~Vol.6』
■日時　2004年12月3日(金)
試合開始18:00予定(開場17:30)
■会場　大阪・大阪府立体育会館第二競技場
■チケット料金(税込み)SRS席 12000円/RS席 10000円/SS席 7000円/S席 5000円/A席 4000円
■対戦カード
❶木田“なっくる”将大(龍生塾)vs 雷電貴義(KAKUMEI川田ジム)
❷山口太雅(寝屋川ジム)vs 北山高与始(S-Factory)
❸伊豆丸正人(寝屋川ジム)vs ナグランチューン・マーサ“M16”(龍生塾)　❹ファントム進也(龍生塾)vs 脇田誠(風吹ジム)
❺菊田光正(寝屋川ジム)vs 山本ノボル(KAKUMEI川田ジム)　❻関本宏(寝屋川ジム)vs ナックルユウジ(KAKUMEI川田ジム)
❼及川知浩(龍生塾)vs ダン・ローリングス(WinklejonJs AKKA)
❽緒形健一(シーザージム)vs ジェームス・マルチネス(WinklejonJs AKKA)
■問　シュートボクシング　03-3843-1212　■HP　http://www.shootboxing.org/

長州inサイパン! デビュー30周年興行&記念パーティー開催!!

長州といえばサイパン。サイパンといえば長州。というわけでデビュー30周年を迎える長州力が記念試合&バーベキューパーティーをサイパンで開催! 真冬の日本を飛び出して、長州と一緒にサイパン焼けだ! なお、マリアナリゾート&スパ宿泊プランを利用すると、バーベキューパーティが無料となる。詳しくは下記HPで。

『バーベキューディナーパーティーwith長州力』
■日時　12月3日(金)　■料金　大人(12歳以上)$40/子供(4~11歳)$30
『長州力30周年興行』
■日時　12月4日(土)　■チケット　リングサイド $35/その他の席 $25
■参戦選手　長州力、石井智宏、宇和野貴史、和田城功、矢口壹琅、越中詩郎、金村キンタロー、BADBOY非道、黒田哲広、GENTARO、佐々木貴、MIYAWAKI、関本大介、アジアンクーガー、キングアダモ、クラッシャーズ(トッド&シェーン)
『長州力30周年記念試合観戦用特別プライス』※部屋は2名1室
3泊4日(12月3~6日)　一人¥28000(1人部屋を希望する場合は¥6000追加)
2泊3日(12月3~5日)　一人¥24000(1人部屋を希望する場合は¥4000追加)
※上記料金にはプロレス観戦チケット、航空チケット料金は含まれない
■問　マリアナリゾート&スパ　03-3814-9101
■オンライン予約　http://www.marianaresort.com/msn/riki/

レッスルエイドプロジェクト12・28後楽園大会チケットプレゼント!

世界中のインディー団体からトップ選手が大集結するレッスルエイドプロジェクトのチケットを、ペアで10組の方にプレゼント(応募方法はP157参照)! “最後のハート”テッド・ハートは超必見だ!!

『インターナショナル・インディーズバトル』
■日時　12月28日(火)　試合開始18:30(開場17:30)　■会場　東京・後楽園ホール
■チケット　特別最前列シート席 10000円(10/24大会DVD or 最新作Tシャツ&パンフレット4000円相当のグッズ付き)/SRS席 6000円/RS席 5000円/SS席 4000円/ターザンシート席(通常RS席)4000円
■出場予定選手　ジョー・レジェンド、ポール・バチール、テッド・ハート、ロッド・レイジ、アバランチ、剛竜馬、佐々木貴、他
■問　レッスルエイドプロジェクト　03-5456-7700　■HP　http://www.wrestle-aid.com/

団体INDEX（50音順及びアルファベット順）

DVD 最新情報

『ハッスル 注入DVD』
DVD 約180分 5040円（税込）
12月23日（木）発売

キャプテン＆キングがプロレス界、そして日本に"ハッスル"を注入する、『ハッスル1』～『ハッスル4』のダイジェスト版DVDが発売決定！ 特典映像『高田総統のありがたいお言葉』も必見だ!!

『PRIDE武士道一其の伍一』
DVD 176分 5040円（税込）
12月23日（木）発売

五味、マッハ、長南、軍鶏侍、今成、戦闘竜、滑川の七人の侍が、世界の強豪に挑む！ 第4試合では、田村との再戦を狙う美濃輪が上山と激突!!

■問 メディアファクトリー
03-5469-4880（10:00～18:00/土日、祝日は除く）
■HP http://www.mediafactory.co.jp/

『地獄の死闘（デスマッチ）vol.3』
DVD 90分予定 5250円（税込）
11月26日（金）発売

大日本オールスターによる究極デスマッチのオンパレード。伊東 vs 金村、テイオー vs 関本、そして"暗黒蛍光灯デスマッチ"非道＆ボンド vs 山川＆gosakuなど必見の名勝負を厳選!!

『ZERO-ONE Impact vol.3』
DVD 90分予定 3990円（税込）
11月26日（金）発売

OH砲vs武藤＆川田、長州率いるWJ軍との抗争、高田モンスター軍来襲など、激動のZERO-ONE名勝負を全試合ノーカットで収録！

■問 VALIS 03-5342-2681

And Others その他情報

小川直也が立命館に登場!
『HUSTLE TALKING HOUR』
■日時 12月16日（木）
開演18:30／開場17:30
■会場 立命館大学衣笠キャンパス 以学館1号ホール
■チケット（当日¥500up）
一般 2000円（学生特別割引¥1000）
■問 RWF 090-7463-8772
■HP http://rwf.hp.infoseek.co.jp/

長州×藤波の夢のトークバトル実現!?
お笑い界屈指のプロレス＆格闘技通・ジョーダンズ三又＆ユリオカ超特Qの二人が、マット界、お笑い界を語り尽くす。長州 vs 藤波の名勝負数え唄復活なるか!?

『ジョーダンズ三又 vs ユリオカ超特Q inコロッセオvol.1』
■日時 11月30日（火） 20:00開演（19:00開場）
■会場 ファイティングカフェ コロッセオ
（千代田区三崎町3-7-13 田中ビルB1/JR水道橋西口より徒歩30秒）
■チケット 全席リングサイド 3000円（ワンドリンク付き）
■問 ファイティングカフェ コロッセオ 03-3512-0522
■HP http://www.colosseo.jp/

パンクラス3選手がBlog開始!
パンクラスismの謙吾、GRABAKAの菊田早苗、同じく郷野聡寛がBlog（日記形式WEBサイト）を開始。紙プロHandでのコラムも好評だった郷野の日記は必読だ!!

■謙吾日記 http://blog.livedoor.jp/kengoblog/
■菊田早苗日記 http://blog.livedoor.jp/kikuta_sanae/
■"Gの文豪"郷野聡寛の不定期コラム
http://blog.livedoor.jp/gono/

須田先生のプロレス漫画『ハードコアパパ』連載中!
ハッスルパンフの『ハッスル物語』でお馴染み・須田信太郎先生が『月刊コミックビーム』で『ハードコアパパ』を好評連載中！次号発売は12月11日。「この漫画を描く前に伊藤竜二選手の試合を観にいきました。いや～もう驚いたのなんのって、ものスゴい高さから落ちてましたよ！説得力抜群!! そんなわけで『紙プロ』読者のみなさん、『ハードコアパパ』もよろしく!!」（須田）

■HP http://www.enterbrain.co.jp/

PRIDE公認! 島田レフェリーがボディーデザイナー養成塾を開講!
PRIDEレフェリー＆ルールディレクターの島田裕二が主催するPRIDE公認『ボディーデザイナー養成塾』では、ボディー＆メンタルケアのできるトレーナーのスペシャリスト『ボディーデザイナー』を育成していく。卒業者はPRIDE公認ボディーデザイナー認定書が授与されるほか、世界でスポーツトレーナーとして通用する資格のNSCA CPT、フィットネス系ライセンスのAFFA、日本赤十字社認定救急法救急院の資格が取得可能だ。開講期間は2005年4月から1年間（夜間部）。説明会・試験は以下の日程で行われるほか、BCGホームページ上でも随時更新される。

『PRIDE公認ボディデザイナー養成塾』オープニングセミナー（無料体験会）
実技ダイジェスト・コース説明・質疑応答・資料配付
■日時 11月28日（日）／12月12日（日）13:00～14:00 ■定員 20名
『PRIDE公認ボディデザイナー養成塾』入塾手続き 個人面接・筆記試験
■日時 11月28日（日）／12月6日（月）・13日（月）・20日（月）19:00～21:00
ダイジェスト版ワークショップ レジスタンストレーニング法&PNFストレッチ（実技・手技・座学）
■日時 11月29日（月）／12月6日（月）・13日（月）・20日（月）19:00～20:30（90分）
■定員 10名 ■参加費 3000円／1回（当日支払い）

■会場 学校法人 東京商科学院専門学校（千代田区三崎町2-2-1）
■問 BCG 03-3560-7911 ■HP http://www.bcgizm.com/

紙プロHand 更新・最新情報

宇宙一面白い携帯サイト『紙のプロレスHand』では、大晦日に向けて注目ニュースを連日連夜配信中!! 高田総統が"高田総統侍"と化したハッスル会見、桜庭和志が『PRIDEひかり道』で漏らした注目発言なども当日アップ、メルマガでその日のうちにお知らせ!! 毎日更新のコラムも超充実!! さらには特典つきチケット予約もあるぞ！ なんと12・31『PRIDE男祭り』チケット予約も、本誌読者に黙って（？）一般発売よりも早く受付スタート!! これからも『紙プロHand』からは目を離すな!! 待画＆着メロも毎月1日更新中!!

Docomo	i Menu	メニューリスト	スポーツ	格闘技／大相撲
au/TU-KA	トップメニュー	カテゴリで探す	スポーツ	格闘技
vodafone	メインメニュー	メニューリスト	スポーツ	格闘技

紙プロHand

寒い季節になっても頑張る読者ページ

紙プロ元気大学

最近の西村修選手は本当にいいですね。唐突な“無我・LOVE”を披露してしまった読者ページ担当、ささきぃです。本業は電気部です。西村修選手の「ガンの治療法まで否定された」「全世界60億の人間の中で一番憎い」ほか、他の人間関係ではありえない言葉の数々。さらにはどう考えてもキャラに合ってない「生きて帰れると思うなよ、テメェ!」。60億の中で一番って、わざわざ言わなきゃいけないほどの憎しみ。何があったらそんなに憎くなるもんなんだろうと、そこまで人に思わせる長州力という存在が、かえって気になってしまいます。それでは今月も、はじまりはじまり。

榊原郁恵「夏のお嬢さん」より
夏の ohん!
ジョー・サン
ビキニが
とっても
似合うよ
刺激的さ
クラクラしちゃう

(広島県・山田彰) ➡このハガキをこの大きさでココに載せる、というのは私の中でけっこう冒険だったりします。やる気がないわけじゃないですよ? むしろ読者ページのさらなる活性化を望んでの行動ですよ? Oh! ジョー・サン! ……私はすごく面白いと思ったんですが、皆さんどうですか? 絵もいいしなぁ。というわけで山田さん、またお待ちしています。

内回校巡

『紙プロ』80号 面白かった記事

【ミルコ・クロコップインタビュー】

★ジョシュ・バーネットとの再戦、早急に頼む!
(埼玉県・藤井祐樹・21歳・学生)

➡まさか、試合があんな終わり方になるなんて……。前号の面白かった記事アンケートは、「プロレスラー・ハンティンググリストで試合の興奮が蘇った」「ジョシュの体脂肪についてツッコんでくれたから」などの意見が届いた、ミルコ・クロコップインタビューが僅差ながら第1位! 以下、順不同でお送りします。

【ポルシェとグリズリーのPG談】

★今度絶対指名しようと思った。
(埼玉県・本間徹哉・21歳・学生)

➡学生、勉強しろ! …社会人になってみると、なんであんなに学生に対して大人が冷たかったのか、わかってきました。前回のPG談後は、グリズリーさんこと五反田の「レイナ」様に対する指名が倍増したそうで、チョロさんあてに「プロレスファンって、やっぱりエッチなんですね」という、リアクションに困る言葉とともに丁寧な御礼の電話があったそうです。

【新倉史祐インタビュー】

★本人しか話せないマル秘ネタは最高! ただし●●●といったスミぬりはやめてほしい!!
(福島県・長谷川隆・40歳・自営業)

➡スミぬりって、なんか久しぶりに聞いた言葉だなぁ。エロ本みたいです。個人的に、新倉氏インタビューで一番驚いたのは「当時巡業先のホテルに女の子が50~60人いた」というエピソードでした。スゲェ。

【ハッスル軍危機一髪】

★格闘技雑誌でここまでハッスルにページを割いてくれることが嬉しいです。毎回楽しくハッスル劇場を読ませてもらってます。
(大阪府・二宮祐樹・18歳・学生)

➡えっ? 『紙プロ』って、格闘技雑誌なの? セカチューとか言ってみたりしたほうがいいの?

【北斗晶インタビュー】

★北斗の男前っぷりにやられました。いけいけ!! 北斗!! です。
(大分県・えこ・36歳・会社員)

➡あの日の北斗さんの怒りっぷりには、中嶋くんだけはなく健介さんも、ビビってたじろいでいたという報道を読みました。心にピシッと一本スジが通ってる感じがして、男前ですよねぇ……。

【エロティックス座談会】

★金ちゃんの大暴走に大ウケしました!! エロティックス大好きで(特に葛西純選手)スカパー! ではZERO-ONEばっかり見てます。
(北海道・村越裕子・25歳・フリーター)

➡エロティックス大好きって、女性がそんな当然のように……。でも「I LOVE エロティクス」とか「関東助平連合」とかのかっこいいTシャツ、欲しいですね。……いまの、盗めよ(金村キンタロー選手風)。

『紙プロ』79号 つまらなかった記事

【ハッスルの記事】

★「うたばん」に出ていたヤドカリが何だかうれしそうだったから。
(埼玉県・石山雄紀・14歳)

➡ヤドカリが嬉しそうだと、どうして『紙プロ』の記事がつまらない理由になるのか、それを説明してほしい。

いまの新日本に望むこと

★このまま、誰もカジ取る人いないぐちゃぐちゃなカンジでいいと思う。
(千葉県・高野誠司・32歳・パティシエ)

➡パティシエなのに、そんな発言でいいのか!

★きれいな終わり方、透明な決着。
(埼玉県・梶浦信夫・30歳・会社員)

➡闘龍門時代「不透明決着」をキーワードに暴れ回っていた初代M2Kを思い出しました。両国大会などはM2Kも真っ青の不透明決着ぶりでしたね。

★永田選手を「ダメ男」として売り出してはどうでしょうか。中邑選手は農夫キャラがいいと思います。要は上井さんがいなくなったから、エンタメ路線で行けということです。
(兵庫県・春名義行・38歳・会社員)

➡言うちゃ何ですけど、すれっからしっぽい意見ですね。永田選手はドリフ好きらしい(スポニチより)んで、エンタメ路線をマジメにやらせたら誰より光ると思いますよ。永田選手を志村けん役にキャスティングするくらいの英断が欲しいです。中邑選手は仲本工事ですかね。

その他のおたより

★プレゼント=石川剛士選手の人生のストーカーTシャツ希望。7月に石川選手にKOされた者です。抽選と言わずTシャツ私にください! 『紙プロ』的にOKでしょ。
(中沢勇闘・33歳・会社員兼シュートボクサー)

➡シュートボクシングさんに確認したところ、どうやら本当に仙台大会で石川選手と対戦した中沢選手らしいです。自分がKOされた相手のTシャツプレゼントに応募する選手は初めて見ました。妙なところを打っちゃったんじゃないかと心配ですが、ふつうに面白いので、当選にするよう読プレ担当に言っておきまーす。サインとかもらってきたほうがいいですか?

紙プロ80号・読者が選ぶ 面白かった記事ベスト5

1位 ミルコ・クロコップ インタビュー
2位 ポルシェとグリズリーのPG談
3位 ジョシュ・バーネット大研究
4位 新倉史祐 インタビュー
5位 小川直也 インタビュー

1位は大一番前にたっぷり語ってもらったミルコ・クロコップインタビュー! 続いて僅差でグリズリーお姉さま登場のPG談。3位ジョシュ大研究。続いて昭和新日幻想再び、の新倉史祐インタビュー。5位は小川直也インタビュー、以降は田村潔司vsマグナムTOKYO対談、エロティックス座談会、北斗晶インタビューがほぼ同票で続きました。全体的に「伏せ字が多すぎる」というクレームが多かったです。気持ちはわかりますが……無理です。スマン。

ほんとにジョーク?

北のカナタ
パコちゃん人形
ハニ様

(静岡県・目ガ覚メタロウ)
➡ヴォルグ・ハン、リトアニアで復活記念……だったんですが、入国できたんでしょうか。これを書いている時点では不明です。記念になぜ「ほんとにジョーク?」を復活させるか、それも不明。パコちゃんの元ネタはロシア勢インタビューの際、いつも『紙プロ』を欲しがっているパコージンさんですよ。もうちょっと横に広いかも。

白昼の暴挙! アパッチ軍・『紙プロ』編集部を襲撃!!

金村キンタロー率いるアパッチ軍が、引越したばかりの『紙プロ』編集部を襲撃!! 前号のエロティックスインタビューを読んだ金村は「あんなに伏せ字ばっかりにしたら、誰のこと言ってるか、さっぱりわからんやないか!! 当の本人も誰のこと喋ったか忘れてしまったわ」と、ヤバすぎる話を全て載せなかった担当・松澤チョロに怒り爆発。さらには『紙プロ』の新入り・フランキー（仮）を脱がせ「お前1人に恥ずかしい思いさせへんから」と自分も脱いで自身のモノを押しつけ、卑猥に腰を振るなど、さんざん暴れ回って帰っていきました。アパッチ軍のみなさん、ごめんなさ〜い（BY・松澤チョロ）。

たまたま近くで記者会見を行っていたアパッチ軍。編集部に乗り込んで来るなり、金村は近くのテーブルに置いてあった「ハッスルドリンク」を勝手にゴクリ。「オッ、なんか効いてきた!! ハッスル、ハッスル!!」

PRIDE 28 10・31 Mirko Cro Cop 俺が主役だ。

（神奈川県・岡田健生）「掲載、正直ビビってたじろぎました」➡たじろぎつつ再び投稿、ありがとうございます。またしても掲載でダブルビターンって感じですか？ 岡田さんは漫画家さんじゃなくて、サラリーマンさんだそうです。最近のリーマンは絵がうまいんですね。

（北海道・アカツキ）➡クスッと笑ってしまったので掲載します。ちょっと「ほんとにジョーク」っぽい。

（石川県・シーザー孝志）➡中村カズ選手。すごくよく似てると思います。『PRIDE・28』では残念でしたね。

（埼玉県・稲葉聡）➡ミルコ、かっこいいですよねぇ。コスチュームがなんか格闘マンガっぽいですね。原画の細かさがどこまで伝わるかなぁ……。

（大分県・ハッスル少年）
➡右のラーメンマンみたいなのが何かな、と思ってよく見ると武藤選手ですね。ハッスルこそ若年層からのイラストが欲しいと思うので、うれしくて掲載してしまいます。

（長崎県・大田正之）
➡はじめまして大田さん。「ついに参戦」＆腹の感じからして……ジョシュ・バーネットですよね？（失礼な見分け方）

（東京都・ヤー）➡ジャクソンvsシウバ。地上波ゴールデンギリギリという感じもありましたが、歴史に残る名勝負でしたね。ジャクソンが勝ったら、桜庭最強説（ジャンケン理論）をもう一度立ち上げようと画策していた私なので、非常に残念でした。

おハガキ・お便り・メール大募集!!

読者ページ『紙プロ元気大学』では、常時みなさんからのお便りをお待ちしています。今月号の感想、大会・試合を見て感じた憤り、喜び、感動、ときめき、良かれと思って部下の治療法を注意したら逆恨みされたエピソードなど、思いのたけをぶつけてきてください。ただし『元気大学』なので、病的だなと思った時には掲載を見合わせていただいています。ご意見、大会の感想、お便りの他、イラスト、その他すべての宛先は

『紙プロ』編集部の住所が変わりました!!

メールは変わらず radical@kamipro.com

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ケ谷5-16-6 パレ・ジュノ2F
（株）ダブルクロス 紙のプロレスRADICAL編集部
紙プロ元気大学「ドイツではマッチョ・ドラゴン」の係まで。

携帯サイト『紙プロHand』からの投稿も出来ます!

本名NGの方はペンネームを記入するのを忘れないよーに！
プレゼントコーナーあてのハガキも、内容によっては無断でこっちに載ってしまいます。
匿名希望の人はその旨明記のこと。旬のネタは掲載率が高いです

RADICAL CALENDAR

11 NOVEMBER

27 SAT.
全日本■岡山・津山市総合体育館（18:30）
NOAH■北海道・札幌メディアパーク スピカ（18:00）
大日本■茨城・水戸市民体育館（19:00）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
K-DOJO■千葉・BlueField（19:00）
STYLE-E■東京・西調布格闘技アリーナ（19:00）
GAEA■埼玉・本川越ペペホール アトラス（18:00）
格闘美■東京・新木場1st RING（18:00）
AtoZ■栃木・フォレストアリーナ サブアリーナ（18:30）

28 SUN.
新日本■神奈川・藤沢市秋葉台文化体育館（18:30）
全日本■山口・やまぐちリフレッシュパーク（14:00）
NOAH■北海道・札幌メディアパーク スピカ（16:00）
DRAGON GATE■東京・ディファ有明（16:00）
DDT■東京・大阪IMPホール（16:30）
黒田哲広祭り■千葉・Blue Field（15:00）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
WMF■東京・バトルスフィア東京（14:00）
TAMA■東京・西調布アリーナ（14:00）
SGP■愛知・名古屋市中スポーツセンター第2競技場（13:30）
NEO■東京・東京キネマ倶楽部（13:00）
JWP■東京・東京キネマ倶楽部（17:00）
LLPW■石川・石川県産業展示館２号館（17:00）
IKUSA■東京・六本木ヴェルファーレ（18:00）
club DEEP■大阪・大阪デルフィンアリーナ（17:00）

29 MON.
全日本■大阪・大阪府立体育館第二競技場（18:30）

30 TUE.
新日本プロレス■福島・ビッグパレットふくしま（18:30）
LLPW■長崎・長崎平和会館（18:30）

12 DECEMBER

1 WED.
全日本■青森・八戸市体育館（18:30）
DDT■東京・新木場1stRing（19:30）
LLPW■長崎・佐世保市体育文化館（18:30）

2 THU.
全日本■福島・福島市国体記念体育館（18:30）
NOAH■茨城・鹿嶋市立高松緑地体育館（18:30）

3 FRI.
全日本■新潟・五泉市総合会館（19:00）
DRAGON GATE■愛知・春日井市総合体育館（18:30）
みちプロ■東京・後楽園ホール（18:30）
AtoZ■千葉・市川市スポーツセンター（18:30）
シュートボクシング■大阪・大阪府立体育会館第二競技場（18:00）

4 SAT.
新日本■岡山・岡山県体育館（18:00）
NOAH■神奈川・横浜文化体育館（18:00）
ZERO-ONE■千葉・横芝町B&G海洋センター（18:00）
DRAGON GATE■京都・京都KBSホール（18:30）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
K-DOJO■千葉・BlueField（19:00）
AtoZ■岩手・宮古市千徳地区体育館（18:30）
全女■東京・お台場スタジオドリームメーカー（17:00）
K-1 WORLD GP■東京・東京ドーム（17:00）

5 SUN.
新日本■徳島・徳島市立体育館（15:00）
全日本■東京・両国国技館（17:00）
ZERO-ONE■東京・後楽園ホール（12:00）
DRAGON GATE■広島・福山ビッグローズ（16:00）
IWA■山梨・大月市民総合体育館（15:00）
大阪プロ■兵庫・神戸サンボーホール（15:00）
格闘美■東京・新木場1st RING（12:30）
藤原祭り2004■東京・後楽園ホール（17:30）

6 MON.
新日本■高知・高知県民体育館（18:30）
大日本■群馬・前橋グリーンドーム サブアリーナ（18:30）

7 TUE.
新日本■愛媛・宇和島市総合体育館（18:30）
U-STYLE■東京・後楽園ホール（18:30）

8 WED.
DDT■東京・新木場1stRing（19:30）

9 THU.
新日本■広島・広島グリーンアリーナ 小アリーナ（19:00）
大日本■大阪・鶴見緑地公園花博記念講演水の館付属展示場（19:00）
ZERO-ONE■群馬・ぐんまアリーナ サブアリーナ（18:30）

10 FRI.
全日本■東京・東京プリンスホテル 鳳凰の間（18:30）
DRAGON GATE■大阪・大阪府立体育会館第二競技場（18:30）
IWA JAPAN■東京・後楽園ホール（18:30）

11 SAT.
新日本■大阪・大阪府立体育会館（18:00）
NOAH■茨木・鹿嶋市立高松緑地体育館（18:30）
ZERO-ONE■埼玉・深谷市民体育館（18:30）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
EXPERT■東京・新木場1stRING（18:00）

12 SUN.
新日本■愛知・愛知県体育館（16:00）
DRAGON GATE■山口・海峡メッセ下関（17:00）
大日本■愛知・JR稲沢駅前特設リング（13:00）
DDT■愛知・名古屋中スポーツセンター（16:30）
K-DOJO■大阪・デルフィンアリーナ（19:00）
FUCK!■大阪・大阪羽曳野J2K道場（14:00）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（13:00）
全女■神奈川・川崎市体育館（15:00）
GAEA■東京・後楽園ホール（12:00）
JWP■東京・東京キネマ倶楽部（16:30）
新日本キック■東京・後楽園ホール（17:00）
CROSS SECTION■東京・TFMホール（18:30）

13 MON.
AtoZ■埼玉・深谷市民体育館（18:30）

14 TUE.
修斗■東京・代々木競技場第二体育館（18:00）

15 WED.
DDT■東京・新木場1stRing（19:30）

16 THU.
DRAGON GATE■東京・国立代々木競技場第二体育館（18:30）
みちプロ■静岡・キラメッセぬまず（18:30）

17 FRI.
みちプロ■徳島・三好町ふれアリーナみよし（18:00）
AtoZ■東京・後楽園ホール（18:30）

18 SAT.
ZERO-ONE■千葉・千葉公園体育館（18:30）
DRAGON GATE■静岡・ツインメッセ静岡（18:30）
みちプロ■広島・ふくやま産業交流館ビッグローズ（19:00）
大日本■神奈川・横浜文化体育館（18:30）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
WMF■東京・バトルスフィア東京（18:30）
格闘美■東京・新木場1stRING（18:00）
DEEP■東京・ディファ有明（15:00）

19 SUN.
ZERO-ONE■静岡・南熱海マリンホール（16:00）
DRAGON GATE■兵庫・明石市立産業交流センター（17:00）
みちプロ■京都・KBSホール（14:00）
大阪プロ■大阪・IMPホール（15:00）
WMF■東京・バトルスフィア東京（14:00）
NEO■東京・後楽園ホール（12:00）
EXPERT■東京・新木場1stRING（18:00）
スマックガール■静岡・ツインメッセ静岡（17:00）

20 MON.
みちプロ■島根・松江市総合体育館小体育館（18:30）

21 TUE.
パンクラス■東京・後楽園ホール（18:30）
みちプロ■三重・四日市オーストラリア記念館（18:30）

22 WED.
ZERO-ONE■東京・後楽園ホール（19:00）
みちプロ■愛知・豊橋市総合体育館（18:30）

23 THU.
ハッスルハウス■東京・後楽園ホール（12:00）
新日本■東京・後楽園ホール（18:30）
みちプロ■長野・長野市NBSホール（14:00）
NEO■東京・板橋グリーンホール（18:00）
格闘美■東京・新木場1stRING（12:30）
Team OK■東京・板橋グリーンホール（14:00）

24 FRI.
ハッスルハウス■東京・後楽園ホール（19:00）
NOAH■東京・ディファ有明（19:00）
NEO■東京・板橋グリーンホール（19:00）

25 SAT.
DRAGON GATE■埼玉・本川越ペペホール アトラス（18:00）
DDT■東京・後楽園ホール（19:00）
東海プロレス■愛知・名古屋市総合体育館第3競技場（17:15）
NEO■東京・板橋グリーンホール（18:30）

26 SUN.
DRAGON GATE■埼玉・本川越ペペホール アトラス（15:00）
ターザン後藤一派■埼玉・春日部 インディスアリーナ（14:00）
666■東京・ディファ有明（16:00）
U-FILE■東京・西調布格闘アリーナ
全女■東京・後楽園ホール（12:00）
AtoZ■茨城・つくばカピオ（18:00）
M's Style■東京・後楽園ホール（18:30）
サンライズ1■千葉・FFエンターテインメントアリーナ（15:00）

27 MON.
アパッチプロレス軍■東京・後楽園ホール（19:00）

28 TUE.
WAP■東京・後楽園ホール（18:30）

29 WED.
西口プロ■東京・club ATOM（19:00）
BAPE STA!!■東京・Zeep Tokyo（17:00）

30 THU.
BAPE STA!!■東京・Zeep Tokyo（17:00）

31 FRI.
PRIDE男祭り2004 SADAME■埼玉・さいたまスーパーアリーナ（17:30）
K-1 Dynamite!!■大阪・大阪ドーム（16:00）

『紙プロ』コラムがパワーアップして帰ってきた!!

ケトロ☆コラム

金ちゃんの MONTHLY BOYA-KING COLUMN

なんでそ〜なるの!?

最終回

試合後は引退も考えたアリスター戦 長い間ご愛読ありがとうございました！

『PRIDE・28』のアリスター・オーフレイム戦ではふがいない試合をしてしまって、応援してくれたみなさんすみませんでした。あの試合は俺自身、いままでで一番落ち込んで、実は試合直後、引退も考えたんだよね。

とにかく自分の思った動きが全然できなかったし、今回はなぜか試合前になっても全然集中できなくて、気持ちが〝闘いモード〟にならないのよ。こんなこと10年以上現役やってて初めてだからもの凄いショックでさ。千代の富士が引退するときに言ってた『体力の限界、気力もなくなり』っていうのは、このことなのかと思って。あ、俺もう引退しなくちゃいけないのかと思ってホント落ち込んだよね。

それで試合の翌日、ケガの治療のついでにドクターに相談してみたんだよね。なんで突然集中できなくなったのか、俺はもうダメなのかって。そしたら「試合前に何か大きなダメージを受けませんでしたか？」って聞かれて、よく考えてみたら、試合4日前のスパーリングで俺、初めて落ちて、10数秒間気を失ってたんだよね。そしたら「それが原因ですよ」って言われたんだよ。

ドクターが言うには、落ちて失神したときというのは、数秒間とは言え〝生命の危機〟が体に降りかかるので、防衛本能が働き、体が守りに入るんだって。ボクサーがダウンしたときも同じらしいんだけど、それで試合直前になっても集中できずに、試合になっても反応が全然遅くなったんだって。

それ聞いてようやく、まだ現役続けていく自信が甦って来たんだけど、なんで毎回毎回、試合直前になるとそういうことが起こるのかなぁと思ってさ。一時はホントに引退考えたけど、引退したところで俺は格闘技で食っていくしかないんだからさ。いまは意地でも復活してやろうと思ってるよ。

それによく考えたらさ、俺去年のいまごろは、練習はおろか、正座もできないくらいだったんだよね。今年3月くらいのようやくちゃんと練習できるようになったんだから。それを考えたら、まだまだ鍛え直さなきゃいけなかったのかなと思ってさ、いま日体大に通ってレスリングの練習ばっかりやってるよ。

アリスターとは予想以上に体格差もあり、スタンド、グラウンド両面でなかなか攻め込むことができなかった金ちゃん。一度は得意のアームロックを極め掛けたが、これがこの試合唯一の勝機だった。

いまはようやく前向きな気持ちになれたけど、これで『PRIDE』3連敗だからね。一日も早く勝利がほしいよ。それで結果出して、なんとか来年のミドル級GPに食い込みたいよね。『PRIDE』のミドル級はホントにレベルが高くて、みんな強いと思うけど、なにがなんでも這い上がってみせるよ！

いや〜、なんか今回はシリアスなコラムになっちゃったな〜。俺が思うに、そもそもこのコラムのタイトルがいけないと思うんだよね。「なんでそ〜なるの？」なんてさ、ホントこのコラム始めてから「なんでそ〜なるの？」ってことばかり起こるからね（苦笑）。

もうこれを機にタイトル変えようかな。かといって「金ちゃんのどこまでやるの？」じゃ周りから「どこまで現役やるの？」って言われるようで嫌だからさ（笑）。よし、来月からは「金ちゃんのドンとやってみよう！」にしよう。決めた！

では、みなさん長い間ご愛読ありがとうございました。「金ちゃんのなんでそ〜なるの!?」は今月をもって終了いたします。そして、来月から新連載「金ちゃんのドンとやってみよう！」がスタートいたしますので、これからもよろしくお願いします！

Kanehara Hiromitsu

リングの汁 ミゼット

花くまゆうさく

五味の相手はブスカペでなくBJや三島希望

5月の『PRIDE武士道』で、韓国人ファイター2人（チェ・ム・ベとキム・ジン・オー）の不思議な魅力に気付いてから、一度チェ・ム・ベは生で見とかなくてはいけないと思い、ひさびさに会場で『PRIDE』を観に行くことにした。

ミルコがジョシュに負ける場にいるのは嫌だなぁと思いつつも、ノコノコ会場に来てしまったのは、このカード（ミルコvsジョシュ）による異常な興奮を味わいたかったのと、チェの電波をキャッチしたからでしょう。

さて目当てのチェの試合。試合自体を見ようとするとダルダルなんだが、チェだけを見てれば大丈夫！　チェの魅力を味わい満足しました。私の近くでヤジを飛ばしまくってた（でもフィニッシュには手の平を返して大喜び）キミ、試合を見ようとするからダメなんだよ。チェだけを見るんだ。おもしろいよ。

試合自体を楽しむには、チェの相手がガンガン攻めてくるヤツじゃないとダメなので、そこらへんはDSEさん、よく考えてマッチメイクしてくださいませ。けっして、今そこらへんにウジャウジャいる中途ハンパなヒョードルスタイル（ひたすら上にこだわるがパウンドが中途ハンパ）の選手と当てるのはやめてください。そんなヤツらの勝率を上げるダシにチェを使用しないでほしい。

そう考えると、チェの相手として頭に浮かぶのはミルコだ。ミルコの大晦日の相手はチェでいいんではないのかな？　テレビ向きのカードにもなると思うよ。NHK『紅白』は、ペ・ヨンジュンとかを呼ぼうとやっきになってるから、フジはチェ・ム・ベにしようよ。

ミルコのハイキックが決まっても、チェは仁王立ちなのか？　それとも前のめりにブッ倒れてしまうのか？　どっちにしてもチェ・ム・ベは美しく見えるに違いない。

いま日本には2つの韓流ブームがある。オバさん達が熱狂する冬ソナ系と、『殺人の追憶』、『オールドボーイ』&チェ・ム・べらの〝俺たちの韓流〟ブームだ。

「お父さんのバックドロップ」の子役かわいい

国家吹奏時に

もしもしぼくジャクソン

ケータイするジャクソン

はやくもタイアップのオファーが！

某ケータイ会社

次はぜひウチのケータイ使ってください

OKベイビー

ROCKSTAR

Hanakuma Yusaku

『オールド・ボーイ』おもしろいよねぇ。

中川画伯の絵日記 犬とTVの日々

http://chu-kichi.jp/

第3回

やっちゃるけん！（世界の荒鷲ism）第3回。
まったく何を書いて良いのか解りません。
えっと…今回はプロレス&格闘技のこと多めです。
お前ら、プロレス好きか？（美濃輪ism）
自分は正直、好きなのか解りません。

10月25日　『西武ライオンズ』優勝!!

勝ったぞー!!（by伊東勤監督）
12年振り9度目の日本一。
ミラクル元年、奇跡を呼ぶぜ！
嬉しいなぁ。ウキウキしちゃう。

10月26日　超新星

テレビ東京で『全日本プロレス中継』。
諏訪間幸平選手、かなり良いネ。
小島より良いネ。
デビュー戦の感想、
「すごい気持ちいいですね。」
だって！
なんかエロ～い。
そうでも無い？

10月26日　ボビー・オロゴン参戦！

大晦日『Dynamite！』にボビー参戦決定。
中邑真輔戦が観たいなぁ。
曙vsサップ、
今年もやって欲しいなぁ。
毎年やって欲しいなぁ。
年末恒例、曙vsサップってね。

Bobby Ologun

10月31日　絶対王者？

『PRIDE28』観戦。バイオレンス過ぎ！
桜庭ファンから見たら
ヴァンダレイ・シウバなんて憎たらしいだけ。

11月4日　近藤有希ファイナルカウントダウン

『スマックガール』観戦。やっぱ面白い！
ぜひ一度生観戦を。オススメです。最高よ。
近藤有希選手、スゲー格好良かったです。
自分は近藤（久保田）選手を
観ることができて幸せです。
華があってストイックで魅力的な選手でした。
残り2試合、頑張ってください。
泣きそうになっちゃった…。大人なのにね。

KONDŌ YŪKI

11月6日　ライオンズ、お前もか？

西武ライオンズが売られちゃうかも？
プロ野球ファンやめちゃうかも？

11月10日　肩コリコリだ、オエッ！（天山ism）

肩こっちゃって気持ち悪いです。オエッ！
肩コリは首&肩の筋肉が弱いのが原因。
肩コリがヒドい時は
「鍛えよう！」と思うのですが…
治っちゃうとネ、喉元過ぎれば何とやら…です。
筋トレなんかしてるヒマがあったら絵を描くよ！

11月12日　大谷晋二郎、ガンバッテー!!

お前ら、プロレス好きか？
リアル・プロレス知ってるか？
リアル・プロレスラーっていうのは
大谷晋二郎のことだぜ！

何を書いて良いのか解らず暴走気味。
ブレーキの壊れた自転車です。
御指導御鞭撻願います。
紙のプロレス「中川画伯絵日記係」まで。
抽選で1名様にイラスト・プレゼント。
好きな選手の名前を3人書いてクダサ～イ！

〝ささきぃ〟の極私的立ち技格闘技連載 STAND BY ME（仮）

佐山サトル先生のページと入れ替わりに1ページとなってしまった、ささきぃの立ち技ページ。頑張って面白い話題をお伝えしようとしたら……こっちも佐山先生の話題になってしまいました。あれ？　担当になってから、かえって立ち技に対するスタンスが迷走している感がある私ですが、今月は『藤原祭り』会見の模様、そして田中塾・実戦格闘術大会の模様をお届けします。この2つの面白さを伝えられるのは……たぶん『紙プロ』だけです!!

第3回

『藤原祭り』&実戦格闘術大会とは何か？

昨年、藤原敏男&國奥麒樹真vs小林聡&宇野薫のスペシャル・エキシビジョンが実現した全日本キック12月大会『藤原祭り』。今年はなんと、藤原敏男&初代タイガーマスクが初タッグを組んで小林聡&桜井マッハ速人組を迎え撃つことが、11月15日、藤原ジムで行われた記者会見において正式発表された。会見の席上で藤原先生は「大会のテーマは〝挑戦〟。エキシビジョンについては面白おかしく、お客さんが来て良かったなと思える大会にしたい」と、今年も〝魅せる〟試合を行う意欲十分。初代タイガーマスク＝佐山サトル皇帝は「トシちゃん先生（※藤原敏男）が『俺も空中殺法をやってみたい。WWEを目指したい』って言うんで。うふふ。合体技の完成度はいまのところ78%。当日はお酒を飲ませて、100%にします」と、意気込みを語った。

藤原先生も「佐山は今、5時間から10時間練習してるから」と、やけに時間幅のある特訓について明かし「隣の喫茶店に6時間いるけどな」とつけくわえていた。

昨年に続き、師である藤原敏男と対戦することになった野良犬・小林聡。参戦については「最初はキックルールで試合をやろうと思っていたんですが、ラブコールを送っていた選手にはチーターより速く逃げられてしまいました。佐山さんは試合より怖いんで、相手になったらすぐタッチしたい」と控えめにコメント。大会のテーマ〝挑戦〟については「……何したらいいですかね？」としばらく考えた後「小林邦昭のビデオでも見ようかな。マスクはいだら怒られますかね？」と笑いながら〝平成の虎ハンター〟変身を宣言（?）。直後に「いや、佐山さんはマジで怖いんで出来ないですよ！」と否定していた。

「当日はトシちゃん先生にもマスクかぶってもらいますから。ビッグタイガーになってもらいます。大トラ。うふふ。入場したら一升瓶でお酒飲んでもらいます」と、入場イメージを語った初代タイガーマスク。初代タイガーマスク&ビッグタイガー組に対し、小林&マッハ組がどういった出で立ちで登場するのかにも注目が集まる。12月5日は赤いパンタロンに横分けで登場、見た目から平成の虎ハンターに変身して「当日までに92キロになる」と語っている初代タイガーにフィッシャーマンズ・スープレックスを披露する野良犬が見られる……かもしれない。

初代タイガーマスク&〝大トラ〟(BY佐山サトル)藤原敏男が夢のタッグを結成!!

「ワイクーラリアットっていうのを出しますから（by初代タイガー）」。当日をお楽しみに!?

『Fujiwara Festival～藤原祭り2004～』
12/5 全日本キック　東京・後楽園ホール
試合開始 18:30（オープニングファイト 17:30開始）

決定カード

●［ミドル級/3R］
白川裕規(S.V.G.) vs **藤倉悠作**(格闘結社田中塾)

●［ミドル級/サドンデスマッチ］
中村高明(全日本ミドル級1位・藤原ジム) vs **ニック・ヒョード**(和術慧舟會総本部)

●［ヘビー級/サドンデスマッチ］
桜木裕司(掣圏会館) vs **滝川リョウ**(日進会館)

●［日本・タイ国際戦/58kg契約/サドンデスマッチ］
前田尚紀(全日本フェザー級1位・藤原ジム) vs **ワンロップ・ウィラサクレック**(M-1バンダム級王者)

●［ヘビー級・サドンデスマッチ］
イゴール・ペプロフ(ロシア・極真会館) vs **ファルコン**(誠武館)

●［スペシャル・エキシビジョンマッチ/総合ルール/5分1R］
藤原敏男(藤原ジム代表)&**初代タイガーマスク** vs **小林聡**(藤原ジム)&**桜井マッハ速人**(マッハ道場)

●［70kg契約・サドンデスマッチ］
清水貴彦(WPMF世界ミドル級王者/GOLDEN FIST) vs **鷹山真吾**(超人クラブ)

●［メインイベント/全日本フェザー級タイトルマッチ］
山本元気(フェザー級王者/REX JAPAN) vs **山本真弘**(同級2位/藤原ジム)

※ほか3～4試合予定
問：全日本キック 03-3365-1171

格闘結社・田中塾 実戦格闘術大会
10月24日　千葉・船橋武道センター

GCMコミュニケーション・CAND、DRAGONGATE、レッスルエイドと、なぜか注目大会が全部横文字だった10月24日。どれも見たかったのですが、ささきぃは日本人らしく（?）格闘結社・田中塾の実戦格闘術大会に行ってきました。押忍！

日本人の魂を大切にする田中塾。もちろん開会式では日の丸に向かって一礼、君が代斉唱です。そして「我々は〝格闘結社〟精神にのっとり、正々堂々と闘うことを誓います」という、素敵な選手宣誓でスタート。

ルールは投げあり、ヒジあり、ヒザありで有効打ごとにポイントが加算され、10ポイント奪取で勝利。掣圏道のニーブレス状態を指す〝立掣一本〟で一本勝ち。しかし関節技は瞬時に決まる場合でなければ一本にはならず。大会名のように、あくまでポイントは〝実戦型〟。総合格闘技での、腕ひしぎ・クラッチ切れそう、切れない！　などとをやっていたら「多人数を相手にすることを想定した路上では、殺られてしまう（パンフレットより）」のです。

ヘッドギアとすね当て、手にはシューティンググローブ着用で行われた大会でしたが、第1試合からパンチの猛攻でヘッドギアが赤く染まっていました。さらにハイキックKO、投げで脱臼、と、やたらに危ない闘い続出。

大会終了後、田中師範に話を伺ったところ「審判には床がコンクリートであることを想定してジャッジしろって言ってあるんスよ。コンクリートだったら、強烈な投げがあればそれで終わりですからね。だから、ポイント8のヤツが投げひとつで判定負けするっていうことも十分ありえるんスよ」と、さらに興味深い発言もいただけました。

見ていて思ったのは、実戦という言葉をキーワードにして縛っていくことで、何に対しても厳しいルールが出来上がったんだな、ということです。打撃にしても、投げにしても、関節にしても、それ一本・一瞬で相手をKO出来る〝殺し（―編集長用語）〟のレベルに達しないと、このルールだと勝てない。さらに言えば、このルールだと、全く相手と関わり合わずに見合っているだけの、とことんつまんない試合になってしまう上、2分のラウンドはあっさり終了してしまうのです。つまり、このルールに適応すべく練習を重ねていけば、強くて面白い試合をする選手が自然と育成されていく。

田中塾の強さの秘密が、少し分かった気がしました。そして、秋の日曜の昼下がりに、目に見えない〝強さ〟を求めて船橋の体育館で血を流す若者たちに対し、敬意を表したいと思います。ふたたび……押忍ッ！

「我々は〝格闘結社〟精神にのっとり正々堂々と闘うことを誓います!!」

【田中塾ギリギリ情報】 ミャンマー・ラウェイで勝利をおさめた田中塾・田村彰敏が、12月4日、なんとロシアのVTに参戦決定!! イバラの格闘道を行く田村彰敏の勝利を心から願います!!　押忍!!

ザ・検証 REBORN

REBORNして第2回目の検証のテーマは髪切りマッチで坊主になった坂田亘選手に似合う髪型を考えてみました。坂田選手、怒らないで下さいね♥

【今月の検証　椎名基樹】
坂田選手に似合う髪形を考える

坂田 亘 選手

◎＝大変似合う　○＝似合う
△＝まあまあ　×＝似合わない

△ 細木数子風

女・喪黒服造はプロレスギミックとしていいと思うのだが、なんだか恐喝犯が誕生。ある意味キャラ通りだけど……。

◎ 大森隆男風

まったく意図が掴めない大森ヘア。坂田選手がすると、田舎のヤンキー風（シンナー好き）にキャラ立ち。

◎ マッチョドラゴン風

似合う。つーか若き日の藤波かと思った。この頃の藤波は早過ぎたハイブリッドボディーでかなりカッコいいだよ。

○ ペ・ヨンジュン風

みんなのヨン様が、連続強姦殺人のサイコキラーの手配写真に！　でもキャラ立ちはしているので「○」。

× ラーメンマン風

中

やっぱ、ラーメンマンは目が細くないとね。というわけで「×」。しかし弁髪レスラーの復活は求む！

× キラー・コウルスキー風

ニードロップで相手の耳を削いだ事以上にヅラであったことが有名なコワルスキーだが、これでは「小悪スキー」。

◎ 樋口一葉風

新札発行を記念して、やっぱこの人でしょ。でも、顔の形とか妙に合っている気がします。

○ リック・フレアー風

これを見て、後藤、ヒロ、小原からブロンドアウトローズ再結成の誘いがあったら、必ず応じてください。

◎ ブルーザー・ブロディ風

これって似合うも何もない気がするけど、ブロディ同様凛々しい。でも、ちょっと原始人コントっぽい。

◎ ジョン・レノン風

妙に似合うなあ……。でも、こういうタイプはドスけべだったりするので、世のご婦人方ご注意を!

△ 金正日風

何だこのオデコのラインは!? どーすりゃこうなる? 変すぎ! 人を●●っている場合か! バカモノ!

× 髙田総統風

ビターン! これって髪型を考えるってテーマから……。ガキデカです。

今月の検証結果

身代わり髪切りマッチで敗北し、身代わりの中村カントクではなく、自ら坊主になった、とっても優しい坂田亘選手。その優しさに免じて、女神様がいろんな髪型を用意してくれました。

「あなたの落とした斧は、この金の斧? それとも銀の斧?」

「あなたの元の髪型はこのヨン様? それとも数子? それともそれともレノン? コワルスキー?」

みなさんはどれが似合うと思いますか? 今、一瞬目立ちたいなら、樋口一葉かな?

○ 北斗晶風

このメイクって誰でも似るから不思議。健介には、ノーザンライトボムをもっとうまくなって欲しいと思います。

△ ブラック・ジャック風

不気味です。話は違いますが、このマンガの化石探しが得意な臍ヘルニアの少年の話は必読です。

先月の「WWEが来年2月に来襲する！」という明るいニュースから一転、

ネタバレ情報密売団F・B・Iプレゼンツ

ネタバレ通信 Vol.18

何時男　今月は意外なビッグニュースがありました。シェイン・マクマホンが極秘来日していたらしいですね。いきなりなんでビビってたじろぎましたよ！

叙似位　どうやら日本におけるTV放送の問題でミーティングが行われたという話です。フジテレビで10月から『WWE・X』という番組が始まって、『RAW』と『SmackDown！』を放送するようになっていたんですけど、どうやらその線引きの問題じゃないかと言われています。

何時男　線引き、ですか？

叙似位　もともとフジテレビは『SMACK』だけを放送して、それ以外の番組は衛星放送でという線引きになっていましたからね。

派乱暴　ただ、各方面からの情報や噂を総合すると、この問題はフジテレビに非があるかというと、そういうことでもなさそうなんですよ。いろいろと間を通してビジネスをしている関係で、話がこじれた部分もあると思うんですよね。

何時男　シェインが来る程だから、結構な大事になってるんですかね？

叙似位　どうなんでしょう？　日本はWWEの戦略上の大きなマーケットなんで、それだけ重要視しているということだと思うんですけどね。ただ、今回のゴタゴタも含めてフジテレビのテンションがかなり落ちているという噂は聞きましたよ。

派乱暴　ああ、そういう噂ならボクも聞きました。

叙似位　日本興行の時でさえ主催はするけど、イベントの中身にはほとんどタッチ出来てなかったですからね。

派乱暴　これから来年2月の日本大会の概要が本決まりになるという時期でこれですからねぇ。最初は『RAW』と『Smack』の同時上陸という威勢のいい話だったんですが、果たしてそれが実現するのか、現段階では微妙ですよねぇ。

叙似位　日本大会が来年2月にやることは前々から決まっていたんですが、具体的に内容が決まるまで伏せておいてくれということで緘口令（かんこうれい）が敷かれてたんです。でも、フジテレビがフライングして公になっちゃったという説もあるんですよ。

何時男　えっ？　『WWE・X』の初回放送で発表したのはフライングだったんですか？　それは凄い話だなぁ（笑）。

叙似位　「本来ならあってはならないことだ」とWWEも憤っているという話は、関係者から聞きましたけどね。そりゃそうですよ（笑）。そういう部分だけ見ても、どうもギクシャクしている感は否めませんね。

派乱暴　でも、現実的な話ではフジテレビが絡むか絡まないかで、来年2月のイベント内容もガラッと変わってくると思うんですよ。『RAW』『Smack』の同時来日で全国ツアーをやるという話もあれば、TV放映もあるかもという話もあるし、『RAW』単独でTV放映はしないかもという話すらありますからね。

何時男　全国ツアーで大会を行える会場なんて限られてくるんじゃないですか？　札幌、仙台、埼玉、東京、横浜、名古屋、大阪、神戸、広島、博多ぐらいでしょう？

叙似位　でも、ビンスは「2～3000人規模の会場でもいいから、まんべんなくやってこい」「もし5日間日本に滞在するなら5大会やれ」とか、そんな指示を飛ばしてるって噂も聞こえてきますよ（笑）。

派乱暴　本当に2～3000人の会場でやるつもりなんですかね？

何時男　WWE千葉公園体育館大会とかWWE後楽園ホール大会とかやるつもりなんですかね（笑）。

叙似位　今回も広島グリーンアリーナは候補に入ってるみたいです。

派乱暴　同時来日の場合、『RAW』と『Smack』が日本国内で別のコースを巡業している可能性もありますね。

叙似位　偉そうなこと言うようですけど、日本でファンを食い合うのは得策と思えないんですけどね。正直言って、日本の市場を掴みきれていないなと思います。

何時男　先月には『RAW』と『Smack』が大規模なヨーロッパツアーをやっていて、どこも盛況だったみたいですけど。

叙似位　ただ、ヨーロッパ全土とこの狭い島国を比べちゃダメだと思うんですよ。ちなみに、そのヨーロッパツアーに『Smack』の会場にある巨大な拳を持っていくのを忘れちゃったみたいです（笑）。

何時男　バカでかい忘れ物ですねぇ……。というか、信じられませんね（笑）。

叙似位　あと、先月このページでお知らせした『SmackDown！ MAGAZINE』日本語版は当初、12月に発売される予定だったんですが急遽発売が延期になっちゃったんですよ。

何時男　えっ？　マジですか？

叙似位　翻訳とかも始まってて編集作業もスタートしてたんですけど、WWEサイドのお達しで全てがストップですよ！

何時男　広告も取り始めてたろうし、取次ぎにも話は行ってたんでしょうけど、この段階での中止って……えぐい話ですねぇ。何が原因なんですか？

叙似位　本国の『SmackDown！ MAGAZINE』そのものをリ

プエルトリコの帝王カルロス・コロンの息子カリート・カリビアン・クール（右）はジョン・シナからUS王座をいきなり奪取するなど、早くもトップに食い込んできている。

今月の新作は家宝級！ DVDを各1名様にプレゼントします！

あと5ヶ月後に迫った人類史上最大のプロレス祭典レッスルマニアのダイジェスト、それが『ヒストリー・オブ・レッスルマニア』だ！ これはレッスルマニア1～9の名場面で構成されており、レッスルマニア3で行われたハルク・ホーガンvsアンドレ・ザ・ジャイアントのプロレス史に残る名勝負や〝マッチョマン〟ランディ・サベージの愛と闘いの日々、さらには若き日のビンス・マクマホンがホストを務める番組など幻の映像がふんだんに収録されている。94年に発売されたビデオの再発だが、今見ても色褪せることのないアメリカンプロレスの黄金期が120分に凝縮された超永久保存版！ そして、今月のもう一本は真夏の祭典『サマースラム2004』が待望のDVD化！ クリス・ベノワを破り、WWE史上最年少チャンピオンに輝いたランディ・オートンの姿を瞼に焼き付けろ！ さらにトリプルHvsユージーンの大一番、エディ・ゲレロvsカート・アングルなど見どころ満載！ どちらも絶賛発売中!!

提供■ユークス

読者プレゼント 1名様

『ヒストリー・オブ・レッスルマニア』（DVD：￥3990）本編120分。WWEは一日にしてならず！ 一家に一枚！

読者プレゼント 1名様

『サマースラム2004』（DVD：￥3990）本編166分、スーパースター総出演の特典映像は31分収録。

※このページのプレゼント応募方法はP157を参照!!

先月の「WWEが来年2月に来襲する!」という明るいニュースから一転、今月はどうやら雲行きが怪しくなってきた模様だ。シェイン・マクマホンがお忍びで緊急来日(取材はシャットアウト)するなど、水面下での動きが慌しくなっている。果たしてどうなる!?

■F.B.I.とは「踏み込んだところまで・バラしちゃって・いいかな?(いいとも!)」の略。何時男(なんじお)はプロレス業界の末端に潜伏中、叙似位(じょにー)は桁外れのパワーで圧倒的な情報量を誇り、派乱暴(ぱらんぼ)は裏方さんとしてWWEに携わる、WWEとアメリカンプロレスを愛してやまないズッコケ3人組だ。

ニューアルするということで、日本版の発行を差し止めたという話ですけど。本国でもあまり売れていないんですかね?

派乱暴　まあ、ファンにしてみれば番組ごとには分けずに1冊にまとめてくればいいんですけどね。

叙似位　そういえば、『週間ファイト』(11月24日号)にWWEのもの凄い記事が出てましたね。「興行不振でパンク寸前」って(笑)。

何時男　スーパースターズの大量リストラを受けて、「アメリカでWWEの人気が落ちている」的な切り口の記事で客席が思いっきりガラガラな写真を載せてましたけど。

叙似位　ただ、あのリストラに関して言えば、切られても仕方がない選手も多かったような気がしますけどね。そんなに悲観的にならなくてもいいのに(笑)。

派乱暴　主なところだとチャック・パランボ、ニディア、ゲイル・キム、Aトレイン、ビリー・ガン、リコ、ロドニー・マックとジャズの夫妻、テストですね。

叙似位　向こうのバックステージでは、リコが切られたことの衝撃が大きかったみたいですね。「エージェントと揉めたこともないし、人間的にもフレンドリーだし、人気もあるのにどうして?」って感じで受け止められているとか。

派乱暴　ビリー・ガンは情緒不安定だったという噂を聞きましたよ。以前、日本大会でもWWEファンクラブ主催のサイン会をスッポかしてる実績もあるから、ガンについては合点がいきますけど。

叙似位　フナキ・TAKAみちのくラインで、元WWEスーパースターが全日本のリングに出てますから、このうちの何人かが日本のリングに上がる可能性もあるかもしれないですね。もちろん、NWA・TNAに上がる選手も多いでしょうけど。

何時男　ちなみに11月20日にハワイで行われた『ランブル・オン・ザ・ロック』という大会で、元WWEのショーン・オヘアが大山峻護に31秒でTKO勝ちしてます!

WWEではハイデンライクの名で活躍中のヘンデンリッチ。怒りに震えながらポエムを読むヤバいキャラだ。拘束衣を着てポール・ヘイマンの意のままにコントロールされている。

派乱暴　本当ですか!? 凄いなぁ。確かにオヘアのキックはキレがあったけど、まさか大山に勝つとは……。

何時男　今後は、WWEを辞めた後に総合方面に出ていくスーパースターもいるかもしれませんね。で、切られる選手がいる反面、新たに台頭してくる選手も非常に多いです。

叙似位　それが当たり前だと思うんですよ。WWEもビジネスとして金を生むスーパースターを作ろうという行為は健全だと思いますけどね。逆に日本のプロレス団体は選手に暖か過ぎるんですよ。

何時男　ちなみに、いま注目の選手は?

叙似位　ボクはカリート・カリビアン・クールですねぇ～。ボクもリンゴをかじって誰かに吐き出したくてしょうがないです!(笑)。あとはゼロワンに出てたジョン・ヘンデンリッチが大プッシュされてますね。

何時男　ゼロワンではあんなに下手だったのに……とか思うんですけど『SMACKDOWN!』で凄くプッシュを受けてますね。アンダーテイカーとの因縁は結構面白いですからね。

叙似位　ウルティモ・ドラゴンも素顔で近々登場するという話しですよ。これも楽しみに待ちたいですね!

【04年11月某日、都内某所にて収録】

ナンシーはお休みですがコーナーは続く

噂FILE

●WWEはNYのど真ん中に立っていたぞ!

ニューヨーク・タイムズスクエアのど真ん中にあったWWEカフェレストラン「THE WORLD(WWF・NY)」が閉店し1年半経過したが、跡地にはWWEの電光掲示板のみ残されている。しかしこの度「Hard Rock Cafe」が入り開店することが決定。それにより、WWEのシンボルは取り壊されることになった。ちなみに「THEWORLD」の累積赤字はおよそ3,290万ドル(約36億円)だったという。

●ええっ! 昨年以上に危険なあの戦地に今年も?

11月14日(現地開催日)に放送された「サバイバーシリーズ」で、昨年に引き続きイラク興行開催が発表になった。開催日は12月中旬。連日イラクでの戦火が報道されているが、その決断は是か?それとも非か? どう考えても危険! 非だって!

●DIVAのナチュラルヒール、解雇へ。

一部のボーイズから"性悪"のレッテルを貼られていたシャニークワことリンダ・マイルズが解雇となった。練習嫌い、時間にルーズ、OVWのジム・コルネットに暴言を吐くなど、数々の悪行を繰り返し、OVWで謹慎&修行中だった。ちなみに彼女は第二回「タフ・イナフ」の優勝者。当時は練習熱心な女性として、好感度は上々だったのだが……。

●エディ再び交通事故!

エディ・ゲレロが10月初旬に交通事故に! 車は大破したが、幸い本人に別状をなかったとのこと。

●怒るビンス! 怯えるビンス!

オーランドにあるユニバーサル・スタジオ内でWWEは来年1月開催の「ロイヤルランブル」のCM撮影を行なった。そこにNWA-TNAのスタッフ、元WWEのシナリオライターで現NWA-TNAのライターらが偶然場内におり、現場に居たベノワやジェリコと、旧交を深めていたという。しかし、この出来事を聞いたビンスは激怒! NWA-TNAがこの親交シーンをNWA-TNAの番組内で使った場合、即訴訟を起こすと宣言! さらに撮影で使用したユニバーサル・スタジオまでを告訴すると断言! 結局NWA-TNA側は正式にWWEへ謝罪を行ない事態は沈静化。このビンスの荒れっぷりにNWA-TNA側は「挨拶ぐらい普通するでしょ!?」と眉間にシワを寄せていたという。また、カルロス・コロン(カリート・カリビアン・クールの父)は数年前、ビンス・マクマホンに対しピストルを突きつけていたという衝撃事件が明るみに! WWEが過去にプエルトリコ進出をぶち上げた際、プエルトリコの帝王であり、WWCのオーナーであったカルロス・コロンは「お前は来ちゃいけないトコロに足を踏み入れた」とビンスを脅したという。この確執でビンスは、長年プエルトリコへの進出を自粛していたという。しかし、2005年1月9日にPPV「ニューイヤーズ・レボリューション」はプエルトリコで開催。さらにコロンの息子カリート・カリビアン・クールがWWE入り。両者の遺恨は清算したと見られている。

●2005年PPVスケジュール

ニュー・イヤーズ・レヴォリューション＜RAW＞
1月9日(日)　プエルトリコ
ロイヤルランブル＜共催＞
1月30日(日)　カリフォルニア州フレズノ
ノー・ウェイ・アウト＜SD＞
2月20日(日)　ペンシルバニア州ピッツバーグ
レッスルマニア21＜共催＞
4月3日(日)　カリフォルニア州ロサンジェルス
バックラッシュ＜RAW＞
5月1日(日)　イギリス・マンチェスター
ジャッジメントデイ＜SD＞
5月22日(日)　ミネソタ州ミネアポリス
バッドブラッド＜RAW＞
6月12日(日)　ミシガン州デトロイト
ザ・グレート・アメリカン・バッシュ＜SD＞
6月26日(日)　ネバタ州ラスベガス
ヴェンジェンス＜RAW＞
7月24日(日)　未定
サマースラム＜共催＞
8月21日(日)　未定
アンフォーギヴェン＜SD＞
9月18日(日)　未定
ノーマーシー＜RAW＞
10月9日(日)　未定
スマックダウン主催PPV
10月30日(日)未定
サバイバーシリーズ＜共催＞
11月27日(日)未定
アルマゲドン＜RAW＞
12月18日(日)未定

ビンス・マクマホン徹底考察 第8回

ビンスがファンの質問に答えた!? プロレスラーに必要な条件とは?

文／長谷川博一

例えば本誌今月号の原稿締切が実は昨日なのに、まだ手を付けていないとする。締切と知りつつさぼっているわけで、放っておいて酒場に逃げたりしても、そりゃ負い目があるわけだから気持ちは楽になれない。そんな時、筆者の耳の中にはビンス・マクマホンの、あの声が響いてくる。

「ユー・アー・ファイアード!」

仕事をしないとクビなのである。全てを失うのである。ビンスの天の一喝に背中を叩かれ、ようやく机に向かったりもする。労働というものを自身に強いる、いわば戒めの一語として、ビンスの恫喝は筆者のわずかばかりの道徳心を激しく刺激する。

しかし「ファイアー!」もここまで重なるとビックリである。ここ最近のWWEはクビ切りの嵐。テスト、Aトレイン、リコ、ニディア、ゲイル・キム……。クビを切られた選手の数は両手に余るほど。面談ではなくエージェントからの電話で失職を知らされるというのも、そりゃまた殺生。動員が落ち気味の自国のハウス興行で黒字を出すためとか、中堅選手を一人減らせば新人が6人雇えるからとか、色々な憶測が飛び交うが、アメリカ唯一のメジャーなプロレス団体だったビッグなWWEが、いよいよ減量経営を始めたのは事実。上場企業のWWEが、株主対策のために実行する経営のテコ入れ策でもあるのだろう。

まあ興行の中心となる大人気レスラーが中に含まれている訳ではないので、TV番組への大きなダメージはないのかもしれない。個人的に悲しいのはシャニークワの解雇。「雰囲気美人」の多いWWEディーヴァの中で、彼女は本当に可愛らしいルックスだった。かつてのSMスタイルもゾクっときたし更なるキャスティングを心待ちにしていたのに、もう会えないのは淋しい……。シャニークワ、ゲイル・キム。日本人なら不要のことと思ってしまうが、芸のためなら豊胸手術もいとわなかった純真な乙女達(想像)に輝かしい未来はあるのだろうか。別に2人のハードなファイトが見たいわけではない。懐かしの「11PM」のカバーガールのような位置づけで充分だったのに……。しらけちまうぜ、小坂忠。

本国以外では今も人気爆発と聞くWWEも、もしかして迷走中なのだろうか。背広組のベテラン、パット・パターソンも職を離れた。「RAW」を支配するトリプルHとの確執が原因との噂もある。来年2月の日本ツアーも、この原稿を書いてる時点(11月19日)では未だ詳細が発表されない。一般発売が準備されていた日本語版「SmackDown!」マガジンも、寸前になって暗礁に乗り上げたという話もあり、諸々と気を揉んでしまう昨今。

なかなか最新の肉声が届かないビンス・マクマホンだが、つい最近、本国の地方紙のインタビューに応えている。「ロックフォード・レジスター・スター」という新聞紙上で、記者ではなくファンから寄せられた質問に答えるという形式である。その一部を紹介してみたい。

「RAW」と「Smack〜」に自社ブランドを二分割したのはWWEの商品性を薄めてしまったのではないか、という尤もな指摘(42才・男性)にビンスは答える。

「ある意味、その通り。ファンは好きなスター達を一度に全員見られなくなった。そこはデメリット。でもメリットはランディ・オートンやジョン・シナのような新しいスターが登場できたこと。ブランドの拡張は上手くいってると思う。いくつかのライブイベントは思ったほどの動員が果たせていないが、長い意味で考えればタレントもブランドもより強力になれるでしょう」

マクマホン一家のストーリーへの参加は今後あるだろうか、との質問(56才・男性)には。

「来年には4人の内の誰かが登場する見込みです」

プロのレスラーに必要な資格は何か? そして彼らの平均の年収は?(39才・男性)

「レスラーはまず良い人間であること。貴方がディナーに招きたいと思えるような人物でないといけない。大衆と接する際には信じられないくらいの忍耐を強いられます。人は普通9時から5時の仕事をするけれど、彼らは24時間オンの状態を強いられる。妻やガールフレンドと一緒にいても、人前に出てる時は同じ。凄くスタミナがいるし、ファンとの駆け引きも重要。つまりスーパースターと認められるレスラーは大衆に恋をしていないといけない。ここが難しいのです。平均の年収は20万ドルから25万ドルといったところでしょう」

10月のPPV大会『タブー・チューズデー』に登場したビンスはネット投票によるファンの希望に沿ったマッチメイクで勝負した。

10年後のプロレス界は人気やスタイルはどう変わっていくだろうか、という建設的な質問も寄せられる(38才・男性)。

「断言するのは難しい。オーディエンスが求める方向に私達はパフォーマンスを変えていきます。団体の知名度は更に高くなるでしょう。アメリカ以外の人達は私達の文化を充分に享受できない。しかしWWEはアメリカが誇る最も優秀な輸出品です。そして表現の自由を促進しています。オーディエンスが更にアバンギャルドなものを求めるなら、私達はそれに倣う。保守的な方向を求めるなら、そうしますよ」

いつものようにファンありきのWWE。そしていつものように自信満々のビンスの声が誌面に踊っている。「WWEはアメリカが誇る最も優秀な輸出品である」──このはったりが美学であるし、「スーパースターは大衆に恋をしないといけない」──実に詩的な表現で、仕事の厳しさを語っている。

マーケティング用語の「プロダクト・ライフサイクル」を思い出すと、商品というのは4つの段階を経て市場に現れ、そして消えるものらしい。まず初めが投入期。そして成長期。上手く市場性を持つならば成熟期を迎え、やがて衰退期が訪れる。WWEにとっては1999〜2002年あたりにビジネスのピークを迎えたあたりが成熟期。そして今が次世代に向けての投入期なのだろう。アメリカ以外の市場には過去の貯金を持って精力的に団体を紹介して回り、その間に本国での新たなピークを目指すという二本立ての経営法を実践している最中である。

TV番組「RAW」が生まれてから、わずか11年。その期間の短さを考えると第一期WWE王国の建設は、まるでコンピュータ産業のようなハイスピードのように感じられもする。資本主義経済とは回り続ける駒のこと、の説もある。試行錯誤を繰り返し、未知なるスーパースターが揃い踏みをする頃、WWEは次の成熟期を迎えることになる。

お前は虎になれ!!

虎になるのだ!!

5代目タイガーマスクの正体は

この男だ!!

――早速なんですが、船木さんがプロレス

――それほど船木タイガーは素晴らしいっ

聞き手／中村カタブツ君

構成／松沢チョロ

撮影／平工幸雄

designed by matsu（TwoThree）

狂気の天才対談実現!!

「船木さんは絶対ボクの現役時代より練習やってるよ!」

「とにかく試合のシーンだけは当時の幻想を壊さないようにやりたい」

虎魂伝承

初代タイガーマスク 佐山サトル×5代目タイガーマスク 船木誠勝

—早速なんですが、船木さんがプロレス界に復活するっていう噂があちこちで飛び交ってるんですが、ご存知ですか？

船木　なんかそうみたいですね（微笑）。

佐山　さっき聞いたらボクのHPが火付け役みたいなんですよ。ボクはさぁ、単純に「これを書いたら面白くなるぞぉ」って思って書いただけなのにねぇ。案の定みんな引っ掛かってきてるの（笑）。

—ちょっと読み上げると「ここ数日は5代目タイガーマスクを特訓していて、ちょっと休んでいる。5代目タイガーはパンクラスの船木選手。なかなかセンスがあって素晴らしく、来年私が用意してある必殺ワザもマスターしてもらった。楽しみでしょうがない」とワザと誤解を招くように書いてますね（笑）。

佐山　うふうふ。他の取材でも船木さんについてよく聞かれるんだよね。

—ところが一方の船木さんもご自身のHPに「只今、ある企画で自分がプロレスに入門するきっかけになった『初代タイガーマスク』こと佐山サトルさんと先週からトレーニングを開始しました！　激しいトレーニングですが、自分が憧れた人から直接指導を受けれるということはめったにありません、感無量です！」とか意味深なことを書かれてましたけど（笑）。

佐山　あ〜、やってんだあ（笑）。

船木　そんなこと書いてました？（微笑）。

—お二人とも言葉の受け取りようによっては、船木さんがプロレス界に復活すると見られてもおかしくない書き方をしてるんですよね、偶然にも。タイガー・イズムをビンビン感じますね（笑）。

佐山　うふうふうふ。でも、間違いなくやると思うよ。だって、ホントやらないと勿体ないもん。

—それほど船木タイガーは素晴らしいわけですね。

佐山　ホントに素晴らしいです！

—ということで、その噂の真相はWOWOWで放送予定の映画『真説・タイガーマスク』の役作りってことなんですよね？

船木　そうです。映画の役割としては初代タイガーマスク役です。

対談は神奈川県某所の撮影現場近くの河原で行った。船木はタイガー本から佐山のレコードまで持っていたという筋金入りの初代タイガーファン！

佐山　内容はちょっと言えないけどね。

—とは言え、すでにかなり噂になってますよね。タイガーマスクを追いかけるカメラマンとして哀川翔さんが出たりとか、真樹先生も脚本だけでなく俳優としても出演されているとか。

佐山　そうそう。梶原先生と猪木さんを合わせて梶木って役でね。真樹先生は自分で書いてるから、いい役やってるよぉ。哀川さんに「梶木さんはホンモノでした」とか言わせてんの。うふふふ（笑）。でも、船木さんも大変だよね、なんか、さっき聞いたら昨日も砂浜でスクワットやらされたりとかしてたんでしょう？

船木　いや、砂浜じゃなくて、岩の上でやったんですよ。

—岩の上でスクワットですか（笑）。

船木　他に喧嘩のシーンもあったんですけど、ローリングソバットで相手を海に叩き落としたり、あり得ないことが多いですね（苦笑）。

佐山　でもね、今回に向けての練習量はホントに凄いから！　だって船木さんは3時間、タイガーマスクに成りっぱなしだもん。あの動きを3時間やると、相当の運動量だからね。絶対ボクの現役時代より練習やってるよ。うっふふ。

船木　いやぁ、今回の映画の話って、ホントに決まったのが2週間前だったから、すぐに練習つけてもらったんですけど、やっぱりキツいですね。

—佐山さんの指導はどうですか？

船木　凄くわかりやすいんですよ。「この技をやれば、次の技がスムーズにいく」とか丁寧に教えてもらってます。でも反復は、やっぱり辛いですよね（苦笑）。

佐山　だってさぁ、ロープに投げて、返ってきて、技かけてってことを何回もやるんだから異常だよね。こっちはもういいんじゃないって思っても「まだダメです」って。船木さん、完璧主義者じゃない？

船木　そうかもしれません（微笑）。

佐山　それにキックとかパンチだったら平面でしょ？　でもタイガーマスクって、技は立体で、重力に逆らったりしてるし、走ったりするし。もう船木さんが可哀想なんだけど、内面「俺じゃなくてよかったぁ」って（笑）。だって俺だったら絶対できないもん。それを3時間やってるんだよ、ほとんど毎日ってぐらい。

船木　やってるときはいいんですけど、練習が終わって家に帰って、ご飯食べてゆっくりしてると、ちょっとずつ筋肉痛が始まってきて、立ち上がろうとすると動かないんですよ。だから家ではホントゆっくり動いてますね（苦笑）。

佐山　凄いよねぇ。船木さんはタイガーマスクが前から好きだったし、動きにセンスがあるのはわかってたんだけど、こんなに上手くいくとは思わなかったね。だから、いろんなことを余計にやりたくなってきちゃうんだよね。そうするとアッという間に3時間経っちゃって、凄いことになってるよ。まあ、見てのお楽しみ。

船木　でも、自分としては子供の頃に見た初代タイガーのスタイルをやってるだけなんですね。とにかく試合のシーンだけは、ホントにリアルに、当時の幻想を壊さないようにやりたいなって。いままでの映画ってフタを開けてみたら、「こんなもんか」っていうモノが多いじゃないですか？　でも、今回の映画は昔の感動を呼び戻せればいいなって思いますね。

—この映画を見に来る人は、おそらく初代タイガーマスクのファンだった人たちが多いでしょうからね。

船木　でしょうね。そういう人たちの期待を裏切らないように頑張ります。

—ちなみに、お二人の関係的には、船木さんが新日本に入った直後に、佐山さんは辞められてるんですよね。

船木　いや、入った直後というか、佐山さんが辞めた瞬間に自分が入ったんですよ。ちょうどすれ違いでした。だから、「2代

虎魂伝承

Satoru Sayama × Masakatsu Funaki

目タイガーは自分だ」「俺の人生、いけるかな」とか、そんなふうに思っちゃいましたね（微笑）。でも、大体「マスクはいらない」って言われるんですよ。海外に行く時も持っていったんですけど「いらない」って言われて。

佐山　会社側からすれば、覆面で甘いマスクを隠すのはもったいないって思ったんじゃないのぉ？

船木　どうなんですかね。でも自分はホントにマスクマンになりたかったんですよ。仕事ではマスクをかぶって、プライベートでは素顔がバレてなければ、そのまま街を歩けますからね。

佐山　それはもぉいっぱい悪いことできますよぉ～（笑）。

――マスクを取って堂々とソープ行ったり、のぞきに行ったりしてたんですよね？

佐山　ソープは行ってないよぉ。それ藤原（喜明）さんが言ってたんでしょ。藤原さんは半分アルコールに冒されてるから。

――ともかく佐山さん的にはマスクの利点はいろいろとあったみたいですね。

佐山　あと、ときどき勝手に「俺はタイガーマスクだ」って語るヤツがいたんだよ。あれは遊んでると思うね（笑）。でもね、マスクを被ってる時は子供たちが集まってきて大変だったんだから。みんなマスクに触りたがるんだよね。一回、京都で試合をやって会場を出たら、中学生が「殴れ殴れ！」ってバンバン叩いてきたことがあって、もう頭に来ちゃって何百人もいる前で、そいつの胸ぐら捕まえて壁に押し付けて、「お前〝殴れ〟とはどういうことだぁ！」って怒鳴ったことあったの。

――子供たちのヒーローであり、なおかつ国籍不明であるはずのタイガーが日本語で怒鳴りつけたんですね（笑）。

佐山　そうそうそう。壁に押しつけて持ち上げたの。そしたら、「〝殴れ〟じゃないです、〝なぶれ〟です！　京都の方言で、〝なぶれ〟って〝触れ〟って意味なんですよぉ！」って言われちゃってさ（苦笑）。だから、「アッ、そうなのぉ？」って言いながら、そ～っと胸ぐらから手を放してね。もぉ、恥ずかしい（笑）。

――まさに黄色い悪魔ですね（笑）。でも当時のタイガーマスクっていったら、スター中のスターでしたからね。いま考えると、わずか2年ちょっとしかやってないんですよね。

船木　そうなんですよね。それが凄いと思うんですよ。いまでもこうやって映画にもなるわけですから。

佐山　嬉しいですよね。これからタイガーマスクが伸びるかどうかは、船木さんの映画によって左右されるよね（笑）。で、来年プロレスデビューしていただいて。もう一回タイガーブームが来るんじゃない？

船木　いやいや、僕はウルトラマンですから。ホントの意味でウルトラマンですよ。

――3分が限度なんですか？

船木　そうです、そうです（微笑）。年食った自分みたいなのがやるとウルトラマンになるんですね。やっぱりタイガーマスクは若いうちにやるべきですよ。

佐山　あとね、これは秘密なんだけど、最後の大技は圧巻だよぉ！

――どんなワザなんですか？　何かヒント下さいよ。

佐山　ヒントは……凄いヤツ（笑）。

船木　トップロープからの回転モノです（冷静に）。

――と言うと、昔のタイガースペシャルみ

『真説・タイガーマスク』とは何か!?

我らが真樹日佐夫先生原作＆脚本、そして『デビルマン』でお馴染みの那須博之監督がメガホンをとる『新説・タイガーマスク』。この作品はWOWOWで放送予定、その後、全国主要都市で上映予定。主演は哀川翔、タイガーマスク役は船木誠勝、そのコーチ役を佐山サトルが務める。タイガーの敵役のライオンマンには木村浩一郎、レフェリー役として高木三四郎も登場。他にもアストレスの秋山恵、亜沙美らも出演するというから『紙プロ』読者なら要チェック！　この作品の詳細は『紙プロ』でも随時お届けします。とにかく、船木タイガーの華麗な空中殺法は必見です!!

MAKING OF 『真説・タイガーマスク』

11月19日、都内某所で行われた『新説・タイガーマスク』の撮影現場へ潜入。この日は船木演じるタイガーマスクと木村浩一郎演じるライオンマンのプロレスシーンの撮影があり、何十年ぶりかに船木の純プロレスを目撃し感激。正直、いまから放映が待ち遠しい作品です！

見てみぃ、この船木タイガーのボディ＆佐山も絶賛するその華麗な動き。リング上でハッスルする船木の姿を見られる日は来るのか!?

撮影の合間、佐山からのアドバイスに耳を傾ける船木タイガー。完璧主義者という船木は納得がいく動きができるまで何度も練習を続けていた

スペース・フライング・タイガードロップなど高度な空中殺法も既にマスター済みの船木タイガー。フィニッシュホールドは圧巻だ!!

見よ、この夢の顔合わせ！　原作＆脚本の真樹先生を中心に佐山サトルと船木タイガー。この3人がガッチリ手を組んだ、この作品。正直、早く観たいッ!

タイガーマスクの覆面を必死に剥がそうとしているのがライオンマン役の木村浩一郎。そしてこれを止めるレフェリーは高木三四郎だ!

台本をしっかり読み込んでいた船木とは正反対の佐山。娘役の鈴木葉月ちゃんとの撮影中、何やら携帯を見つめる佐山。なんと携帯にセリフを書き込んでいたのだ!

たいな……。

佐山　（遮って）そんなモンじゃないよぉ。

船木　相手も大変なんですよ。

佐山　そうそうそう。相手は浩ちゃん（木村浩一郎）なんだけど、彼のこと書いてあげないと可哀想な気がするなあ（笑）。浩ちゃんも浩ちゃんで大変だから。

船木　木村さんのライオンマンのコスチュームって腕しか出てないんで、ほとんど誰だかわからないんですよ。視野も狭い中で、着ぐるみみたいな状態で自分の技を受けなきゃいけないんで大変だと思いますよ。

佐山　船木さん、クロスアタックのときも、また上手いからビューンって回転するんだよね。で、回転しすぎてカカトが浩ちゃんの顔面に当たっちゃったりとかさあ。もう大変なんだから（笑）。

船木　そうなんですよ（苦笑）。佐山さんが「やってるうちにいつかは当たるだろう」って言ってたら、ホントに当たっちゃって。

佐山　だってそんな予感がするぐらいグルングルン回ってんだもん。おかげで浩ちゃんはボロボロ（笑）。

――そういう話を聞いてるだけでも、凄い楽しみですねえ。言い方は悪いですけど、そこら辺の下手なプロレスの試合より全然面白そうですよ。

佐山　当たり前の話だけど、普通の役者さんには、あの技のタイミングとか雰囲気とかは無理ですよ。他のレスラーにはないセンスがあるし、ピッタリじゃない?

船木　でも佐山さんの指導を受けて、やっぱりプロレスの筋肉とは違うなって感じましたね。15年ぶりなんですよ、プロレスは。ボクは海外から帰ってきてからUWFスタイルですから。

――でもUのときって、あのメンバーの中で一番プロレスしようとしてましたよね?

船木　そうなんですよ（笑）。プロレスやろうとしたんですけど、まあ格闘技スタイルの団体っていうんであれば、自分も格闘技スタイルでいこうと。

――で、格闘技スタイルでやろうとしたら……。

船木　（遮って）ケガさせちゃうし。

――ですよね。何人か掌底とかでケガさせちゃったり、第二次UWFでは船木さんが最高に面白かったですよ。

船木　会社が望んでない方向に行ってましたから。自分なんかが上がってきちゃ困るみたいな雰囲気がありましたからね。切ろうと思ってやってるわけじゃないんですけど、やっぱり血が出ちゃうとストップされますからね（笑）。

佐山　へぇー、いろいろやってたんだねぇ（笑）。

船木　そういう試合がたまたま2回続いちゃって。それでポンポンと上がっていっちゃったんですよ。

――佐山さんがプロレスじゃないモノを目指した部分と、凄くリンクしてると思うんですよ。

佐山　じゃあ、内面の部分もピッタリだね（笑）。

――UWFでドロップキックを出したりとか、やってることは佐山さんの名著『ケーフェイ』ばりなんですよね（笑）。

佐山　やめてよォ、そんなことないよぉ。

船木　お互い新日本を辞めてますし（笑）。

――辞めたといえば、船木さんがパンクラスから離れたっていうのも相当話題になってますね。

船木　そうなんですか。その件については、以前、両国大会のときに、しゃべったのが自分からのメッセージですね。

――そうですか。ともかく、こうやって話を聞いてると、お二人は経歴にしてもやってることにしても、凄い共通点があって、まさに船木さんは5代目タイガーにふさわしいなって思ったんですよ。

船木　でも、自分なんかはタイガーマスクが辞めたときはホントにビックリしたんですけど、いま思えばよかったというか、潔いですよね。

佐山　ま、いろいろあったからね。ふふ。

船木　その後に佐山さんがタイガージムを出したじゃないですか。あそこにも凄く通いたかったんですよ。

――新日本に入団した途端にですか（笑）。

船木　二子玉だったから近かったし。それに新日本に入って、現実はプロレスと違って道場でセメントの練習ばっかりでしたから、「これは何なんだろう? ドロップキックまで行きつくのはいつなんだ?」って。

佐山　新日はそうだからね。

船木　自分の頃は延々とグラウンドですよ。最初の1年そればっかりやってたら、ドロップキックは忘れちゃいましたね。

佐山　でも、いま凄く上手いよ。

船木　デビューしてからは「ドロップキックだけは上手く使いたい」って思って練習したんですけどね。あの1年間のセメントはプロレスファンじゃなくさせる力がありますよ。最初の夢がバサッて切られて、現実というモノに目覚めさせられましたね。

佐山　新人が入ってくると、いままで先輩にやられてた人たちが嬉しいんだよね。自分たちがやられたこと下にやれるから。そ

本人曰く「どちらかというと完璧主義者」船木。久々となるプロレスのシーンでは対戦相手のライオンマンこと木村浩一郎相手に、納得がいくまで何度も同じ技を繰り返し練習していたという。浩一郎も「とにかく船木さんはマジメ!」

の繰り返し。ホントしつこいんだよぉ（笑）。

船木　リセットしないうちに、また極めにきますからね。まあ、ある意味、忍耐力の養成ですね。

――ともかく、今回のタイガーマスクの話って船木さんにとっては願いが叶ったわけですね。

船木　そうですね。ミックスされて実現してますからね。映画で役がきて、しかも佐山さんに教えてもらって。

佐山　アレだけできたらさぁ、ひょっとしてシリーズ化するんじゃない？

――放映の予定はいつなんですか？

船木　いま検討中らしいです。

――共演されてる哀川翔さんも昔はタイガーマスクをやりたかったらしいんですけど、やっぱり無理だと気付いて断念したらしいんですよ。話とかされました？

船木　昨日は撮影でずっと追いかけられました（笑）。

――聞くところによると、哀川さんはタイガーマスクの正体を暴こうと狙っている新聞記者役なんですよね（笑）。

船木　そうです。撮影の合間に自分がマスク持ってたら「俺のタイガーも見せようか」って、自分のマスクを出すんですよ（笑）。「ここが違うのかぁ」って見比べたりしてましたね。

――大ファンらしいですからね。哀川さんは別の映画の役作りのため柔術をやってるみたいですし、哀川さんとの絡みも面白そうですよねえ。

船木　ゼブラーマンvsタイガーマスクですか（微笑）。

――それは実現して欲しいですねえ！　ゼブラーマンも『ハッスル』で本物のプロレスラーになったわけですけど、船木さんももう一丁やってみませんか？

船木　一時期、真面目にプロレスやろうと考えたときありましたよ、引退してから。でも、そこで一つ引っ掛かってたのが、ワガママなんですけど、巡業が嫌だなって。

佐山　わかるなぁ。

船木　新日本時代に巡業に行きたくなくて、六本木で揉めごと起こしたことあるんですよ。まだ十代の頃なんですけど、沖縄に行かなきゃいけないとき、飲んでたら荷物まとめるの面倒臭くなって、鈴木（みのる）と「朝まで飲もう」って話したんですよ。でもサボるわけにもいかないから帰ろうとしたら、外で鈴木が喧嘩を始めて、俺は仲裁に入ったんですけど、逆にやってしまって、一日だけ入っちゃったんですよ。あれはラッキーでしたね（微笑）。

佐山　うぅ、悪いなぁ（笑）。

船木　多分ストレス発散だったんだと思います。

――そこまで巡業が嫌ということならば、スポット参戦とかでいいじゃないですか？

船木　最初はいいでしょうけど、そういうわけにもいかなくなりますからね。実際、某団体からもオファーありましたよ。結構前ですけど。

――もし復帰するとしたら本腰入れてやりたいって、1年ぐらい前のインタビューで言ってましたよね。

船木　そう思ってたんですが、やるんであれば中途半端にはできなくなる性格なのでやめました。そして俳優業に専念したんですけど、そこから2年ぐらい収入がついてこなくて金銭的にとても大変でしたね。でも、ここ最近やっと順調になってきてます。

――それはなによりです。

船木　そういう意味では自分は俳優っていう職業に就けてホントにラッキーでしたね。タイガーマスクの役をやらせてもらって、お金ももらえるわけですから。

――今回、出演が決まってから真樹先生とお話とかされました？

船木　決まってからはしてないですけど、1年前に「タイガーマスクを映画にすることってできないんですか？」っていう相談はしたことがあったんですよ。もしかしたら、そこからこの話が生まれてきたのかなって感じもしないでもないです。

――リクエストはしてたんですね。あと映画の補足としてお聞きしたいんですけど、タイガーマスク役ということなんですが、名前は伊達直人なんですか？

船木　伊達じゃないです。矢吹涼です。

――矢吹リョー！　最高の名前ですねえ（笑）。佐山さんの役は何ですか？

佐山　タイガーマスクのコーチ。小田……なんだっけ？　台本読んでないから（笑）。

船木　でも、自分よりセリフ多いですから。

佐山　そんなことないよぉ！　もうヤダヤダ。俺は口パクにしてもらうから。でも昨日、ボイスレコーダーで一生懸命練習しちゃったんだけどね。

――当然、二人の絡みもあるんですよね？

船木　ありますけど「よろしくお願いします」とか、それぐらいで。結構、みんな現場で合わせながらセリフを覚えるんですよね。哀川さんもそうでしたから。

佐山　そんな簡単に覚えられるモノじゃないよぉ！　でもね、俺は携帯にセリフ打ち

ボクの役はタイガーマスクのコーチ。小田……なんだっけ？

自分の役はタイガーマスクで伊達じゃなくて矢吹涼です

虎魂伝承

Satoru Sayama × Masakatsu Funaki

込んで見ながら言ってるの（笑）。

――カンニングペーパーならぬカンニング携帯ですか（笑）。

佐山　そうそうそう（笑）。でも、ホントに難しいなぁ。

船木　言い回しとかも独特ですから。役者の力量も問われます。

佐山　え〜、俺、そんなないよ、力量なんて。棒読み間違いなしですよぉ。俺、知〜らない（笑）。

――困りましたねえ（笑）。ところで佐山さんから見て、プロレスラーとしての船木さんに点数を付けるとしたら何点ですか？

佐山　そりゃあ100点でしょう。

――では船木さんから見て、俳優としての佐山さんは何点ですか？

船木　まだ見てないですから。今日初めてで。でも、佐山さんはタイガーマスク時代に『パラダイス・アレイ』っていう映画のアフレコでテリー・ファンクの役か何かやってるんですよね？

佐山　もぉ、よく知ってるなぁ。ボクがやったのはテリー・ファンクとやった何か変なヤツの役。あんなに大変だと思わなかった。忘れてよ（苦笑）。もう船木さんってタイガーマスクの本とかレコードとかいっぱい持ってるの。

船木　ほとんど買ってましたからね。主演された『六本木ソルジャー』でも別に違和感なかったですよ（微笑）

佐山　そんなことないよぉ。

――つまり、佐山さんは俳優としても先輩みたいですね（笑）。

船木　よろしくお願いします！（笑）。

佐山　みんなでやめてよぉ！（笑）。

――では、『真説・タイガーマスク』の完成を楽しみにしてます!!

【11月17日／神奈川県某所にて収録】

虎魂伝承

Satoru Sayama × Masakatsu Funaki

ほとんど買ってましたからね。『六本木ソルジャー』も観てます

船木さんってタイガーマスクの本とかレコードとかいっぱい持ってるの

佐山サトル
Satoru Sayama

1957年11月27日、山口県下関市生まれ。言わずと知れた初代タイガーマスク。人気絶頂の83年に突如、新日本プロレスを退団し、シューティング、世界格闘技連盟UFOなどを経て、99年、市街地型実戦武道・掣圏道を設立し現在に至る。12月5日の『藤原祭り』で藤原敏男とタッグを結成し、小林聡＆桜井“マッハ”速人との対戦が決まった佐山だが、近頃、糖尿病の疑いが晴れた勢いで、甘味系の食物を大量に摂取中

船木誠勝
Masakatsu Funaki

1969年3月13日、青森県弘前市生まれ。新日本プロレス、UWF、藤原組と渡り歩き、93年にパンクラスを設立。00年のヒクソン・グレイシー戦で引退し、翌年、俳優に転向。最近は、来年公開の韓国映画『力道山』、12月公開の『GODZILLA FINAL WARS』、『Dr.コトー診療所』など、映画やドラマ等で幅広く活躍中。今年10月、パンクラス顧問を突如辞任。船木誠勝公式HP→http://www.madness.jp/

掟破りの対戦直訴でブン殴られた"みのるの愛弟子"佐藤光留が語る

パンクラスismと鈴木みのるの真実

「ismとは"一番偉いのは・鈴木・みのる"の略なんじゃないかと思います」

「切れない刀はただの鉄だ！」10・12パンクラス後楽園大会で、突如、鈴木みのるに挑戦状を叩きつけた"愛弟子"佐藤光留。現パンクラスで唯一の"鈴木派"と呼ばれ、「プロレスラー」を公言するこの男が、いま鈴木に対戦表明した真意はなんだったのか？ 宇都宮『cafe87R』で行われたターザン山本！とのトークライブに独占潜入して、そこらへんを探って来ました。ターザンをも引かせる光留ワールドを見よ！

バトルトーク

佐藤光留 VS ターザン山本！

04.11.3 宇都宮 Cafe 87R 独占実況再録

佐藤光留 VS ターザン山本！

ターザン　ボクはこれまで佐藤光留という選手のことをよく知らなくて、さっき控え室で初めて会ったんだけど、君は本当に面白いよォ！

光留　ありがとうございます（笑）。

ターザン　パンクラスという格闘技団体の中にまだプロレスのセンスと心を持った選手がいたというか、この間も鈴木みのる選手にリング上から試合を申し込んだら、殴られて、蹴られて、しかもＮＫホールの試合を組んでもらえなかったんでしょ？

光留　ヒザ蹴りももらいました（笑）。

ターザン　鈴木選手というのはヒネクレ者でイジメの天才みたいな人なんですよ。それを弟子なのに突然試合を挑むとは、君は度胸ありますよォ！　カッコいいですよォォ！

光留　いまのパンクラスのメンバーで鈴木さんに対戦表明していいのは僕だけかなって思ってたんで。

ターザン　いま鈴木選手は新日本プロレスに出てプロレスの試合をしてるわけですよ。でも、格闘技団体であるパンクラスの人間なのに、プロレスのリングにあがってるということは、パンクラスにしてみれば理屈に合わないんだよね。格闘技の勝負論とプロレスの勝負論はまったく違うから！　そうするとパンクラス側にしてみれば、鈴木選手は異端児というか、反乱児というか、あんなことしないでよって思ってないの？

光留　（パンクラス）ファンの方にしてみれば、鈴木さんのことを残念に思ってる気がするんですよね。ただ、パンクラスを創ったときから鈴木さんは、いまプロレスされてるときの匂いとか雰囲気があったと思うんですよ。それがいまのパンクラスには少なくなってきているんで、それもあって今、パンクラスのリングでボクと闘って欲しかったんですよ。

ターザン　鈴木選手が教えていることは、昔のプロレス団体の道場のやり方だから。理屈抜きで何か口答えしたらぶん殴る。ちょっと反抗したらぶちのめすとか、そういう不条理なことばかりやって選手を育てるというシステムなわけですよ。でも、格闘技団体としては、理屈の通った技術体系を細かくキチンと教えるのがいまの時代では常識でしょ？　そんな時代に鈴木選手みたいに理屈なく殴ったりしたら、島田紳助になりますよォ！　訴えられますよォォォ！

光留　でも、鈴木さんは口癖のようにしょっちゅう言うんですよ。「おまえ、訴えていいよ。俺が絶対勝つから」って（笑）。

ターザン　そういうことを言い切れるレスラーが新日本にも全日本にもノアにももういないんだよね。きわめて当たり前で普通の感覚のレスラーが増えてきたからプロレスがつまんなくなってきたんですよ。でも、鈴木みのるはそれをやり続けて「付いてこなければ、それでいい。俺のやり方が正しいんだ」って。細かい技術を教えるよりも「ガンガンいけ！」とか「そこで根性出して向かって行け。やるんだよ！」とか、そういう教え方でしょ？

光留　そうですね。何とかガードとかパンチとか教えるんじゃなくて、「とにかく思いっ切り殴れ、思いっ切り叩きつけろ、思いっ切り逃げろ。脇が空こうが何してもいいから、とにかく動け。そうしたら何とかなるよ」って。

ターザン　面白いなぁ。それでいいんだよ。

光留　やっぱり技術には限界があると思うんですよ。新しい技術を考えたら、それにまた誰かが新しい技術を付け足して、どっかでストップがかかると思うんですけど、鈴木さんからは「必死で動いてる人間には限界はないんだよ」ってよく教えられたんですよ。それがちょっと最近、鈴木さんが（新日本の）シリーズに出られて、道場にいないときが多くなると、鈴木さんのやり方はみんなしんどいし理屈がないですから、他の理屈のあるほうに行きたくなるんですよ。そうすると鈴木さんもそこに入って来づらい空気になっちゃって、それが悲しいんですよね。

ターザン　そうなると君自身も鈴木イズムを受け継いでいるから孤立しちゃって、パンクラスの中では少数派でしょう？

10・12パンクラス後楽園大会。U-FILE CAMPの佐々木恭介と闘い引き分けた光留は試合後マイクを握り「今日はある人に挑戦状を叩きつけに来ました。鈴木みのる！よく聞いておけよ」と突如として鈴木に挑戦表明。「最近の鈴木さんを見ているとあれが本当の闘いですか？研いでない、切れない刀はただの鉄だ！」と、鈴木のプロレス活動を全否定するような発言をし「ＮＫホールの第一試合で闘ってください」と、パンクラスルールでの対戦を訴えた。しかし、鈴木の返答は、引き上げてきた光留に対して殴る蹴るの暴行！光留不思議ワールドを有無も言わせぬみのるワールドに力づくで変えると、無言で会場を後にした。この事態にパンクラス尾崎社長は「どんな理由にせよ、試合を終えた直後の選手に暴行をはたらくことは許されない！」と、3ヶ月間の10％減俸処分をくだした。はたして今後、光留の思いが届くことはあるのか……。

鈴木さんは口癖のように言うんです。「訴えていいよ。俺が絶対勝つから」って

光留　仲はいいんですけど、みんなに「アホみたいに動いて、押さえ込まれたときに立て」って言っても立たないんですよね。「まずガードに戻して」とか。確かにそれは大事だし僕もやるんですけど、みんな同じ技術を持って、同じパンチを持って、それをリングで見せ合ってって。それじゃあ、ただ技術があって早く動けてる方が勝ってるだけだからゲームと同じだと思うんですよ。やっぱりヒトが闘ってるわけですから、「何でいまのが返せるんだ?」っていうのをやっていかないと。

ターザン　鈴木みのるなんかは新日本プロレスの道場に入ったときは、もうメチャクチャにされてるわけですよ。先輩と一緒に六本木に飲み行くでしょ。そしたらウィスキーから日本酒から潰れるまで飲まされて、目が覚めたら素っ裸だよ！　裸で新日本の道場のコーナーポストにガムテープでぐるぐるに張り付けられてるわけですよォ！

光留　それ、最近までパンクラスでもありましたよ（笑）。

ターザン　（嬉しそうに）あった？　そう、やられたことはやり返すんだよね！

光留　僕がやられたのは、飲み会で潰れて、目が覚めて立とうとしたら、足がもつれて立てなかったんですよ。それでおかしいと思って足を見たら「富宅」って書いたバンテージで縛られてて、その先に40キロのダンベルが付いてて（笑）。ようやく外して電気をつけたら、横で山宮さんが両手を縛られてるんですよ。「とんでもないところだ……」って思って。

ターザン　そういう魔物が棲んでいるところにいながら、それに対して訴えるっていうことを考えるようなしょっぱい人間は、そこを辞めていけばいいんですよ。その理不尽でひどいことを認めるかどうかが、すなわちレスラーであるか一般人になるかの重要な境目なんですよ。それにしてもパンクラスはまだそれを残してんだねえ。嬉しいなぁ、鈴木みのるに感謝したいよォ！

光留　鈴木さんと2人してサンドバッグに練習生を吊して、クルクル回しながら楽しんだんですけど、そんなもんで人は死なないですからね。

ターザン　新日本で育った鈴木みのるが、パンクラスという純粋な格闘技道場で、そんなことをまだやっているというのが素敵だよ。

光留　そうですね。その根底には楽しければいいじゃないかっていう、人生の4番バッターみたいな部分が僕と鈴木さんの共通点なんで、だからいまだにイタズラするときは一緒にやるんですよ。でも他の人は「練習の邪魔される」という意識があるみたいで。極端な話、自分の練習がしたいんだったらパンクラス辞めちゃえばいいんですよ！　パンクラスで練習してボクシングでも練習するっていうんであれば、パンクラスの道場なんか辞めればいいんです。ボクシングの技術も必要かもしんないですけども、パンクラスｉｓｍっていう名前で売ってるわけですから、他でやるのはちょっとおかしいかなって。

11・7パンクラスNK大会。休憩明けに挨拶を行ったみのるは、一部から野次が飛ぶも「ちょっと聞いてください」と冷静に諌め、「このバッテンマークを沈没させるのも、世界最高の舞台にするのもきみたちの肩にかかっている」と、若い選手たちにエールを送った。

ターザン　道場にいる限り、そこは絶対に鈴木みのるがルールなんですよォ！　芸人の世界では島田紳助がルールなんですよォォ！　それを何で訴えるかと。（興奮して机をバンバン叩きながら）それはあの女の人を雇った吉本興業が悪いんですよォォォ！

光留　まあ、それと鈴木さんが一緒かどうかはわからないですけど（笑）。最初パンクラスｉｓｍっていう名前が決まったときに、鈴木さんが「ｉｓｍにはいろんな意味が込められているから」って言ってたんで、僕、「ｉｓｍ」の略が「一番偉いのは・鈴木・みのる」だって思いついたんですよ（笑）。でも、ホントに鈴木さんだったら考えかねないですから。

ターザン　ハッキリ言うと、鈴木みのるに付いて行ってる選手はこの世界では、もはや君しかいませんから（キッパリ）。

光留　いや、そんなことも……（苦笑）。

ターザン　（聞かずに）僕も驚いたんだけど、先輩がチャンコ鍋を食べ終わるのを待って、そばに立っていた新弟子に、鈴木みのるが何したかというと、チャンコ鍋で熱くなった白菜を新弟子の足の甲へ落とすんですよ！　そんなことを平気でやるんですよォ！

光留　昔はそれが普通だったんですよね。

ターザン　それで「アッチー！」って言ったら殴られるんだから。お腹は空いてるは、直立不動して立たされるはで、そこに熱い白菜を足に落とすんですよォォ！

光留　しかもそれ、食べないといけないんですよ。「食べ物を粗末にしちゃダメだ」って（笑）。ボクも同じようなことやられてたんですよね。食事を机の上に置いておいて、ちょっと席を外して戻ってきたら黄色い粉がたっぷり掛かっていて、それがクエン酸のサプリメントの粉なんですよ。それを見て鈴木さんが大笑いしてたんですけど、最後に「おまえ、それ全部食えよ。食べ物は粗末にしちゃいけない」って（笑）。ボクはそういうパンクラスの横浜でしか通用しないルールってあっていいと思うんですよ。それを外でもやらなければいいだけであって。

佐藤光留 VS ターザン山本

いつFMWに入ってもいいように、背中で有刺鉄線に触れる練習をしてました！

ターザン　一般世間のルールとか規則とか価値観に負けない特殊な掟や約束事を、道場の中では通用させていいわけだよね。

光留　外で鈴木さんのことを「社会的に常識のない人間だ」っていう声は、全く聞いたことがないですからね。だから社会的に間違ってるか間違ってないかは外に出てからの話で。道場での敬語とかお辞儀の角度までちゃんと意味があるんだって教えられてきましたからね。

ターザン　要するに世間の非常識はプロレスの常識なんだよね。これがあるから僕たちは「プロレスは素晴らしい」ってなるわけですよォ。でも、パンクラスはプロレスから分かれて、純粋な格闘技として技術を争うという形だから、場外乱闘もやらないで、ロープにも飛ばないで、コーナーポストにも登らないで、飛んだり跳ねたりしないで、逆に言うとすごく型が決まった競技中心の世界なのに、そこに鈴木みのるや君みたいな人がいるのが面白いねぇ。

光留　僕、鈴木さんの食事係を4年やってるんですよ。毎回材料は野菜と鶏肉と調味料だけなんですけど、鈴木さんは「それで違うモノを作れ」って言うんですよ。だからもう4年間で100何十種類作ってますね。鈴木さんは「ないところからどうにか頭を捻って、どうにか頑張って人の満足するモノを作りなさい」って教えたいんだろうし、それがismの教えだと思います。だからボクもロープに登ったら反則だとか、そういう動きが制限されてる中で、どうやったら飛んで頭を殴れるのか、どうやったら相手を高く上げて落とせるかっていうことを常日頃から考えるようになったんですよ。格闘技的には間違ってるのかもしれないですけどね。

ターザン　うん、まったくナンセンスで間違ってるね（キッパリ）。格闘技は無駄な動きとか余計なことしたら必ず負けるんだから。

光留　でも、鈴木さんの横にずっといて、たまに理不尽なことも言われますけど、付いてきた僕じゃないとできないことがありますからね。だから、あそこで鈴木さんに対戦表明できるのも僕だけだと思って「やらせてくれ」って言ったら、殴られちゃったんですよ（笑）。

ターザン　そりゃあ殴りますよォ！　君は高校卒業してすぐに鈴木みのるに弟子入りした人間なんだから。鈴木みのるにしてみたら、立場の中でずっと教え込まれ叩き込まれた人10年経とうが20年経とうが、いつまでたっても君は永久に新弟子なんですよォォ！　それにしても君、よく「試合して下さい」って言ったねえ！

光留　あのタイミングじゃないと、多分言えなかったです。最後のNKホールの前だったんで「もうここで言うしかない」って。

ターザン　よく考えたら、ボクの中にも「弟子がそれを言うこと自体、非常にけしからんな」っていう気持ちもあったんですよ。それと同時に、そういうことを訴える無鉄砲さが面白いというか。でもよく考えてみたら、鈴木みのるを浮かび上がらせる愛情に満ちた行為なんだよな、君は！

光留　そんなつもりもなかったんですけどね（笑）。

ターザン　結果的にそうなったんですよォ！　君がアクションを起こしたことで、鈴木みのるが弟子を殴ったことが『週刊プロレス』や『週刊ゴング』に載って、「鈴木は弟子とやるのか？」とか「やらない鈴木はおかしい」とか話題になって、いまもこうしてファンの記憶に残ってるんだから！

光留　話題になるだけだったら他にもやり方があるんでしょうけども、ちゃんと自分の中でやりたい気持ちがあって、さらにタイミングが合いましたからね。

ターザン　いつどこで、どういうタイミングで何をやれば、雑誌に載ったりファンに届くかということを考えるのがプロレスラーであって、君はまさにプロレスラーですよォ！

光留　当たり前だと思ってたんですけど、どうやら世間に出てみると違うんですよね。

ターザン　違うからパンクラスは鈴木みのるを減俸処分にしてるんですよ。島田紳助の事件と一緒なんだよね。これがアントニオ猪木だったら「オッ、これは面白いハプニングだ。やらしてしまえ」って、すぐに試合を組みますよ。それが猪木イズムだから！　（立ち上がって）パンクラスも鈴木みのるvs斉藤戦はやらなきゃダメですよォォォ！　（炎上）

光留　あのぉ……佐藤です（苦笑）。

ターザン　あ、佐藤さんか？（鎮火）……鈴木みのるは猪木さんを否定してたけど、猪木さんの考え方が皮膚感覚としてそのまま擦り込まれていたんだよね。実を言うと擦り込まれたことが一番正しいんですよ。何が無意識のうちに擦り込まれたかっていうことが重要なことで、その擦り込まれたその人自身の環境がみなさんの自我とか生き方になってるんですよ。

光留　それは思いますね。

ターザン　重要なことですよォォ！

光留　四六時中鈴木さんといたら、こういう

11・13新日本、大阪ドーム大会では、みのるがパンクラスMISSIONを作るそもそものきっかけとなったとも言える、幻の佐々木健介戦がようやく実現。2002年に対戦が持ち上がったときはパンクラスルールで行われるはずだったが、IWGP戦のこの日はもちろんプロレスルールで行われ、ラリアットで健介がフォール勝ち。今後、2人はタッグを組んでいくこととなった。

人になれるのかなって。

ターザン　他の人は誰もならなくていいんだよ。君しかならなかったんだから。ということは君のＤＮＡの中に鈴木みのるに対するリスペクト精神があるから自然と師と同化していったわけですよ。ほかの人間はみんな出ていったでしょ？

光留　……若干（笑）。

ターザン　若干じゃないですよォ！　みぃんな出て行ったんですよォォ！「ある程度教えてもらったから、もういいや」って他の選手のとこに行ったりするからね。

光留　この間、僕が鈴木さんにああいうこと言って、他にも一生懸命試合してる人もいるのに、僕が一番大きく雑誌とか新聞に取り上げられたら、面白くない人もいると思うんですよね。

ターザン　試合もしてないのに目立っちゃったらそりゃそうですよォォォ！（炎上）

光留　いや、試合はしたんですけど……（苦笑）。

ターザン　えっ……試合してたの？

光留　はい。引き分けでしたけど（笑）。

ターザン　引き分けなのにあんなこと言うのがまた凄いんですよォォォ！　普通ね、引き分けたらカッコ悪くて、そんなことしないんだよ！

光留　でも、プロレス雑誌には取り上げてもらえたんですけど、『格闘技通信』では、ボクの試合だけ写真ナシで、パンクラスゲートっていうプロになる前の試合と同じ扱いだったんですよね（笑）。『格通』的には必要ない試合だったみたいで。

ターザン　大丈夫だよ！『格通』は変なところにこだわってる雑誌なんだよ！　おかしいんだよォ！「高田の試合は●●●だ」って言ってたのに、いまは高田にすり寄ってるんだから！　みんなも信用しちゃダメだよ！

光留　僕にはわかんないですね（苦笑）。

ターザン　まあ、今日の結論というか分かったことというのは、鈴木みのるという人は、たぶん誰からも好かれないいんだよね。

光留　そんなことはないですよ（笑）

ターザン　誰も付いてこないという状況の中で、君が鈴木みのると出会って、もう2人のコンビが二卵性双生児みたいに成立していて、もう何かあったら「鈴木みのる鈴木みのる」って言ってるわけでしょ？　こういう関係が持てたということが君にとって、人生において重要というか、ハッピーというか、ラッキーというか。

光留　それはずっと思ってますね。ボク昔はパンクラスって好きじゃなかったんですよ。岡山出身なんでＵＷＦとかリングスとかパンクラスとか藤原組って、雑誌でしか見れないから、ロストポイントだとかエスケープとかよくわからないし、写真見たらローキックと腕十字とかばっかりで、「何が面白いんだろう？」って。

ターザン　パチパチパチ。根っからのプロレスファンだったんだ！

光留　とにかくＦＭＷが大好きでしたね。

ターザン　えぇ〜〜〜！　ＦＭＷって、大仁田厚じゃない！　有刺鉄線ですよォ！

光留　だから当時、いつＦＭＷに入っても大丈夫なように、背中で有刺鉄線に触れる練習とかしてたんですよ。そういう人間からしてみたら、ＵＷＦ系って全部同じに見えてわからなくて。そしたら某インディー団体で美濃輪選手を見て、その美濃輪選手がパンクラスに入ったから「僕もパンクラスに行かなきゃ」って勝手に思っちゃって。そこで鈴木さんっていう人に触れて、行動を共にするようになったんですよ。

ターザン　有刺鉄線のＦＭＷから、格闘技のパンクラスに行くってことは、右翼が左翼になるようなもんだよォォ！　君はやっぱりおかしいよォォ！

光留　中学のときにＦＭＷの書類審査に落ちたんですよ。生徒会長やってたんですけど、進路の第一志望を書く欄に「ＦＭＷ」って書いて提出したら先生に「わかったから、ちゃんとしたの出せよ」って言われて。遊びだと思って捨てられたらしいんですよ。「ホントなんですよ」って言ったら、早速親が呼ばれて「光留君の言うＦＭＷって一体どういうところなんですか？」って聞かれて、母親が「大仁田厚ですよ」って言って（笑）。

ターザン　中学生だったら中学生の常識というのがあって、それなのに一般的な考え方や価値観じゃなくて、志望するものが「ＦＭＷ」って書くこと自体がもうプロレスラーとしての素質があるというか。

光留　だとしたら嬉しいですね。

ターザン　それにしても、大仁田ファンだったとはねぇ。

光留　中学のころはホントに狂ってて、学校で男樹Ｔシャツ着てましたから。女子から「アレなに？」っていう目で見られてるんですけど、自分ではリングに立ってる気分で仮想体験だったんですよ。気持ちいいなって。やっぱりモテなかったですけど（苦笑）。

ターザン　全身変態だね。

光留　それをわかってなかったのがタチ悪いですよね。

ターザン　でもナルシストっていうのは重要ですよォ！

光留　子供の頃から、どんな面でも人から見られるっていうことは快感でしたね。あと僕は広末涼子の、全国で一番最初の追っかけだったらしいです。中学校3年生のときに自転車で12時間かけて広末涼子の家までいったんですよ。そのころまだストーカーっていう言葉がなくて。いま考えたら危ないですよ。家から出てくるの待って、お父さんに怒られながら写真撮ったんですけど。もう当時は会いたい一心で周りは見えなかったですね。

ターザン　き、君は変だよ……。

光留　高知までわざわざ行って、会えなかったらただの馬鹿でしたからね。会えると思ったら、12時間自転車に乗って行っても全然苦しくなかったですからね！（屈託なく）

ターザン　わかった。もう君に付いていく人もいない。そういうことは鈴木みのると君で終わりですよォォォ！　今日はありがとう！　変わり者に喜びを！　そして神よグッドラックを与えたまえ〜〜〜！

【04年11月3日／宇都宮『ラウンド87』にて収録】

さとう・ひかる■1980年7月8日、岡山県岡山市生まれ。自らを“プロレスラー”と公言し、白マントをなびかせながらメガネを掛け、ビキニパンツ姿で入場する変わった人。ちなみに入場テーマ曲はパチスロ「獣王」の効果音BGM。

PANCRASE
HYBRID WRESTLING
パンクラスismと
鈴木みのるの真実

取材協力：
Cafe ROUND87
栃木県宇都宮市春日町13-8
定休日：月曜日
営業時間：11:30〜24:00
TEL:028-615-0870
http://www.round87.com/

「佐藤光留×ターザン山本！」という超絶トークライブを組んだ「ラウンド87」は、プロレス、格闘技ファンだけでなく、さまざまなスポーツファンが集まるお店。このようなトークライブもたびたび行っているので、これからもチェックが必要だ。とりあえず宇都宮のプロレス・格闘技ファンはいますぐGO！

04.11.3 宇都宮 Cafe 87R

ありがとうNKホール！さようなら“負けるパンクラス”!!

「これからは“勝つパンクラス”で歴史を作っていきます」

サイボーグを下した“エース”近藤がラストNKで決意表明!!

大会開始前の入場式で近藤は「（NKホールで）いままでで一番の最高の試合をしたいと思います」と宣言。旗揚げ戦で船木が入場時に着ていたガウンの色のオレンジTシャツを着て入場！

さすがシュートボクセというかサイボーグは試合前から気合い十分。身体中の刺青もかなり凄いが、爪には黒いマニキュア、写真ではわからないがデカい舌ピアスをしたまま試合に挑んだ

凶暴なサイボーグの打撃をことごとくかわし鋭いタックルでテイクダウンを狙う近藤。2度目のトライでテイクダウンに成功するとサイボーグはフロントネックロックで抵抗。しかし、近藤はボディーパンチからギロチンで難なく脱出

3Rを通してアームロック等でサイボーグをあと一歩のところまで追い詰めた近藤が判定3－0で文句なしの勝利。試合後は「『男祭り』で来年のミドル級GPの前哨戦となるような相手とやりたい」とコメント。どうなる12・31!?

近藤は「今日はどうしても勝ちたかった。旗揚げ戦で船木さんが負けたり、パンクラスはここぞという時に負けることで歴史を作ってきました。これからは勝つパンクラスで歴史を作っていきたい」とマイク。次は大みそかだ!!

TK、パンクラス初参戦でウォーターマンを下し初載冠!!

圧倒的な圧力でTKを押し倒すウォーターマン。しかしTKはハーフガードから一瞬の隙をつきヒールホールド。これに慌てて立ち上がったウォーターマンは思わずロープをつかんで必死に脱出！

セコンドには高橋義生と横井宏考を付けたTK。ウォーターマンのパワーには手こずったTKだったが、下になっても得意のTKシザース、三角絞めで終始、積極的に攻め続けた

判定ながらもウォーターマンに完勝し、仮面ライダーベルト以来のベルトを手に入れたTK。試合後はアライアンスのメンバーや長南、高瀬らTKファミリーが勢揃い。応援にかけつけた吉田秀彦や藤田和之もTKを祝福していた

初代スーパーヘビー級王座を賭けて行われた高阪剛vsロン・ウォーターマン。戦前から「真正面からぶつかって勝つ」と語っていたTK。ウォーターマンのパワーにたじろぐシーンも見られたが、スタンドでは打ち勝ち、寝技では“世界のTK”ぶりを見せつけ勝利

BRAVE TOUR

ありがとう!!　NKホール

PANCRASE HYBRID WRESTLING

11月7日／千葉　東京ベイNKホール

大会前には尾崎社長を挟んで星野総裁率いる元・魔界勢とMEGATONのIRO関らで乱闘騒ぎを起こした柳澤龍志vs野地竜太の一戦。柳澤のセコンドは村上と柴田。星野総裁と長井も来場！

総合デビュー戦となった7月の後楽園大会ではハイサマンに秒殺された野地。しかし、この日はパンクラス旗揚げメンバーの柳澤に打ち勝って総合初勝利。試合後、野地はガッツポーズ！

後頭部をパンクラスのロゴマークのバッテンに刈り込み気合い十分で試合に臨んだ北岡悟だったが、王者になるためウェルター級まで体重を落としたという井上克也に3—0の判定負けを喫した。

デビュー2戦でミドル級ランク入りしたパンクラスMEGATON-TOKINの新星・三浦広光が韓国のクァク・ユン・ソブをマウントパンチで秒殺。試合後、三浦は岡見勇信へ対戦アピール！

菊田、アイスマンに圧勝し、またしてもグレイシーにラブコール!!（その後、ホイスvs曙が決定……）

約7ヶ月の充電期間（無比人の撮影とか）を経て菊田が帰って来たぜーッ！対戦相手は新日本やジャングルファイトでも活躍する猪木道場のアイスマン。菊田はあっさりテイクダウンに成功すると、すかさずマウントパンチ！

マウントパンチから菊田はサイドを狙い身体を離すと、狙いを足に定め一気にアキレス腱固めへ移行。これがガッチリ極まるとアイスマンはあえなくタップ。この試合で菊田は約3年ぶりの一本勝ちをゲッツ！　次は大みそかなのか!?

試合後の菊田マイク。「今日闘ったんですけど、余力もあるし、もったいないんで年末までにもう1試合やりたい。内容の残せるグレイシーの選手と寝技で勝負をしたい」。しかし、残念ながらホイスは曙を選択。どうする菊田!?

三崎、あと一歩及ばず！ミドル級新王者はネイサンです!!

第4代ミドル級王者のヒカルド・アルメイダの返上により空位となった王座を賭け激突したネイサン・マーコートvs三崎和雄の一戦は判定でネイサンの勝利。試合後は「オレはキングだ！」とジョシュばりに日本語でアピール！

02年3月（ネイサンのＴＫＯ勝ち）以来2年8ヶ月ぶりの対戦となる両者。序盤から2人はスタンドの攻防に終始。鋭いローキックや回転の速いパンチを繰り出した三崎が1Rは優勢

2R、ネイサンは跳びヒザで距離を詰め右ストレート一閃！　もんどりうって倒れた三崎に追い討ちのパンチ。3Rにもパンチで倒したネイサンが判定勝ちを収めた。グラバカ全勝ならず

勝った郷野は、そして全日本キック参戦をアピール！（その後、正式決定！）

当初対戦予定だったデビッド・テレルからティム・マッケンジーへ対戦相手が変更となり「やる気なし男くんです」とボヤいていた郷野。しかし、新庄ユニフォームで入場してきた郷野は、いざ試合になると得意の打撃＆ノーガード戦法で翻弄。最後はボディーへのパンチでダメージ大のマッケンジーにヒザ蹴りラッシュからパンチで追い打ちをかけ勝負を決めた。大会後、1・4全日本キックへの参戦が正式発表された

試合後、郷野はパンクラスで唯一敗れている近藤へ対戦表明。その後、尾崎社長に流れたテレル戦をアピールし「全日本キックでヘビー級のベルトを獲って、それを巻いて近藤と闘いたい」と今後のプランを一気にブチ上げた！

[リトアニア現地リポート]

ン引退騒動
アBUSHIDO

USHIDO"LEMIAMAS MUSIS"

リングスをそのルーツに持ち、現在はZST、修斗などと提携して独自の活動を展開しているリトアニアの格闘技団体『BUSHIDO』。その5周年大会であのヴォルク・ハンの引退試合が行なわれるという。リングスを愛してやまない『紙プロ』が、これを取材しなくてどうする！　しかし15時間の長旅を経てリトアニアに到着すると、そこでは思いもかけない事態が待ち受けていたのだった——。

文・写真／橋本宗洋　構成／堀江ガンツ

designed by hisa（Two Three）

「ヴォルク・ハンの引退試合を取材に行きませんか。場所はリトアニアなんですけど」

たとえどれだけ遠かろうと、他の仕事を断ることになろうと、こんな楽しそうな取材を断るわけにはいかないだろう。時は11月20日、所はリトアニア。リングス末期にネットワークに参加、日本での団体活動休止後もリングスの名で活動し続けたリングスファン最後の聖地で、あのヴォルク・ハンがその雄姿を見せてくれるのだ。しかも試合は旧リングスルールだという。

ドナタス・シマネイティス氏が代表を務めるリトアニアの総合格闘技団体の正式名称は『リトアニアBUSHIDO』。かつてこの地で放送されたUWFインター中

［リトアニ見地

ヴォルク・ハン inリトアニア

11.20 LITHUNIA-BUSHD

継の番組名が『BUSHIDO』で、リングスも同名で放送。その魅力にほれ込んだドナタス氏が、独自かつ地道に総合格闘技を根付かせてきた。現在はリングスの流れを汲む『ZST』に好選手を続々と送り込んでいる他、修斗の公式戦も行なっている。

今回はその『BUSHIDO』5周年記念大会として、いつも以上に豪華なマッチメイク。リトアニアの主戦級が総登場し、日本など世界各国から選手を招聘、修斗、ZST両方の試合が用意されている。そして、そんな『ラママシス・ムシス』（興行タイトル。意訳すれば"頂上決戦"か）のメインイベントがハンの引退試合なのだ。ま、引退試合じゃなく復帰戦なんじゃないかって噂もあったが、それも含めて確かめに行かねばなるまい。大会そのものの取材はもちろんだが、今回の目玉はやはり『ヴォルク・ハン超ロングインタビュー』。リングス、ハンへのこだわりでは業界で右に出る者なしと言われる編集部・堀江ガンツは、"質問してきてほしいこと"をビッシリ書いてメールしてきた。そもそも、今回の取材を企画したのはこの男である。

が、出発当日、ZST広報の上原氏との電話でとんでもないことが発覚する。

「昨日の深夜にドナタスから連絡があったんですが……。ヴォルク・ハンが出ないかもしれないと」

はぁ～……。じゃ、オレはリトアニアまで15時間かけて行って、何を取材すればいいわけですか。大会？　いやまあそうだけども。落ち着かない気分のまま長時間のフライトを終え、リトアニアに到着。大会主催者のドナタス氏に状況を確認する。

「実は、ハンのパスポートに問題があったんです。ビザを発行する段階になって、ハ

ンのパスポートの期限が切れていたことが分かって。なんとか大会当日までにリトアニア入りできるよう、政府高官にも訴えている最中なんです」

そして2日後の大会当日、やはりハンは来なかった。ロシアからやってきたのは、ロシアン・トップチーム総監督のウラジミール・パコージン氏とニコライ・ズーエフ。選手が来ずにセコンドだけ来ちゃったわけだ。大会前後の慌しい中、なんとかパコージン氏をつかまえて話を聞いてみた。

――ハン選手がリトアニアに来られなかったのは……。

「リトアニアに入国するビザを取得するには、パスポートの有効期限が3カ月以上ないといけなかったんだが、ハンはそこまで確認してなかったんだよ。といってパスポートを更新するには、早くても1週間かかるからね」

――ハン選手は以前、政治のトラブルで逮捕されていますよね。それが出国にあたって問題になったわけではないんですよね。

「それはまったくない。ハンの逮捕は誤認だったことが明らかになっているしね」

――今回の試合は、ハン選手の引退試合という予定だったんですか？

「引退試合といっても、リトアニア国内における引退試合だね」

――あ、やっぱり（笑）。ハン選手には、また日本でも試合をしてほしいですからね。

「いつ、どの団体で、と明言することはできないが、ハンの状況が整い次第、試合をさせたいと思っている」

――ハン選手はビジネスでもかなり多忙のようですが、練習はできているんですか。

「今回やるはずだった試合に向けて、かなりハードな練習に入っていたことは確かだ。体もかなりシェイプされてきたところだったから、余計に残念だね」

――もう一つお聞きしたいのが、セルゲイ・ハリトーノフ選手のことなんです。今年の夏、同じ名前で身長・体重も同じくらいの選手がアテネ五輪のボクシングにエントリーしていたんですが。

「その話は私も知っているよ。ただ、その選手は我々の知っているセルゲイ・ハリトーノフではないね。ハリトーノフの主戦場はあくまで『ＰＲＩＤＥ』であって、今は他の大会に出てなどいられない。もし彼が『ＰＲＩＤＥ』で頂点を極めた後に五輪出場を望めば、ボクシングでもレスリングでも出場できる能力はあるがね」

――スレン・バラチンスキー、ヴォルク・アターエフ、ラバザノフ・アフメッドといった選手たちは今どうしていますか？　また日本で試合が見られるんでしょうか。

「バラチンスキーはこの秋に日本に行く予定だったんだが、ヒザを傷めてしまってね。だが練習は続けているし、アターエフもラバザノフも元気だ。ただ日本のファンに伝えたいのは、ロシアン・トップチームは彼らだけではないということだ。強い選手が着々と育っているんだよ。アターエフやラバザノフもチャンスを失いかけるくらいのね」

というわけでいつ何時でも意気軒昂、大きなことしか言わないパコージン氏であった。ちなみに同席したズーエフによると、“格闘技界の万里の長城”とも呼ばれたエカテリンブルクのリングス・スポーツセンターは来年3月についにオープン。「ハリトーノフも出る大きな大会を開くから、マエダサンと一緒にぜひ見に来てくれ」とのことだった。

続いてドナタス代表に、大会全体のことを聞いてみる。修斗公式戦と同時に旧リングスルールの試合が行なわれる『ＢＵＳＨＩＤＯ』とは、いったい何なのか。

BUSHIDO"LEMIAMAS MUSIS"

『リトアニアBUSHIDO』代表のドナタス氏（右上）。リトアニアに総合格闘技を根付かせ、政界から軍、裏社会まで顔のきく大物である。ロシアン・トップチームのパコージン総監督（下）とズーエフは（上中央）は大会当日に電車で現地入り。疲れた様子だったが、打ち上げではウォッカがぶ飲み。左上の人物はリチェルダス・ロツェビーチェス。ハンと対戦予定だった選手で、かつてサンボの全ソ連選手権で優勝。ハンにも2度勝っているという。

『BUSHIDO』とは、いったい何なのか。

――今回はハン選手が欠場と残念なことになってしまいましたね。

「私もできる限りのことはやったんですが。あとはロシアの問題なので仕方がないですね。ですが、それ以外にもいいカードを組むことができたと思っています」

――修斗にZSTとルールが混在し、オランダやポーランドといったヨーロッパはもちろん日本、アメリカ、ブラジルからも選手が来るような大会がリトアニアで行なわれているとは驚きました。

「我々には『リトアニアBUSHIDO』だけでなく各国に支部があり、今度『ヨーロッパBUSHIDO』もできることになったんです。それにこの組織の正式名称は『MMA　BUSHIDO』。MMAのカテゴリーに属する試合ならば、どんなルールでも手がけたいと思っています」

――結果的にハン選手の欠場でなくなったとはいえ、ひと昔前のスタイルという印象もある旧リングスルールの試合を組もうと思ったのはどうしてなんですか？

「私がリトアニアで『BUSHIDO』を始めたときのルールが、旧リングスルールなんです。その後、修斗やZSTの試合をやるようになりましたが、私たちの原点はリングスなんです。今回は5周年の記念大会ですから、どうしてもリングスの試合をやりたかった。そしてその試合で闘うのは、ヴォルク・ハン以外に考えられない。ハンはリングスを愛する者にとって特別な存在なんです。ハン、それにパコージンとも約束したんですが、必ずもう一度、ハンの試合を組みたいと思っています」

リングスファンには涙モノのセリフを語るドナタス代表。さらに彼は、ロシアのハンに電話をかけ、生の声を伝えてくれた。

以下がハンからのメッセージである。

「親愛なるリトアニアと日本のみなさん、今回はパスポートの不備で試合をすることができず、本当に申し訳ありません。私自身、この試合を楽しみにしており、先月に入ってから猛練習に取り組んできました。久しぶりの試合ですが、それだけに気持ちが昂ぶっていたというのに、本当に残念です。ですが、私はこのままフェイドアウトするということはありません。いつの日か必ずリトアニアで、そして日本で私のファイトをお見せしたいと思います。その日を楽しみに待っていてください」

インタビューを終えると、ドナタス代表に連れられていよいよ会場へ。『BUSHIDO』初使用となるシーメンス・アリーナは、オープンしたのがわずか2週間前。地元バスケットボールチームの本拠地でもある、最大13000人収容という大会場だ。

傾斜の急な見やすい客席、天井から下げられた大型ビジョンなどの近代的設備に、『PRIDE武士道』を模したと思われる入場ゲート、UWFスタイルの全選手入場式、加えて1R開始前からリングに上がって踊りまくる世界一運動量の多い（特に腰つきが）ラウンドガールなどなど、『BUSHIDO』5周年大会は、世界中のどこの大会と比べても、間違いなくトップクラスといえるビッグ・イベントだった。

ほんの少し前まで、日本ではノーマークだったリトアニアという国で、こんなにも大規模な興行が行なわれるというのは驚きだった。出場する所英男、弘中邦佳、村山暁洋にとっては、これまでの選手生活において最大のイベント出場だろう。しかし我々日本人は、試合が始まってから『BUSHIDO』の本当の姿を味わい、さらに驚愕することになる。

11.20 LITHUNIA-BUSHD

首都ヴィリニュス市街の至る所に、ハンの試合を大きくフィーチャーした大会ポスターが。歴史を感じさせる町並みが印象的なヴィリニュスだが、海外資本の参入で近代的な建築物も続々と建築中。会場のシーメンス・アリーナもその一つだ。こんな所で大会ができるほど、ここでは格闘技がメジャーなのだ。修斗、ZST、それに『BUSHIDO』が2つと週に4つの格闘技番組がオンエアされているという。

足関節を極めかけた所英男（STAND）だが、ロープを掴んで防御されては……。結局、最後まで攻めきることができず、ダリウス・スクリアウディスに判定負け。「やりたいことと体の動きがちぐはぐでした」（所）。

"小さなヴォルク・ハン"所英男がリトアニアの罠にハマった!!

勝負に勝つためにはどんな手でも使うそれがリトアニアの常識だった

ドナタス代表の我々外国人プレス及び選手に対する親切さには、本当に頭が下がった。朝から晩まで、何から何まで面倒を見てくれる。主催者がこんなに外国人のケアにかかりっきりで大丈夫なんだろうかと思ったほどだ。

だが、いざ試合となると、事態は急変する。まずは修斗公式戦。ブレイクがやたらに早かったり、グラウンドのパウンドでリトアニアの選手が攻め込まれると『ダウン』を宣告しスタンドで再開させるなど（リトアニア勢はストライカーが多い）、不可解を通り越して不愉快な裁定の連発！　腕十字を極めかけた瞬間、残り時間が30秒はあるはずなのにラウンド終了のゴングが鳴るなんてことすらあった。

ただでさえリトアニアの選手たちはレベルが上がってきているというのに（そのことだけはきちんと認めておきたい）、さらにこれである。まさに外国人選手たちに仕掛けられた〝罠〟であった。

ＺＳＴマッチにおいても〝ディス・イズ・リトアニアン・スタイル！〟といわんばかり。まずは試合時間が〈5分・5分・3分〉から5分2Rに変更され、レミギウス・モリカビュチスの試合はグラウンドでの顔面パンチOKの『ＺＳＴ・ＶＴ』ルールで行なわれたのだが、パンチどころかヒジを乱打してもおとがめなしの暴れ放題。

レミーガ圧勝! なんと三角絞めでタップを奪う!

所の最大のライバルであるレミギウス・モリカビュチスは、ポーランドのヤコブ・シャープに1Rで勝利。打撃でボコボコにしたあげく、最後は珍しく三角絞めを極めた。かつて同じ技で自分に勝った所へのアピールか。

終盤、ダリウスのヒザが顔面を襲撃！　12月にタイのビッグマッチ『S-1』にも出場するというだけに、打撃のレベルは恐ろしく高い。

十字にトライする場面もあった所。しかしこれはダリウスが脱出。スタンド、グラウンドとも組み技への対処はとにかく徹底していた。

ヴァラビーチェスがフィエートの弟をマウント葬!!

リングス時代から活躍するエギリウス・ヴァラビーチェスも登場。リングス・オランダ出身リカルド・フィエートの弟アンドレを、怒涛のマウントパンチ連打で秒殺してみせた（1Rレフェリーストップ）。

2R判定でダリウスの勝利。しかしKO勝ち寸前だったため、ドナタスが「3Rやろうか。それとも棄権でTKOにする?」と言ってきたらしい。

そして弘中判定勝ち、村山判定負けと日本勢1勝1敗で迎えた、所英男vsダリウス・スクリアウディス戦。ダリウスは現地でレミギウスと並び称される超ド級のストライカーである。つまりこのカード自体が『ZST・GP2』へのレミギウスへの援護射撃というか〝所潰し〟なのかもしれない。

所はリトアニアでの試合はこれが3回目。不利な裁定に苦しめられたことはこれまでにもあるのだが、それを分かった上でこの地に乗り込んできた（ヴォルク・ハンに会いたいという理由も大きかったようだが）。試合が始まると、ダリウスの機先を制するように組み付き、足関節を仕掛けていく。

が、ダリウスはこれをロープを掴んで防御。あからさまな反則なのだが、レフェリーも、誰も注意を与えない。所の組み技を警戒したダリウスの〝待ち〟の戦術もあって、徐々に攻め疲れしていく所。そこに強烈なミドル、ロー、ヒザを食らい、結果は判定負けとなった。あそこでダリウスがロープを掴んでいなければ、とも思うが、全ては後の祭り。「ダリウスともう一回やるなら、またここで」という所の言葉が、唯一の救いだった。

おそらく、ここリトアニアでは〝スポーツ〟の捉え方が我々と違うのだ。日本では〝普段は仲が悪くても、スポーツとなれば正々堂々〟なのだが、リトアニアのスタイルは〝普段は仲が良くても、スポーツとなればどんな手を使ってでも勝ちにいく〟。まさに究極のアウェー。この大会で日本人選手が闘ったのは、単にリトアニアの選手というわけではない。この地では、我々が持つ〝スポーツ〟に対する常識そのものが敵だったのだ。

QUINTON "RAMPAGE" JACKSON

〝最強の挑戦者〟、シウバに敗れるもMMA史上に残る死闘を繰り広げる

偉大なる敗者が語る戦士の任務

聞き手／ジャン斉藤
撮影／松本崇
designed by hisa（Two Three）

クイントン・〝ランペイジ〟・ジャクソンが初来日をはたしたのは、02年7月29日の『PRIDE．15』のことだった。桜庭和志・復帰戦の相手として招聘されたジャクソンは、ファンもマスコミもさして注目はしていなかった。この試合の焦点は、『PRIDE．13』でヴァンダレイに敗れた桜庭和志がどう復活をするのか――？　何が起きるかはわからないリアル・ファイトのリングではあるが、ズバリ言えば、周囲はジャクソンを桜庭の引き立て役としか捉えていなかった。そんな男が、まさか『PRIDE』ミドル級グランプリで準優勝をはたし、〝最強の挑戦者〟という絶対無二の称号を手に入れ、『PRIDE』ミドル級戦線史上に残る死闘を、地上波のゴールデンタイムで繰り広げるとは誰が想像できただろうか？　ヴァンダレイのサクセス・ストーリーばかり語られがちだが、ジャクソンの〝雑草物語〟も目を見張るものがある。

今回のヴァンダレイ戦で、ジャクソンは木っ端微塵に完全KOされたが、その闘いはじつに〝紙一重〟な死闘であり、『PRIDE』史上に残るベストバウトだった。『PRIDE』のリングで頭角を現し、はてしない成長を遂げた数少ないファイターのひとりとして、我々はこの男を称えなければならない。その声を聞かなければならないだろう。

ヴァンダレイとの一戦から三日明けた11月3日、ホテルの部屋に訪れると――傷だらけながらも晴れ晴れとした表情のランペイジがそこにいた。

――残念ながら負けてしまいましたけど、ヴァンダレイ・シウバ戦は素晴らしい闘いでした！　文句なしで2004年のベストバウトですよ！

大きいんでしょうか?

ランペイジ　そうかぁ……。誉めてくれるのは嬉しいけど、試合のことはほとんど何も覚えちゃいねえんだよ、これが。

――ヴァンダレイの打撃で記憶が飛んでしまったんですか?

ランペイジ　ソウデスネ!（日本語で）。極端な言い方をすれば、これは負け惜しみじゃないけど、俺様はホントに負けたのか?ってかんじだな。

――ヴァンダレイと闘った実感はあるんですよね?

ランペイジ　それはあるよ。覚えてることといえば、オープンガードを取ったヴァンダレイのボディにヒジ打ちしたこと。俺様がマウントを取ったときに1R終了のゴングが鳴ったこと。血が目に入ってやけに闘いづらかったことぐらいかな。

――では、「KO負け」という結果について率直な感想をお聞かせください。

ランペイジ　ワンマッチであんな負け方をしたのは、生まれて初めてだからな。ホントまいったよ。俺様の目標は『PRIDE』の王者になることだったから、今回のヴァンダレイ戦は特別な一戦だった。それだけにショックはデカイよ。試合をビデオで見たくもねえなあ。でも見ないとダメだよなぁ……最後なんてスゲェ倒れ方をしたんだろ?

――かなりショッキングだったことはお伝えしておきます（笑）。ところで試合前にリング上で携帯電話で話をされてましたけど、いったい誰と会話をされたんですか?

ランペイジ　フィアンセ!

――ダハハハ。それぐらい余裕があったんですか?

ランペイジ　絶対に勝てると思ったんだけどなぁ……。そういう意味では、特別な一戦なのにまったく恐れを抱かなかったことが敗戦の一因かもな。振り返ってみると、俺様はちょっと自信を持ちすぎた一面があったから。

――アメリカ国歌斉唱のときも携帯電話を離さなかったわけですからね。

ランペイジ　繰り返すけど、俺はノックアウトされた記憶がまるでない。傷だらけの顔を鏡で見て、〝ああ、やられたんだ〟という敗北感と、〝これはどういうことだ?〟というなんとも言えない不安な心が交差しているのが現状なんだ。

――ケガのほうは重傷なんですか? 顔は傷だらけで鼻も曲がってしまってますが。

ランペイジ　まぶたを縫って、CTスキャンをしたりしたよ。まぁ大丈夫だろう。

――傷を負わせたヴァンダレイには、どういう感情を持ってますか? ヴァンダレイと険悪な仲ということはつとに有名な話ですが。

ランペイジ　俺様はスポーツマン・シップに則って闘っている。仲が悪かろうがリングに上がってしまえば関係はない。結果的にヴァンダレイに負けてしまったが、あの野郎と会話することは何の差し支えもねえよ。

――ヴァンダレイとひとりのファイターとして尊重しているわけですか?

ランペイジ　それともまた違う。いいか? 俺様が野郎をどう評価しようが、そんなもん所詮は一瞬の評価にしか過ぎない。たとえば、今日の時点で〝世界最強〟だろうがよ、明日はどうなるかわかりはしないだろ。

――そういう意味では、初来日当時まったく無名だったランペイジさんがここまでのし上がったのは感慨深いものはあります。

ランペイジ　俺様だって明日はどうなるかわからないよ。しかし、ファイターという者は、ファンやプロモーターからの信頼感を得るために血を流さないといけないんだ。俺様が常に意識しているのは、お金を払ってイベントを観に来る観客であり、その観客が注目するのは試合内容に決まっている。試合はファイターの立派なビジネス。とにかくリングの上でベストを尽くして、エキサイティングな試合をして、ファンやプロモーターを満足させることが一番だ。今回のヴァンダレイ戦は、アンタにも素晴らしいとほめてもらったし、周りからも賞賛を浴びているから、ファイターの任務をまっとうした充実感はあるよ。

――〝プロ〟としてのファイトはできた、と。

ランペイジ　内容はまったく覚えてないんだけどな（笑）。でも、ベルトが手元にないことで空しい気持ちにもなっていることもたしかだ……。気持ちは微妙に揺れ動いているんだよ。

――ノゲイラ選手が言うのは「ヒョードルがいたから自分もレベルアップした」とのことですが、ランペイジさんはヴァンダレイの存在は励みになりました?

ランペイジ　励みというか、俺様はちゃんと練習してないんだよ。

――そうなんですか? 闘いぶりからして、ハードトレーニングを積んできた成果を思わせるんですが。

ランペイジ　ホントデス!（日本語で）。コーチが見張ってなかったら、とっとと家に帰っちゃうからな。どうしようもないナマケモノなんだよ。でもな、今後はもっとトレーニングしないといけなくなった。その理由はひとつ。次こそヴァンダレイをノックアウトするためだ。

――お話を聞いていると、以前と比べてランペイジさんは謙虚になっているというか（笑）。やけに達観している面を感じられるんですが、やはり〝神に目覚めた〟影響は

大きいんでしょうか？

ランペイジ　……そのことについて、詳しく知りたいのか？　話は長くなるゾ～。

――問題ないです！　ぜひお聞かせください。

ランペイジ　だったらマジメに聞いてくれ。これは真実の話だ。俺様はいつもジョークは飛ばすけど、こればっかりはジョークじゃねぇ。いまから俺様が話すことを心から理解すれば、アンタの人生も変わってしまうだろうな。

――それほどのエピソードなんですか？

ランペイジ　ＹＥＳ！　もともとファイターという存在は、どうにも宗教的なところから遠く離れてる一面があると思うんだ。拳を交えて、血を流して、相手を叩きのめす行為は宗教には反しているところがある。俺様は、８月15日のヴァンダレイvsコンドー（近藤有己）戦を見てアメリカに帰ったあとに、いろいろな思いが胸を駆けめぐってなかなか寝られなかったんだ。やっと寝付けたと思ったら……夢の中に悪魔が現れた！　驚かないでくれ。俺様は悪魔に魂を奪われそうになったんだよ！

――夢の中に悪魔が現れたお話は伺っています。

ランペイジ　そして、夢の中にもうひとり「大丈夫！　心配しないで！」と言ってくれる人がいた。それは誰かはわからない……。

――たしかお知り合いがまったく同じ夢をご覧になってるんですよね？

ランペイジ　それは俺様の子ども。俺様が怖くて目が覚めたと同時に、子どもも同じタイミングで起きてきたんだけど……なんと子どもが口からエクトプラズムを出しているのを俺様は見ちまったんだ！

――ゲッ！　エクトプラズムを見た！

任務をまっとうした充実感はある。試合内容は覚えてないがな(笑)

ランペイジ　それだけじゃない。子どもを車で学校まで送ろうと車に乗ったときのことだ。車のラジオを付けたら、ラジオから「オマエの魂は俺のもんだぁ！」という悪魔のような声が聞こえてきたんだよ……。

――ラジオから悪魔のような声！　にわかには信じがたい話ですね。

ランペイジ　もう一度繰り返そう。すべて本当のことだぜ！　そんなことが起きてからというものの、俺様は怖くて怖くてしょうがなくて、友人の家に寝泊まりを続けたり、子どもと一緒じゃないとトイレに行くことすらできなかったんだよ。そのことを友人である教会の関係者に相談をしたら、「不敬な物を捨てなさい！」と言ってくれた。ポルノ・ビデオやキタナイ言葉が書いてあるＴシャツ。ぜ～んぶ捨てたよ。それでも俺様の周りに悪い精霊が漂っている気配を感じて、不安でたまらなくなったある日、俺様は5分間ほど、一生懸命お祈りしたんだ。そのとき！　ジーザスが俺様を触ってくれたんだよ。

――神が舞い降りた、と。

ランペイジ　ＹＥＳ！　それからすべての不安から解消された。つまり、ジーザスが悪魔から俺様を守ってくれたってわけだ。俺様は嬉しくてたまらなくて泣いてしまった。俺様は生まれ変わることができた。何が変わったのかは言葉ではうまく表現できないけれど、ジーザスが何かを与えてくれたことを感じたんだ。それから聖書を読むようになったし、意図して悪いことはやらないよ。アルコールも口にしない。

――ファイターとしても変わった部分はあると思いますか？

ランペイジ　それはもちろんだ。ジーザスに触れたことで闘うことへの恐れがなくなり、精神的に強くなったことをかんじているよ。俺様はレベルアップしている。今回は負けたけど、みんなが喜んでくれる闘いができた。そういう声はスゲェうれしいし、俺様の動きに一喜一憂してくれることは、ファイター冥利に尽きる。これからも闘っていこうという気持ちは高まってくる。つまり、ファイターとファン同士でうまい具合にキャッチボールができているわけだ。

――観客が声援を送り、選手それにが応える動きを見せて、また声援が増していくというか。

ランペイジ　そういうシチュエーションをつくりあげるのがファイターとしての力量だ。今回でいえば、試合を盛り上げつつヴァンダレイを倒せていればパーフェクトだったけど……。俺様はベルトがほしい。俺様はまだまだ闘い続けるぜ！……どうだ？　今日の俺様は機嫌がいいだろ？

――はい。本当に生まれ変わったことを強く感じます（笑）。

ランペイジ　なんたって、昨日i-podを買ったからな！　スゲェ嬉しいんだよ！

――あ、i-Pod購入が生まれ変わった要因のひとつ（笑）。

ランペイジ　ソウデスネ！（日本語で）。アンタも買ったほうがいいゾ。日本の皆さんにも、i-Podと神の御加護がありますように！

【04年11月2日／都内・某ホテルにて収録】

QUINTON“RAMPAGE”JACKSON

試合内容はほとんど覚えてないというジャクソンだったが、「敗北」という二文字は心に大きくのしかかっていた。「シウバを倒すこと」「王者になること」がジャクソンの目標――集大成とも言える一戦だっただけにショックは相当なものだろうが、言葉の節々からは、プロのファイターとしての達成感を感じ取れたのも事実。ただでさえ実力者のジャクソンだ。そのプロ意識が心に貼りついていれば、ファンはリスタートを後押しすることだろう。リスタートの格好の舞台である、来年のミドル級ＧＰの活躍が非常に楽しみだ！

引っ越しにいそしむチョロ氏。ソンブレロで鈴木みのるのカットを隠したつもりが余計に目立つ結果に……。

事務所移転で更にパワーアップ!!

RADICAL PRESENT SP

お引っ越し

DOUBLE CROSS

ダブルクロス引っ越し記念第一弾! 荷物の山からゾクゾク出てきたお宝(?)の数々を『紙プロ』読者大盤振る舞い! 四の五の言わんと応募したらええんや!! 【ダブルクロス提供】

セットで1名様

含蓄ありすぎて、なんか泣けてくる……

★ユセフ・トルコ&上田馬之助&井上編集長 サイン色紙セット

1名様

オレはガフアリじゃない!!

★ルーロン・ガードナーサイン色紙

1名様

幻の紙プロ・ビデオシリーズvol.1

★『前田日明とは何か?』

1名様

気分はもう男祭り!!

★PRIDEレプリカ・オープンフィンガーグローブ

各1名様

マスカラスの弟!

★ドス・カラス応援マスク

ネグロ・カサスの弟!

★フェリーノ応援マスク(キッズ用)

5名様

伝説のみちプロ興行のおまけ

★『竹脇』粗品ビデオ

DSE

大晦日に"60億分の1"決定戦を控えたヒョードルのニットキャップが登場! "60億分の1"の大魔王として君臨する高田総統が編集した「ハッスル6」パンフレットも絶賛発売中!! 【DSE提供】

[HP] http://www.prideofficial.com/index.php

各1名様

★ヒョードル イーグルニットキャップ
¥3150(税込)

★Team CROCOPキャップ
¥3675(税込)

★『ハッスル6』パンフ
¥2100(税込)

★PRIDEカレンダー2005
¥2100(税込)

CAPTAIN HUSTLE

3名様

★小川直也フォトブック『裸の選択』
¥2000(税込)

控室や練習風景などの秘蔵写真、そして本人の肉声がおさめられた、小川直也ファン必見のフォトブックが登場! カメラマンはもちろん"小川ストーカー"森モーリー鷹博だ!! 【MCプレス提供】

[HP] http://book.mycom.co.jp/index.shtml

SASAKEY

1名様

サイン入り!!

★破壊王&大谷サイン入りTシャツ

「破壊王と大谷が、あんなことになろうとは……」とショックのあまり、ささきぃが私物のZERO-ONETシャツを提供! わかりづらいかもしれませんが、フロントに破壊王サイン、バックに大谷晋二郎サイン入りです。【ささきぃ提供】

HARDCORE

1名様

★崩れゆく王国
¥3675(税込) チビ、S〜XL
ブラック(プリント/イエローorホワイト)、ネイビー(プリント/イエロー)

呪われたプロレス帝国・WCCWTシャツが登場! ダラスで活躍したブロディ、ゴーディ、カブキ、そしてエリック一族が勢揃い! プレゼントはブラック(ホワイトプリント)のLサイズ。
【ハードコアチョコレート提供】
[TEL] 03-5481-3561
[HP] http://hardcore.hp.infoseek.co.jp/

ART JUNKIE

1名様

★メガメグ・ロケットパンチ! Tシャツ
¥3990(税込) XS〜XL

遂に総合進出を果たしたフジメグこと藤井恵公認Tシャツが完成! プレゼントはピンクのXSサイズ。商品の問い合わせはGROUND COBRAまで。 【ART JUNKIE提供】
[TEL] GROUND COBRA 092-711-1021
[HP] http://homepage2.nifty.com/groundcobra/

BAMBAM BIGELOW

1名様

★REX ロングスリーブTシャツ
¥5755(税込) M〜XL ヘザーグレー

非常にメガネな感じのREXシリーズにはパーカータイプもあります。プレゼントはMサイズ。バンバンビガロの楽天販売サイトがオープンしたので、そっちも覗いてみよう。(http://www.rakuten.co.jp/bambam88/)
【バンバンビガロ提供】
[TEL] 03-3460-1145
[HP] http://www.bambam88.com

BOOKS

★『マミー、そばにいて』
¥1300(税込)
各3名様
がんと最期まで闘った
プロレスラー
冬木弘道の妻による
感動と涙の壮絶手記。
平成15年3月、がんでこの世を去った"理不尽大王"冬木弘道の過酷な闘病生活を、冬木夫人が克明に書き記す。いろんな意味で話題沸騰中です。
【日の出出版】
[HP]http://www.hinode.co.jp/

★『高円寺のレスリング・マスター 人間風車 ビル・ロビンソン自伝』
¥1890(税込)
伝説のビリー・ライレー・ジムで修業を積み、国際・新日本・全日本と渡り歩いた名レスラー、ビル・ロビンソンの自伝本。キャッチ・アズ・キャッチ・キャンの神髄を読み解け!!
【エンターブレイン提供】
[TEL]03-5433-7850
[HP]http://www.enterbrain.co.jp/

5名様
★『黒の肖像 BLACK PORTRAIT』
¥2000(税込)
「オレだけ見てりゃあいいんだ!」とばかりに蝶野正洋の写真集が絶賛発売中! お求めは会場特設売店、闘魂SHOP、アリストトリスト恵比寿ショップ、ときめきドットコム通販にて。
【バーニング・スタッフ提供】
[TEL]03-3815-9929

GANKOMONO

1名様
★田村潔司フィギュア
¥8000
大好評につき2号連続で田村潔司フィギュアをプレゼント! 赤Tシャツタイプが800体、黒Tシャツタイプが200体(U-FILE CAMP公式サイトのみで発売)の合計1000体の限定発売。大晦日の田村出陣を祈りつつ応募だ!!
【ディーアイエス提供】
■U-FILE CAMP
[HP]http://www.u-filecamp.com/
■株式会社ディーアイエス
[HP]http://www.dis-inc.co.jp/

GOTCH

1名様
BACK
★ごっち×朝日昇×山田親分コラボTシャツ
¥3150(税込) S~L グレー
病魔に襲われた居酒屋ごっちの名物店長のためにイラストを朝日画伯、レイアウトを山田親分、製作を山田親分夫人が手掛けたコラボTシャツ。これを着て店長を励まそう。バンバンビガロ、グレートアントニオでも好評取扱い中。
【居酒屋ごっち提供】
[TEL]居酒屋ごっち 03-3314-3416

WAP

3名様
12・28 レッスルエイドプロジェクト後楽園大会チケット ペア10組20名様
★History of the STAMPEDE WRESTLING
レッスルエイドが大盤振る舞い! キッド、スミス、ペガサス、そしてハート一族の秘蔵試合が目白押しのスタンピードレスリングのDVDと、世界のインディー大集合のWAP後楽園大会チケットをドドーンとプレゼント!! 【WAP提供】
[TEL]03-5456-7700
[HP]http://www.wrestle-aid.com/

RAMPAGE

10名様
サイン入り!!
★ランペイジ・サイン入りポートレート
高田統括本部長ならずとも「ホント強いわ!」と叫びたくなるようなランペイジ・ポートレートを10名様にプレゼント!
【ジャクソン提供】
[HP]http://www.RAMPAGEJACKSON.com

POSTER

紙プロHand「この人に会いたい」で大好評だった秋山恵ちゃんのサイン入りポスターと、鋭い眼光でアナタの日常を監視するジャガー様カレンダーをプレゼント!

★ジャガー横田 2005年カレンダー
【IWA JAPAN提供】
3名様

サイン入り!!
★秋山恵サイン入り・格闘美ポスター
【JDスター提供】
各2名様
★秋山恵サイン入り・デビュー記念ポスター

VALIS

ジャングルファイトが待望のDVD化!『闘魂祭り』で最強を証明したアントン総帥の愛らしいストラップ付きなんだから、もう言うことねえですよ!!
【VALIS提供】[TEL]03-5342-2681

各3名様
★『ジャングルファイト』
DVD 203分 ¥10290(税込)
★『地獄の死闘 伊東竜二特集 vol.2』
DVD 90分 ¥5250(税込)
★『ZERO-ONE IMPACT vol.2』
DVD 90分 ¥3990(税込)

PONYCANYON

3名様
★『K-1 WORLD GP 2004開幕戦』
DVD 120分 ¥5040(税込) 12月1日発売
(発売元 フジテレビ映像企画部)©2004 K-1
これぞK-1! 新世代が台頭し、名勝負が続出した開幕戦が待望のDVD!! 曙vsボンヤの試合内容・結果・曙のその後を見事的中させたNo.79の予言にも注目ですよ、アンタ!!
【ポニーキャニオン提供】
[TEL]ポニーキャニオン 03-5521-8044
[HP]http://www.ponycanyon.co.jp/

DEEP

2001年の旗揚げ戦から第12戦までのベストバウト全33試合をノーカット収録! DEEPで無敗を誇る滑川のDVDには、前田総帥、TK、高山、金ちゃんが登場だ!!【DEEP提供】

3名様
★『滑川康仁 RISE FIGHTER』
DVD 116分 ¥3990(税込)
[TEL]フォーサイド・ドット・コム 03-5339-5211
[HP]http://www.for-side.com/

ポスター付き!!
1名様
★『DEEP THE BEST』
DVD 324分 ¥6800(税込)
[HP]http://www.bungalow-music.com/

応募要項

応募券
①郵便番号・住所・電話番号
②氏名 ③年齢・職業
④希望商品
⑤面白かった記事&その理由
⑥つまらなかった記事&その理由
⑦心に残った2004年の名言or事件
⑧アナタの大晦日のすごし方

【宛 先】
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6
パレ・ジュノ2F (株)ダブルクロス
『紙プロRADICAL』編集部
「闘いを忘れたピエロ」係まで
※締切は2004年12月18日(土)当日消印有効

QUEST

今月もクエストは超強力ラインナップ! シーザー会長から酔拳まで、幅広すぎるラインナップにビビってたじろげ!!【クエスト提供】[TEL]03-3360-3810 [HP]http://www.queststation.com

各1名様
★『白蓮会館 最強の組手 剛法編』
DVD 75分 ¥5880(税込)
★『龍飛雲 酔八仙拳』
DVD 68分 ¥5880(税込)
★『LITHANIA BUSHIDO' THE BEST' Exciting MIXTURE』
DVD 140分 ¥5880(税込)
伊藤薫サイン入りポスター付き
★『SMACK GIRL 聖地凱旋』
DVD 120分 ¥3990円(税込)
★『SHOOT-BOXING 20th ANNIVERSARY ~BLUE CORNER~』
DVD 240分 ¥5880(税込)

普通の福袋じゃ満足できないアナタへ……

『紙プロ』特製 福箱発売!!

先着10名!!

¥10,000（税込）

総額¥30000以上の『紙プロ』グッズが、
これでもかとばかりに入ってこの価格！
ビビってたじろぐ非売品もついてます!!

★福箱の受付は電話注文のみ。
★10名に達し次第締切です。
★発送は12月15日からとなります。
★左はイメージ画像です あしからず。

［お問い合せ］
（株）ダブルクロス
03-5368-1797
平日15:00〜22:00

『カズ・H』Tシャツ〈ブラック〉
¥3,465 SOLD OUT or S or M or L or XL

『COZY BAKA』Tシャツ〈ブラック〉
¥3,465 SOLD OUT or S or SOLD OUT or L or XL

ヒョードルSARU Tシャツ〈ベージュ〉
¥3,800 SOLD OUT or SOLD OUT or SOLD OUT or XL
残りわずか!

ロシア「RTT」パーカー
¥6,000 M or L or XL
残りわずか!

リング・アフロラグラン長袖Tシャツ〈グレー×黒〉
¥~~4,500~~ ➡SALE ¥2,500 S or SOLD OUT or SOLD OUT

田村潔司WHO ARE U Tシャツ〈ネイビー〉
¥3,800 S or M or SOLD OUT or XL
残りわずか!

田村潔司WHO ARE U Tシャツ〈ホワイト〉
¥3,800 S or M or SOLD OUT or SOLD OUT
残りわずか!

赤いキャップの頑固者Tシャツ〈レッド〉
¥3,800 S or M or L or XL

ニットキャップ〈ネイビー&ブラック〉
¥1,500

トートバック〈ブラック〉
¥1,500

ガファリ・バスターズTシャツ〈ホワイト〉
¥3,000 XS or S or M or SOLD OUT or XL

マット・ガファリTシャツ〈キナリ〉
¥3,500 S or M or L or SOLD OUT

紙のプロレス RADICAL
No.81
2004年12月20日発行

No.82は
12月22日(水)発売予定!
※地域によっては多少発売日が遅れます。

STAFF

編集兼発行人
山口日昇

編集スタッフ
堀江ガンツ
ジャン斉藤
八木賢太郎 (引っ越し先に馴染めず非番)

補欠
斉野もみじ

バイト
フランキー粕谷

永久バイザー
吉田豪

助っ人
ジャイ子

新婚
片山ボン

電気部
さささぃ
松澤チョロ

パンフ職人
スモーノブ

アートディレクター
出田さん(TwoThree)

デザイン
ヒサくん
マツくん
タニやん
ブンちゃん
ノグッチー
しらき(以上TwoThree)

トメさん
はなえちゃん
黄川田洋志 (以上さおとめの事務所)

カメラマン
斉藤ユーリ
森鷹博
遠藤政文
戸成嘉則
松本崇
丸山剛史
吉場正和
福島俊彦
福島勝儀
菊池茂夫

試合写真
平工幸雄
乾晋也
吉澤晃

お勘定&衣料部
林“ヘックション”一枝

体調
プリン体・入江(TwoThree)

印刷
図書印刷株式会社

印刷人
大杉すぎすぎ昌也

ハッスルドリンク
アリシンZ

全国の
薬局・薬店で
12月発売!!

サプリメント&ドリンクの
Wパワーで
「疲れにビターン!」と
効きます!!

サプリ付き

希望小売価格:800円(消費税込)
発売元/サンリッツ株式会社

くだらない仕事で疲れてばかりいる
下々の諸君 飲みたまえ!!

©DSE

体験者の声
島田参謀長［高田モンスター軍］

Before

ビターン!

After!

高田総統の制裁でアキレス腱を切られたり、目に「ビターン!」を食らったりして、もう体があちこち痛くて……。それに、こないだの試合でもボロボロにやられて、疲れがピークでした。ですが、偉大なる高田総統より頂戴したこの「ハッスルドリンク」を飲んだら、すっかりドゥ・ザ・ハッスル出来るようになったんです。ありがたき幸せですよぉ。このまま飲み続けて、ハッスル軍をぶっ潰してやりますよ!!

疲れてばかりいる下々の諸君、ご機嫌いかがかな? 言うまでもないが、我こそが髙田モンスター軍総統・髙田だ。骨折り損のくたびれもうけな仕事ばかりでストレスまみれの諸君に、我が髙田モンスター軍が愛飲するこのハッスルドリンクを勧めよう。あっという間にパワーアップが可能なはずだ。どうだ、ビビったか? たじろいだか? さあ、ハッスルドリンクを飲んでみたまえ……。(指をグルグルと回しながら) 疲れにビターン!!